JVC

ネットワークビデオレコーダー

型名 VR-X3200 VR-X1600

取扱説明書

お買い上げありがとうございます。

ご使用の前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

Powered by Milestone

LST1259-001B

正しくお使いいただくためのご注意

保管および使用場所

● 次のような場所に置かない

誤動作や故障の原因となります。

- 許容動作温度（5 ℃ ～ 40 ℃ ）範囲外の暑いところや寒いところ
- 許容動作湿度（30%RH ～ 80%RH）範囲外の湿気の多いところ（結露なきこと）
- 変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
- トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
- ほこりや砂の多いところ
- 振動の激しいところ
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- 厨房など蒸気や油分の多いところ
- 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生するところ

● 本機および本機に接続したケーブルが強い電波や磁気の発生するところ（例、ラジオ、テレビ、変圧器、モニターなどの近く）で使用された場合、画像にノイズが入ったり、色彩が変わることがあります。

取り扱いについて

● 機器を重ねて使用しない

お互いの熱やノイズの影響で誤動作したり故障したり、火災の原因となることがあります。

● 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと、内部の熱が逃げないので火災の原因となります。本機を横倒し、逆さま、あお向けの状態で使用しないでください。

● 本機の上に物を置かない

テレビモニターのような重いものや、本機からはみ出るような大きなものを置くとバランスが崩れて倒れたり、落ちたりしてけがの原因になることがあります。

● 本機の上に乗らない

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さいお子様には注意してください。

● 本機の上に水の入ったもの（花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）を置かない

機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。

● 内部に物を入れない

通風孔などから、金属類や燃えやすいものなどが入ると火災や感電の原因となります。

● 移動するときは接続ケーブル類を外す

移動するときは、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

電源ケーブルについて

● 付属のケーブルは本機以外の機器で使わない

● 電源ケーブルの上に重いものを乗せたり、ケーブルを本機の下敷きにしない

ケーブルが傷ついて、火災・感電の原因となります。

● 電源ケーブルは、本機に付属のもの以外を使用しない

必ず本機に付属のものをご使用ください。耐圧の異なるケーブルや、傷ついたケーブルを使用すると、火災や感電の原因になります。

● 記録・再生の動作中や HDD へのアクセス中に、電源ケーブルを抜かない

お手入れについて

● お手入れは、電源を切ってから行なってください。

● 本機は柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジンでふくと、表面がとけたり、くもったりします。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。

省エネについて

● 長時間使用しないときは、安全および節電のため、システムの電源を切ってください。

著作権について

● 本機で録画・録音したものを営利目的、または公衆に視聴することを目的として放映することは、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意ください。

● 録画（録音）したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権上、権利者に無断で使用できません。

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、© などのマークは省略してあります。
- Milestone、XProtect Enterprise は、Milestone Systems 社の登録商標です。

ハードディスクドライブについて

- 本機は精密機器であるハードディスク（以下 HDD）を搭載しております。振動や衝撃を与えないよう取り扱いには十分ご注意ください。特に通電中や HDD へのアクセス中に振動や衝撃を与えると、故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- HDDのデータを読み書きするヘッドとディスクの距離はわずか 0.02μm 程度です。HDD に振動や衝撃が与えられた場合、ヘッドがディスクに衝突し、ディスクの表面に打痕やディスクのかけらが発生することになります。これにより、データが読み出せなくなるばかりか、使用しつづけますとヘッドクラッシュ（損傷）に陥る原因になりますので、取り扱いには十分ご注意ください。
- 設置時および設置場所の移動について

  通電中や電源を切った直後（約 1 分間）は、移動や設置作業は絶対に行わないでください。電源を切っても、HDD はしばらくのあいだは惰性で回転しているため、この間振動や衝撃を与えると HDD の故障の原因になることがあります。
  衝撃を与えないように緩衝材などで包んで移動させてください。
- HDD は消耗品です。使用環境により異なりますが、周囲温度 25 ℃で使用した場合、18,000 時間を目安に交換することをお勧めします。（ただし、この時間は目安であり、HDD の寿命を保証するものではありません。）メンテナンスの計画、費用などのご相談は、ご購入先の販売店、または別紙のご相談窓口案内をご覧になり最寄りのご相談窓口へお願いします。
- 外付け HDD を増設される場合は、システムの安定動作のため、UPS（無停電電源装置）のご使用をおすすめします。
- HDDのフォーマットや切断処理をしているときに停電が発生すると、UPS を接続している場合でも、その後の運用に支障が生じることがあります。
- 万一本機、および HDD などの不具合により、正常に記録できなかったり、再生できなかった場合、その内容の補償についてはご容赦ください。
- HDD を交換した場合は、記録された画像が消去されます。また、本機のソフトウェアのバージョンアップによって、記録画像が消去されることがありますので、ご注意ください。

ソフトウェアのインストールについて

- 本機用に提供されている以外のアプリケーションソフトウェアなどを本機にインストールしないでください。本機の動作が不安定になることがあります。この場合、保証の対象外となります。

ウィルス対策について

- 本機はウィルス対策ソフトウェアをインストールすることができませんので、ファイアウォールやルーターにおいて、ウィルス対策を実施してください。また、ウィンドウズアップデートは実施しないでください。

その他

- 落雷などにより電源電圧が変動した場合、システム保護のため電源電圧が安定するまで操作できないことがあります。
- 機器設置等で入出力端子に触れる際にはあらかじめ静電気を除去したあと、作業を行なってください。
- 静電気により誤動作をする場合がありますので、動作中は本機のリアパネルに触れないでください。
- 短いアラーム記録などで本機に記録されたデータの数が多くなると、検索やバックアップ動作に時間がかかる場合がありますが、故障ではありません。
- テレビ放送や録画（録音）物などから、記録したものは、個人として楽しむほかは、著作権上権利者に無断で使用できません。
- 分割画面のとき、映像の境目（黒く見える部分）の幅が、入力信号によって異なって見えます。これはカメラ入力信号の特性であり、故障ではありません。本機の調整により改善することができます。お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

この装置を一般家庭で使用した場合ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与えるおそれがあります。

もくじ

はじめに

- 正しくお使いいただくためのご注意 2
  - 保管および使用場所 2
  - 取り扱いについて 2
  - 電源ケーブルについて 2
  - お手入れについて 2
  - 省エネについて 2
  - 著作権について 2
  - ハードディスクドライブについて 3
  - ソフトウェアのインストールについて 3
  - ウィルス対策について 3
  - その他 3
- ソフトウェアについて 6
  - Milestone 製組込ソフトウェアに関するエンドユーザーライセンス契約 6
  - マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項 7
- 取扱説明書の構成 19
- 本書の構成 19
- 設置から運用までの流れ 20
- 本機で使用するソフトウェアについて 21
  - ソフトウェアの概要 21
  - 設定変更時のご注意 21
- 各部の名称とはたらき 22
  - 前面 22
  - 背面 23
  - 背面入出力端子 24

＜レコーダー編＞基本

- ラックに取り付ける 26
- 接続する 27
  - 基本システム構成 27
  - 本機の端子に接続する機器 28
  - ネットワークで接続する機器 30
- 電源を入れる／切る 31
  - 電源を入れる 31
  - 電源を切る 31
- オペレートオン／オフを切り換える 32
  - オペレートオンにする 32
  - オペレートオフにする 32
- スクリーンキーボードを使う 32
- 本機をネットワークに接続する 33
- 監視システムの基本設定をする 34
  - Management Application を起動する 34
  - カメラを接続する 35
  - 接続したカメラの設定を行う 36
- 記録性能を十分に活用する 39

＜レコーダー編＞応用

- PTZ プリセット設定 41
  - プリセット位置を設定する 41
  - PTZ カメラを使って自動パトロールを行う 43
- モーション検知を調整する 46
- イベントとアクション 48
  - イベントとアクションの種類 48
  - イベント設定～ジェネリックイベント 48
  - イベント設定～入力イベント 50
  - イベント設定～手動イベント 52
  - イベント設定～タイマーイベント 53
  - アクション設定～ PTZ カメラのプリセット位置を移動する 54
  - アクション設定～カメラ映像を配信する（Matrix） 55
  - アクション設定～記録を開始する 57
  - アクション設定～出力 58
- イベントまたはモーション発生の前後の映像も記録する 60
- メールを設定する 61
  - ユニット設定のメール設定 61
  - Management Application のメール設定 62
- 複数の NVR を使う 65
  - マスター NVR を指定する 66
  - スレーブ NVR を登録する 67
- Smart Client のユーザーを設定する 68
  - ユーザーを追加する 68
  - ユーザーごとに権限を制限する 69
  - ユーザーグループを追加する 70
- Management Application の起動パスワードを設定する 72
- HDD を増設する 73
  - 外部 HDD を接続する 73
  - RAID を構築する 74
  - NAS を使う 77
- 設定内容を保存 / 復元する 80
  - ユニット設定を保存 / 復元する 80
  - Management Application の設定を保存する / 読み込む 81

＜レコーダー編＞リファレンス

- 設定（本機） 83
  - Unit Setup（ユニット設定） 83
  - ネットワーク設定 86
- 本機の日付・時刻を設定する 87
- 音量を設定する 88
- 本機のログインパスワードを設定する 89
  - パスワードを設定する 89
  - パスワードを有効にする 90
- Management Application（ウィザード） 92
- Management Application（拡張設定） 93
  - ハードウェアデバイス 94
  - カメラとストレージの情報 102
  - イベントおよび出力 107
  - スケジュールおよびアーカイブ 109
  - Matrix 111
  - ログ 111
  - E メール 112
  - サーバーアクセス 113
  - マスター / スレーブ 114
  - ユーザー 114
  - サービス 115
- モニター設定を変更する 116
  - モニター解像度を変更する 116

デュアルモニターを構成する 117
操作をロックする 118
システム構成を変更する 119
手動でカメラを登録する 119
カメラライセンスを追加する 120
ハードウェアデバイスを交換する 121
ハードウェアデバイスを削除する 121
アナログカメラを制御する 122
アナログカメラを制御するための設定をする 122
アナログカメラの制御のしかた 122
ネットワークの使いかた 123
LAN1/LAN2 の使い分けについて 123
WAN で遠隔監視する 124
記録設定を変更する 125
記録スケジュールを設定する 125
カメラとの音声通信を設定する 128
ドライブの増設について 129
UPS を使う 129
SNMP を設定する 130
ログの保存日数を変更する 132
Management Application のログの保存日数を変更する 132
ユニット設定のログの保存日数を変更する 132
メンテナンス情報を保存する 133
HDD のメンテナンス 134
HDD の使用量を見る 134
本機の負荷率を見る 134
エラーチェックを行う 135
デフラグを行う 135
設定を初期化する 135

＜ビューワー編＞基本

Smart Client を起動する 137
ビューワーの見かた 139
パソコンにビューワーをインストールする 140
パソコンの必要条件 141
パソコンのネットワーク設定をする 141
Smart Client をインストールする 142
ビューを作る 143
グループとビュー 143
ビューを作成する 144
ビューを編集する 145
ライブ映像を見る 146
ライブ画面を表示する 146
ビューを切り換える 147
特定のカメラの映像を手動で録画する 147
ライブ映像画面でカメラを操作する 148
PTZ 機能を使い画像を見る 148
プリセット機能を使う 148
特定のカメラだけ記録画像を再生する（独立再生） 149
その他便利な機能 149
記録画像を見る 151
再生画面を表示する 151
ビューを切り換える 152
記録画像をさがす 153
記録画像を日時からさがす 153
画像の一覧表示でさがす 153
記録の有無で画像を検索する 154
記録画像を検索する 155
アラートリストから記録画像を検索する 155
スマート検索 156
記録画像を再生する 157
特定のカメラだけ記録時間を変更して再生する（独立再生） 158
記録した音声を聞く 158

＜ビューワー編＞応用

記録画像を印刷する（監視用パソコンからの操作） 160
複数のカメラの映像を自動で切り換えながら見る 160
選んだカメラの映像を拡大表示する（ホットスポット） 161
ホームページ（HTML ページ）をビューに表示する 162
カメラ映像の代わりに静止画を表示する 163
よく使う機能の操作ボタンを作る 164
フローティングウィンドウを表示する 164
ジョイスティックの設定を変更する 165

＜ビューワー編＞リファレンス

画像や音声を USB フラッシュメモリなどに保存する（エクスポート） 168
動画または静止画で保存する 168
データベース形式で保存する 169
エクスポートしたデータをパソコンで見る 171
エクスポートビューワーを起動する 171
エクスポートされたデータを見る 171
データの再生・停止 172
エクスポートビューワーを終了する 172
各画面でできる操作・設定 173
ライブ画面 173
再生画面 174
設定画面 175
オプション設定 180
バージョン情報を見る 183
Matrix の表示位置を設定する 183

その他

対応ネットワークカメラ 185
記録時間表 186
初期値一覧 187
ユニット設定 187
本機の設定（ネットワーク設定） 188
Management Application（拡張設定） 189
こんなときは 199
記録 / 表示 / 配信性能 200
仕様 200
保証とアフターサービス 202
索引 203

ソフトウェアについて

Milestone 製組込ソフトウェアに関するエンドユーザーライセンス契約

これは、お客様、Milestone Systems A/S（Milestone）および株式会社 JVC ケンウッド（JVC ケンウッド）における、JVC ケンウッドネットワークビデオレコーダ（NVR）製品に組み込まれた Milestone 社製ソフト（以下本件ソフトといいます）に関する契約です。

本件ソフトには、JVC ケンウッド NVR 製品販売時またはその後に提供される本件ソフトの関連ソフトコンポーネント、媒体、印刷物およびオンラインまたは電子文書を含みます。

本件ソフトを組み込んだ JVC ケンウッド NVR 製品の使用をもって、お客様は本契約の条件および条項に同意され、これらに拘束されることになります。

本件ソフトは、各国の著作権法・著作権に関する国際条約のほか、知的財産に関する法律や条約・協定で保護されており、本契約に従ってライセンスされます。

1. 使用許諾

Milestone はお客様に対し、JVC ケンウッド NVR 製品上で本件ソフトを使用する権利を許諾します。

2. 著作権

本件ソフトに関する著作権その他の権利は、Milestone が保有します。本契約で明示的に許諾される場合を除き、Milestone はその一切の権利を留保します。

3. 非保証

Milestone と JVC ケンウッドは、本件ソフトについて一切の保証をしません。本件ソフトおよび関連文書は現状有姿で、商用性、特定目的への適合性や非侵害に関するものを含め、一切の保証なく提供されます。本件ソフトの使用または性能より生じるあらゆるリスクは、ユーザーとしてのお客様の負担となります。特定装置または他のソフトウェアとともに使用した場合、本件ソフトによって適法による制限を受けたりまたは適法に反する調査やデータプロセッシングが可能となる場合があることをお客様はご了解下さい。適法に使用しているか否かを検証するのは、ユーザーとしてのお客様の責任となります。

4. 限定責任

Milestone、JVC ケンウッドまたはそれらのサプライヤーは、本件ソフトを使用しまたはこれを使用できなかった場合、もしくは正当にサポートされまたはされなかった場合に生じる特別、付随的、間接または派生的損害（逸失利益、ビジネスの中断、ビジネス情報の喪失、その他金銭上の損失を含みますが、これに限りません）については、Milestone または JVC ケンウッドがその可能性を予見していた場合であっても、一切を保証しません。いかなる場合であっても、本条に基づく Milestone および JVC ケンウッドの保証は、お客様が JVC ケンウッド NVR 製品のうち本件ソフト部分に対しお支払いになった相当額を上限とします。

なお、本条の規定は、適法で認められる限り有効とします。

5. 雑則

（1）お客様は本件ソフトが JVC ケンウッド NVR 製品に組み込まれていることを了解し、本件ソフトを複製しないものとします。

（2）お客様は本件ソフトを JVC ケンウッド NVR 製品から取り除いたり、そのコピーを第三者に提供してはならないものとします。

（3）適法で認められ、かつ本契約上それを否認することができない場合を除き、本件ソフトに対しリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルをしてはなりません。

（4）お客様は、本件ソフトを組み込んだ JVC ケンウッド NVR 製品の譲受人が本契約の条件に同意した場合、本件ソフトに関するお客様の権利をかかる譲受人に譲渡することができます。

6. 終結

お客様が本契約のいずれかの規定に違反した場合、Milestone は本契約を終結しうるものとします。その場合、お客様は本件ソフトの使用を中止しなければなりません。

7. 準拠法

本契約は日本国法を準拠法とし、また本契約に関する紛争の第一審管轄裁判所は、東京地方裁判所とします。

VR-X3200/VR-X1600（以下、「本デバイス」といいます）には、株式会社 JVC ケンウッドが Microsoft Corporation よりライセンスを受けているソフトウェア、Windows® Embedded Standard 7（以下、「本ソフトウェア」といいます）がインストールされています。本デバイス及び本ソフトウェアのご使用にあたっては、下記のマイクロソフトソフトウェアライセンス条項へのご同意が必要になります。

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

WINDOWS® EMBEDDED STANDARD 7

本マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項 (以下「本ライセンス条項」といいます) は、お客様と株式会社 JVC ケンウッド (JVC ケンウッド) との契約を構成します。以下のライセンス条項をお読みください。本ライセンス条項は、本デバイスに含まれる本ソフトウェアに適用されます。本ソフトウェアには、お客様が本ソフトウェアを受け取った別個のメディアも含まれます。
本デバイス上の本ソフトウェアには、Microsoft Corporation またはその関連会社からライセンスされているソフトウェアが含まれます。
また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。

- 更新プログラム
- 追加ソフトウェア
- インターネットベースのサービス
- サポート サービス

なお、これらの製品に別途ライセンス条項が付属している場合には、当該ライセンス条項が適用されるものとします。
お客様が更新プログラムまたは追加ソフトウェアをマイクロソフトから直接入手された場合は、JVC ケンウッドではなく、マイクロソフトが当該更新プログラムまたは追加ソフトウェアのライセンスを付与します。

以下に説明するように、本ソフトウェアを使用することにより、インターネットベースのサービスのために特定のコンピューター情報を送信することにお客様が同意されたものとします。
本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合、本ソフトウェアを使用することはできません。この場合、JVC ケンウッドに問い合わせて、お支払いいただいた金額の払い戻しに関する方針を確認してください。

お客様がこれらのライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には以下が許諾されます。

1 使用権

使用。本ソフトウェア ライセンスは、お客様が本ソフトウェアと共に取得されたデバイスに永続的に割り当てられます。お客様は、本ソフトウェアを本デバイスで使用することができます。

2 追加のライセンス条件および追加の使用権

a. 特定用途。
JVC ケンウッドは、本デバイスを特定用途向けに設計しました。お客様は、当該用途に限り本ソフトウェアを使用することができます。

b. その他のソフトウェア。
お客様は、その他のプログラムが以下の条件を満たす場合に限り、本ソフトウェアと共にその他のプログラムを使用することができます。

- 本デバイスに関する製造業者の特定用途を直接サポートしている。または
- システム ユーティリティ、リソース管理、あるいはウイルス対策または同様の保護を提供している。
- コンシューマー タスクまたはプロセスや、ビジネス タスクまたはプロセスを提供するソフトウェアを、本デバイス上で実行することはできません。これには、電子メール、ワード プロセッシング、表計算、データベース、スケジュール作成、家計簿ソフトウェアが含まれます。本デバイスは、ターミナル サービス プロトコルを使用して、サーバー上で実行されているかかるソフトウェアにアクセスすることができます。

c. デバイスの接続。
お客様は、本ソフトウェアをサーバー ソフトウェアとして使用することはできません。つまり、複数のデバイスから同時に、本ソフトウェアにアクセスしたり、本ソフトウェアを表示、実行、共有、または使用したりすることはできません。

お客様は、ターミナル サービス プロトコルを使用して、デバイスを、電子メール、ワード プロセッシング、スケジュール作成、または表計算などのビジネス タスクまたはプロセス ソフトウェアを実行しているサーバーに接続することができます。

お客様は、最大 10 台の他のデバイスから本ソフトウェアにアクセスして、以下のサービスを使用することを許可できます。

- ファイル サービス
- プリント サービス
- インターネット インフォメーション サービス、および
- インターネット接続の共有およびテレフォニー サービス

上記の 10 台という接続数制限は、「マルチプレキシング」または接続数をプールするその他のソフトウェアもしくはハードウェアを介して本ソフトウェアに間接的にアクセスするデバイスにも適用されます。お客様は、TCP/IP を介して無制限の受信接続を随時使用することができます。

ソフトウェアについて（つづき）

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項（つづき）

d. リモート アクセス テクノロジ。
お客様は、以下の条件に従う場合に限り、リモート アクセス テクノロジを使用して他のデバイスから本ソフトウェアにリモート アクセスして使用することができます。

リモート デスクトップ。本デバイスの特定の 1 名の主要ユーザーは、リモート デスクトップ機能またはこれに類似するテクノロジを使用して、他のデバイスからセッションにアクセスすることができます。「セッション」とは、入力、出力、および表示用の周辺機器を利用して直接または間接に本ソフトウェアを双方向で使用できる状態を意味します。リモート デバイス用の本ソフトウェアを実行するためのライセンスが別途取得されている場合、その他のユーザーもこれらのテクノロジを使用して、任意の数のデバイスからセッションにアクセスすることができます。

その他のアクセス テクノロジ。お客様は、リモート アシスタンスまたはこれに類似するテクノロジを使用してセッションを共有することができます。

その他のリモート使用。お客様は、任意の数のデバイスに、デバイス間でのデータの同期など上記の「デバイスによる接続」および「リモート アクセス テクノロジ」の項に記載されている以外の目的で、本ソフトウェアにアクセスすることを許可することができます。

e. フォント コンポーネント。
本ソフトウェアの実行中、お客様は本ソフトウェアに付属のフォントを使用してコンテンツを表示および印刷することができます。以下の操作のみが許可されます。

- フォントの埋め込みに関する制限の下で許容される範囲でコンテンツにフォントを埋め込む。
- コンテンツを印刷するために、フォントをプリンターまたはその他の出力デバイスに一時的にダウンロードする。

f. アイコン、画像、および音声。
本ソフトウェア作動中、本ソフトウェアのアイコン、イメージ、サウンド、およびメディアを使用することはできますが、これらを共有することはできません。

3 VHD ブート。

本ソフトウェアの仮想ハード ディスク機能を使用して作成された本ソフトウェアの追加の複製 (以下「VHD イメージ」といいます) が、本デバイスの物理ハード ディスクにプレインストールされていることがあります。これらの VHD イメージは、物理ハード ディスクまたは物理ハード ドライブにインストールされている本ソフトウェアを保守または更新するためにのみ使用することができます。VHD イメージがお客様のデバイス上の唯一のソフトウェアである場合、プライマリのオペレーティング システムとして使用することができますが、VHD イメージの他のすべての複製は保守および更新以外を目的として使用することはできません。

4 問題を起こす可能性のある危険なソフトウェア。

本ソフトウェアには、Windows Defender が含まれている場合があります。Windows Defender を有効にした場合、「スパイウェア」や「アドウェア」など、問題を起こす可能性のある危険なソフトウェアが本デバイスに存在しないかが Windows Defender によって検索されます。問題を起こす可能性のあるソフトウェアが見つかった場合、そのソフトウェアを無視するか、無効にするか (隔離)、または削除するかを確認するメッセージが表示されます。既定の設定を変更していない限り、問題を起こす可能性のある危険なソフトウェアのうち「高」または「重大」と評価されるものは、スキャン後に自動的に削除されます。問題を起こす可能性のあるソフトウェアを削除するか、無効にする場合、次の点に注意する必要があります。

- デバイスにある他のソフトウェアが動作しなくなる場合がある。
- 本デバイス上の他のソフトウェアを使用するためのライセンスに抵触する場合がある。

本ソフトウェアを使用することで、問題を起こす可能性のあるソフトウェアではないソフトウェアも削除されたり、無効化されたりする可能性があります。

5 ライセンスの適用範囲。

本ソフトウェアは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本ライセンス条項は、お客様に本ソフトウェアを使用する限定的な権利を付与します。JVC ケンウッドおよびマイクロソフトはその他の権利をすべて留保します。適用される法令により上記の制限を超える権利が与えられる場合を除き、お客様は本ライセンス条項で明示的に許可された方法でのみ本ソフトウェアを使用することができます。この場合、お客様は、使用方法を制限するために本ソフトウェアに組み込まれている技術的制限に従わなければなりません。詳細については、本ソフトウェア付属の文書を参照するか、JVC ケンウッドにお問い合わせください。お客様は、以下を行うことはできません。

- 本ソフトウェアの技術的な制限を回避して使用すること。
- 本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること。
- 本ライセンス条項で規定されている数以上の本ソフトウェアの複製を作成すること。
- 第三者が複製できるように本ソフトウェアを公開すること。
- 本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与すること。
- 本ソフトウェアを商用ソフトウェア ホスティング サービスで使用すること。

本ライセンス条項に明示的に規定されている場合を除き、本デバイス上の本ソフトウェアにアクセスする権利は、本デバイスにアクセスするソフトウェアまたはデバイスにおいてマイクロソフトの特許またはその他の知的財産権を行使する権利を、お客様に付与するものではありません。

6 インターネットベースのサービス。

マイクロソフトは、本ソフトウェアについてインターネットベースのサービスを提供します。マイクロソフトは、いつでもこのサービスを変更または中止できるものとします。

a. **インターネットベースのサービスに関する同意。**

本デバイスには、以下に記載されている 1 つ以上のソフトウェア機能が含まれている場合があります。これらの機能は、インターネットを経由してマイクロソフトまたはサービス プロバイダーのコンピューター システムに接続します。接続が行われた際、通知が行われない場合があります。これらの機能の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=104604 をご参照ください。

これらの機能を使用することで、お客様は、この情報の送信に同意されたものとします。マイクロソフトは、これらの情報を利用してお客様の特定またはお客様への連絡を行うことはありません。

- コンピューター情報。
  以下の機能はインターネット プロトコルを使用しており、お客様の IP アドレス、オペレーティング システムの種類、ブラウザーの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、ならびに本ソフトウェアをインストールしたデバイスの言語コードなどのコンピューター情報を適切なシステムに送信します。マイクロソフトは、お客様にインターネットベースのサービスを提供するためにこの情報を使用します。JVC ケンウッドは、本デバイスで以下の機能を有効にすることを選択しています。

- プラグ アンド プレイおよびプラグ アンド プレイの拡張。
  お客様は、お客様のデバイスに新しいハードウェアを接続することができます。デバイスには、かかるハードウェアと通信するために必要なドライバーがインストールされていない場合があります。この場合、本ソフトウェアの更新機能により、マイクロソフトから適切なドライバーを取得し、お客様のデバイスにインストールすることができます。
- Web コンテンツ機能。
  本ソフトウェアには、関連するコンテンツをマイクロソフトから取得し、お客様に提供する機能が含まれます。これらの機能の例としては、クリップ アート、テンプレート、オンライン トレーニング、オンライン アシスタンス、および Appshelp が挙げられます。お客様は、これらの機能を解除するか、または使用しないことを選択することができます。
- デジタル証明書。
  本ソフトウェアは x.509 バージョン 3 デジタル証明書を使用します。これらのデジタル証明書によってお互いに情報を送信してユーザーの身元を特定したり、お客様はかかるデジタル証明書を使用して情報を暗号化したりすることができます。本ソフトウェアは、インターネットを経由して証明書を取得し、証明書失効リストを更新します。
- Auto Root 更新。
  Auto Root 更新機能は、信頼できる証明機関のリストを更新するものです。この機能は無効にすることができます。
- Windows Media デジタル著作権管理。
  コンテンツ権利者は、著作権を含む知的財産を保護する目的で、Windows Media デジタル著作権管理技術 (WMDRM) を使用しています。本ソフトウェアおよび第三者のソフトウェアは、WMDRM が保護するコンテンツを再生、複製する際に WMDRM を使用します。本ソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、コンテンツ権利者がマイクロソフトに対して、保護されたコンテンツを WMDRM で再生または複製する本ソフトウェアの機能を無効にするよう要求することがあります。無効にされた場合も、その他のコンテンツは影響を受けません。お客様は、保護されたコンテンツのライセンスをダウンロードすることでマイクロソフトがライセンスに失効リストを含めることに同意したものとします。コンテンツ権利者は、お客様がコンテンツ権利者のコンテンツにアクセスする前に、WMDRM のアップグレードを要請することがあります。WMDRM を含むマイクロソフト ソフトウェアでは、アップグレードに先立ってお客様の同意が求められます。アップグレードを行わない場合、お客様はアップグレードが必要なコンテンツにアクセスできません。お客様は、インターネットに接続する WMDRM 機能を解除することができます。この機能が解除されている場合でも、正規のライセンスを取得しているコンテンツを再生することは可能です。

ソフトウェアについて（つづき）

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項（つづき）

●Windows Media Player。
お客様が Windows Media Player を使用すると、マイクロソフトに対して以下が確認されます。
- お客様の地域において利用可能なオンライン音楽サービス
- Windows Media Player の最新バージョン
- コーデック (コンテンツの再生に必要なコーデックがデバイスにない場合)

この機能は無効にすることができます。
詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=51331 をご参照ください。

●アップグレード時における悪質なソフトウェアの削除 / 除去。
本ソフトウェアのインストール前に、www.support.microsoft.com/?kbid=890830 に掲載されている特定の悪質なソフトウェア (「マルウェア」といいます) がお客様のデバイスにインストールされていないかが自動的に確認され、お客様のデバイスから削除されます。お客様のデバイスでのマルウェアの確認時に、検出されたすべてのマルウェアまたはマルウェア確認中に発生したエラーに関する報告がマイクロソフトに送信されます。この報告には、お客様を識別するための情報は一切含まれません。お客様は、本ソフトウェアのマルウェア報告機能を www.support.microsoft.com/?kbid=890830 に掲載されている手順に従って無効にすることができます。

●ネットワーク認識。
ネットワーク トラフィックのパッシブ モニタリングまたはアクティブ DNS (または HTTP) クエリにより、システムがネットワークに接続されているかどうかが判別されます。このクエリでは、ルーティングのための標準的な TCP/IP 情報または DNS 情報の送信のみを行います。お客様は、レジストリ設定により、このアクティブ クエリ機能を解除することができます。

●Windows タイム サービス。
このサービスは、www.time.windows.com と週に 1 回同期することで、お客様のデバイスの時刻を正確に設定するものです。接続には標準の NTP プロトコルを使用します。

●検索候補サービス。
Internet Explorer でクイック検索ボックスを使用するか、またはアドレス バーで検索用語の前に疑問符 (?) を入力して検索クエリを入力すると、入力に応じた検索候補が表示されます (ご使用の検索プロバイダーでサポートされている場合)。クイック検索ボックスに入力したすべての語、またはアドレス バーに入力した疑問符 (?) より後ろにあるすべての語は、入力と同時に検索プロバイダーに送信されます。また、Enter キーを押すか、または [検索] ボタンをクリックすると、クイック検索ボックスまたはアドレス バーにあるすべてのテキストが検索プロバイダーに送信されます。お客様がマイクロソフトの検索プロバイダーを使用する場合、送信される情報の使用は「マイクロソフト オンライン プライバシーに関する声明」に準拠するものとします。この声明は、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=31493 に掲載されています。お客様が第三者の検索プロバイダーを使用する場合、送信される情報の使用は第三者のプライバシー ポリシーに準拠するものとします。お客様はいつでも検索候補の表示をオフにすることができます。これを行うには、Internet Explorer の [ツール] メニューにある [アドオンの管理] を使用します。検索候補サービスの詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkId=128106 をご参照ください。

●赤外線送信 / 受信機のアップデートの了承。
本ソフトウェアには、一部の Media Center ベースの製品と共に出荷される赤外線送信 / 受信機の正常動作を保証するためのテクノロジが含まれている場合があります。お客様は、本ソフトウェアがこのデバイスのファームウェアをアップデートすることに同意されたものとします。

●Media Center オンライン プロモーション。
お客様が本ソフトウェアの Media Center 機能を使用してインターネットベースのコンテンツまたはその他のインターネットベースのサービスにアクセスした場合、かかるサービスは本ソフトウェアから以下の情報を取得し、お客様が特定の宣伝サービスを受け取り、受け入れ、および使用できるようにします。
- お客様のインターネット プロトコル アドレス、使用しているオペレーティング システムおよびブラウザーの種類、ならびに使用している本ソフトウェアの名称およびバージョンなどの特定のデバイス情報
- 要求したコンテンツ
- 本ソフトウェアをインストールしたデバイスの言語コード
- お客様は、Media Center 機能を使用してかかるサービスに接続することにより、これらの情報の収集および使用に同意されたものとします。

●メディア再生機能の更新。
本デバイス上の本ソフトウェアには、MSCORP Media Playback Update サーバーから更新プログラムを直接受け取るメディア再生機能が含まれている場合があります。お客様の製造業者がアクティベーションを実行している場合、これらの更新プログラムはお客様に通知することなくダウンロードおよびインストールが行われます。製造業者は、これらの更新プログラムがお客様のデバイス上で確実に動作するようにする責任を負います。

●Windows Update Agent。
本デバイス上の本ソフトウェアには、Windows Update Agent (以下「WUA」といいます) が含まれています。この機能を使用すると、お客様のデバイスで MSCORP Windows Update サーバーから直接、または必要なサーバー コンポーネントがインストールされているサーバーおよび Microsoft Windows Update サーバーから Windows 更新プログラムにアクセスできます。本ソフトウェアの Windows Update サービス (使用している場合) を適切に機能させるために、Windows Update サービスの更新またはダウンロードが適宜必要になり、お客様に通知することなくダウンロードとインストールが行われます。本ライセンス条項または Windows 更新プログラムに付属するライセンス条項の他の免責条項を制限することなく、お客様は、お客様のデバイスにインストールするかまたはインストールしようとする任意の Windows 更新プログラムに関して、Microsoft Corporation またはその関連会社からいかなる保証も提供されないことを認め、同意するものとします。

b. 情報の使用。
マイクロソフトでは、ソフトウェアの改善およびサービスの向上を目的として、デバイスの情報、エラー報告、およびマルウェア報告を使用することがあります。また、ハードウェア ベンダーやソフトウェア ベンダーなど、他の企業と情報を共有する場合があります。これらの第三者は、マイクロソフト製ソフトウェアと連携して動作する自社製品の改良のため、この情報を使用することがあります。

c. インターネットベースのサービスの不正使用。
お客様は、これらのサービスに損害を及ぼす可能性のある方法、または第三者によるこれらのサービスの使用を妨げる可能性のある方法で、これらのサービスを使用することはできません。また、サービス、データ、アカウント、またはネットワークへの不正アクセスを試みるためにこれらのサービスを使用することは一切禁じられています。

7 製品サポート。
サポート オプションについては、JVC ケンウッドにお問い合わせください。その際、デバイスと共に提供されるサポート番号をお知らせください。

8 MICROSOFT .NET のベンチマーク テスト。
本ソフトウェアは、.NET Framework のコンポーネント (以下「.NET コンポーネント」といいます) を 1 つ以上含んでいます。お客様は、これらのコンポーネントの内部ベンチマーク テストを実施することができます。お客様は、go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=66406 に掲載されている条件に従うことを条件に、これらのコンポーネントのベンチマーク テストの結果を開示できます。
マイクロソフトと別途の合意がある場合でも、お客様が当該ベンチマーク テストの結果を開示した場合、マイクロソフトは、go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=66406 に掲載されている条件と同じ条件に従うことを条件に、該当する .NET コンポーネントと競合するお客様の製品についてマイクロソフトが実施したベンチマーク テストの結果を開示する権利を有します。

9 バックアップ用の複製。
お客様は、本ソフトウェアのバックアップ用の複製を 1 部作成することができます。バックアップ用の複製は、お客様が本ソフトウェアを、デバイスに再インストールする場合に限り使用することができます。

10 ドキュメント。
お客様のデバイスまたは内部ネットワークに有効なアクセス権を有する者は、お客様の内部使用目的に限り、ドキュメントを複製して使用することができます。

11 ライセンス証明書 (「PROOF OF LICENSE」または「POL」)。
お客様が本ソフトウェアをデバイスにインストールされた状態、または CD-ROM またはその他のメディアで入手された場合、本ソフトウェアのライセンスが正当に取得されたものであることは、正規の Certificate of Authenticity ラベルが正規の本ソフトウェアの複製に付属していることにより識別することができます。ラベルが有効であるためには、このラベルがデバイスに貼付、あるいは JVC ケンウッドの本ソフトウェア梱包に貼付または含まれていなければなりません。ラベルが本ソフトウェアの梱包とは別に提供されたものである場合、そのラベルは無効です。お客様が本ソフトウェアのライセンスを取得していることを証明するため、ラベルが貼付されたデバイスもしくは梱包材を保管してください。正規のマイクロソフト ソフトウェアを識別する方法については、www.microsoft.com/resources/howtotell/ja/default.mspx をご参照ください。

12 第三者への譲渡。
本ソフトウェアは、デバイス、Certificate of Authenticity ラベル、および本ライセンス条項が付属している場合にのみ直接第三者に譲渡することができます。譲渡の前に、本ソフトウェアの譲受者は本ライセンス条項が本ソフトウェアの譲渡および使用に適用されることに同意しなければなりません。お客様は、バックアップ用の複製を含む本ソフトウェアの複製を保持することはできません。

ソフトウェアについて（つづき）

マイクロソフトソフトウェアライセンス条項 (つづき)

13 H.264/AVC 規格、VC-1 規格、MPEG-4 規格、および MPEG-2 規格に関する注意。

本ソフトウェアには、H.264/AVC、VC-1、MPEG-4 Part 2、および MPEG-2 画像圧縮テクノロジが含まれていることがあります。本ソフトウェアにこれらの画像圧縮テクノロジが含まれている場合、MPEG LA, L.L.C. により以下の注意書きを表示することが義務付けられています。
本製品は、消費者による個人使用および非商業的使用を前提とし、「AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE」、「VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSE」、「MPEG-4 PART 2 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE」、「MPEG-2 VIDEO PATENT PORTFOLIO LICENSE」のいずれか 1 つ以上に基づいて次の用途に限ってライセンスされています。(i) 上記の規格に従ってビデオをエンコードすること (以下「ビデオ規格」といいます)、または (ii) 個人使用および非商業的活動に従事する消費者がエンコードしたビデオをデコードする、もしくは、かかる特許ポートフォリオ ライセンスに基づいてビデオを提供するライセンスを有するビデオ プロバイダーから取得したビデオをデコードすること。本ライセンスは、本製品と共に単一の製品に含まれているかどうかにかかわらず、他の製品に適用されることはありません。その他の用途については、明示か黙示かを問わず、いかなるライセンスも許諾されません。詳細情報については、MPEG LA, L.L.C. から入手できます。WWW.MPEGLA.COM をご参照ください。

14 MP3 オーディオ規格に関する注意。

本ソフトウェアには、ISO/IEC 11172-3 および ISO/IEC 13818-3 に規定されている MP3 オーディオ エンコーディングおよびデコーディング テクノロジが含まれています。本ソフトウェアは、商業的製品またはサービスにおいて実装または頒布するためにライセンスされるものではありません。

15 非フォールト トレラント。

本ソフトウェアは、フォールト トレラントではありません。JVC ケンウッドは、本ソフトウェアをデバイスにインストールしており、本ソフトウェアのデバイス上での動作に責任を負うものとします。

16 使用制限。

マイクロソフト ソフトウェアは、フェール セーフ性能が不要なシステム用に設計されました。お客様は、本ソフトウェアの誤動作があった場合に人身傷害または死亡の予測できるリスクをもたらすデバイスまたはシステムで、マイクロソフト ソフトウェアを使用することはできません。これには、核施設、航空機のナビゲーションまたは通信システム、航空交通管制の操作が含まれます。

17 本ソフトウェアの無保証。

本ソフトウェアは、現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供されます。本ソフトウェアの使用に伴うあらゆる危険は、お客様の負担とします。マイクロソフトは、明示的な瑕疵担保責任または保証責任を一切負いません。デバイスまたは本ソフトウェアに関してお客様が受けている保証は、マイクロソフトまたはその関連会社から与えられるものではなく、マイクロソフトまたはその関連会社がその保証による拘束を受けることはありません。法律上許容される最大限において、商品性、特定目的に対する適合性、侵害の不存在に関する黙示の保証について、JVC ケンウッドおよびマイクロソフトは一切責任を負いません。

18 責任の制限。

マイクロソフトおよびその関連会社の責任は、250 米ドル (U.S. $250.00) を上限とする直接損害に限定されます。その他の損害 (派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、および付随的損害を含みますがこれらに限定されません) に関しては、一切責任を負いません。

この制限は、以下に適用されるものとします。
- 本ソフトウェア、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ (コードを含みます)、または第三者のプログラムに関連した事項
- 契約違反、保証違反、厳格責任、過失、または不法行為等の請求 (適用される法令により認められている範囲において)

この制限は、マイクロソフトが損害の可能性を認識し得た場合にも適用されます。また、一部の国では付随的損害および派生的損害の免責、または責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。

19 輸出規制。

本ソフトウェアは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本ソフトウェアに適用されるすべての国内法および国際法 (輸出対象国、エンド ユーザーおよびエンド ユーザーによる使用に関する制限を含みます) を遵守しなければなりません。詳細については www.microsoft.com/japan/exporting をご参照ください。

20 完全合意。

本ライセンス条項、追加条項 (本ソフトウェアに付属し、当該条項の一部または全部を置換または変更する印刷されたライセンス条項を含む)、ならびに追加ソフトウェア、更新プログラム、インターネットベースのサービス、およびサポート サービスに関する使用条件は、本ソフトウェアおよびサポート サービスについてのお客様とマイクロソフトとの間の完全なる合意です。

21 準拠法

a. 日本。
お客様が本ソフトウェアを日本国内で入手された場合、本ライセンス条項は日本法に準拠するものとします。

b. 米国。
お客様が本ソフトウェアを米国内で入手された場合、抵触法にかかわらず、本ライセンス条項の解釈および契約違反への主張は、米国ワシントン州法に準拠するものとします。消費者保護法、公正取引法、および違法行為を含みますがこれに限定されない他の主張については、お客様が所在する地域の法律に準拠します。

c. 日本および米国以外。
お客様が本ソフトウェアを日本国および米国以外の国で入手された場合、本ライセンス条項は適用される地域法に準拠するものとします。

22 第三者のプログラム。

マイクロソフトは、本ソフトウェアに含まれる第三者のソフトウェアの著作権表示を以下に示します。これらの表示は、それぞれの著作権保有者によって義務付けられており、本ソフトウェアを使用するためのお客様のライセンスを変更するものではありません。

メモ :

● サポート番号とは、本機の製造番号をさします。

ソフトウェアについて（つづき）

マイクロソフトソフトウェアライセンス条項 (つづき)

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Spider Systems ® Limited の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Spider Systems Limited のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright 1987 Spider Systems Limited
  Copyright 1988 Spider Systems Limited
  Copyright 1990 Spider Systems Limited

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Seagate Software の著作物に一部基づいています。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、ACE*COMM Corp. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に ACE*COMM Corp. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright 1995-1997 ACE*COMM Corp

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Sam Leffler 氏および Silicon Graphics, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Sam Leffler 氏および Silicon Graphics のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright ©1988-1997 Sam Leffler
  Copyright ©1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

  本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、その目的を問わず、使用、改変、頒布、および販売することを無償で許可するものとします。
  ただし、(i) 本ソフトウェアおよび関連ドキュメントのあらゆる複製に上記の著作権表示とこの許可表示を記載すること、および (ii) Sam Leffler および Silicon Graphics の書面による個別かつ事前の許可なく、Sam Leffler および Silicon Graphics の名称を本ソフトウェアに関連する任意の広告または宣伝で使用できないこと、を条件とします。

  本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず、商品性または特定目的に対する適合性の保証を含みますがこれに限定されない、何らの保証もない条件で提供されます。

  SAM LEFFLER または SILICON GRAPHICS は、本ソフトウェアの使用または性能に起因または関連する、あらゆる特別損害、付随的損害、または派生的損害、もしくは使用不能、データの損失または利益の逸失から生じる一切の損害に関し、損害の可能性について知らされていたかどうかにかかわらず、いかなる責任の法理においても、一切責任を負いません。

  Portions Copyright © 1998 PictureTel Corporation

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Highground Systems の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Highground Systems のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright © 1996-1999 Highground Systems

- Windows 7 には、Info-ZIP グループの圧縮コードが組み込まれています。このコードの使用によって追加の料金または費用がかかることはなく、元の圧縮ソース コードは、インターネットで www.info-zip.org/ または ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/src/ から無償で入手できます。

  Portions Copyright © 2000 SRS Labs, Inc

- 本製品には、'zlib' 汎用圧縮ライブラリのソフトウェアが含まれています。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、ScanSoft, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に ScanSoft, Inc. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  TextBridge® OCR © by ScanSoft, Inc.

- 本ソフトウェアの特定の部分は、南カリフォルニア大学の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に南カリフォルニア大学のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright © 1996 by the University of Southern California
  All rights reserved.

  本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、その目的を問わず、ソースおよびバイナリ形式で使用、複製、改変、および頒布することを無償で許可するものとします。ただし、あらゆる複製に上記の著作権表示とこの許可表示の両方を記載すること、およびかかる頒布と使用に関連する任意のドキュメント、広告物、その他の資料において、本ソフトウェアが南カリフォルニア大学情報科学研究所によって一部開発されたことに同意すること、を条件とします。南カリフォルニア大学の名称は、書面による個別かつ事前の許可なく、本ソフトウェアから派生する製品の推奨または販売促進を行うために使用することはできません。

  南カリフォルニア大学は、本ソフトウェアの適合性について、その目的を問わず、何らの表明を行うものではありません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず、商品性および特定目的に対する適合性の黙示の保証を含みますがこれに限定されない、何らの保証もない条件で提供されます。

  その他の著作権が本ソフトウェアの一部に適用されることがあり、該当する場合はそのように記載されます。

- 本ソフトウェアの特定の部分は、James Kanze 氏の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に James Kanze 氏のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  著作権および許可に関する表示
  All rights reserved.

  本ソフトウェアおよび関連ドキュメント ファイル (以下「本ソフトウェア」といいます) の複製を取得する者に対し、制限を負うことなく、本ソフトウェアを使用、複製、公開、頒布、および本ソフトウェアの複製を販売する権利、ならびに本ソフトウェアの提供を受ける者に同様の取り扱いを許可する権利を含みますがこれらに限定されない本ソフトウェアの取り扱いを無償で許可するものとします。ただし、上記の著作権表

示およびこの許可表示の両方を付属ドキュメントに記載することを条件とします。また、改変したソフトウェアでは、接頭辞「GB_」を他の接頭辞に変更し、インクルード ファイルのディレクトリ名 (この頒布では「gb」) も変更するという条件の下で、本ソフトウェアのいかなる改変も行うことを許可するものとします。

本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず、商品性、特定目的に対する適合性、および第三者の権利侵害の不存在の保証を含みますがこれに限定されない、何らの保証もない条件で提供されます。この表示に記載されている著作権保有者は、本ソフトウェアの使用または性能に起因または関連する、賠償請求、あらゆる特別損害、間接損害、または派生的損害、もしくは使用不能、データの損失または利益の逸失から生じる一切の損害に関し、契約行為、過失、またはその他の不法行為の有無にかかわらず、一切責任を負いません。

この表示に記載されている場合を除き、著作権保有者の書面による事前の承認なく、著作権保有者の名称を、本ソフトウェアの広告、もしくは販売、使用、またはその他の取り扱いの促進に使用することはできないものとします。

- 本製品には、Cisco ISAKMP Services のソフトウェアが含まれています。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、RSA Data Security, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に RSA Data Security, Inc. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

Copyright © 1990, RSA Data Security, Inc. All rights reserved.

本ソフトウェアまたはこの機能を記載または参照するすべての資料に、当該ソフトウェアまたは機能が「RSA Data Security, Inc. による MD5 メッセージ ダイジェスト アルゴリズム」であると明記することを条件に、本ソフトウェアを複製および使用するライセンスを付与するものとします。派生品についても、当該派生品を記載または参照するすべての資料に、当該派生品が「RSA Data Security, Inc. による MD5 メッセージ ダイジェスト アルゴリズムから派生した」ことを明記することを条件に、作成および使用するライセンスを付与するものとします。

RSA Data Security, Inc. は、本ソフトウェアの商品性または本ソフトウェアの適合性について、その目的を問わず、何らの表明を行うものではありません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

これらの表示は、このドキュメントおよび本ソフトウェアのいかなる部分の複製においても保持されなくてはなりません。

- 本ソフトウェアの特定の部分は、OpenVision Technologies, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に OpenVision Technologies, Inc. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

Copyright 1993 by OpenVision Technologies, Inc.

本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、その目的を問わず、使用、複製、改変、頒布、および販売することを無償で許可するものとします。ただし、あらゆる複製に上記の著作権表示を記載すること、かかる著作権表示とこの許可表示の両方を付属ドキュメントに記載すること、および書面による個別かつ事前の許可なく、本ソフトウェアの頒布に関する広告または宣伝において OpenVision の名称を使用しないこと、を条件とします。OpenVision は、本ソフトウェアの適合性について、その目的を問わず、何らの表明を行うものではありません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

OPENVISION は、商品性および適合性についてのあらゆる黙示の保証を含め、本ソフトウェアに関する保証を一切行いません。また、OPENVISION は、本ソフトウェアの使用または性能に起因または関連する、あらゆる特別損害、間接損害、または派生的損害、もしくは使用不能、データの損失または利益の逸失から生じる一切の損害に関し、契約行為、過失、またはその他の不法行為の有無にかかわらず、一切責任を負いません。

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Regents of The University of Michigan の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Regents of The University of Michigan のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

Copyright © 1995, 1996 Regents of The University of Michigan.
All Rights Reserved.

本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、その目的を問わず、使用、複製、改変、および頒布することを無償で許可するものとします。ただし、あらゆる複製に上記の著作権表示を記載すること、かかる著作権表示とこの許可表示の両方を付属ドキュメントに記載すること、および書面による個別かつ事前の許可なく、本ソフトウェアの頒布に関する広告または宣伝においてミシガン大学の名称を使用しないこと、を条件とします。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

Copyright © 1993, 1994 Regents of the University of Michigan.
All rights reserved.

ソースおよびバイナリ形式での再頒布および使用は、この表示を保持すること、およびミシガン大学アナーバー校に対してしかるべき功績を認めることを条件に許可されます。ミシガン大学アナーバー校の名称は、書面による個別かつ事前の許可なく、本ソフトウェアから派生する製品の推奨または販売促進を行うために使用することはできません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

ソフトウェアについて（つづき）

マイクロソフトソフトウェアライセンス条項 (つづき)

- 本ソフトウェアの特定の部分は、マサチューセッツ工科大学の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品にマサチューセッツ工科大学のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright 1989, 1990 by the Massachusetts Institute of Technology. All Rights Reserved.

  本ソフトウェアをアメリカ合衆国から輸出するには、米国政府からの特定のライセンスが必要な場合があります。かかるライセンスは、輸出を検討している個人または組織の責任において、輸出前に取得してください。

  この制約の範囲内で、本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、その目的を問わず、使用、複製、改変、および頒布することを無償で許可するものとします。ただし、あらゆる複製に上記の著作権表示を記載すること、かかる著作権表示とこの許可表示の両方を付属ドキュメントに記載すること、および書面による個別かつ事前の許可なく、本ソフトウェアの頒布に関する広告または宣伝において M.I.T. の名称を使用しないこと、を条件とします。M.I.T. は、本ソフトウェアの適合性について、その目的を問わず、何らの表明を行うものではありません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

  本ソフトウェアは、米国法に基づいて、米国商務省からのライセンスなく、米国外に輸出することはできません。

  Copyright 1994 by the Massachusetts Institute of Technology. All Rights Reserved.

  本ソフトウェアをアメリカ合衆国から輸出するには、米国政府からの特定のライセンスが必要な場合があります。かかるライセンスは、輸出を検討している個人または組織の責任において、輸出前に取得してください。

  この制約の範囲内で、本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、その目的を問わず、使用、複製、改変、および頒布することを無償で許可するものとします。ただし、あらゆる複製に上記の著作権表示を記載すること、かかる著作権表示とこの許可表示の両方を付属ドキュメントに記載すること、および書面による個別かつ事前の許可なく、本ソフトウェアの頒布に関する広告または宣伝において M.I.T. の名称を使用しないこと、を条件とします。M.I.T. は、本ソフトウェアの適合性について、その目的を問わず、何らの表明を行うものではありません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

- 本製品には、カリフォルニア大学バークレー校および同校の協力者によって開発されたソフトウェアが含まれています。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、Northern Telecom からライセンスを取得した「Entrust」のセキュリティテクノロジによる著作物に一部基づいています。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、Hewlett-Packard Company の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Hewlett-Packard Company のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright © 1994 Hewlett-Packard Company

  本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、その目的を問わず、使用、複製、改変、頒布、および販売することを無償で許可するものとします。ただし、あらゆる複製に上記の著作権表示を記載すること、およびかかる著作権表示とこの許可表示の両方を付属ドキュメントに記載すること、を条件とします。Hewlett-Packard Company および Microsoft Corporation は、本ソフトウェアの適合性について、その目的を問わず、何らの表明を行うものではありません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

- 本製品には、'libpng' PNG リファレンス ライブラリのソフトウェアが含まれています。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、Autodesk, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Autodesk, Inc. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  © Copyright 1995 by Autodesk, Inc.

- 本ソフトウェアには、画像フィルター ソフトウェアが含まれています。本ソフトウェアは、Independent JPEG Group の著作物に一部基づいています。
- 本製品には、KS Waves Ltd. の「True Verb」テクノロジが含まれています。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、SGS-Thomson Microelectronics, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に SGS-Thomson Microelectronics, Inc. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright 1996 SGS-Thomson Microelectronics, Inc. All Rights Reserved

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Unicode, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Unicode, Inc. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  著作権および許可に関する表示

  Copyright © 1991-2005 Unicode, Inc. All rights reserved. www.unicode.org/copyright.html に掲載されている使用条件に基づいて頒布されます。

  Unicode データ ファイルおよび任意の関連ドキュメント (以下「データ ファイル」といいます) または Unicode ソフトウェアおよび任意の関連ドキュメント (以下「本ソフトウェア」といいます) の複製を取得する者に対し、制限を負うことなく、データ ファイルまたは本ソフトウェアを使用、複製、改変、結合、公開、頒布、およびデータ ファイルまたは本ソフトウェアの複製を販売する権利、ならびにデータ ファイルまたは本ソフトウェアの提供を受ける者に同様の取り扱いを許可する権利を含みますがこれらに限定されないデータ ファイルまたは本ソフトウェアの取り扱いを無償で許可するものとします。ただし、

(a) 上記の著作権表示およびこの許可表示の両方をデータ ファイルまたは本ソフトウェアのすべての複製に記載すること、(b) 上記の著作権表示およびこの許可表示の両方を関連ドキュメントに記載すること、(c) 改変された各データ ファイルまたはソフトウェア、およびデータまたはソフトウェアが改変されたデータ ファイルまたは本ソフトウェアに関連するドキュメントにその旨の表示を明記すること、を条件とします。

データ ファイルおよび本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず、商品性、特定目的に対する適合性、および第三者の権利侵害の不存在の保証を含みますがこれに限定されない、何らの保証もない条件で提供されます。この表示に記載されている著作権保有者は、データ ファイルまたは本ソフトウェアの使用または性能に起因または関連する、賠償請求、あらゆる特別損害、間接損害、または派生的損害、もしくは使用不能、データの損失または利益の逸失から生じる一切の損害に関し、契約行為、過失、またはその他の不法行為の有無にかかわらず、一切責任を負いません。

この表示に記載されている場合を除き、著作権保有者の書面による事前の承認なく、著作権保有者の名称を、データ ファイルまたは本ソフトウェアの広告、もしくは販売、使用、またはその他の取り扱いの促進に使用することはできないものとします。

- Combined PostScript Driver は、Adobe Systems Incorporated および Microsoft Corporation の共同開発プロセスの成果です。
- 本ソフトウェアの特定の部分は、Media Cybernetics の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Media Cybernetics のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  HALO Image File Format Library © 1991-1992 Media Cybernetics, Inc.

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Luigi Rizzo 氏の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Luigi Rizzo 氏のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  © 1997-98 Luigi Rizzo (luigi@iet.unipi.it)

  特定の部分は、Phil Karn 氏 (karn@ka9q.ampr.org)、Robert Morelos-Zaragoza 氏 (robert@spectra.eng.hawaii.edu)、および Hari Thirumoorthy 氏 (harit@spectra.eng.hawaii.edu) によって 1995 年 8 月に作成されたコードから派生したものです。

  ソースおよびバイナリ形式で再頒布および使用することは、改変の有無にかかわらず、以下の条件を満たしている場合に許可されるものとします。

  1. ソース コードを再頒布する場合は、上記の著作権表示、この条件の一覧、および以下の免責事項を保持しなければなりません。

  2. バイナリ形式で再頒布する場合は、上記の著作権表示、この条件の一覧、および以下の免責事項を、頒布と共に提供されるドキュメントおよびその他の資料において複製しなければなりません。

  本ソフトウェアは、著作者によって現状有姿のまま提供され、明示、黙示を問わず、商品性および特定目的に対する適合性の黙示の保証を含みますがこれに限定されない保証については一切拒否されます。著作者は、あらゆる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または派生的損害 (代替物またはサービスの調達、使用不能、データの損失または利益の逸失、もしくは事業の中断を含みますがこれらに限定されません) に関しては、原因および責任の法理にかかわらず、本ソフトウェアの使用に何らかの形で起因する契約、厳格責任、または不法行為 (過失その他を含みます) の有無を問わず、かかる損害の可能性について知らされていた場合であっても、一切責任を負わないものとします。

- 本ソフトウェアの特定の部分は、W3C の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に W3C のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  W3C ® ソフトウェアに関する表示およびライセンス www.w3.org/Consortium/Legal/2002/copyright-software-20021231

  この著作物 (含まれているソフトウェア、README などのドキュメント、またはその他の関連物) は、以下のライセンスに基づいて、著作権保有者によって提供されています。お客様 (ライセンシー) は、この著作物を取得、使用、および複製することにより、以下の条件を読んで理解しており、当該条項を遵守することに同意されるものとします。

  本ソフトウェアおよびそのドキュメントを、改変の有無にかかわらず、その目的を問わず、複製、改変、および頒布することを無償で許可するものとします。ただし、改変物を含む、本ソフトウェアおよびドキュメント、またはその部分のあらゆる複製に以下の条項を記載することを条件とします。
  1. 再頒布物または派生品のユーザーから見える場所に、この表示の全文を記載するものとします。
  2. 知的財産権に関する既存の免責事項、表示、または条件がある場合はそれを記載するものとします。存在しない場合は、再頒布コードまたは派生コードの本文内に、W3C ソフトウェアに関する概略表示を記載しなければなりません (ハイパーテキスト形式が推奨されますが、テキスト形式も許容されます)。
  3. 日付の変更を含む、ファイルの変更または改変に関する表示を記載するものとします (派生元のコードの場所を示す URL を提示することを推奨します)。

  本ソフトウェアおよびドキュメントは現状有姿のまま提供されるものであり、著作権保有者は、明示、黙示を問わず、商品性または特定目的に対する適合性についての保証、あるいは本ソフトウェアまたはドキュメントの使用により第三者の特許、著作権、商標、またはその他の権利を侵害しないことを含みますがこれらに限定されない一切の表明または保証を行いません。

  著作権保有者は、本ソフトウェアまたはドキュメントの使用に起因する、あらゆる直接損害、間接損害、特別損害、または派生的損害について、一切責任を負わないものとします。

  書面による個別かつ事前の許可なく、本ソフトウェアに関する広告または宣伝において著作権保有者の名称および商標を使用することはできません。本ソフトウェアおよび任意の関連ドキュメントにおける著作権に対する権原は、常に著作権保有者に留まります。

ソフトウェアについて（つづき）

マイクロソフトソフトウェアライセンス条項 (つづき)

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Sun Microsystems, Inc. の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Sun Microsystems, Inc. のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Sun RPC は、Sun Microsystems, Inc. の製品であり、この文言がすべてのテープ メディア、およびソフトウェア プログラムの全体または部分の一部として記載されることを条件に、使用に関する制限なく提供されます。ユーザーは、無償で Sun RPC を複製または改変することができますが、ユーザーが開発した製品またはプログラムの一部とする場合を除いて、他者に使用許諾または頒布する権限を有しません。

  SUN RPC は、現状有姿のまま、設計、商品性、および特定目的に対する適合性の保証、あるいは取引の過程、使用、または商慣行に起因する保証を含む、何らの保証もない条件で提供されます。

  Sun RPC は、Sun Microsystems, Inc. によるサポート、および使用、修正、改変、または機能強化に関する支援の義務がない条件で提供されます。

  SUN MICROSYSTEMS, INC. は、SUN RPC またはその一部による、著作権、企業秘密、または特許の侵害に関して一切責任を負わないものとします。

  Sun Microsystems, Inc. は、Sun がかかる損害の可能性について知らされていた場合であっても、逸失収益または逸失利益、あるいはその他の特別損害、間接損害、および派生的損害について一切責任を負いません。

  Sun Microsystems, Inc.
  2550 Garcia Avenue
  Mountain View, California 94043

- Dolby Laboratories のライセンスに基づいて製造されています。「Dolby」およびダブル D 記号は Dolby Laboratories の商標です。Confidential unpublished works. Copyright 1992-1997 Dolby Laboratories. All rights reserved.

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Andrei Alexandrescu 氏の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Andrei Alexandrescu 氏のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  The Loki Library
  Copyright © 2001 by Andrei Alexandrescu
  このコードは以下の書籍に付属しています。
  Alexandrescu, Andrei 著『Modern C++ Design: Generic Programming and Design Patterns Applied』Copyright © 2001. Addison-Wesley.
  本ソフトウェアを、その目的を問わず、使用、複製、改変、頒布、および販売することを無償で許可するものとします。ただし、あらゆる複製に上記の著作権表示を記載すること、およびかかる著作権表示とこの許可表示の両方を付属ドキュメントに記載すること、を条件とします。
  著作者および Addison-Welsey Longman は、本ソフトウェアの適合性について、その目的を問わず、何らの表明を行うものではありません。本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず何らの保証もない条件で提供されます。

  Portions Copyright © 1995 by Jeffrey Richter

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Distributed Management Task Force, Inc. (DMTF) の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に DMTF 仕様に基づくソフトウェアを含めているため、以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright © 2007 Distributed Management Task Force, Inc. (DMTF). All rights reserved.

- 本著作物の特定の部分は、Prentice-Hall から出版されている『The Draft Standard C++ Library』(Copyright © 1995 by P.J. Plauger) から派生しており、許可を得て使用しています。

- 本ソフトウェアの特定の部分は、Hewlett-Packard Company の著作物に一部基づいています。マイクロソフトは、本製品に Hewlett-Packard Company のソフトウェアを含めているため、かかるソフトウェアに付随した以下のテキストを記載することを義務付けられています。

  Copyright © 2002, 2003 Hewlett-Packard Company.

  本ソフトウェアに関する表示 :
  本ソフトウェアは、mpvtools.sourceforge.net から入手可能なソフトウェアに基づいています。

  本ソフトウェアは、MPV と呼ばれる形式を処理します。MPV は、写真、ビデオ、および音楽コンテンツの収集およびマルチメディア プレイリスト、ならびに関連するメタデータを管理するためのオープン仕様であり、Optical Storage Technology Association から無償で入手できます。MPV 仕様の詳細については、www.osta.org/mpv をご参照ください。

  許可表示 :
  本ソフトウェアおよび関連ドキュメント ファイル (以下「本ソフトウェア」といいます) の複製を取得する者に対し、制限を負うことなく、本ソフトウェアを使用、複製、改変、結合、公開、頒布、再許諾、および本ソフトウェアの複製を販売する権利、ならびに本ソフトウェアの提供を受ける者に同様の取り扱いを許可する権利を含みますがこれらに限定されない本ソフトウェアの取り扱いを無償で許可するものとします。ただし、以下の条件を前提とします。

  上記の著作権表示、この許可表示、および上記の本ソフトウェアに関する表示を、本ソフトウェアのあらゆる複製または相当部分に記載するものとします。

  本ソフトウェアは、現状有姿のまま、明示、黙示を問わず、商品性、特定目的に対する適合性、および権利侵害の不存在の保証を含みますがこれに限定されない、何らの保証もない条件で提供されます。著作者または著作権保有者は、本ソフトウェア、あるいは本ソフトウェアの使用またはその他の取り扱いに起因または関連する、あらゆる賠償請求、損害、またはその他の責任に関し、契約行為またはその他の不法行為の有無にかかわらず、一切責任を負いません。

  この表示に記載されている場合を除き、著作権保有者の書面による事前の承認なく、著作権保有者の名称を、本ソフトウェアの広告、もしくは販売、使用、またはその他の取り扱いの促進に使用することはできないものとします。

その他すべての商標は、各所有者の所有物です。

取扱説明書の構成

本機の取扱説明書は、次の構成になっています。

取扱説明書の名称	対象者	形式	内容
取扱説明書 [設置・設定編]	システム管理者・設定者	冊子	本機の設置と接続方法、運用に必要な本機・管理ソフトウェア・ビューワーの基本設定・操作方法
取扱説明書（本書）	システム管理者・設定者	HTML、PDF（本機に内蔵）	本機の設置と接続方法、本機を使いこなすための詳細な設定・操作方法
（監視業務用）簡単ガイド	監視業務従事者	冊子	監視業務で必要な、ビューワーの最も基本的な操作方法

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

項目	内容
はじめに (☞ 2 ページ)	正しくお使いいただくための注意事項などを説明しています。お使いになる前に、必ずお読みください。
<レコーダー編>	
基本 (☞ 25 ページ)	本機を設置・接続し、カメラから映像を受け取るまでの基本的な操作と設定を説明しています。
応用 (☞ 40 ページ)	アラーム受信時の動作設定など、運用のしかたに合わせた具体的な設定方法を説明しています。
リファレンス (☞ 82 ページ)	本機と Management Application を使いこなすための詳細な設定項目について、説明しています。
<ビューワー編>	
基本 (☞ 136 ページ)	ビューワーをパソコンにインストールし、監視用の基本設定をするまでを説明しています。
応用 (☞ 159 ページ)	画面のカスタマイズなど、運用方法にあわせたビューワーの設定方法を説明しています。
リファレンス (☞ 167 ページ)	Smart Client を使いこなすための詳細な設定項目について、説明しています。
その他 (☞ 184 ページ)	対応機器や記録時間、初期値一覧などを記載しています。また、困ったときの対処方法や、本機の仕様を記載しています。

■ 本文中の記号の見かた

ご注意　操作上の注意が書かれています。

メモ　機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

☞　参照ページや参照項目を示しています。

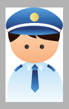
設置から運用までの流れ

本機の設置からシステム運用まで、次のような流れで進みます。

ご注意 :

- 本機の設置・設定の前に、ネットワークカメラの設置と IP アドレスなどの設定をしてください。

設定・管理者向け	設置する	本機を EIA ラックなどに設置します。	☞ 26 ページ
	▼		
	接続する	モニターやマウスなど本機の操作に必要な機器と、ネットワークケーブルや他の警報装置などセキュリティシステムに必要な機器を接続します。	☞ 27 ページ
	▼		
	本機の電源を入れる	接続が終わったら、本機の電源を入れます。	☞ 31 ページ
	▼		
	本機をネットワークに接続する	本機のネットワーク設定をして、カメラやパソコンとネットワーク接続します。	☞ 33 ページ
	▼		
	システムの基本設定をする	カメラを登録し、カメラからの映像を画面に映すまでの設定を行います。	☞ 34 ページ
	▼		
	運用に合わせた設定をする	目的に合わせた設定をします。	☞ 40 ページ
	▼		
	ビューワーを使う	監視プランに沿って、ビューに表示する内容を設定します。	☞ 136 ページ

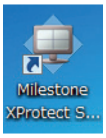
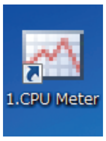
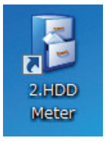
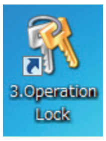
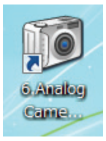
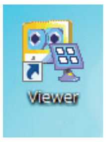
 監視業務従事者向け	運用する	ビューワーを使ってカメラからのライブ映像を見たり、記録した映像をさがして再生します。 必要に応じて、記録画像をデスクトップなどに保存します。	☞ 136 ページ

設定・管理者向け	メンテナンス、システムの増設	システムのメンテナンスや変更（カメラや HDD の増設など）ができます。本機や Milestone アプリケーションの設定については、「リファレンス編」で一覧をご覧いただけます。	☞ 82 ページ ☞ 167 ページ

本機で使用するソフトウェアについて

ソフトウェアの概要

本機では、主に次のソフトウェアを使用します。

ソフトウェア	概要
	XProtect Enterprise Management Application を起動します。 XProtect Enterprise Management Application は、XProtect Enterprise を使った監視システムの各種設定をするソフトウェアです。 本書では、「Management Application」と呼びます。
	XProtect Enterprise Smart Client を起動します。 XProtect Enterprise を使った監視システムで、ライブ映像や記録画像を閲覧するソフトウェアです。 本書では、「Smart Client」と呼びます。
	CPU メーターを起動します。 NVR の CPU の負荷率を表示します。 お買い上げ時は、本機を起動するとデスクトップの左上に CPU メーターが自動で表示される設定になっています。
	HDD メーターを起動します。 ハードディスクの使用状況を表示します。
	本機の操作ロック機能を設定 / 解除します。
	ユニット設定を起動します。 上記 Management Application で設定する項目以外の各種設定を行います。
	メンテナンス情報を起動します。 本機の稼働時間など、メンテナンス情報の表示や保存を行います。
	ネットワークエンコーダ（VN-E4）の COM 端子に接続した PTZ カメラを制御するソフトウェアを起動します。
	スクリーンキーボードを起動します。 マウスで文字を入力する場合に使用します。
	データベース形式でエクスポートしたデータを見るためのソフトウェアです。
インテル（R）ラピッド・ストレージ・テクノロジー	RAID を構築するためのソフトウェアです。デスクトップの「スタート」ボタン、「すべてのプログラム」、「Intel」、「インテル（R）ラピッド・ストレージ・テクノロジー」の順にクリックして起動します。

設定変更時のご注意

各種設定を変更する場合、誤った操作をすると正常に動作しなくなる場合があります。

- 設定を変更する前にユニット設定や Management Application の設定を保存しておくことをおすすめします。保存のしかたは、『 設定内容を保存 / 復元する 』(☞80 ページ) をご覧ください。

ご注意：

- Management Application の設定変更時は、絶対に電源を切らないでください。

■ Management Applicationの設定を変更したときは

Management Application の設定を変更したら、設定を保存してサービスを再起動してください。再起動しないと、変更した内容が反映されません。

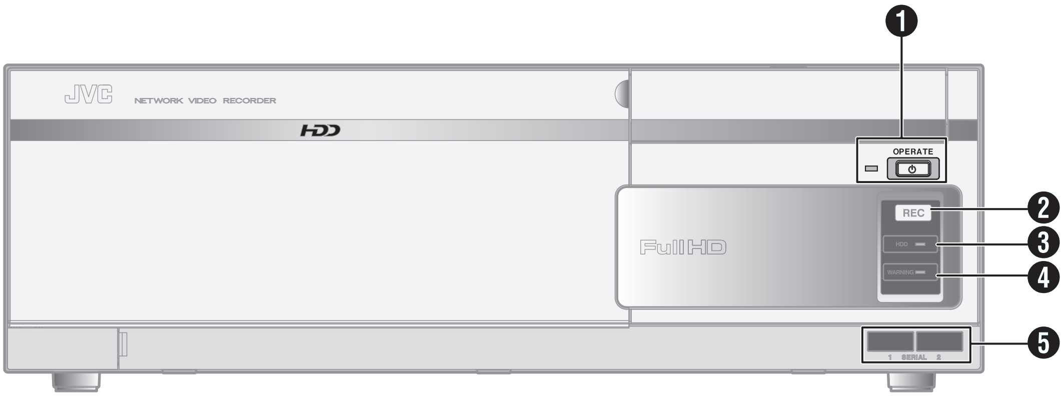
変更の保存とサービスの再起動は、Management Application の「ファイル」メニューで行います。

メモ：

- サービスの再起動は、「拡張設定」の「サービス」で行うこともできます (☞115 ページ『 サービス 』)。また、Management Application を終了するとき、設定の保存とサービスの再起動を選択する画面が表示されます (☞35 ページ『Management Application を終了する 』)。この場合は、必ず「設定の保存 - サービスの再起動」を選択してください。
- Smart Client を起動しているときに Management Application の設定を変更した場合は、Smart Client を一度終了し、再度起動してください。

各部の名称とはたらき

前面



❶ [OPERATE（オペレート）] ボタン・表示灯

オペレート ON/OFF を切り換えます。ボタンを押すとオン、長押しするとオフとなります。起動処理中および終了処理中は表示灯が点滅します。起動が完了すると、点灯します。

❷ [REC] 表示灯

記録中に点灯します。

❸ [HDD] 表示灯

内蔵 HDD アクセス時に点灯します。

❹ [WARNING（ワーニング）] 表示灯

ハードウェアにエラーなどが発生すると、点灯します。

メモ :
- エラーの種類について：☞ 199 ページ
- 消灯させるには：☞ 133 ページ

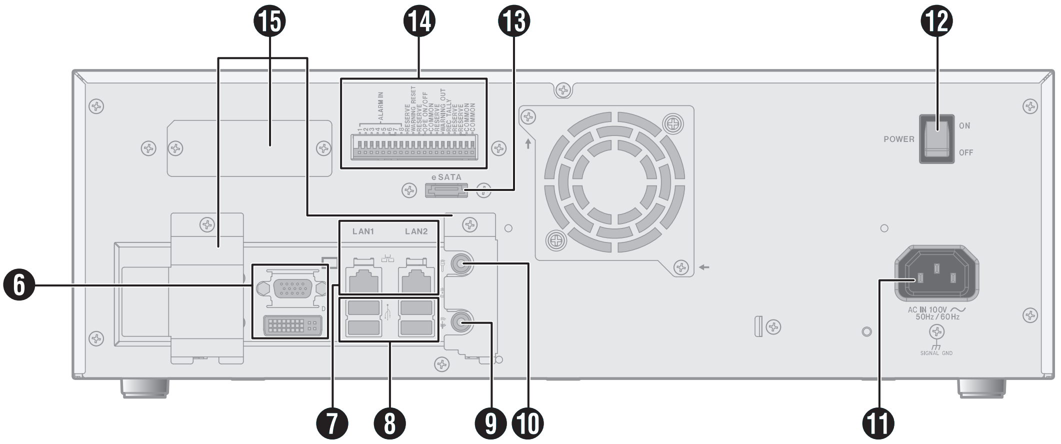
❺ [SERIAL 1/2] 端子

USB マウス（別売）、USB フラッシュメモリ（別売）、または UPS（別売）の通信制御端子と接続します。

ご注意 :
- 使用しない場合は、付属のシリアル端子カバーを付けてください。
- 静電気により誤動作する場合があります。あらかじめ静電気を除去したあとに作業を行なってください。

メモ :
- 増設 HDD は背面の SERIAL 端子または [eSATA] 端子に接続してください。(☞ 23 ページ)
- 外部機器の接続については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。

背面



❻ モニター出力端子（D-sub15pin、DVI）

ライブ映像、記録画像や設定画面を出力します。

メモ：

- DVI 端子は、デジタル信号のみの出力です。

❼ LAN1/LAN2 端子

LAN ケーブルでネットワークに接続します。

表示灯位置	色	状態	
左側	ー	消灯	10Mbit/ 秒で通信しています。
	緑色	点灯	100Mbit/ 秒で通信しています。
	オレンジ色	点灯	1Gbit/ 秒で通信しています。
右側	ー	消灯	ネットワークに接続していません。
	黄色	点滅	通信中です。

メモ：

- LAN1/LAN2 の使いかたについては、『LAN1/LAN2 の使い分けについて 』(☞123 ページ) をご覧ください。

❽ SERIAL 端子

USB マウス（別売）、USB フラッシュメモリ（別売）、増設 HDD（別売）、または UPS（別売）の通信制御端子等と接続します。

メモ：

- 外部機器の接続については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。

❾ 音声出力端子

スピーカーなどの音声出力デバイスを接続します。

❿ 音声入力端子

プラグインマイクなどの音声入力デバイスを接続します。

⓫ [AC IN 100V∿ 50Hz/60Hz] 電源入力端子

付属の電源ケーブルで AC100V のコンセントに接続します。

⓬ 電源スイッチ

電源を入／切します。

メモ：

- 電源を切る前に、必ず前面の [オペレート] ボタンを長押ししてオペレート OFF 状態にしてください。

⓭ [eSATA] 端子

増設 HDD（別売）を接続します。

メモ：

- 接続できる外部 HDD の種類については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。

⓮ 信号入出力端子

外部アラームの信号や、外部機器からの信号を受け本機を動作させたり、また信号を出力することにより外部機器を動作させたりします。

メモ：

- 適合線径　AWG22 ～ 28

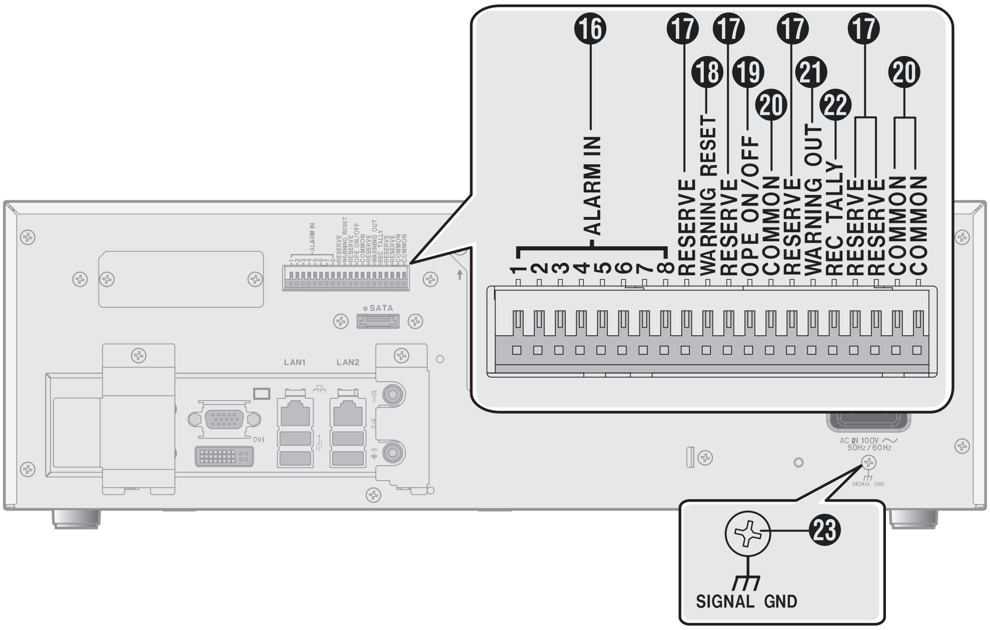
⓯ コネクターカバー

メモ：

- 取りはずさないでください。

各部の名称とはたらき（つづき）

背面入出力端子



■ 入力ポート (☞ 29 ページ)

⑯ [ALARM IN1 ～ 8] アラーム入力端子 1 ～ 8

この端子に信号が入力されると、アラームイベントが発生し、アラーム記録を開始したり、PTZ カメラの向きを変えたりすることができます。(☞48 ページ『 イベントとアクション 』)

⑰ [RESERVE] 端子

使用しません。

⑱ [WARNING RESET] ワーニングリセット入力端子

WARNING OUT 信号を出力中に、この端子に信号が入力されると、WARNING OUT 出力を停止させます。

⑲ [OPE ON/OFF] オペレートオン / オフ端子

この端子に信号が入力されると、オペレートオン / オフが切り替わります。

メモ :

- 操作ロック中(☞ 118ページ) の場合でも、オペレートオフが機能します。

■ 出力ポート (☞ 29 ページ)

⑳ [COMMON] 信号グランド端子

共通のグランド端子です。接続機器の信号グランド端子と接続します。

共通グランド端子が足りなくなった場合にご使用ください。

㉑ [WARNING OUT] ワーニング出力端子 (☞ 199 ページ)

HDD の動作異常など、エラーが起きたときに信号を出力します。

㉒ [REC TALLY] 記録状態出力端子

本機の記録状態を出力します。

㉓ [SIGNAL GND] 信号グランド端子

共通のグランド端子です。接続機器の信号グランド端子と接続します。

[COMMON] 信号グランド端子 ⑳ が足りなくなった場合にご使用ください。

メモ :

- 安全アースとして使用しないでください。

レコーダー編

基本

この章では、本機（レコーダー）の基本操作・基本設定と、監視システムの基本設定を行います。

ご注意：

- Management Application の設定変更時は、絶対に電源を切らないでください。
- Management Application の設定を変更したら、サービスを再起動してください。(☞21 ページ『Management Application の設定を変更したときは 』)
  再起動しないと、変更した内容が反映されません。また、Smart Client を起動しているときに Management Application の設定を変更した場合は、Smart Client を一度終了し、再度起動してください。

ラックに取り付ける

付属のラックマウント金具を使用し、本機を EIA ラックに取り付けます。ラックへの取り付けは専門業者または販売店にご依頼ください。

1 スクリュー ① でラックマウント金具を取り付ける

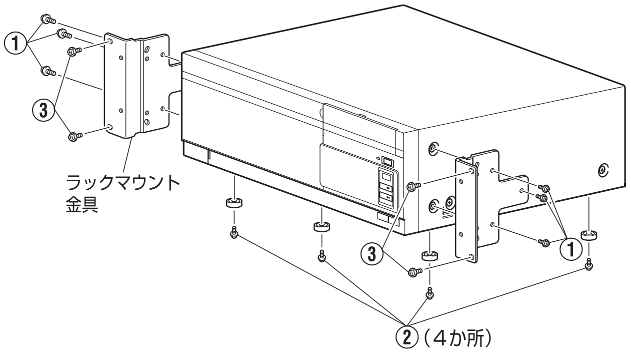
● 付属のスクリュー（M4x11mm）６本で本機の両側に固定します。

2 底面の脚（４か所）のスクリュー ② をはずす

● 脚を取ります。

3 スクリュー ③ でラックに取り付ける

● 付属のスクリュー（M5x10mm）４本でラックに固定します。



ご注意：

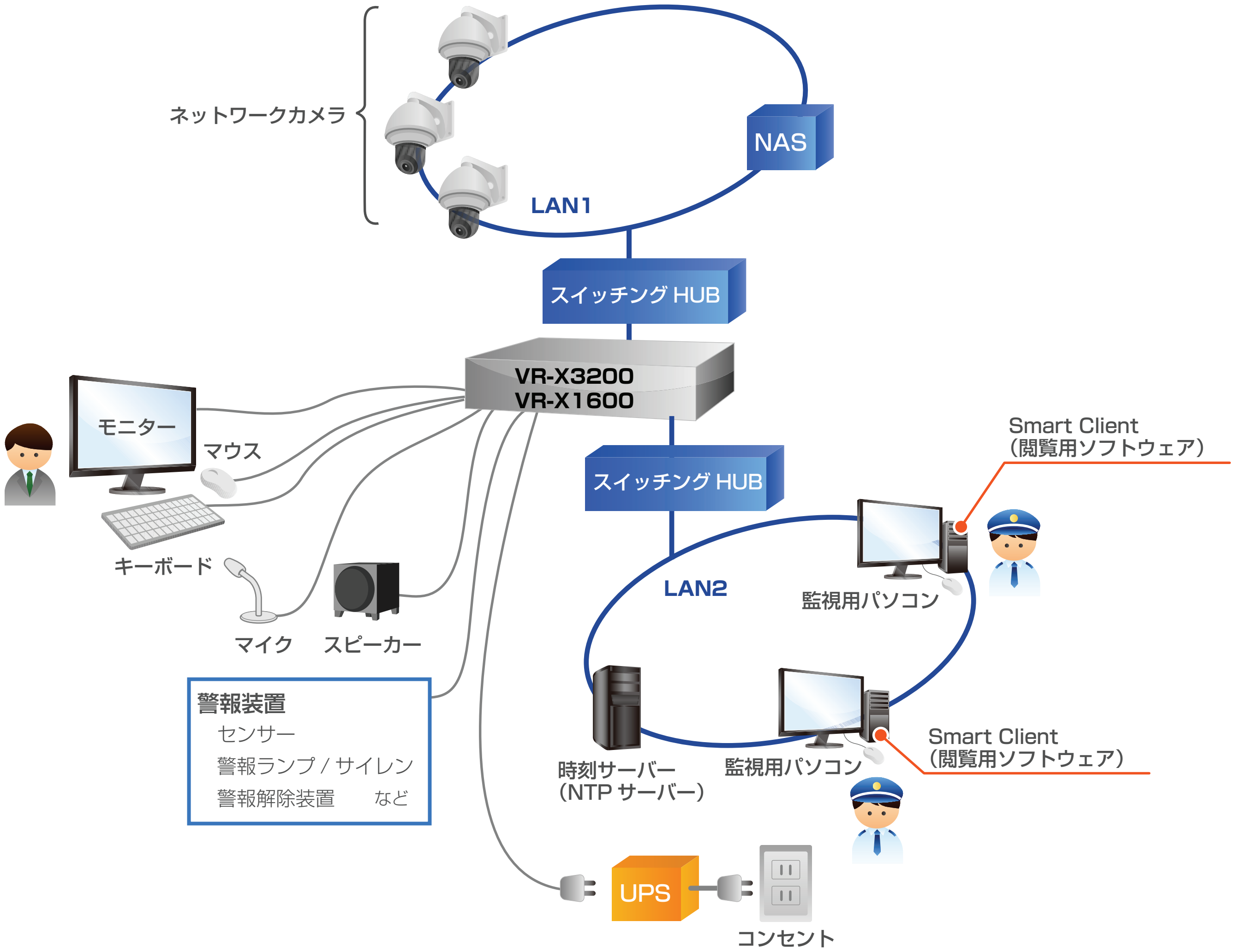
● ラックに取り付けた本機の上に、物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがや破損の原因になることがあります。
● 本機を２台以上ラックに取り付ける場合、必ず１Ｕ以上離して取り付けてください。
● 取りはずした脚を再度取り付ける場合、必ず同じスクリュー（M3 x 6 mm）を使用してください。これより長いスクリューを使用すると故障の原因となります。

接続する

基本システム構成

本機を使って、次のような監視システムを構築することができます。

- 32 台 (VR-X3200)/16 台 (VR-X1600) のカメラでライブ映像の監視と映像の記録・再生（カメラライセンスの追加により、VR-X3200 は最大 64 台 /VR-X1600 は 32 台まで監視可能）
- VGA または DVI モニターでの記録画像確認
- 音声を記録、再生
- マイク音声を指定カメラのスピーカーで再生
- アラームによる記録
- パソコンを使用しての遠隔監視



ご注意：

- 接続する前に、すべての機器の電源を切ってください。
- 故障したスイッチングハブやルーター、劣化したネットワークケーブルなどは接続しないようにしてください。システムが正しく動作しないことがあります。
- NAS や UPS を使う場合は、接続できる機種についてお買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。

接続する（つづき）

本機の端子に接続する機器

■ モニターを接続する

背面の RGB 出力端子または DVI 出力端子にモニターを接続します。

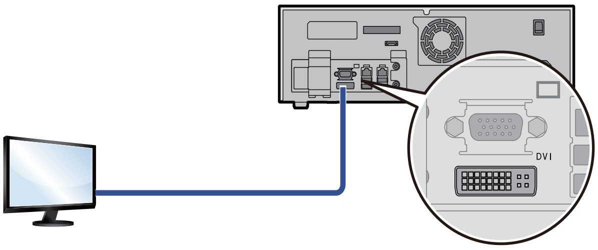
推奨のモニター解像度は、次のとおりです。

- 1024 × 768
- 1280 × 768
- 1280 × 1024
- 1600 × 1200
- 1920 × 1080

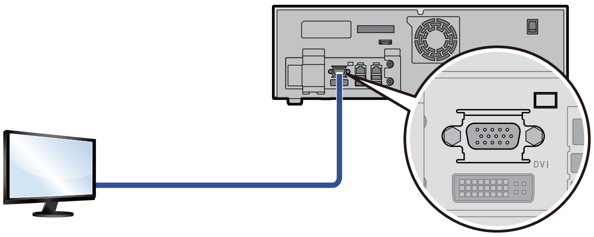
メモ：

- 接続するモニターによっては、表示されないモニター解像度があります。

● DVI モニター（デジタルのみ）



● VGA モニター



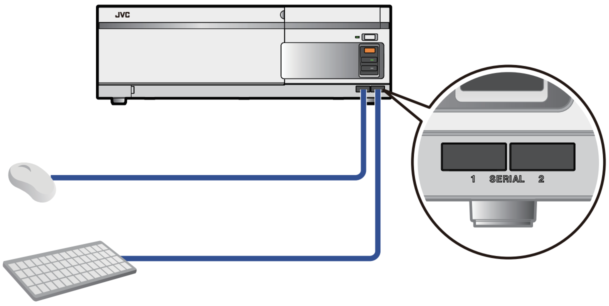
■ マウスとキーボードを接続する

本機は、マウスで操作します。

設定時は、前面の SERIAL 端子に接続したキーボードを使います。

メモ：

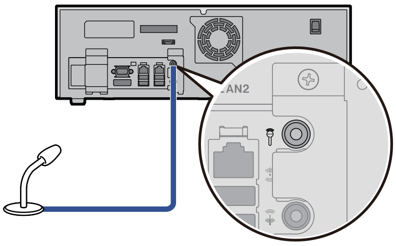
- 内蔵のスクリーンキーボードを使って文字を入力することもできます。スクリーンキーボードの使いかたについては、『 スクリーンキーボードを使う 』(☞32 ページ) をご覧ください。



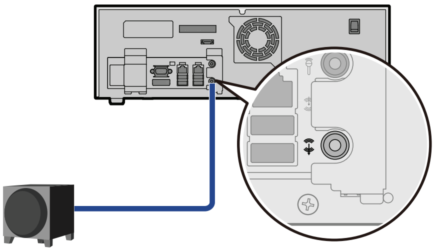
■ マイクとスピーカーを接続する

カメラ側のマイクとスピーカーを通して、音声通信することができます。

● マイク



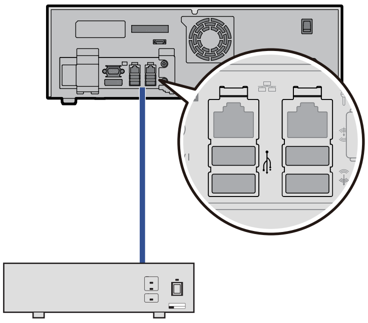
● スピーカー



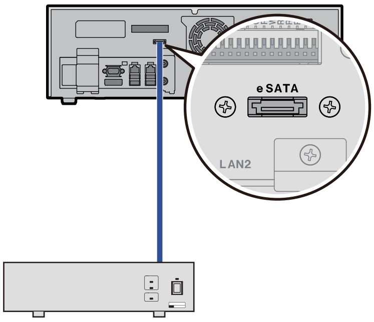
■ 増設 HDD を接続する

背面の SERIAL 端子または eSATA 端子に、増設用 HDD を接続することができます。

● SERIAL 端子



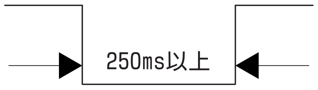
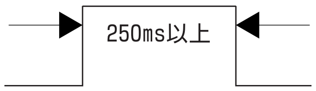
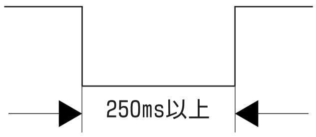
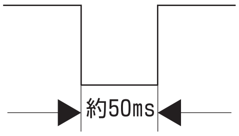
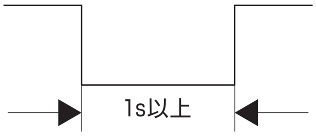
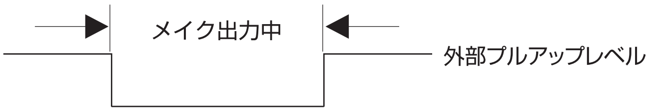
● eSATA 端子



■ 外部のセキュリティ機器を接続する

背面の信号入力端子に、ネットワーク機器以外の機器（赤外線センサーや警報装置など）を接続します。

● 背面入力端子について

端子		備考
[ALARM IN]	● 入力イベント名： JVC NVR ALARM IN1 ～ 8 MAKE （ジェネリックイベント）  メイク ● 入力イベント名： JVC NVR ALARM IN1 ～ 8 BREAK （ジェネリックイベント）  ブレイク **メモ：** ● 出力側のインピーダンスは 10kΩ 以下にしてください。	メイク接点入力
[WARNING RESET]	 **メモ：** ● 出力側のインピーダンスは 10kΩ 以下にしてください。	メイク接点入力
[OPE ON/OFF]	 OPE ON  OPE OFF **メモ：** ● 出力側のインピーダンスは 10kΩ 以下にしてください。 ● 操作ロック中 (☞ 118 ページ) の場合でも、オペレートオフが機能します。	メイク接点入力
[REC TALLY] [WARNING OUT]	 各出力端子と [COMMON] 端子でメイク接点を構成します。本機の電源を切ると、各出力端子出力はブレイクになります。	オープンコレクタ出力（DC15V, 10mA 以下）

接続する（つづき）

ネットワークで接続する機器

本機は、ネットワークカメラや監視用パソコンとネットワークで接続します。

本機には、ネットワークカメラ接続用（LAN1）と、監視用パソコン接続用（LAN2）の 2 つのネットワーク端子があります。

ご注意 :

- LAN1 と LAN2 は必ず異なるセグメント * にしてください。

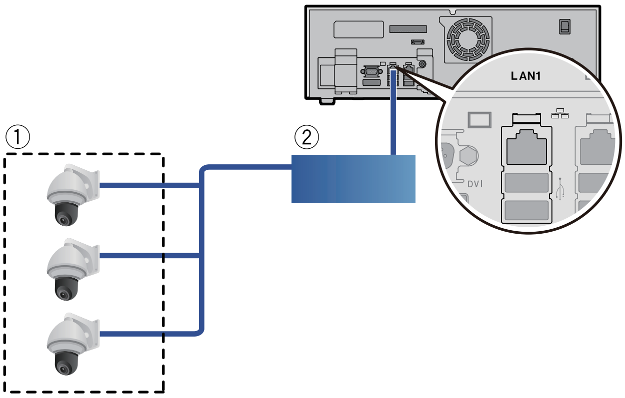
  例：

  LAN1：192.168.0.253

  LAN2：192.168.1.253

  * セグメント：下線の部分
- LAN1、LAN2 間は通信できません。LAN2 に接続された監視用パソコンから LAN1 に接続されたカメラを設定することはできません。LAN1 に接続されたカメラを設定するには、カメラ設定用のパソコンを LAN1 側に接続してください。
- LAN1、LAN2 は QoS 非対応です。回線の状況により音声が正常に再生されない場合があります。
- 故障したスイッチングハブやルーター、劣化したネットワークケーブルなどは接続しないようにしてください。システムが正しく動作しないことがあります。

■ ネットワークカメラを接続する（LAN1）



① ネットワークカメラ

② スイッチングハブ

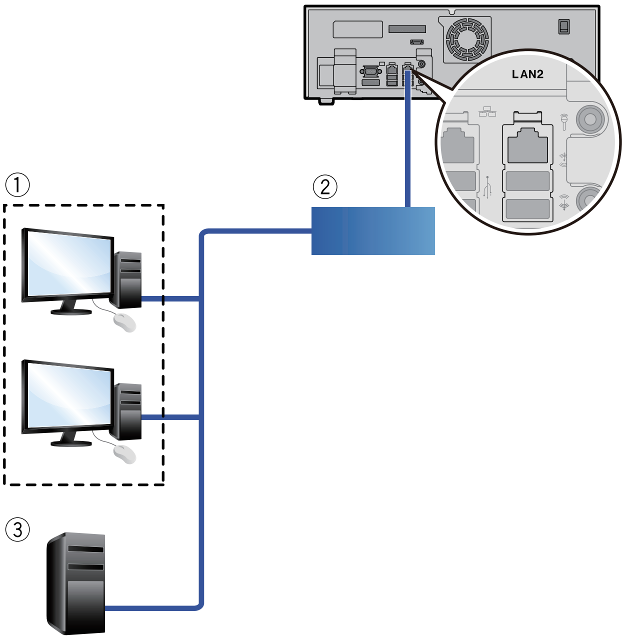
ご注意 :

- あらかじめ、カメラの設置と IP アドレス設定をしておいてください。
- LAN1 側はインターネットに接続しないでください。インターネットの混雑状況や中継機器などの状況により重要なカメラの映像が保存できなくなる場合があります。記録性能を確保するために専用ネットワークとすることをおすすめします。また、LAN1 のカメラネットワークは同一セグメント (NAT、NAPT などのアドレス変換やルーターを使わない) としてください。

メモ :

- ネットワークカメラの使用するプロトコル、ポート番号については、ネットワークカメラの取扱説明書をご覧ください。
- LAN1 の IP アドレスの初期設定は、「192.168.0.253」です。変更する場合は、「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット」(☞ 33 ページ) で変更してください。
- 追加カメラライセンスのご購入により、接続できるカメラの台数を 64 台（VR-X3200）/32 台（VR-X1600）まで増やすことができます (☞ 120 ページ)。追加ライセンスの購入については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

■ 監視用パソコンを接続する（LAN2）



① パソコン

② スイッチングハブ

③ 時刻サーバー（NTP サーバー）

ご注意 :

- LAN2 側をインターネットに接続して監視用パソコンで使用する場合は、グローバル IP アドレスの取得や VPN 接続など別途回線業者との契約が必要になる場合があります。また、インターネットに接続するためのブロードバンドルーターの設定が必要になります。
- LAN2 側をインターネットに接続して監視用パソコンで使用する場合は、IP マスカレードの設定が必要となります。

メモ :

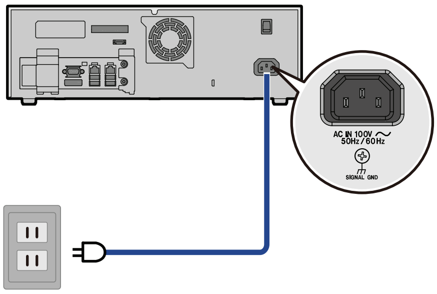
- 使用するプロトコル、ポート番号は、以下のとおりです。
  - 監視用パソコン：HTTP 80 番
  - メール送信：SMTP 25 番、POP 110 番
  - 時刻同期：NTP 123 番
- LAN2 の IP アドレスの初期設定は、「192.168.1.253」です。変更する場合は、「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット」(☞ 33 ページ) で変更してください。

電源を入れる／切る

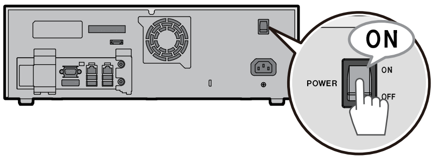
電源を入れる

1 電源ケーブルをつなぐ

- 付属の電源ケーブルで AC100V（50Hz/60Hz）のコンセントにつなぎます。



2 背面の電源スイッチを「ON」にする



システムチェックが始まり、オペレート表示灯が点滅します。システムチェックが終わると、オペレート表示灯が点灯し、操作ができるようになります（オペレートオン）。

ご注意：

- システムチェック中またはオペレートオン状態では、電源スイッチを「OFF」にしないでください。故障の原因となります。また、電源ケーブルは電源スイッチを「OFF」にしてから抜いてください。
- 停電などにそなえて、UPS（無停電電源装置）のご使用をおすすめします。接続できる機種についてお買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。

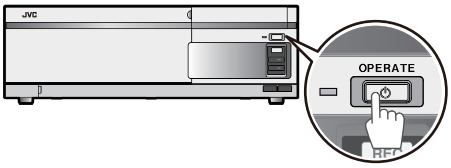
メモ：

- 背面の電源スイッチを「ON」にしても起動しない場合は、前面の [オペレート] ボタンを押してください。

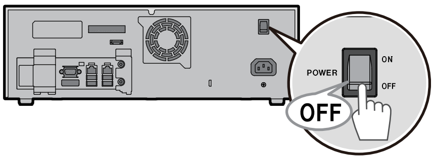
電源を切る

1 [オペレート]ボタンを約2秒間長押ししてオペレートオフにする

終了処理が始まり、オペレート表示灯が点滅します。終了処理が終わると、画面の表示が消え、オペレート表示灯が消灯し、オペレートオフになります。



2 背面の電源スイッチを「OFF」にする



ご注意：

- 停電などで正常に終了処理ができなかった場合、その時刻以前の記録画像は正常に再生されない場合があります。
- 背面の電源スイッチは、必ず前面の [オペレート] ボタンを長押しして、オペレートオフ状態にしてから切ってください。オペレートオンの状態で背面の電源スイッチを切ると、故障の原因になります。
- 電源を切ったあと、1 分間は本機を動かさないでください。衝撃により内蔵ハードディスクが故障することがあります。

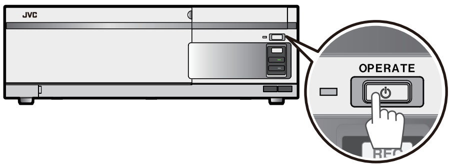
メモ：

- デスクトップの [スタート] ボタンから「シャットダウン」を選んでもオペレートオフできます。
- 背面の [OPE（オペレート）ON/OFF] 端子につないだ機器から、オペレートオン / オフを切り換えることもできます。(☞29 ページ『[OPE ON/OFF]』)

オペレートオン／オフを切り換える

オペレートオン / オフの切り換えができます。

オペレートオンにする



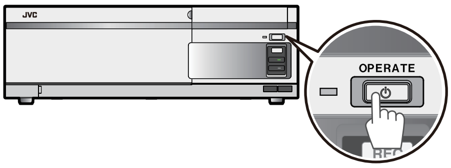
1 （オペレートオフ状態で）[オペレート] ボタンを押す

システムチェックが始まり、オペレート表示灯が点滅します。システムチェックが終わると、オペレート表示灯が点灯し、操作ができるようになります（オペレートオン）。

メモ：

- 背面の電源スイッチを「ON」にすると、自動的にオペレートオンになります。
- ログイン画面が表示されたときは、パスワードを入力してログインしてください。ログインパスワードの設定については、『 本機のログインパスワードを設定する 』(☞89 ページ) をご覧ください。
- ログインパスワードが設定されている場合、ログインしないとワーニングメッセージ (☞ 199 ページ) が表示されません。この場合、[WARNING] 表示灯は点灯します。
- 「起動時の自動表示設定」で「Smart Client」にチェックがついている場合 (☞ 83 ページ)、ログインに成功すると Smart Client が起動します。

オペレートオフにする



1 [オペレート]ボタンを約2秒間長押ししてオペレートオフにする

終了処理が始まり、オペレート表示灯が点滅します。終了処理が終わると、画面の表示が消え、オペレート表示灯が消灯し、オペレートオフになります。

メモ：

- デスクトップの [スタート] ボタンから「シャットダウン」を選んでもオペレートオフできます。
- 背面の [OPE（オペレート）ON/OFF] 端子につないだ機器から、オペレートオン / オフを切り換えることもできます。(☞29 ページ『[OPE ON/OFF]』)

スクリーンキーボードを使う

本機前面の SERIAL 端子に接続したキーボードの他に、内蔵のスクリーンキーボードを使って文字を入力することもできます。

1 デスクトップの [Keyboard] をダブルクリックする

スクリーンキーボードが起動します。

2 入力したい文字の上にマウスポインタを移動させ、マウスをクリックする

■ 英語入力と日本語入力を切り換えるには

をクリックして、

をクリックします。

本機をネットワークに接続する

本機の IP アドレスなどを設定し、カメラネットワーク（LAN1）や監視用パソコン（LAN2）と接続します。

● LAN1 と LAN2 それぞれに設定します。

ご注意：

- 本機のネットワーク設定の前に、ネットワークカメラの設置と設定をしてください。

1 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックする

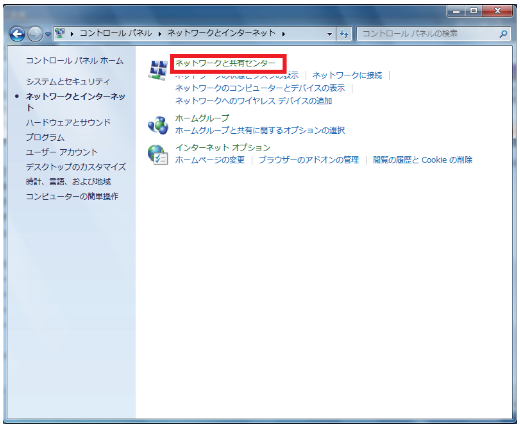
コントロールパネルが開きます。

2「ネットワークとインターネット」をクリックする

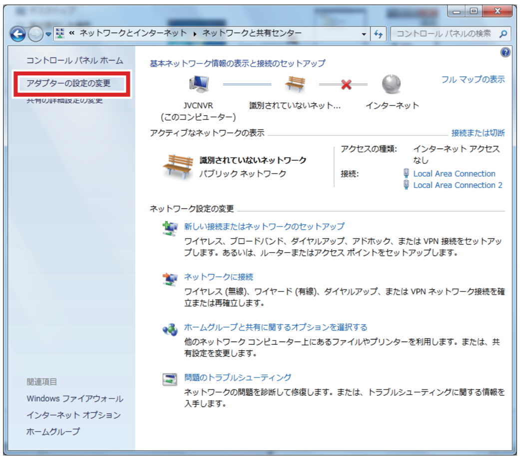
- 「カテゴリ」が表示されていない場合は、「カテゴリ」を選択してください。

「ネットワークとインターネット」画面が表示されます。

3「ネットワークと共有センター」をクリックする

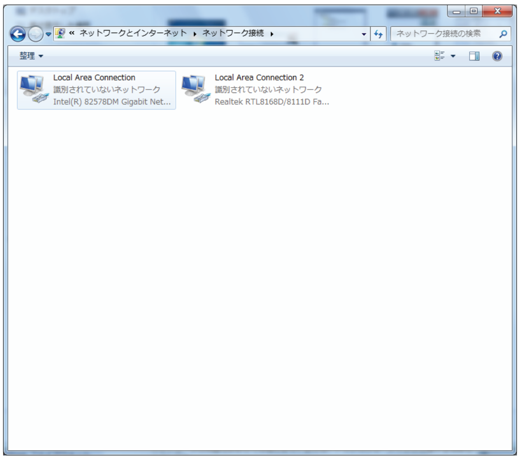


4「アダプター設定の変更」をクリックする

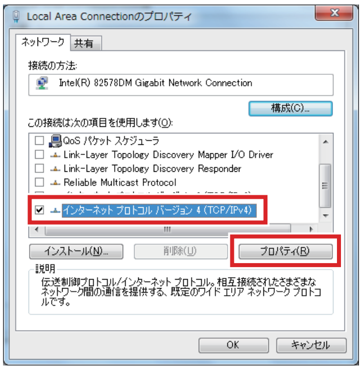


5 アダプターで右クリックして、「プロパティ」をクリックする

- LAN1 を設定するとき：「Intel(R) 82578DM Gigabit Network Connection」を選びます。
- LAN2 を設定するとき：「Realtek RTL8168D/8111D Family PCI-E Gigabit Ethernet NIC (NDIS 6.20)」を選びます。

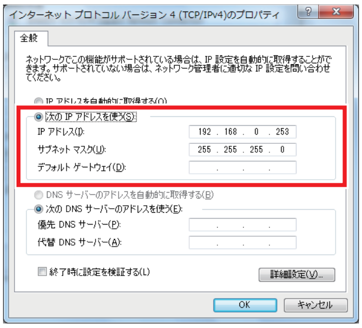


6「インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4)」を選択して［プロパティ］をクリックする



本機をネットワークに接続する（つづき）

7 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力する



● 初期設定は、以下のとおりです。初期設定以外の値に設定する場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

項目	初期設定
IP アドレス	
LAN1	192.168.0.253
LAN2	192.168.1.253
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
LAN1	(なし)
LAN2	192.168.1.254

ご注意：

● LAN1 と LAN2 は必ず異なるセグメント * にしてください。

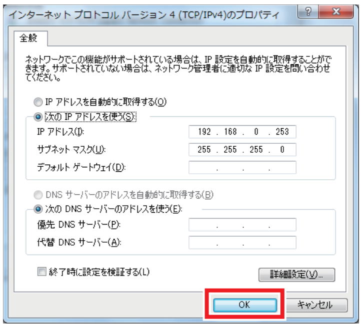
例：

LAN1：192.168.0.253

LAN2：192.168.1.253

* セグメント：下線の部分

8 [OK] をクリックする



ネットワークが設定されました。

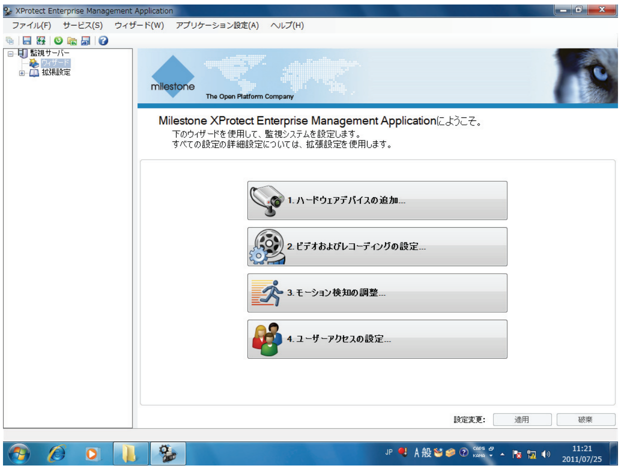
監視システムの基本設定をする

カメラの登録や記録の設定など、監視システムの設定は Management Application を使って行います。基本的な設定は、ウィザードにしたがって順に設定することができます。

Management Application を起動する

1 デスクトップの [Management Application] をダブルクリックする

トップ画面が表示されます。



ウィザードにしたがって、カメラの登録・基本設定と記録の基本設定を行います。

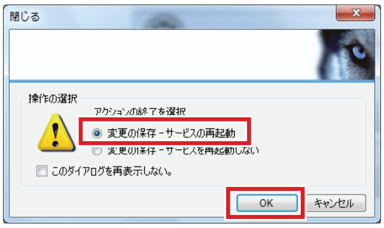
メモ：

●「モーション検知の調整…」と「ユーザーアクセスの設定…」は、必要な場合のみ設定します。(☞ 46 ページ、☞ 68 ページ)

■ Management Application を終了する

1 [(閉じる)] をクリックする

2「変更の保存 - サービスの再起動」を選択し、[OK] をクリックする



Management Application が終了します。

ご注意：

- Management Application の設定変更時は、絶対に電源を切らないでください。
- Management Application の設定を変更したら、サービスを再起動してください。再起動しないと、変更した内容が反映されません。

カメラを接続する

「ハードウェアデバイスの追加…」ウィザードを使ってネットワーク内のカメラをシステムに登録して、NVR から設定・操作できるようにします。

- カメラの登録には、カメラのユーザー名、パスワードが必要です。あらかじめ確認してください。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。

ご注意：

- ネットワークカメラはあらかじめ IP アドレスを設定しておく必要があります。
- 初期状態では本機の LAN1 側 IP アドレスは 192.168.0.253、サブネットマスクは 255.255.255.0 です。
- ネットワークカメラのIPアドレスは本機のLAN1 と同じセグメント * に設定しておく必要があります。カメラと本機が同じネットワーク内にないと、カメラを登録できません。カメラと本機の LAN1 の IP アドレスのセグメントが同じであることを確認してください。異なる場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

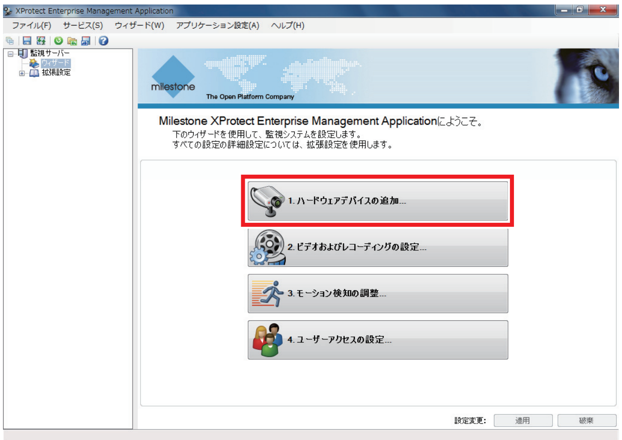
  例：サブネットマスクが 255.255.255.0 の場合

  本機の IP アドレス：192.168.0.253

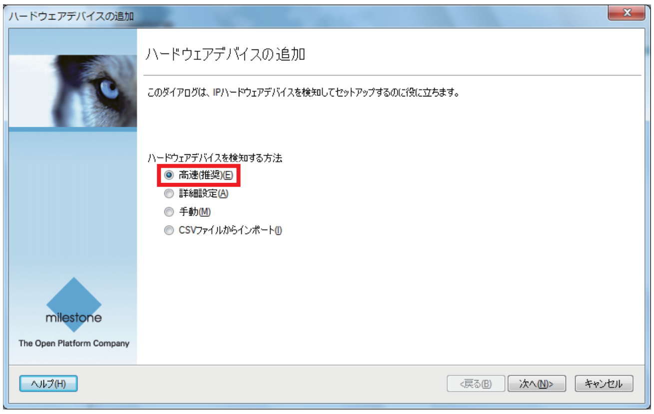
  カメラの IP アドレス：192.168.0.100

  * セグメント：下線の部分
- 複数のデバイスに同じ IP アドレスを設定しないでください。正しい設定ができなくなります。

1 [ハードウェアデバイスの追加…] をクリックする



ウィザードが始まります。

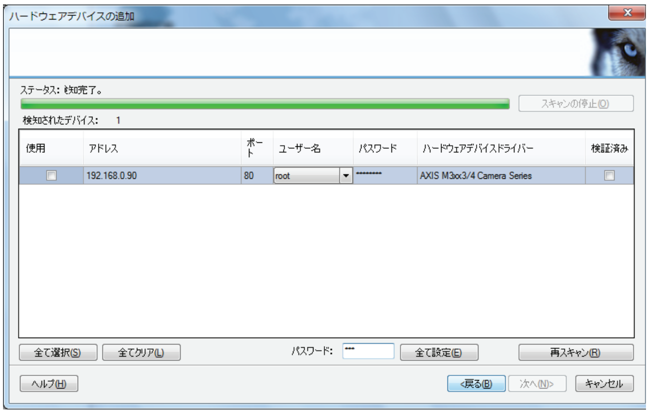


- 「高速（推奨）」にチェックが付いていることを確認してください。

2 [次へ] をクリックする

ネットワークに接続されているカメラの自動検出が始まります。

自動検出が終わると、検出されたカメラのリストが表示されます。

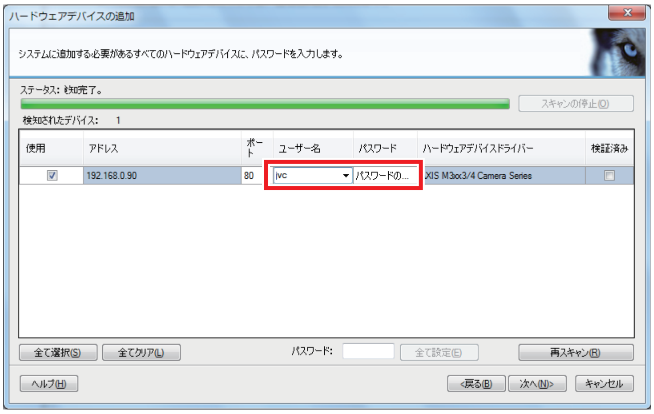


- ネットワークの構成によっては、自動で検出されない場合があります。リストに表示されないカメラがある場合は、[再スキャン] をクリックします。それでも表示されない場合は、手動でカメラを登録します。(☞119 ページ『手動でカメラを登録する』)
- VN-C215 は、自動で検出されません。手動で登録してください。(☞119 ページ『手動でカメラを登録する』)
- カメラのユーザー名とパスワードが初期設定から変更されている場合、自動で検出できないことがあります。

監視システムの基本設定をする（つづき）

カメラを接続する（つづき）

3 カメラのユーザー名とパスワードを入力する

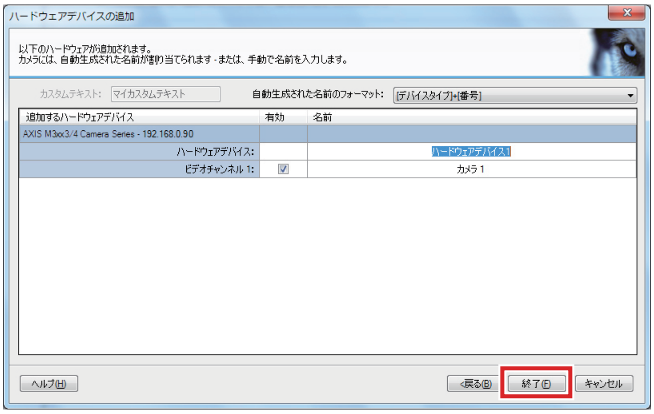


ご注意：
- ユーザー名またはパスワードが正しくないと、次の手順へ進めません。

メモ：
- すべてのカメラのパスワードが同じ場合は、下段の「パスワード」欄にパスワードを入力して [全て設定] をクリックします。

4 ［次へ］をクリックする

5 登録するカメラを確認して、［終了］をクリックする



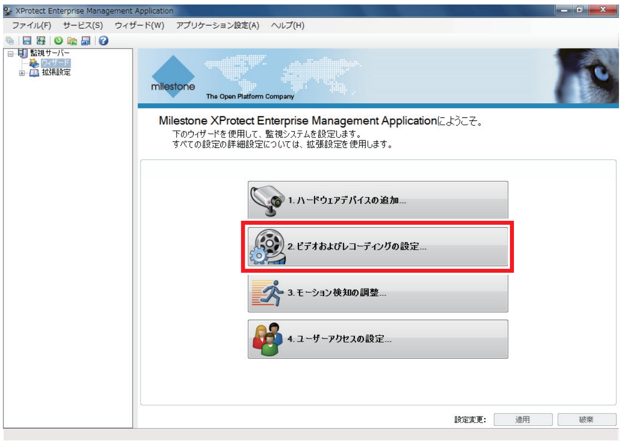
トップ画面に戻ります。

以上で、カメラの登録が終了し、カメラからの映像を受け取ることができるようになりました。続けて、各カメラの映像と録画の設定をします。

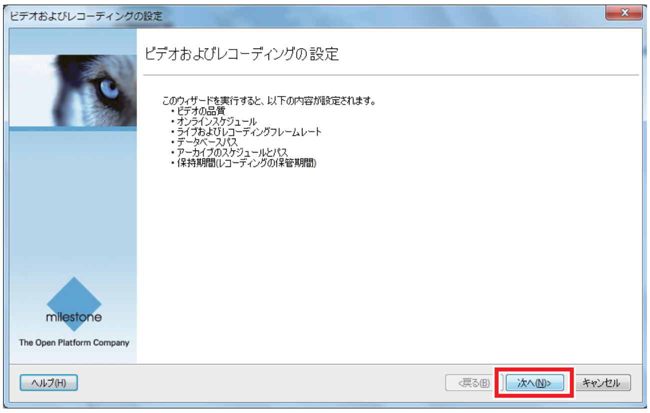
接続したカメラの設定を行う

「ビデオおよびレコーディングの設定…」ウィザードを使って、登録したカメラごとに記録スケジュールやフレームレート（画質）などを設定します。

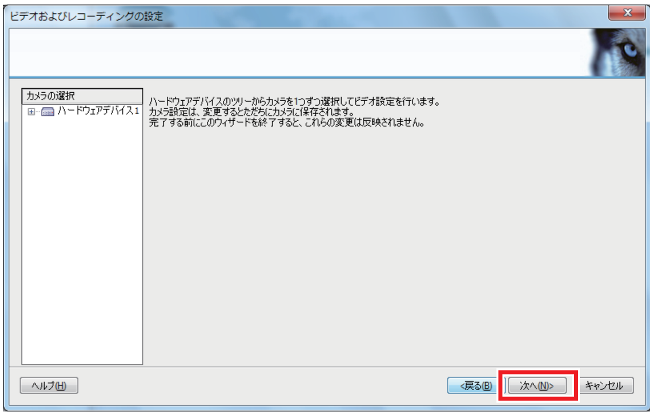
1 「ビデオおよびレコーディングの設定…」をクリックする



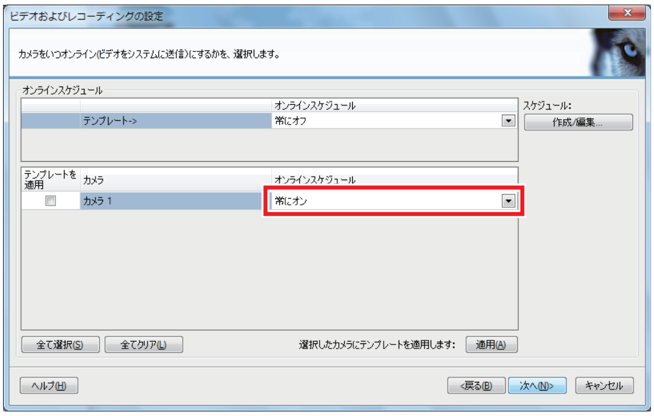
2 ［次へ］をクリックする



3 ［次へ］をクリックする



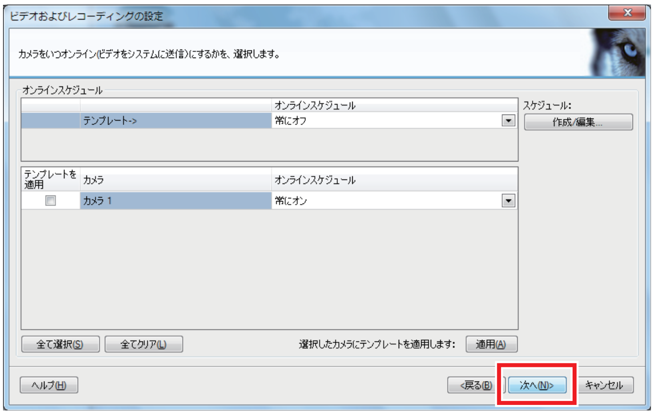
4 カメラごとに映像を受け取る設定をする



項目	内容
常にオン	カメラからの映像を常時受け取ります。
常にオフ	カメラからの映像を受け取りません。

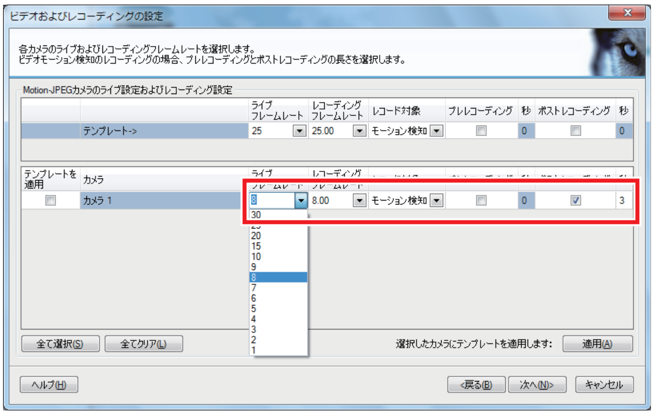
- 「テンプレートを適用」欄にチェックを入れて［適用］をクリックすると、チェックをいれたすべてのカメラに、上段の「テンプレートー>」で選択されている設定が適用されます。

5 ［次へ］をクリックする



フレームレート設定画面が表示されます。

6 フレームレートと記録条件を設定する



以下の項目を順に設定していきます。

項目	内容
ライブフレームレート	ライブ表示するときのフレームレートを設定します。
レコーディングフレームレート	記録するときのフレームレートを設定します。
レコード対象	記録条件を設定します。 ● 常時：常に記録します。 ● 設定しない：手動でのみ記録するときに選択します。 ● モーション検知：モーション検知時に記録します。 ● イベント：イベント発生時に記録します。 ● イベントおよびモーションの検知：イベント発生時とモーション検知時に記録します。
プレレコーディング / ポストレコーディング	「レコード対象」でモーション検知またはイベント発生で記録する設定にした場合に、その前後で記録する秒数を指定します。

- 「テンプレートを適用」欄にチェックを入れて［適用］をクリックすると、チェックをいれたすべてのカメラに、上段の「テンプレートー>」で選択されている設定が適用されます。

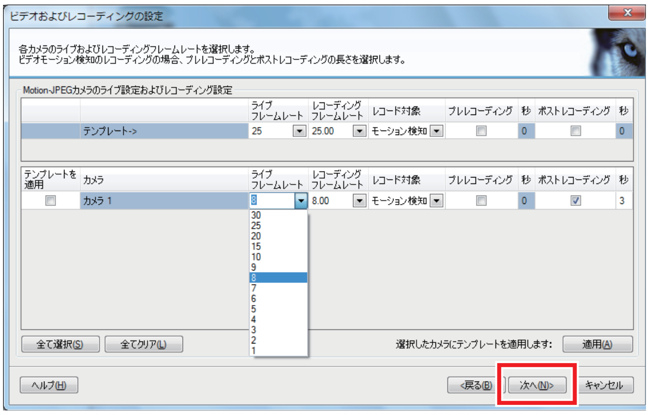
ご注意：

- フレームレートの合計が本機の性能を超えないように設定してください。本機の性能については、『記録 / 表示 / 配信性能』(☞200 ページ) をご覧ください。

メモ：

- 「レコード対象」の「イベント」と「イベントおよびモーションの検知」は、イベントが設定されているときに表示されます。

7 ［次へ］をクリックする

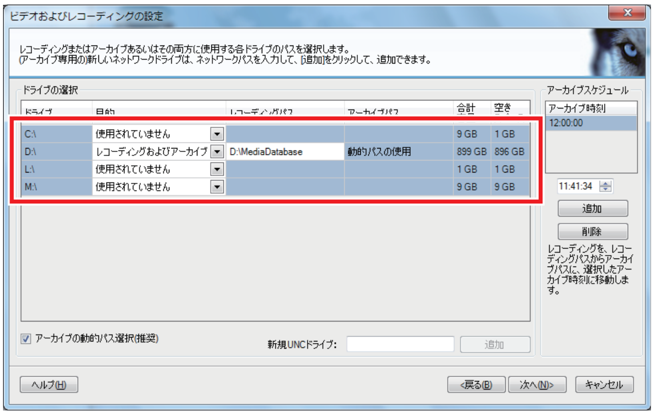


監視システムの基本設定をする（つづき）

接続したカメラの設定を行う（つづき）

8 各ドライブに保存する記録データの種類と保存場所を設定する

- 本機は、カメラから受け取った映像を指定したフォルダに一次記録（レコーディング）したあと、別の場所に記録データを移動して保存します（アーカイブ）。それぞれに使用するドライブと、保存フォルダの場所（パス）を指定します。



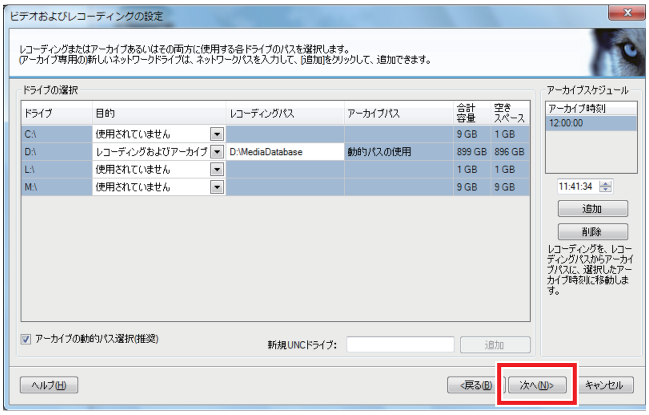
以下の項目を順に設定していきます。

項目	内容
目的	各ドライブの使いかたを設定します。 ● レコーディングおよびアーカイブ：レコーディングとアーカイブの両方に使用する場合に選択します。 ● 記録：レコーディングのみに使用する場合に選択します。 ● アーカイブ中：アーカイブのみに使用する場合に選択します。
レコーディングパス	記録データの保存場所を指定します。「目的」で「記録」または「レコーディングおよびアーカイブ」を選んだときに選択できます。
アーカイブパス	アーカイブの保存場所を指定します。「目的」で「レコーディングおよびアーカイブ」または「アーカイブ中」を選んだときに選択できます。 **メモ：** ● 初期設定（「動的パスの使用」）では自動的にパスが決定されます。任意の場所に保存したいときは、画面左下の「アーカイブの動的パス選択（推奨）」のチェックをはずし、保存場所を指定します。

メモ：

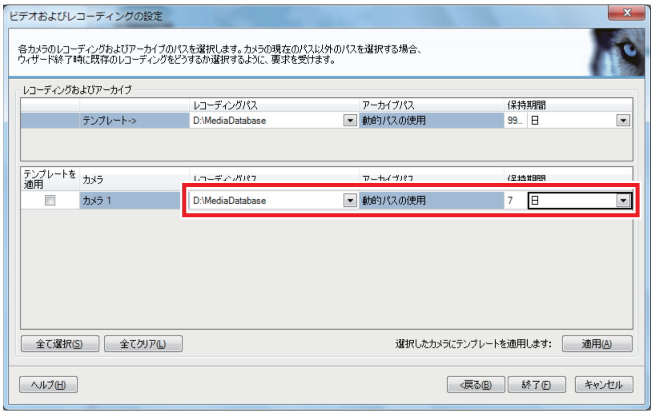
- 必ずレコーディングパスとアーカイブパスの両方を指定してください。いずれかが正しく指定されていないと、エラーが表示され、次の手順へ進めません。

9 ［次へ］をクリックする



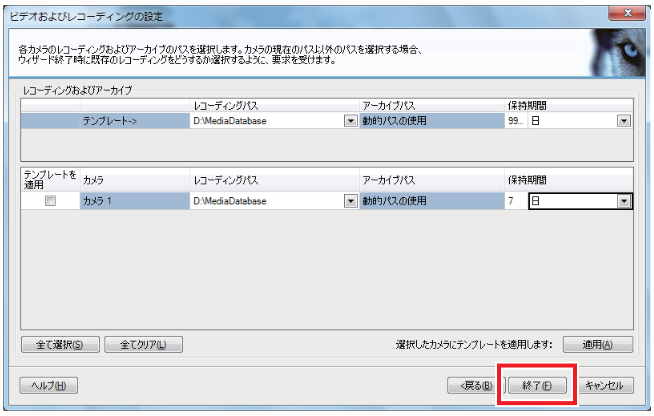
カメラごとのデータ保存場所設定画面が表示されます。

10 カメラごとのデータの保存場所と保存期間を設定する



- 各ドライブは、手順８で「目的」に設定した用途以外には使用できません。
- 「テンプレートを適用」欄にチェックを入れて［適用］をクリックすると、チェックをいれたすべてのカメラに、上段の「テンプレートー>」で選択されている設定が適用されます。

11 ［終了］をクリックする



トップ画面に戻ります。

最後に、設定を反映させるためにサービスの再起動を行なってください。(☞35 ページ『Management Application を終了する』)

以上で、監視システムの基本設定は終了です。設置したカメラから映像を受け取り、閲覧・記録することができるようになりました。

記録性能を十分に活用する

本機に十分にデータを記録していただくために、HDD の増設と適切な保存方法の設定をしてください。

■ RAID10 を構築する

内蔵 HDD を増設して記録容量を増やすことができます。さらに、RAID を使ったデータの二重化・分散書き込みで、データの安全かつ高速保存が可能になります。

本機は RAID10 に対応しているため、RAID10 の構築で、記録性能（フレームレート）を最高にすることができます。

内蔵 HDD の増設と RAID の構築については、『HDD を増設する』(☞73 ページ) と『RAID を構築する』(☞74 ページ) をご覧ください。

■ 記録データとアーカイブの保存先を同じドライブに設定する

記録データとアーカイブの保存先（レコーディングパス / アーカイブパス）を同じドライブに設定すると、データの移動などに要する本機の負荷を軽減できます。

保存先は、Management Application の「拡張設定」の「カメラとストレージの情報」(☞ 102 ページ) で設定します。

■ 古い記録を削除するように設定する

記録データの保存期間を運用にあわせて適切に設定すると、古いデータを定期的に削除し、一定の容量を保つことができます。

記録データの保存期間は、Management Application の「拡張設定」の「カメラとストレージの情報」(☞ 102 ページ) で設定します。

レコーダー編

応用

この章では、監視システムの運用に合わせた PTZ カメラやイベント・アクションの設定などについて説明します。設定は、Management Application を使って行います。

ご注意：

- Management Application の設定変更時は、絶対に電源を切らないでください。
- Management Application の設定を変更したら、サービスを再起動してください。(☞21 ページ『Management Application の設定を変更したときは』)
  再起動しないと、変更した内容が反映されません。また、Smart Client を起動しているときに Management Application の設定を変更した場合は、Smart Client を一度終了し、再度起動してください。

PTZ プリセット設定

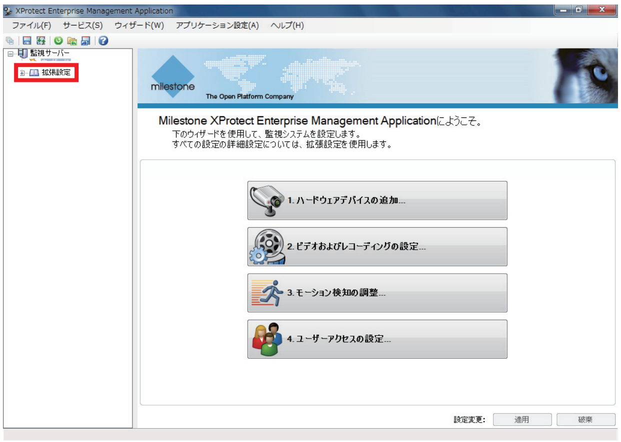
カメラが PTZ(パン・チルト・ズーム) 機能に対応している場合、本機からプリセット位置などの設定ができます。

プリセット位置を設定する

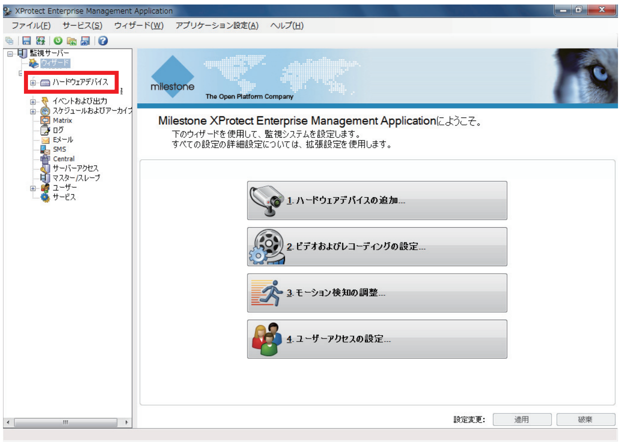
ご注意：

- カメラによっては、プリセット位置に数度のずれが生じる場合があります。
- 使用するカメラによって、設定可能な項目が異なる場合があります。
- VN-V686/VN-V686WP をご使用の場合、カメラの電子ズームが機能していると、プリセット位置を登録することができません。登録できない場合もエラーなどは表示されませんのでご注意ください。誤登録防止のため、PTZ プリセット設定時は、VN-V686/VN-V686WP の [PTZ ページ] から [電子ズームリミット] を “ 1 ” に設定して電子ズームをオフにしてください。VN-V686/VN-V686WP をお使いの場合は、さらに本機の設定で「PTZ タイプ」を「タイプ 3」に設定してください。詳細につきましては、VN-V686/VN-V686WP の［取扱説明書］をご覧ください。

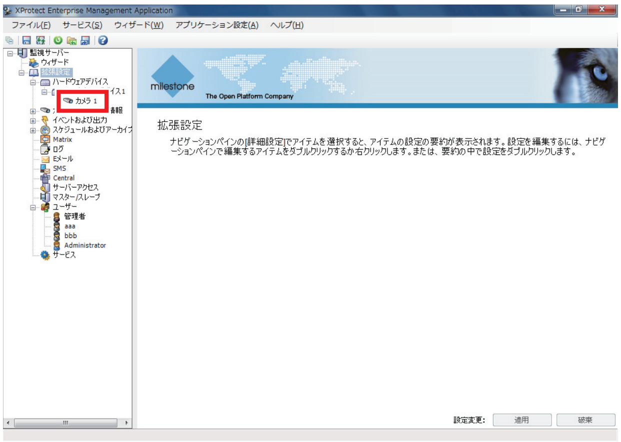
1「拡張設定」の「+」をクリックする



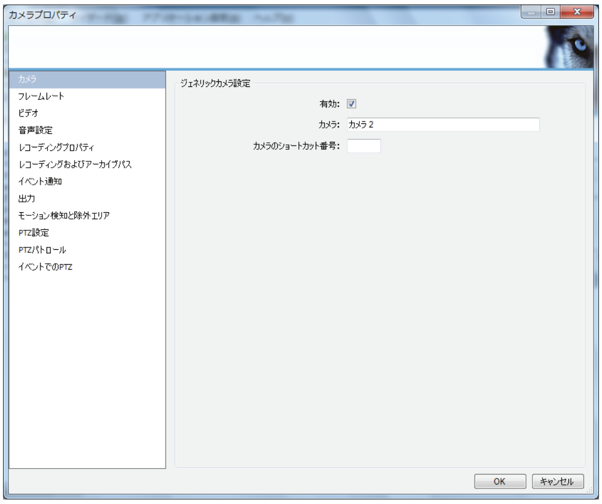
2「ハードウェアデバイス」の「+」をクリックし、PTZ カメラのハードウェアデバイス名の「+」をクリックする



3 カメラ名をダブルクリックする



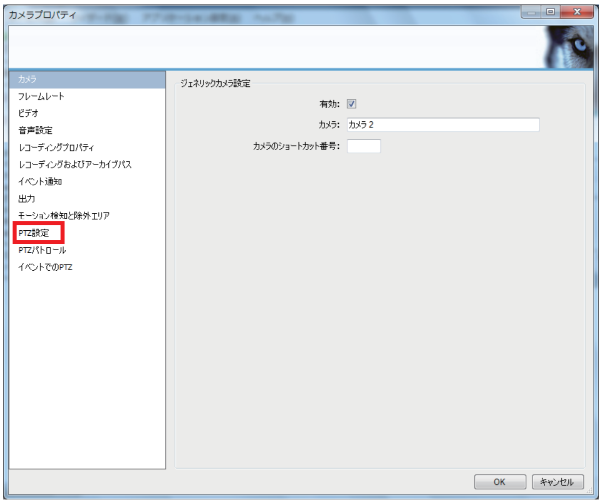
「カメラプロパティ」画面が表示されます。



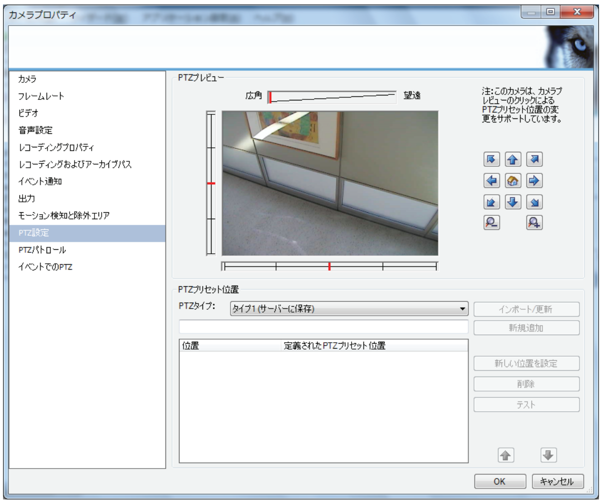
PTZ プリセット設定（つづき）

プリセット位置を設定する (つづき)

4「PTZ 設定」をクリックする



設定画面が表示されます。



項目	内容
PTZ プレビュー	PTZ カメラを希望位置に移動させます。[プレビュー] 画面で位置を確認できます。
PTZ プリセット位置	PTZ カメラの位置を登録、削除、テストします。

5「PTZ タイプ」を選択する

プリセット位置の設定と保存には、次の 3 つの方法があります。

項目	内容
タイプ 1（サーバーに保存）	本機でプリセット位置を設定します。プリセット位置は、本機に保存されます。
タイプ 2（サーバーに保存）	カメラ側で設定したプリセット位置を本機に読み込みます。プリセット位置は、本機に保存されます。
タイプ 3（カメラに保存）	カメラ側で設定したプリセット位置を本機に読み込みます。プリセット位置は、カメラに保存されます。

メモ：

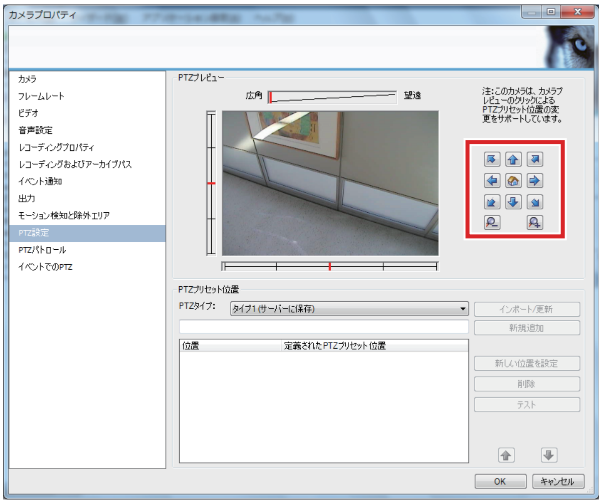
- JVC のカメラをお使いの場合、プリセット位置精度の高い「タイプ 3」に設定することをおすすめします。（カメラによっては選択できません。）

6「タイプ 2」または「タイプ3」を選択したとき：[インポート / 更新] をクリックする

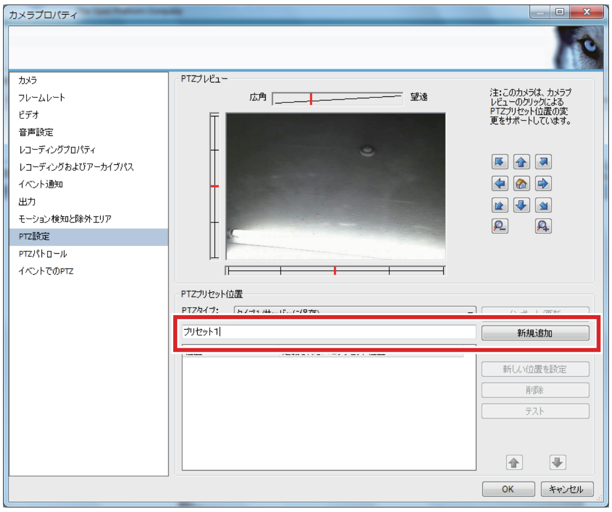
プリセット位置が読み込まれ、リスト表示されます。

- 表示される順序は、カメラの設定順と異なることがあります。

7「タイプ 1」を選択したとき：「PTZ プレビュー」でカメラの位置を決める



8「タイプ 1」を選択したとき：プリセット位置の名前を入力し、[新規追加] をクリックする



プリセット位置が設定され、リストに追加されます。

9 [OK] をクリックする

メモ：

- リストの一番上がプリセット番号 1 となります。
- 登録可能なプリセット数はご使用のカメラによって異なります。
- [テスト] をクリックすると、設定したプリセット位置をテストします。プレビューで位置を確認できます。

■ リストの順序を入れ替えるには

順序を変更したいプリセットをリストで選択して、[ ][ ] をクリックします。

■ プリセット位置を修正するには

変更したいプリセットをリストで選択して、「PTZ プレビュー」画面で位置を修正します。[新しい位置を設定] をクリックすると、プリセット位置が修正されます。

■ プリセット位置を削除するには

削除したいプリセットをリストで選択して、[削除] をクリックします。

メモ：

- プリセット位置の名前の先頭に、半角スペースを入力しないでください。プリセット位置が動作しなくなります。

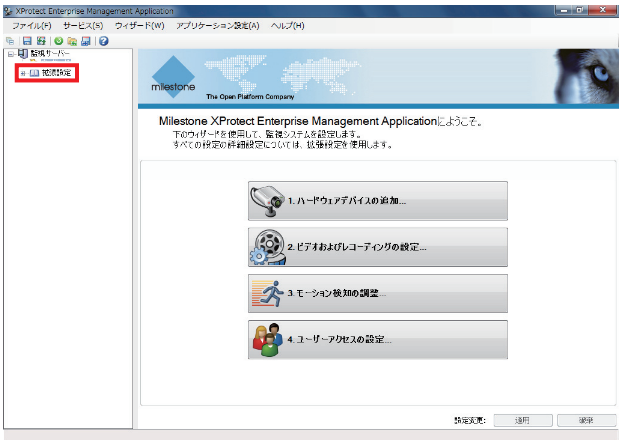
PTZ カメラを使って自動パトロールを行う

PTZ パトロールはいくつかのプリセット位置を自動的に移動する機能です。

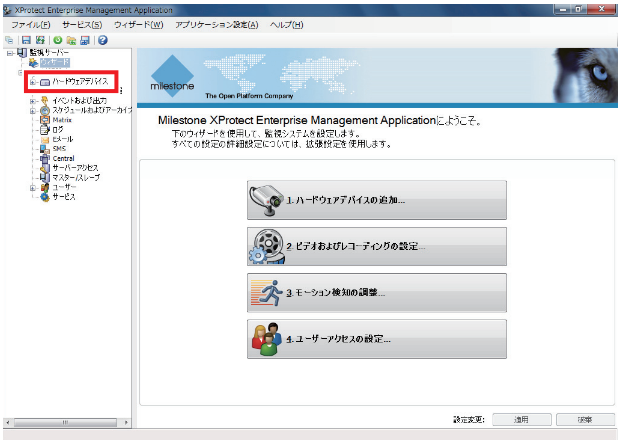
ご注意：

- パトロール計画を設定するには、最低 2 つのプリセット位置を設定してください。さらに「拡張設定」➡「スケジュールおよびアーカイブ」で設定したいカメラの PTZ パトロールスケジュールも設定する必要があります (☞ 125 ページ)。

1「拡張設定」の「+」をクリックする



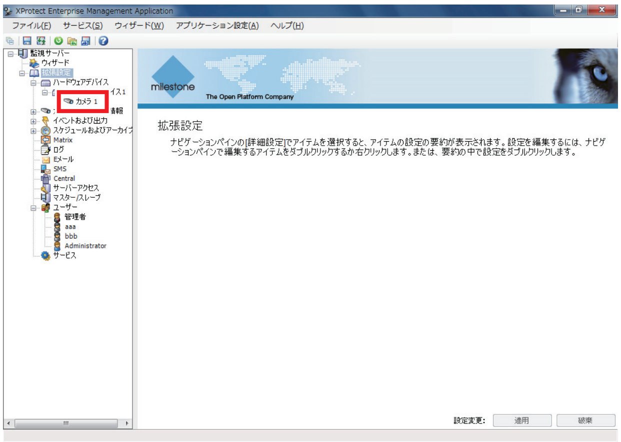
2「ハードウェアデバイス」の「+」をクリックし、PTZ カメラのハードウェアデバイス名の「+」をクリックする



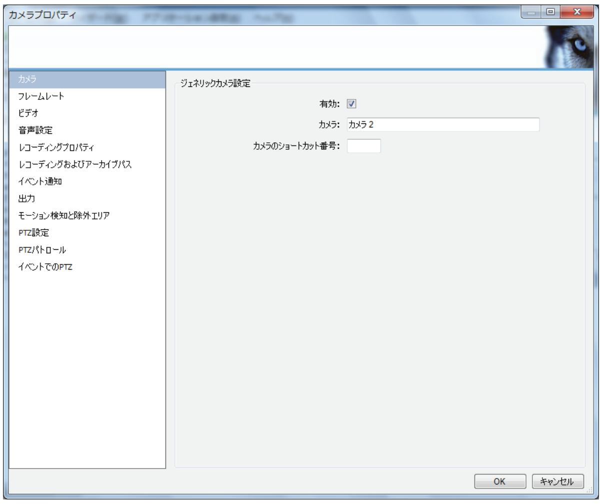
PTZ プリセット設定（つづき）

PTZ カメラを使って自動パトロールを行う (つづき)

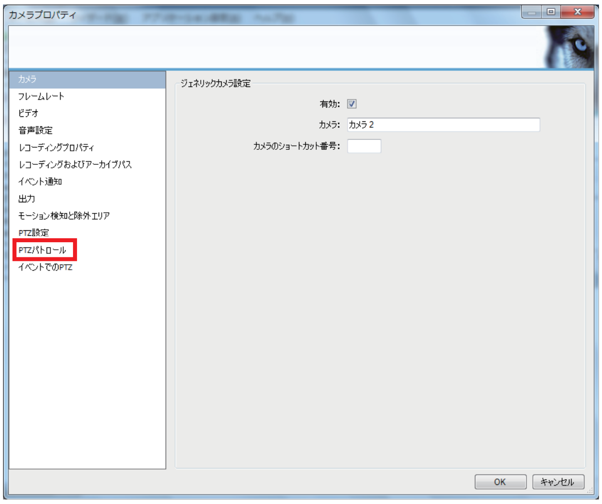
3 カメラ名をダブルクリックする



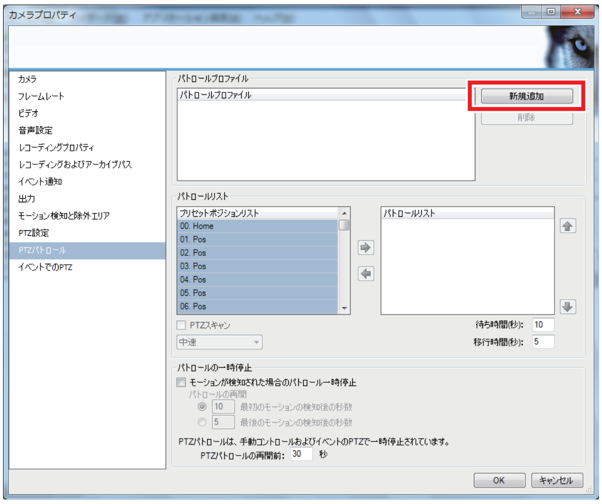
「カメラプロパティ」画面が表示されます。



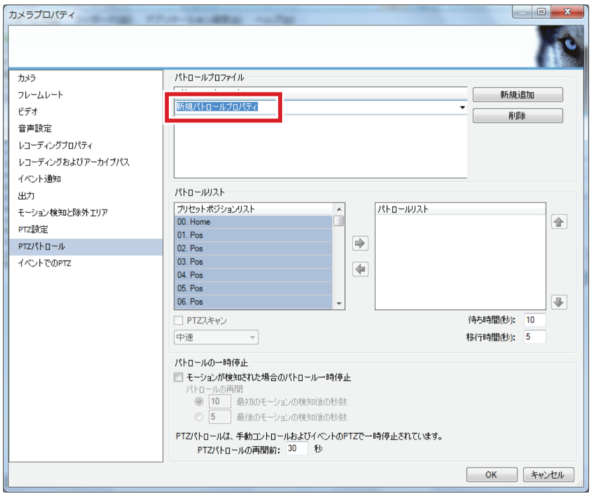
4「PTZ パトロール」を選択する



5［新規追加］をクリックする



6 PTZ パトロールプロファイル名を入力する



ご注意：

- PTZ パトロールプロファイル名は、他のカメラの PTZ パトロールプロファイル名と重ならないようにしてください。

7「プリセットポジションリスト」から使用したいプリセット位置を選び、[ ] をクリックする

選択したプリセット位置が [パトロールリスト] にコピーされます。

- 同じプリセット位置を何度使っても構いません。
- カメラは、[パトロールリスト] に表示されているプリセット位置を上から順に動きます。
- 順番を変えたいときは、[パトロールリスト] からそのプリセット位置の名前を選び、[ ][ ] をクリックしてください。
- プリセット位置を [パトロールリスト] から削除したいときは、そのプリセット位置を選び、[ ] をクリックしてください。

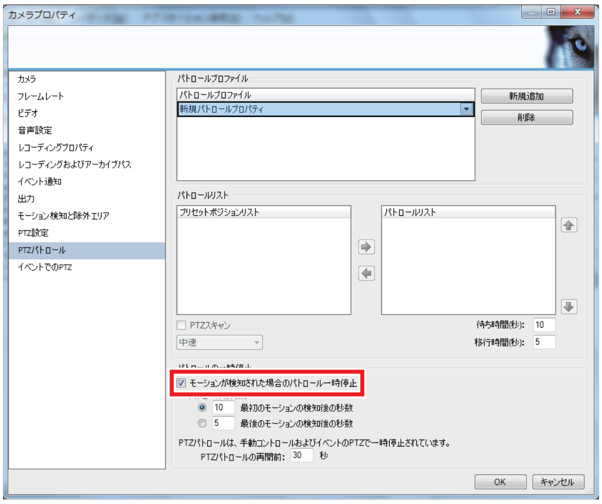
8 パトロールのタイミングを設定する

項目	内容
待ち時間	各プリセット位置での停止時間（秒）を入力します。
移行時間	PTZ カメラが各プリセット位置間を移動する時間（秒）を入力します。この期間は、モーション検知は無効になります。

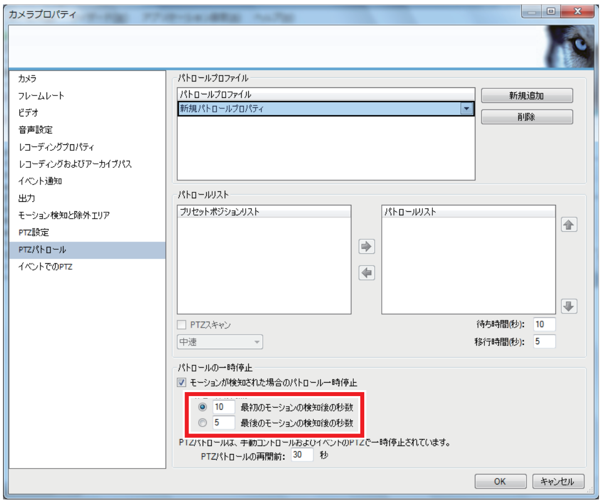
9 [OK] をクリックする

■ モーション検知時にパトロールを一時停止する

1 PTZ パトロール画面で「モーションが検知された場合のパトロールの一時停止」にチェックをする



2 PTZ カメラがパトロールを再開する条件を選択し、秒数を指定する



項目	内容
最初のモーションの検知後の秒数	以降のモーション検知の有無に関わらず、最初のモーション検知から指定の時間が経つと、パトロールを再開します。
最後のモーションの検知後の秒数	最後のモーション検知から指定の時間が経つと、パトロールを再開します。

■ 手動操作とイベントで中断したパトロールを再開する

手動で PTZ 操作をしたときや特定のイベントの発生時、パトロールは中断されます。

中断されたパトロールの再開時間は、PTZ パトロール画面「パトロールの一時停止」の「PTZ パトロールの再開前」で設定します。

メモ：

- この設定は、システム内のすべての PTZ カメラに適用されます。

■ PTZ スキャン

PTZ スキャン機能に対応したカメラの場合は、「PTZ スキャン」にチェックをして PTZ スキャン機能を有効にします。スキャン速度を選択することができます。

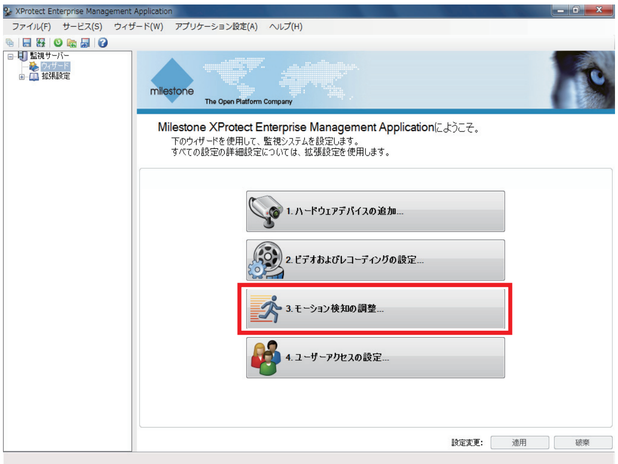
モーション検知を調整する

カメラ設置場所の状況に合わせて検知感度や検知範囲を調整します。「モーション検知の調整…」ウィザードを使って設定します。

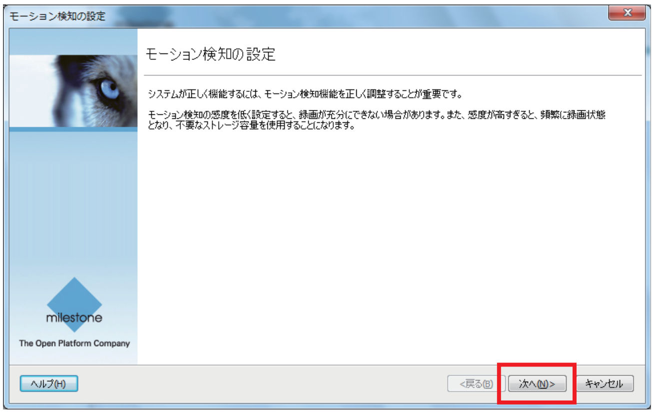
メモ：

- ここでは、「モーション検知の調整…」ウィザードで設定する方法を説明します。「拡張設定」の「ハードウェアデバイス」でカメラ名をダブルクリックして表示される「カメラプロパティ」でも、設定できます。

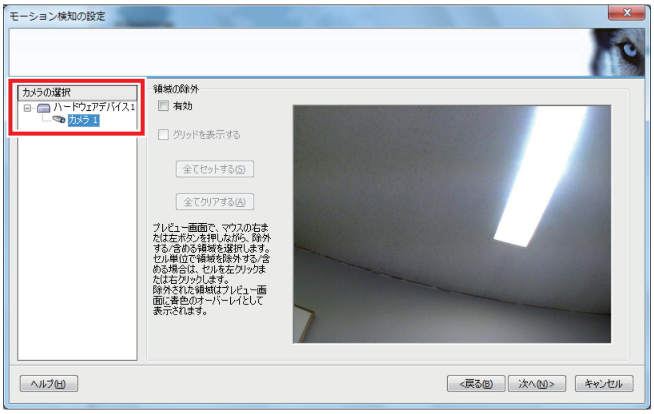
1 「モーション検知の調整 ...」をクリックする



2 [次へ] をクリックする



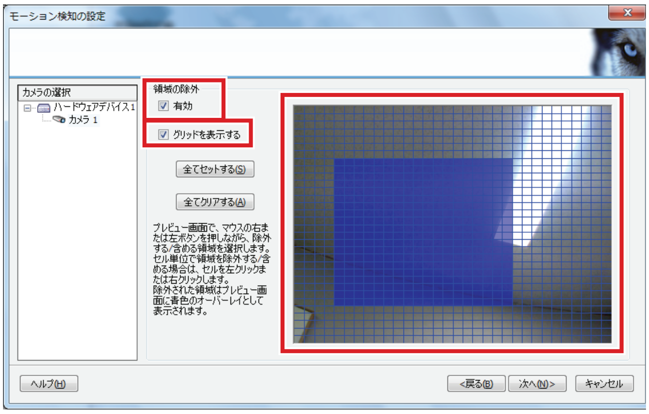
3 「カメラの選択」からカメラを選択する



4 除外する範囲を指定する

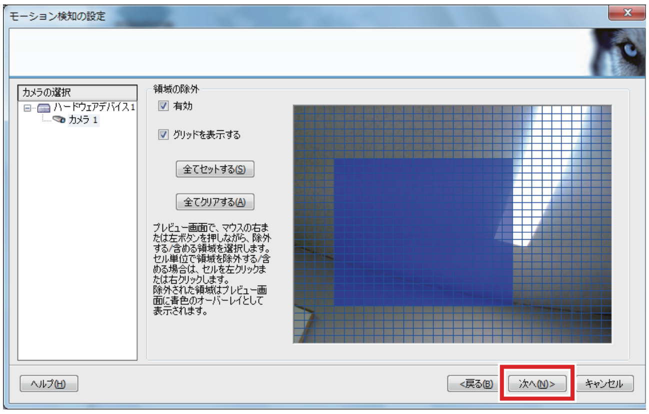
「領域の除外」の「有効」にチェックを入れてプレビュー画面上でマウスをドラッグすると、モーション検知から除外する範囲を設定できます。除外された範囲は、青色で表示されます。

- 「グリッドを表示する」にチェックをすると、プレビュー画面にグリッドが表示されます。



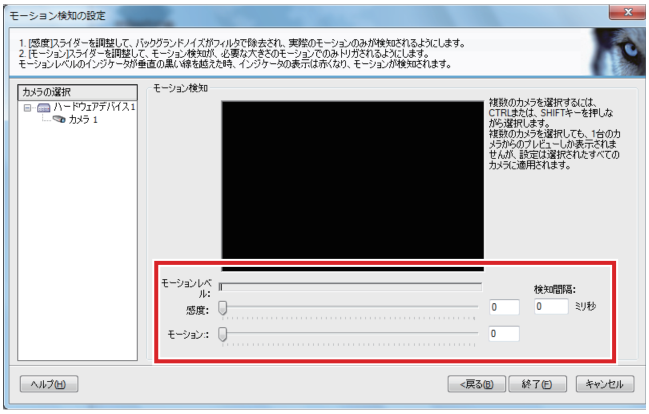
5 [次へ] をクリックする

感度設定画面が表示されます。

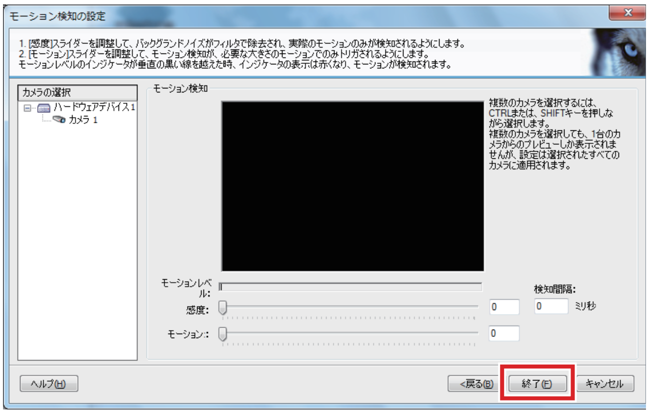


6「カメラの選択」からカメラを選択し、感度、検出間隔、しきい値を設定する

- 細かい動きを検知したくないときは、「感度」スライダーを右に動かします。
- 動きが「モーション」スライダーで設定したしきい値を超えると、「モーションレベル」表示が赤くなり、モーションが検知されたことになります。



7 [終了] をクリックする



トップ画面に戻ります。

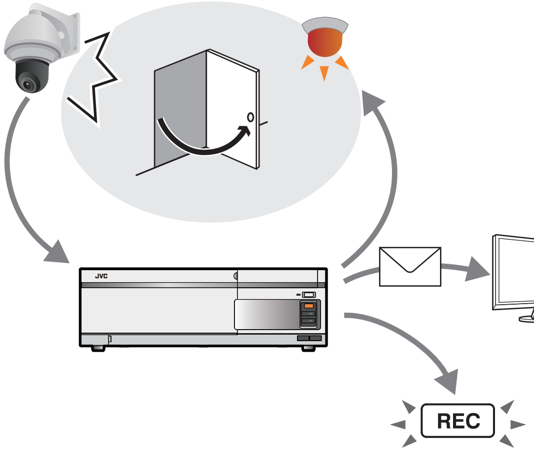
つづけて、モーション検知での記録開始 (☞ 57 ページ) や E メール通知を送信する (☞ 64 ページ) などの設定をしてください。

メモ：

- モーション検知を調整したら、モーション検知時の動作（記録開始 (☞ 57 ページ) や E メール通知の送信 (☞ 61 ページ) 等）を設定します。

イベントとアクション

本システムでは、カメラなどから特定の信号を受信したことをきっかけとして、記録開始やカメラの向き変更などの特定の動作を行うことができます。きっかけとなる入力を「イベント」と呼び、それによって行われる動作を「アクション」と呼びます。
イベントとアクションの設定では、あらかじめ接続機器で設定されたイベントを本機側の設定で有効にします。さらにアクションと結び付けることによって、特定のイベントの発生時に特定のアクションを起こすことができます。



イベントとアクションの種類

イベントとアクションには、次の種類があります。

■ イベントの種類

イベント	内容
ジェネリックイベント（右コラム）	特定の文字列（TCP / UDP 形式）の受信
入力イベント (☞ 50 ページ)	● カメラのモーション検知 ● カメラや本機背面の入力ポートへの入力
手動イベント (☞ 52 ページ)	ボタンなどを使い、手動で発生させるイベント
タイマーイベント (☞ 53 ページ)	上記いずれかのイベント発生後、指定した時間が経過するとアクションを止めるイベント

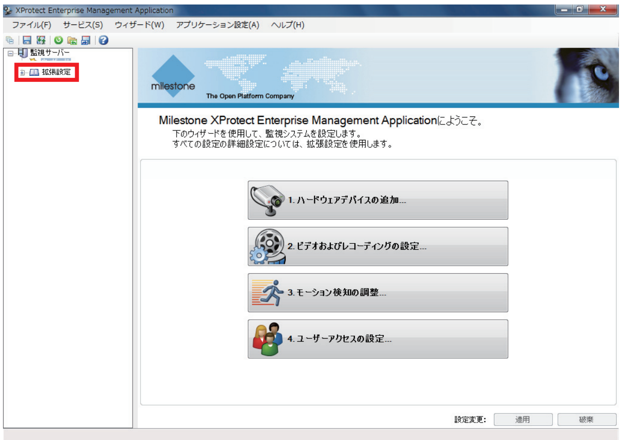
■ アクションの種類

アクション	内容
PTZ カメラのプリセット位置への移動 (☞ 54 ページ)	PTZ カメラをイベントごとに設定したプリセット位置に移動します。
映像の配信（Matrix）(☞ 55 ページ)	設定した受信者に映像を配信します。
記録開始 (☞ 57 ページ)	記録を開始します。
出力 (☞ 58 ページ)	警報装置などの機器に信号を送ります。

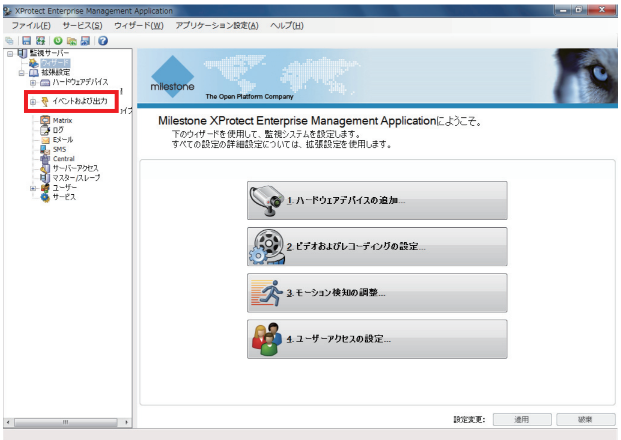
イベント設定～ジェネリックイベント

ジェネリックイベントでは、本機が外部機器から受信した文字列が、設定された条件に合致した場合にイベントが作動します。ここでは、通信データの受信設定など本機側の設定を行います。送信データの設定は、カメラなど送信側の機器で設定が必要です。

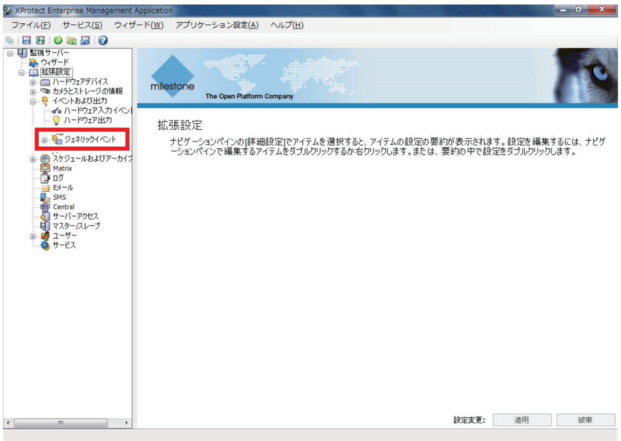
1「拡張設定」の「+」をクリックする



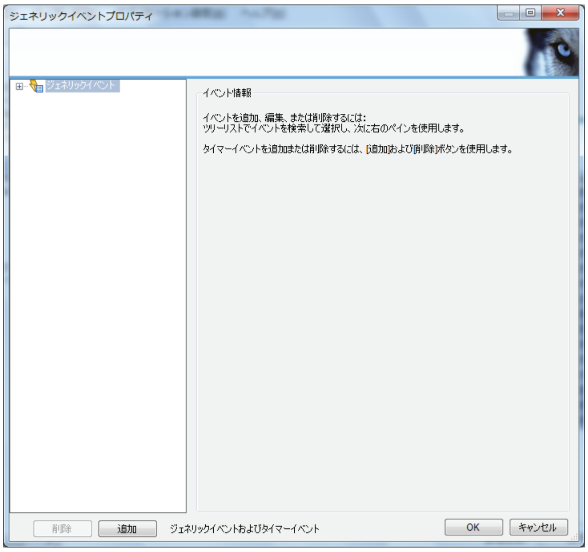
2「イベントおよび出力」の「+」をクリックする



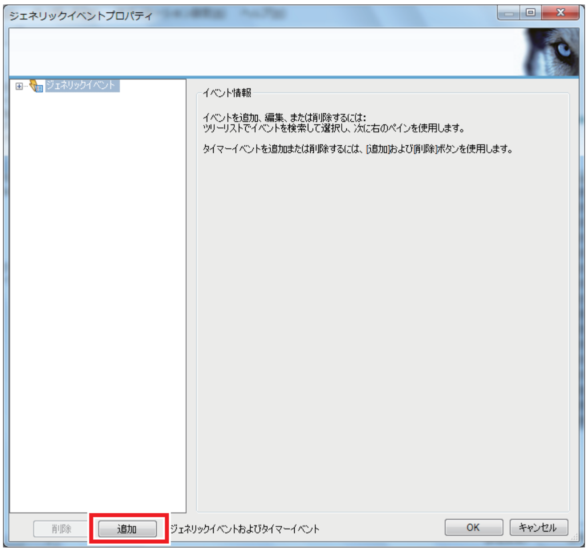
3「ジェネリックイベント」をダブルクリックする



「ジェネリックイベントプロパティ」画面が表示されます。

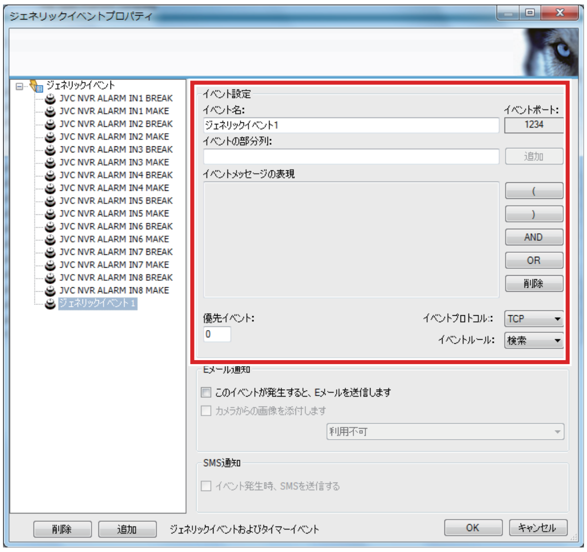


4 [追加] をクリックする



設定画面が表示されます。

5 イベントの名前と内容を設定する



項目	内容
イベント部分列	受信した文字列の解析時にキーワードとなる語句を入力します。 入力した語句は、[追加] をクリックすると、「イベントメッセージの表現」に追加されます。
イベントメッセージの表現	追加した語句が表示されます。さらに以下の条件を編集します。
()	関連する語句をひとまとまりにしてます。() でまとめられた語句は、他の語句に優先して処理されます。
AND	両方とも含む必要がある語句のあいだに追加します。
OR	いずれかを含む必要がある語句のあいだに追加します。
削除	カーソルの左側の語句を削除します。
イベントプロトコル	イベントを検知するのに、本機がどのプロトコルで受信するかを選択します。 ● 何れでも:TCP と UDP プロトコルのどちらを使ったデータも受信・解析します。 ● TCP : TCP プロトコルを使ったデータのみ受信・解析します。 ● UDP : UDP プロトコルを使ったデータのみ受信・解析します。
イベントルール	受信データを解析する際のルールを設定します。 ● 一致 :「イベントメッセージの表現」で設定したメッセージと完全に一致するデータのみ解析します。 ● 検索 :「イベントメッセージの表現」で設定したメッセージを含むデータを解析します。
優先イベント	各イベントに「0」(最低)から「1000」(最高)の優先順位をつけて、受信データが複数のイベントルールに合致する場合に作動させるイベントを決定します。

メモ :

- イベントの名前は、他のイベントの名前と重ならないようにしてください。
- イベントの名前と部分列には、次の文字は使えません。
  < > & ' " ¥ / : * ? | [ ]

イベントとアクション（つづき）

イベント設定〜ジェネリックイベント（つづき）

6 ［OK］をクリックする

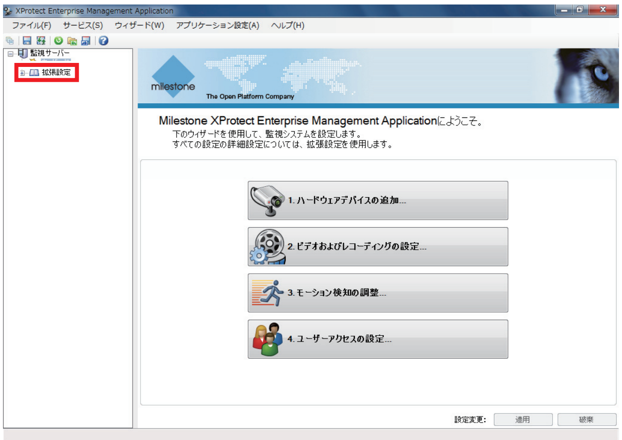
ジェネリックイベントが設定されました。

メモ：
- イベントを設定したら、設定したイベントで作動させるアクションを設定してください。（☞ 54 ページ〜 58 ページ）
- 設定したイベント発生時にメール通知を受け取る場合は、メールを設定し（☞62 ページ『Management Application のメール設定』）、イベント発生時のメール通知を有効にしてください。（☞64 ページ『イベント発生時に E メールを受け取る』）

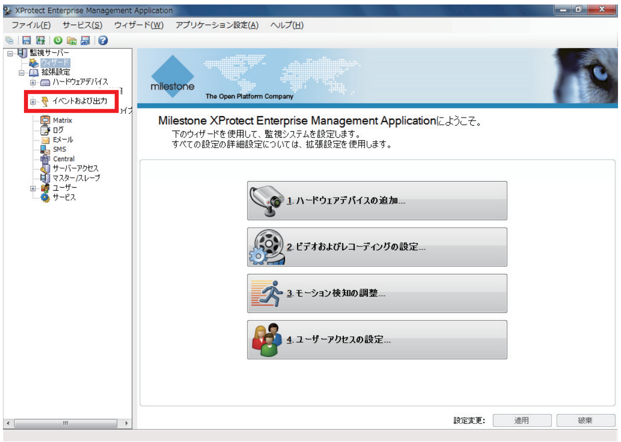
イベント設定〜入力イベント

本機に接続された機器（ハードウェア）からの信号（カメラからのモーション検知を含む）によって、発生するイベントを設定します。
- あらかじめ機器側で信号を設定しておく必要があります。

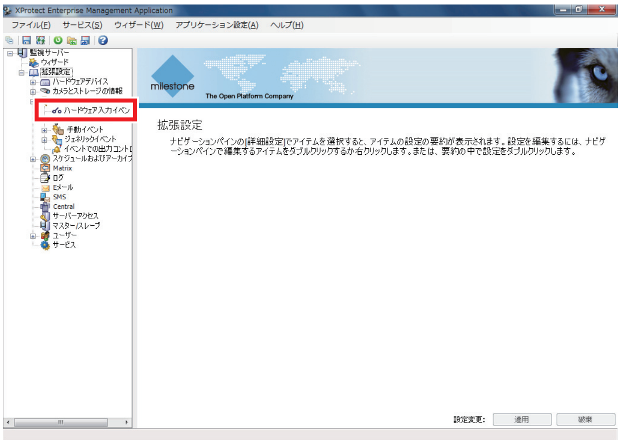
1 「拡張設定」の「+」をクリックする



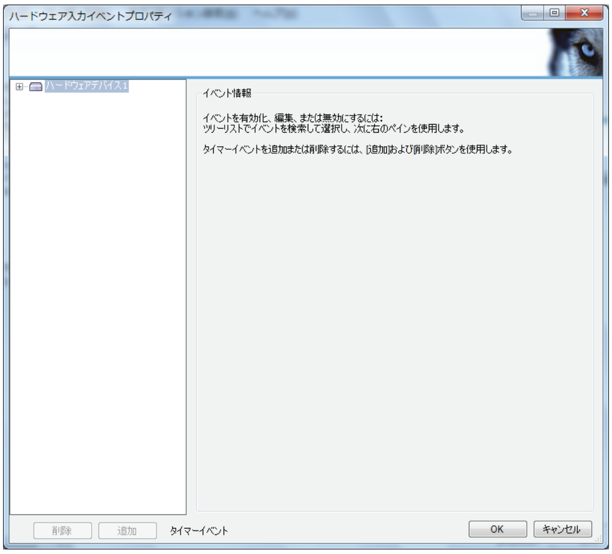
2 「イベントおよび出力」の「+」をクリックする



3 「ハードウェア入力イベント」をダブルクリックする

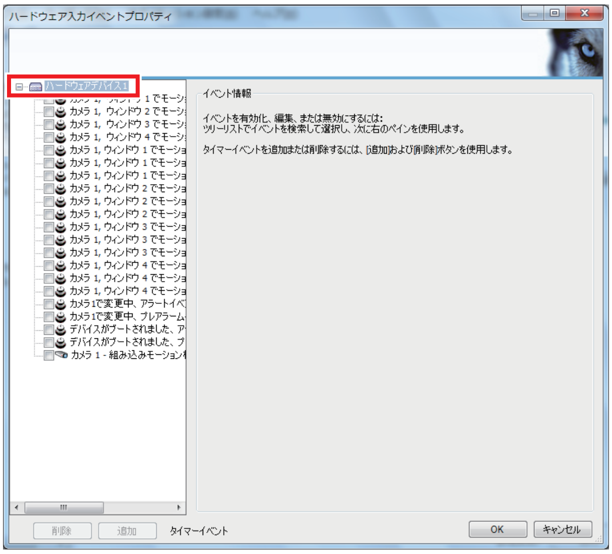


「ハードウェア入力イベントプロパティ」画面が表示されます。



4 設定するハードウェアの「+」をクリックする

ハードウェア側で設定されている入力イベントのリストが表示されます。

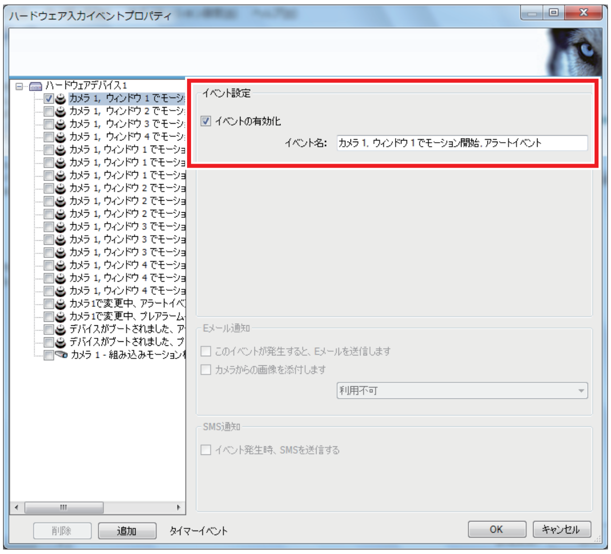


5 有効にしたい入力イベントをクリックする

選択した入力イベントの設定画面が表示されます。

6「イベントの有効化」にチェックをする

- 有効にすると、入力イベントのリストのチェックボックスにチェックがされ、イベントが有効になります。
- イベント名を変更する場合は、「イベント名：」に入力します。



7 有効にしたい入力イベントごとに、手順５と６をくり返す

メモ：

- 入力イベントの種類によっては、同時に選択できないものもあります。
- 他社のカメラでイベントが動作しないときは、イベント名を英語に変更すると動作することがあります。

8 [OK] をクリックする

入力イベントが設定されました。

メモ：

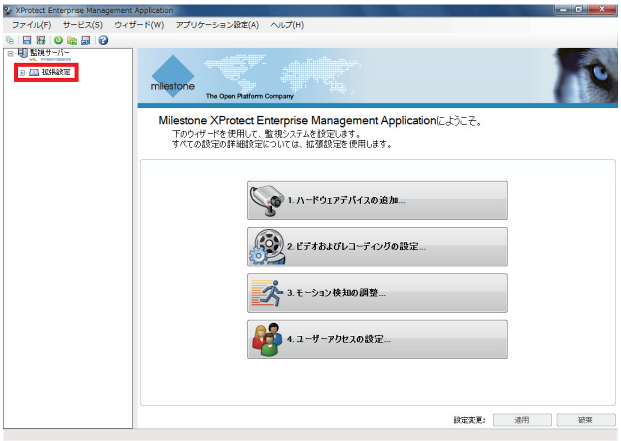
- イベントを設定したら、設定したイベントで作動させるアクションを設定してください。(☞ 54 ページ～ 58 ページ)
- 設定したイベント発生時にメール通知を受け取る場合は、メールを設定し (☞62 ページ『Management Application のメール設定 』)、イベント発生時のメール通知を有効にしてください。(☞64 ページ『 イベント発生時に E メールを受け取る 』)

イベントとアクション（つづき）

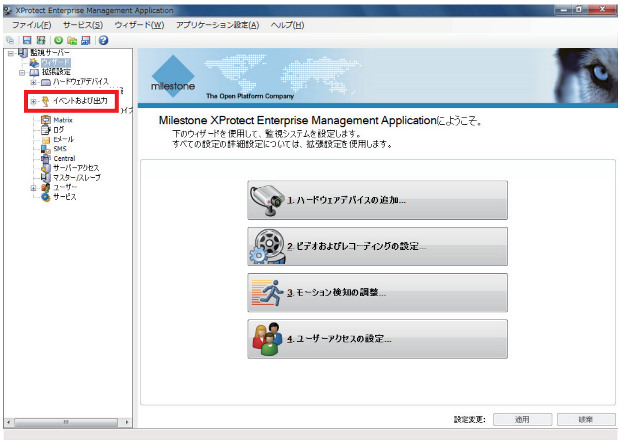
イベント設定～手動イベント

手動イベントを設定（作成）すると、Smart Client 側の操作で任意にイベントを発生させることができます。

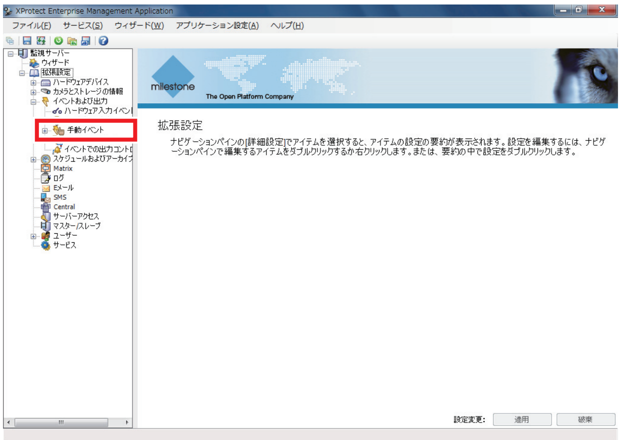
1「拡張設定」の「+」をクリックする



2「イベントおよび出力」の「+」をクリックする



3「手動イベント」をダブルクリックする

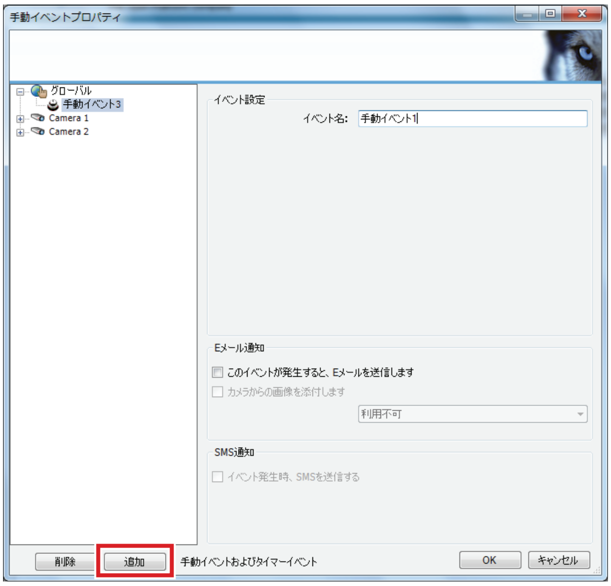


「手動イベントプロパティ」画面が表示されます。

4 イベントの設定対象を選択する

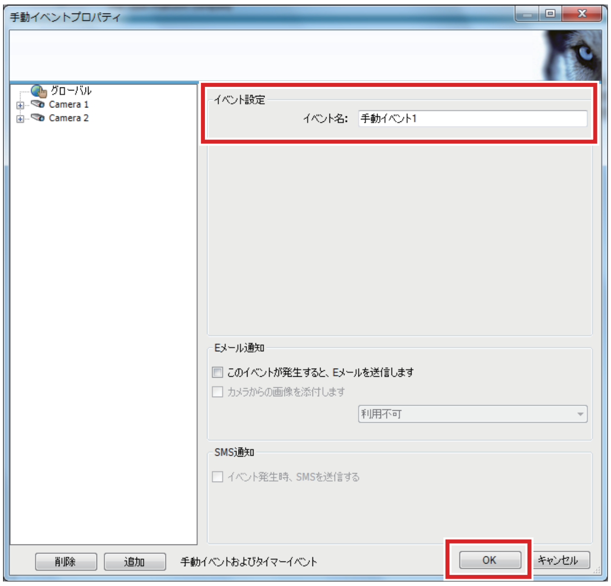
- すべてのカメラに設定する場合：「グローバル」を選択する
- カメラごとに設定する場合：設定するカメラ名を選択する

5 [追加] をクリックする



イベント名設定画面が表示されます。

6 イベント名を入力して [OK] をクリックする



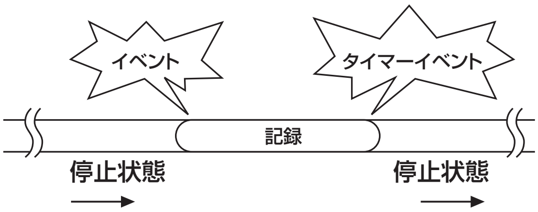
メモ：

- 手動イベント設定後にカメラ名を変更すると、登録済みの手動イベントが動作しなくなることがあります。この場合、手動イベントをいったん削除して、登録しなおしてください。
- イベントを設定したら、設定したイベントで作動させるアクションを設定してください。（☞ 54 ページ～ 58 ページ）
- 設定したイベント発生時にメール通知を受け取る場合は、メールを設定し（☞62 ページ『Management Application のメール設定』)、イベント発生時のメール通知を有効にしてください。(☞64 ページ『イベント発生時に E メールを受け取る』)

イベント設定～タイマーイベント

ジェネリックイベント、入力イベント、手動イベントに対して、それぞれのアクションを終了させるイベントを追加設定します。

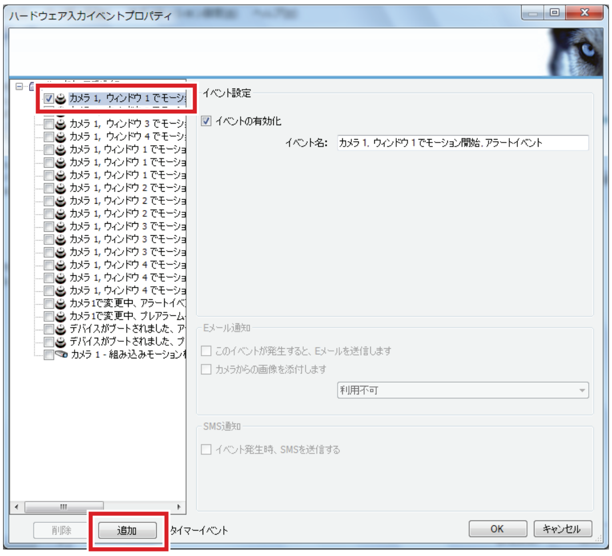
各イベントの発生後、タイマーイベントとして設定した時間が経過すると、監視システムが通常状態に戻ります。



1 各イベントのプロパティ画面を開く

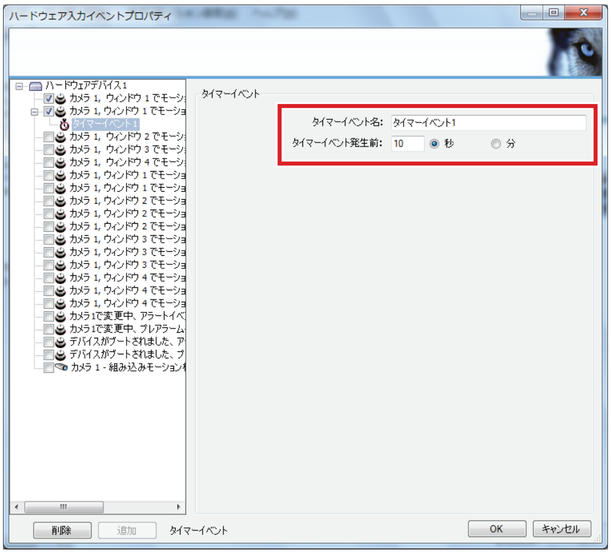
2 タイマーイベントを設定するイベントを選択して、[追加] をクリックする

- 入力イベントにタイマーイベントを追加する場合



3 タイマーイベントの名前と発生タイミングを入力する

- タイマーイベントの発生タイミングには、終了させたいイベント発生からの経過時間を設定します。



4 [OK] をクリックする

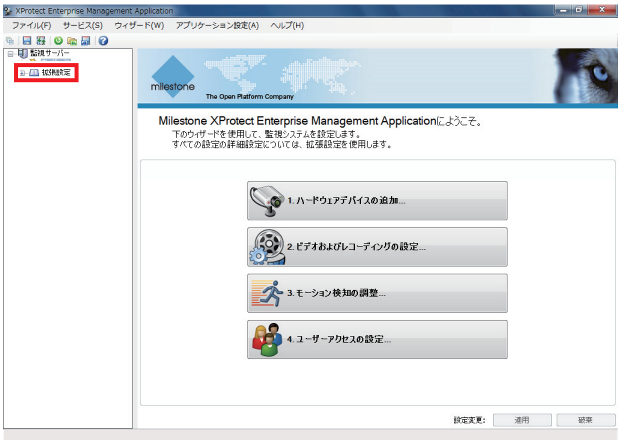
タイマーイベントが設定されました。

イベントとアクション（つづき）

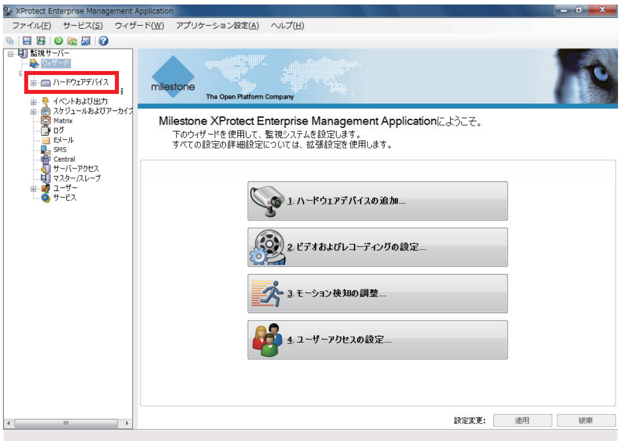
アクション設定～ PTZ カメラのプリセット位置を移動する

イベントが発生すると、PTZ カメラを設定したプリセット位置に向けます。(☞41 ページ『PTZ プリセット設定 』)

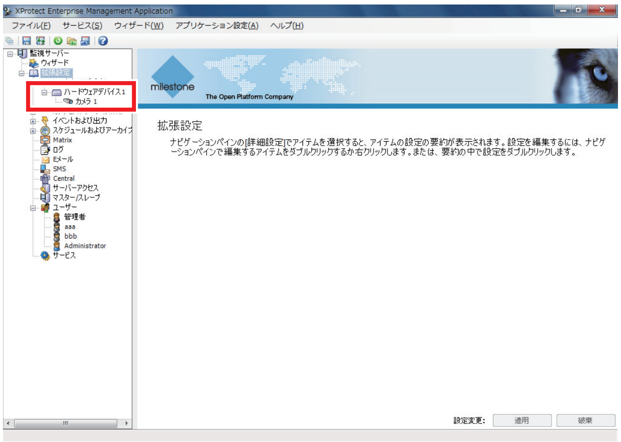
1「拡張設定」の「+」をクリックする



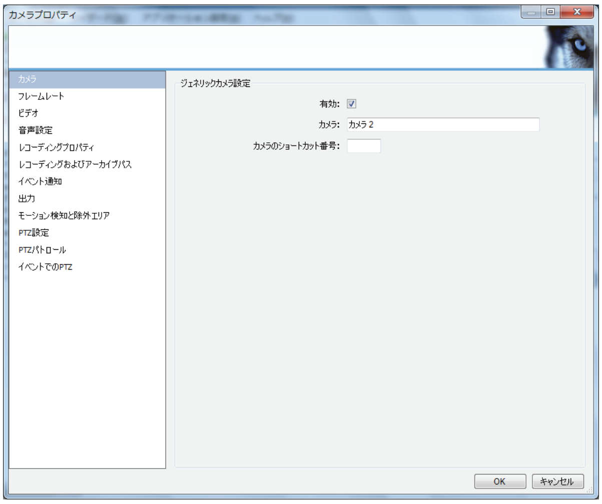
2「ハードウェアデバイス」の「+」をクリックする



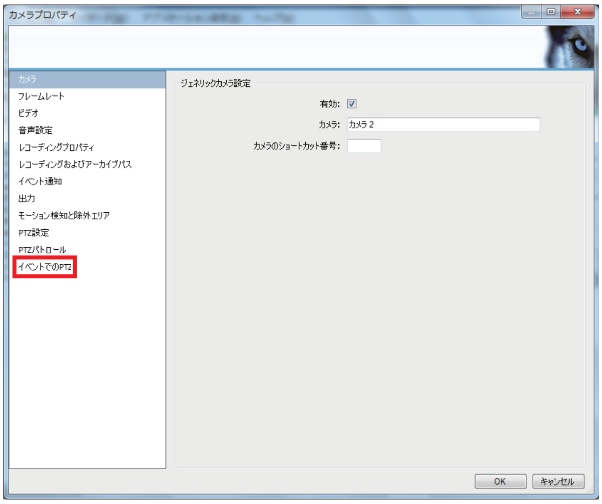
3 設定するカメラの「ハードウェア」の「+」をクリックして、カメラ名をダブルクリックする



「カメラプロパティ」画面が表示されます。

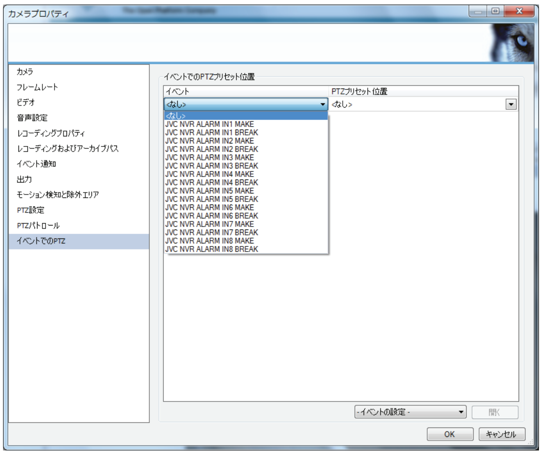


4「イベントでの PTZ」を選択する



5 イベントとプリセット位置の組合せを設定する

● 同じイベントを複数のプリセット位置と組み合わせることはできません。



6 [OK] をクリックする

イベントによるプリセット位置の移動が設定されました。

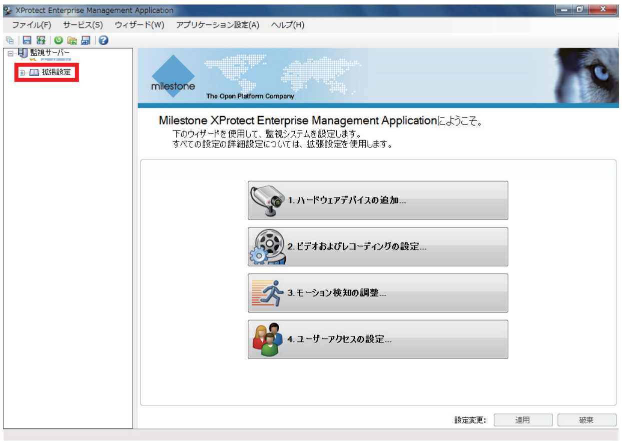
メモ：

● プリセット位置とイベントの割り当てを解除するには、イベントとプリセット位置に「なし」を選択します。

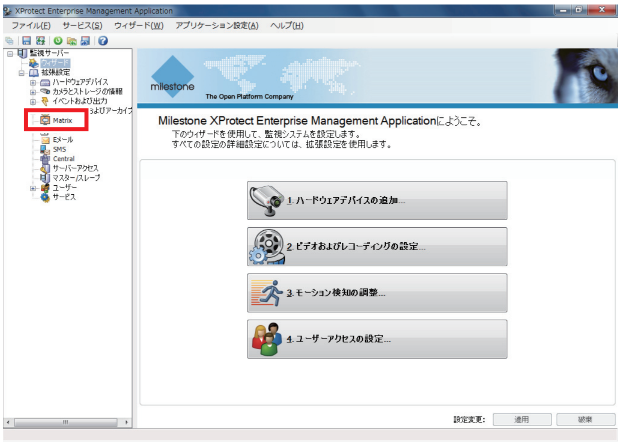
アクション設定～カメラ映像を配信する（Matrix）

イベント発生時に指定のパソコン（受信者）にライブ映像を配信することができます。配信された映像は、Smart Client がインストールされているパソコンで見ることができます。

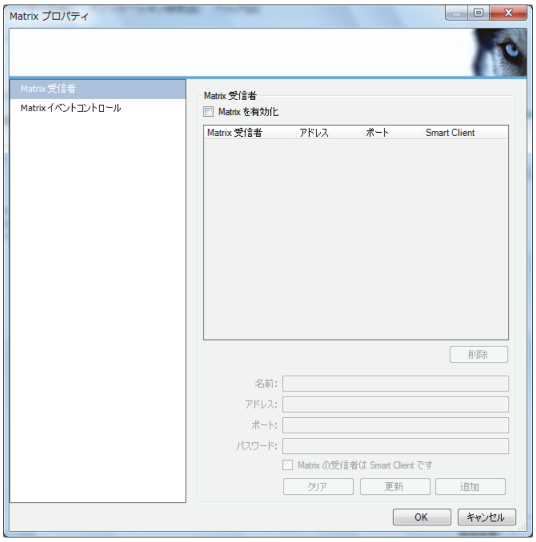
1「拡張設定」の「+」をクリックする



2「Matrix」をダブルクリックする



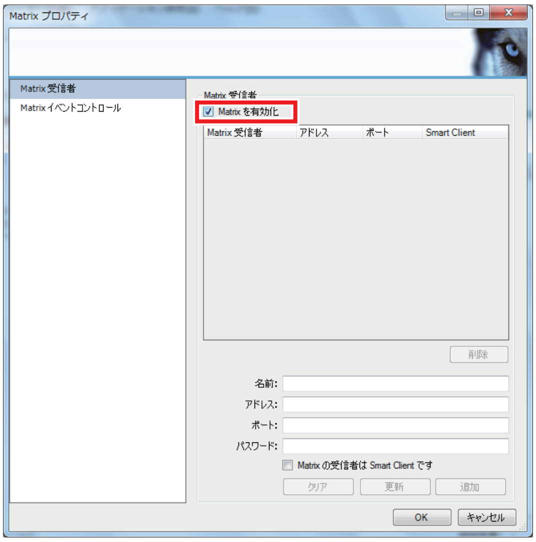
「Matrix プロパティ」画面が表示されます。



イベントとアクション（つづき）

アクション設定〜カメラ映像を配信する（Matrix）（つづき）

3「Matrix を有効化」にチェックをする



4 受信者のプロパティを入力して、[追加] をクリックする

以下の項目を入力します。

項目	内容
名前	受信者の名前
アドレス	受信者の IP アドレス
ポート	受信者のポート番号
パスワード	受信者のパスワード

- ［クリア］をクリックすると、入力した内容が取り消されます。
- 受信者側に Smart Client がインストールされている場合は、「Matrix の受信者は Smart Client です」にチェックをします。

ご注意：

- 複数のMatrix受信者に同じポート番号を設定しないでください。

5「Matrix イベントコントロール」をクリックする

受信者ごとのイベントのリストが表示されます。

6 受信者ごとにイベントを選択する

Matrix とイベントを関連付けるには、イベント名を右クリックして「遮断」、「遮断、続いて再接続」、「接続」のいずれかの方法を選択します。

ご注意：

- 受信者側で複数の Matrix ウィンドウを設定する場合は、「接続」を選択してください。「遮断」または「遮断、続いて再接続」を選択すると、Matrix ウィンドウとカメラとの接続情報が削除され、「Window インデックス」(☞ 183 ページ) が「2」以降に設定されたウィンドウに画像が表示されなくなります。

7 送信するカメラを設定する

手順 6 で設定したアクション（「接続」、「遮断」、「遮断、続いて再接続」）を右クリックし、カメラを設定します。

8［OK］をクリックする

イベントによる映像配信が設定されました。

ご注意：

- Matrix 映像が表示されない場合は、「遮断、続いて再接続」を選択して、再接続してください。接続されていても表示されない場合は、受信者のポート番号などの Matrix 設定、イベントの設定、イベント発生の有無などを確認してください。

メモ：

- 配信映像を表示するには、受信者側で Smart Client の設定が必要です。『Matrix の表示位置を設定する 』(☞183 ページ) をご覧になり、映像の表示位置を設定してください。

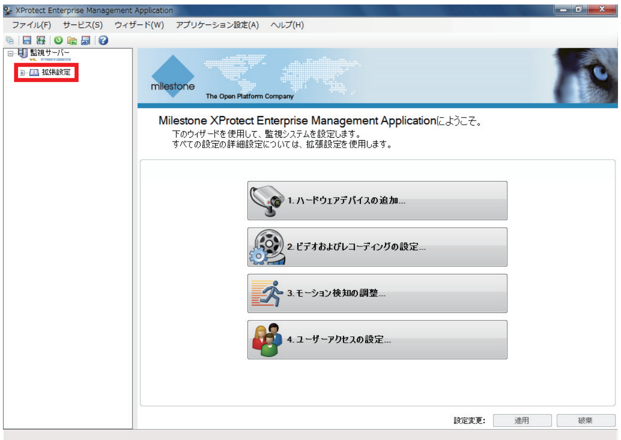
アクション設定～記録を開始する

イベントが発生すると、記録を開始します。

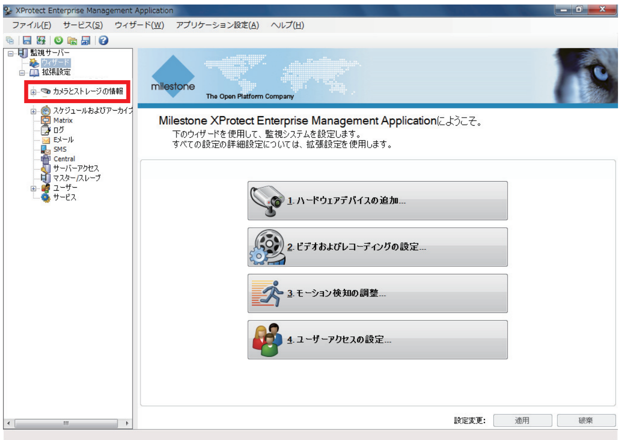
メモ：

- 「拡張設定」の「ハードウェアデバイス」から各カメラのプロパティを開いても、同じ設定をすることができます。『 レコーディングプロパティ 』(☞97 ページ)

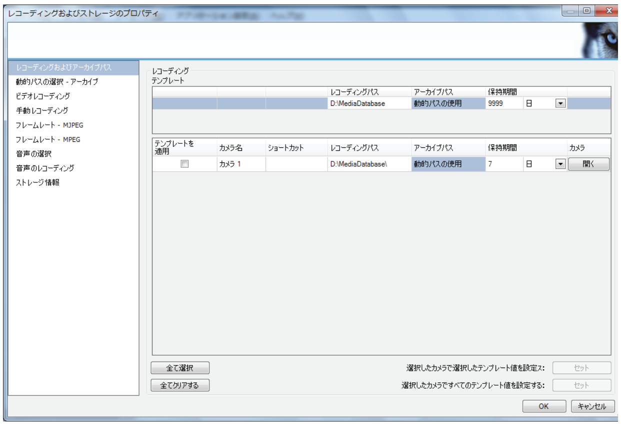
1 「拡張設定」の「+」をクリックする



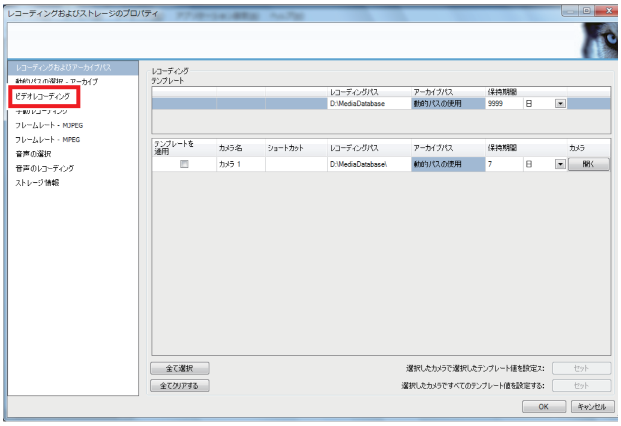
2 「カメラとストレージの情報」をダブルクリックする



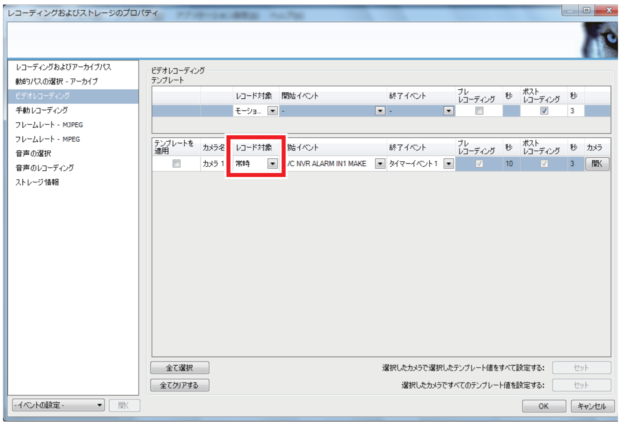
「レコーディングおよびストレージのプロパティ」画面が表示されます。



3 「ビデオレコーディング」を選択する



4 記録開始条件を選択する



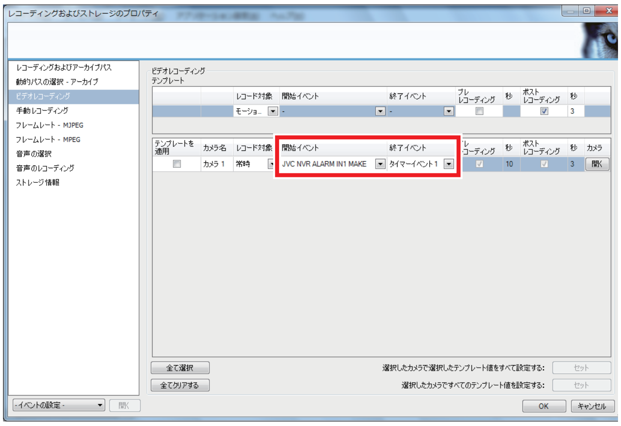
項目	内容
常時	常時記録します。 （イベントでの記録にはなりません。）
モーション検知	モーション検知で記録を開始します。
イベント	モーション検知以外のイベントで記録を開始します。
イベントおよびモーションの検知	モーション検知を含むイベント発生時に記録を開始します。

- 「テンプレートを適用」欄にチェックを入れて［適用］をクリックすると、チェックをいれたすべてのカメラに、上段の「テンプレートー>」で選択されている設定が適用されます。

イベントとアクション（つづき）

アクション設定～記録を開始する（つづき）

5 記録を開始・終了するイベントを選択する



- 手順４で「イベント」または「イベントおよびモーションの検知」を選択した場合に、「開始イベント」と「終了イベント」を選択します。

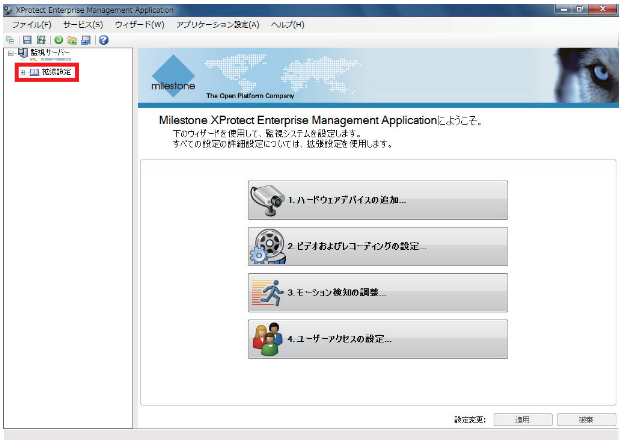
6 [OK] をクリックする

イベントによる記録開始が設定されました。

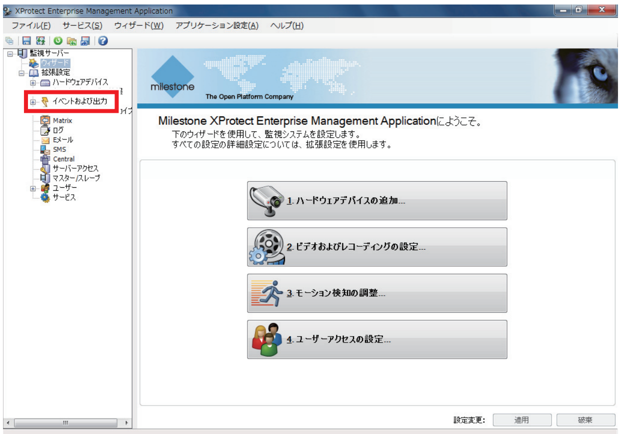
アクション設定～出力

本機に接続されたランプ、サイレン、ドア開閉機構などの外部機器を制御するアクションを設定します。

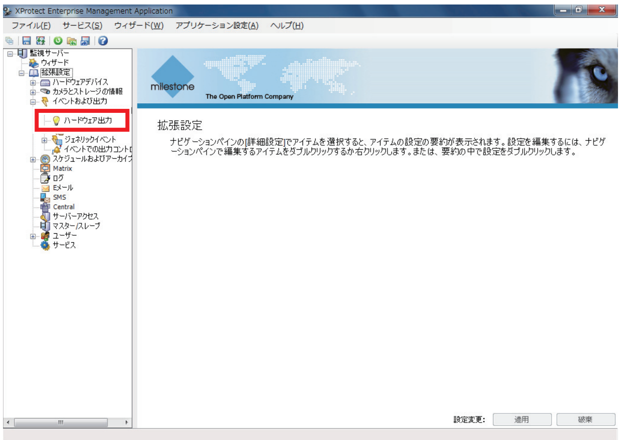
1 「拡張設定」の「+」をクリックする



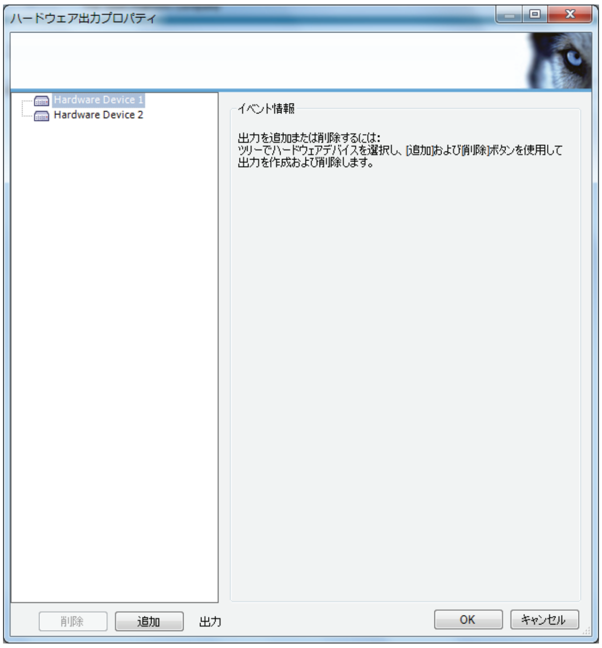
2 「イベントおよび出力」の「+」をクリックする



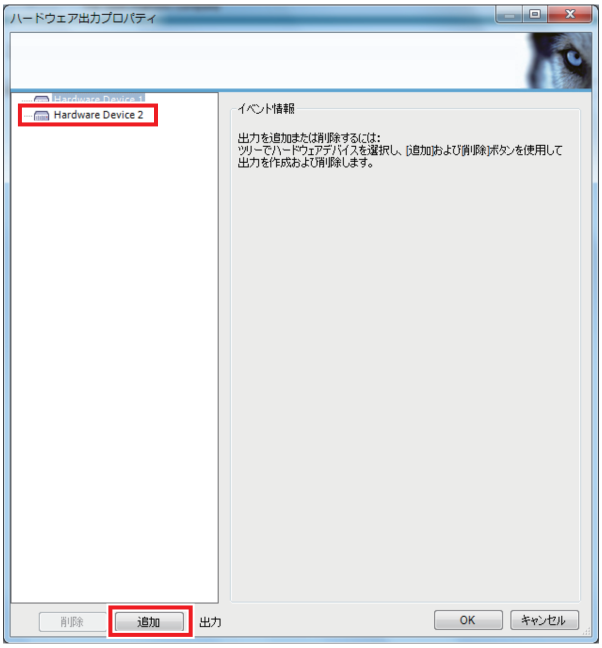
3 「ハードウェア出力」をダブルクリックする



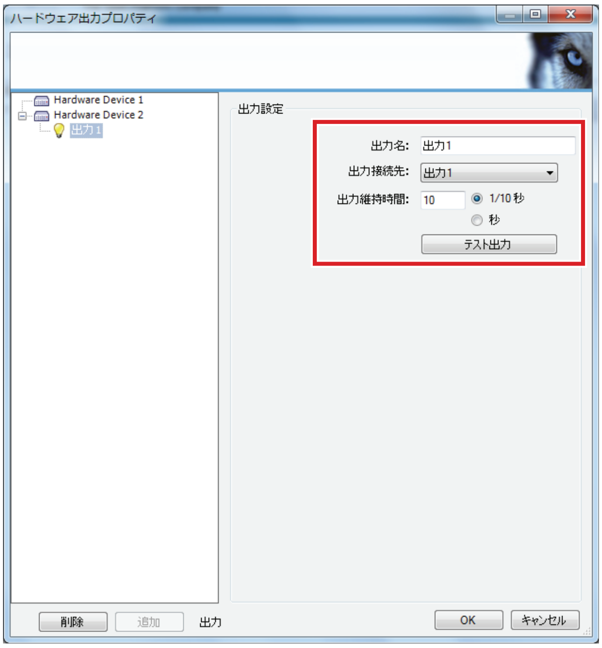
「ハードウェア出力プロパティ」画面が表示されます。



4 設定するハードウェアを選び、[追加] をクリックする



5 必要なプロパティを設定する



項目	内容
出力名	出力の名前を設定します。
出力接続先	出力先に設定する機器を設定します。
出力維持時間	出力を続ける時間を設定します。

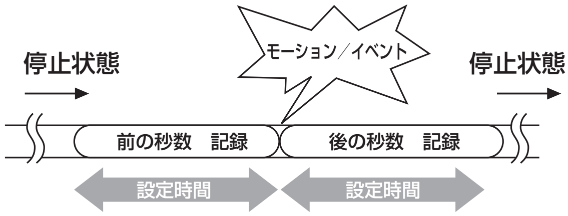
- 出力機器によっては、名前の文字数や書式に制限があります。
- 出力機器によっては、出力の継続時間が比較的短く、制限がある場合があります。
- [テスト出力] をクリックして、出力をテストすることができます。

6 [OK] をクリックする

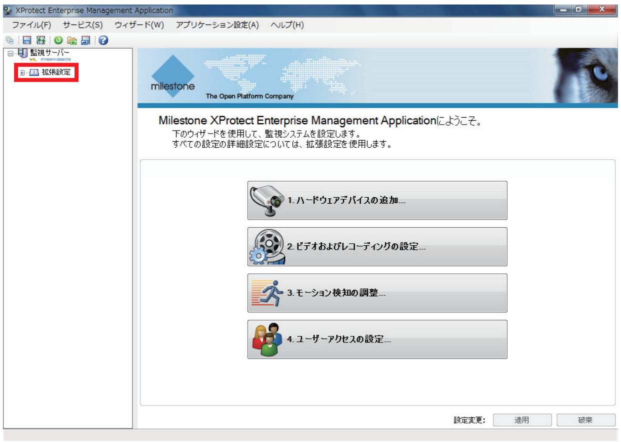
イベントによる出力が設定されました。

イベントまたはモーション発生の前後の映像も記録する

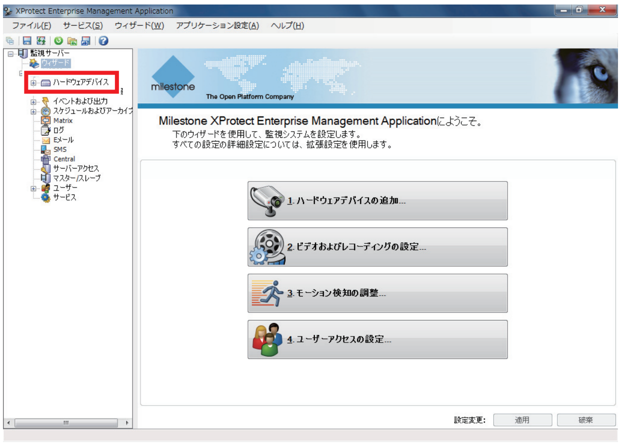
イベントまたはモーション発生の前後を記録することができます。



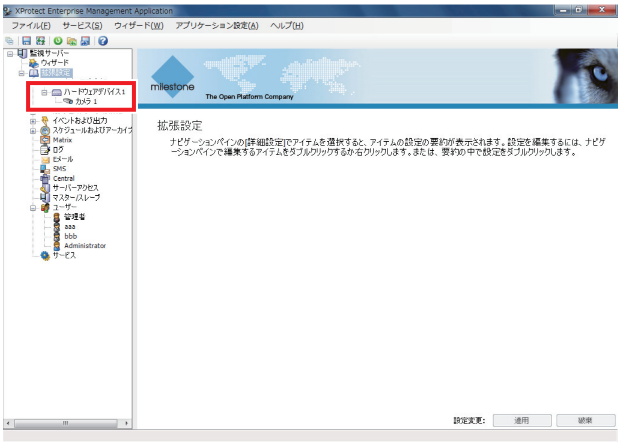
1「拡張設定」の「+」をクリックする



2「ハードウェアデバイス」の「+」をクリックする

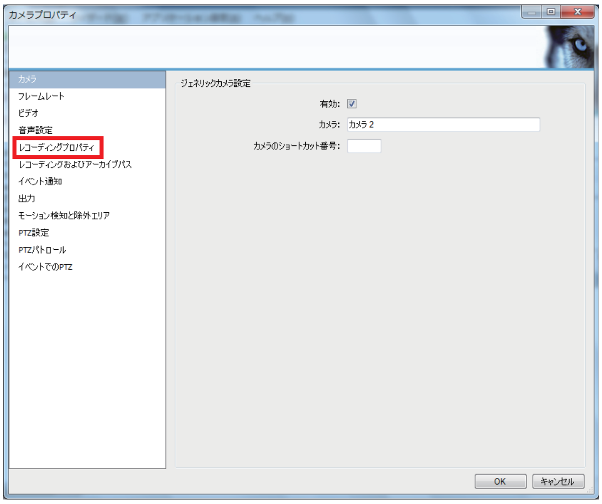


3 設定するカメラの「ハードウェア」の「+」をクリックして、カメラ名をダブルクリックする

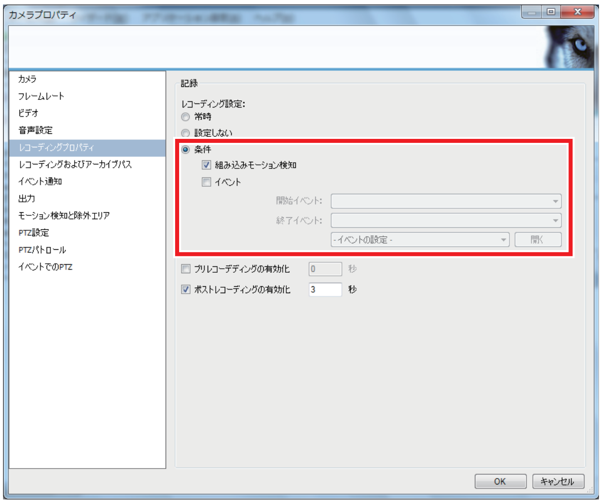


「カメラプロパティ」画面が表示されます。

4「レコーディングプロパティ」を選択する



5「レコーディング設定」を「条件」に設定して、条件の種類（モーション検知またはイベント）を設定する



6 前後で記録する秒数を指定する

項目	内容
プリレコーディングの有効化	モーション / イベントの前を記録する場合、チェックを入れて、記録する秒数を入力します。
ポストレコーディングの有効化	モーション / イベントの後を記録する場合、チェックを入れて、記録する秒数を入力します。

7 ［OK］をクリックする

メモ：

- モーション / イベントの前後の記録のまとまりを、シーケンスと呼びます。
- シーケンスの利用については『 画像の一覧表示でさがす 』(☞153 ページ)、『 記録画像を検索する 』(☞155 ページ) をご覧ください。

メールを設定する

本機または監視システムで異常が起きた場合に、E メールで通知することができます。

メールの設定は 2 ヶ所の設定画面で行います。

● ハードウェアに関する通知内容

- 内蔵 HDD 削除時
- 外部 HDD 削除時
- 内蔵 HDD の信頼性が低下したとき
- （RAID 使用時）RAID の異常
- 放熱ファン停止を検知したとき

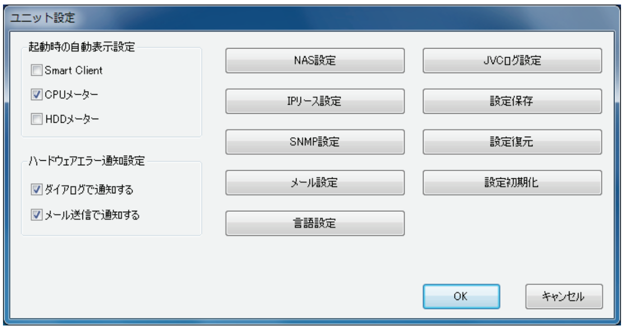
● Management Application および Smart Client からの通知内容

- モーション検知
- イベントの発生
- カメラとの通信の切断・復帰
- アーカイブエラーの発生

ユニット設定のメール設定

1 デスクトップの［4. Unit Setup］をダブルクリックする

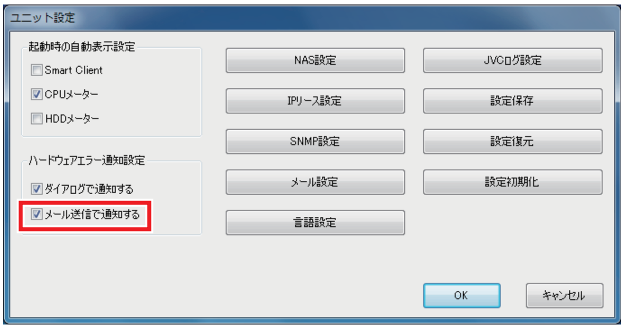
「ユニット設定」画面が表示されます。



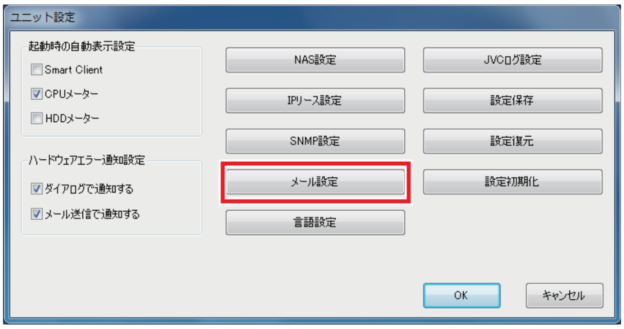
メールを設定する（つづき）

ユニット設定のメール設定（つづき）

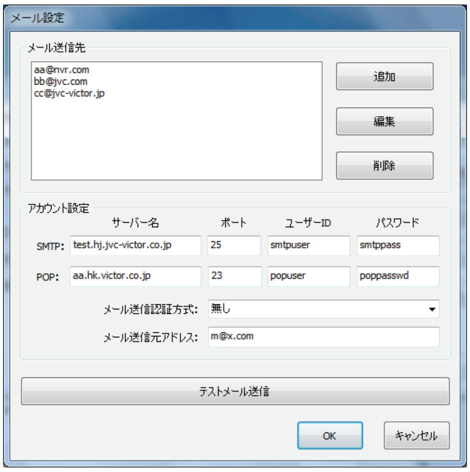
2「ハードウェアエラー通知設定」の「メール送信で通知する」にチェックを入れる



3「メール設定」をクリックする



「メール設定」画面が表示されます。



4 メール受信者のアドレスを設定する

- リストにないアドレスを追加する場合は、［追加］をクリックして、アドレスを入力します。
- メールアドレスを変更する場合は、リストから変更するアドレスを選択して［編集］をクリックします。
- メールアドレスを削除する場合は、リストから削除するアドレスを選択して［削除］をクリックします。

5 メール送受信サーバーを設定する

項目	内容
SMTP（送信サーバー）	
サーバー名	サーバー名を入力します。
ポート	ポート番号を入力します。（初期値：25）
ユーザー ID	ユーザー ID を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
POP（受信サーバー）	
サーバー名	サーバー名を入力します。
ポート	ポート番号を入力します。（初期値：110）
ユーザー ID	ユーザー ID を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。

6 メール送信時の認証方式を設定する

- 設定値については、メールシステム管理者にご相談ください。

7 メール送信元アドレスを入力する

- ［テストメール送信］をクリックすると、テストメールを送信できます。

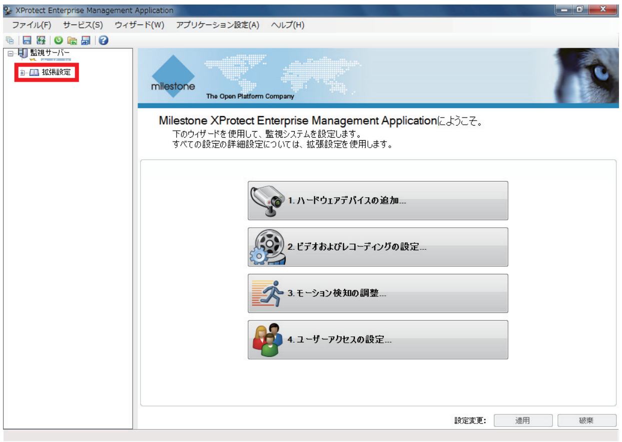
8［OK］をクリックする

Management Application のメール設定

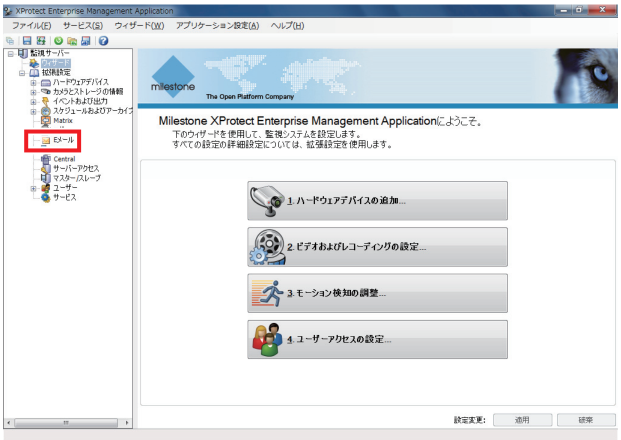
メモ：

- イベント発生時に通知を受け取るには、メール設定の他に、通知を受け取りたいイベントの設定でメール通知を有効にする必要があります。
- 「拡張設定」の「スケジュールおよびアーカイブ」で、Eメール通知を受け取る期間を指定することができます（☞ 125 ページ）。
- 本機は、SMS での通知には対応していません。

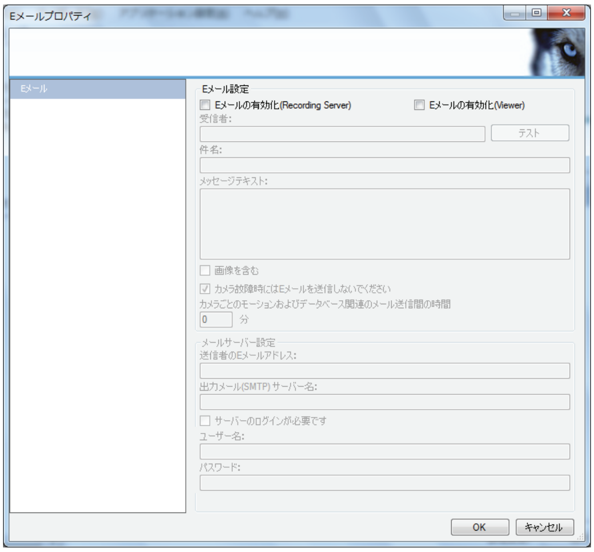
1「拡張設定」の「+」をクリックする



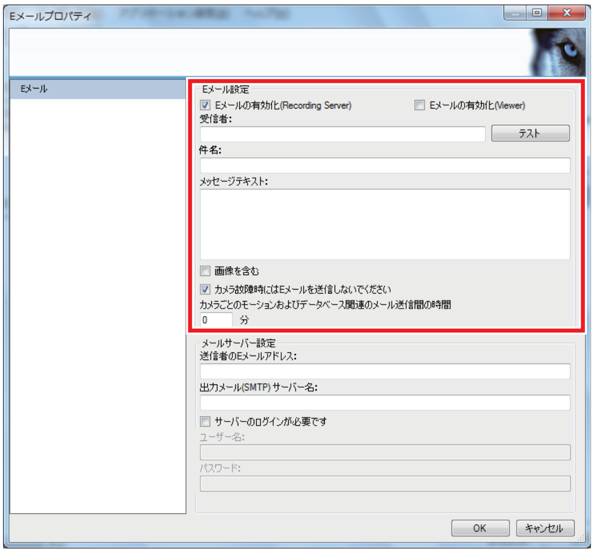
2「E メール」をダブルクリックする



「E メールプロパティ」画面が表示されます。

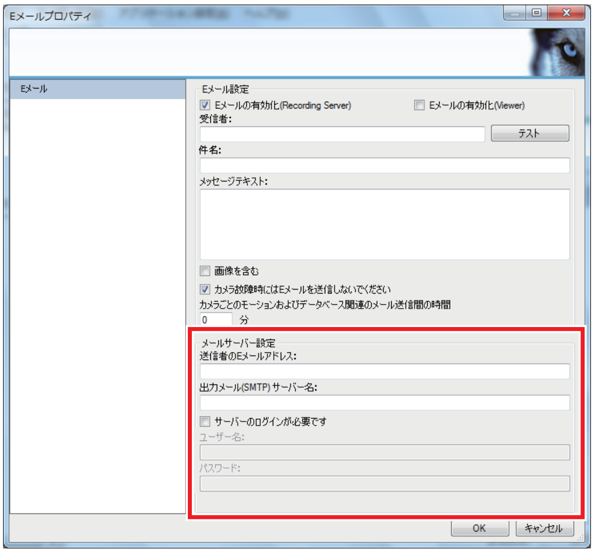


3「E メールの有効化（Recording Server)」/「E メールの有効化（Viewer)」にチェックをして、受信者とメールの内容を設定する



項目	内容
受信者	通知メールを受け取るメールアドレスを入力します。
件名	メールの件名を入力します。
メッセージテキスト	メール本文を入力します。
画像を含む	チェックをすると、通知メールに画像が添付されます。
カメラ故障時には E メールを送信しないでください	チェックをすると、カメラが故障しているときはメール送信を行いません。
カメラごとのモーションおよびデータベース関連のメール送信間の時間	メールの送信間隔を分単位で設定します。

4 メール送信者を設定する



項目	内容
送信者の E メールアドレス	送信者のメールアドレスを入力します。
出力メール（SMTP）サーバー名	サーバー名を入力します。
サーバーのログインが必要です	メール送信時にサーバーにログインする場合は、チェックをしてユーザー名とパスワードを設定します。

5［OK］をクリックする

メールを設定する（つづき）

Management Application のメール設定（つづき）

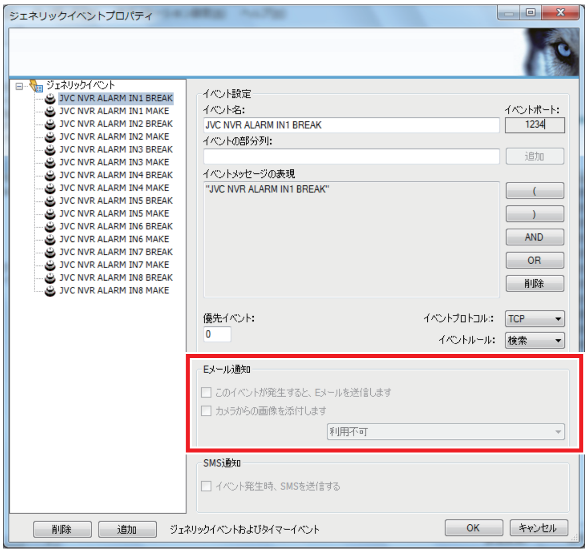
■ イベント発生時に E メールを受け取る

それぞれのイベントの設定画面の、E メール通知設定にチェックをします。

メモ：

- 本機は、SMS での通知には対応していません。

● ジェネリックイベント発生時



1「拡張設定」の「+」をクリックする

2「イベントおよび出力」の「+」をクリックする

3「ジェネリックイベント」の「+」をクリックする

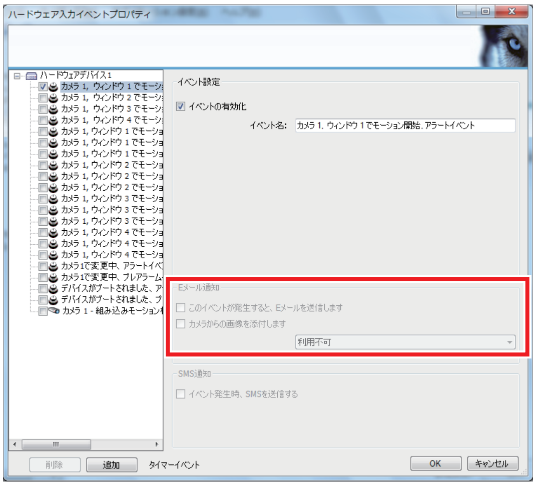
4 設定したいイベント名をダブルクリックする

「ジェネリックイベントプロパティ」画面が表示されます。

5「このイベントが発生すると、E メールを送信します」にチェックをする

- 通知メールに画像を添付する場合、「カメラからの画像を添付します」にチェックをして、画像の添付元を選択します。

● 入力イベント発生時／モーション検知時



1「拡張設定」の「+」をクリックする

2「イベントおよび出力」の「+」をクリックする

3「ハードウェア入力イベント」をダブルクリックする

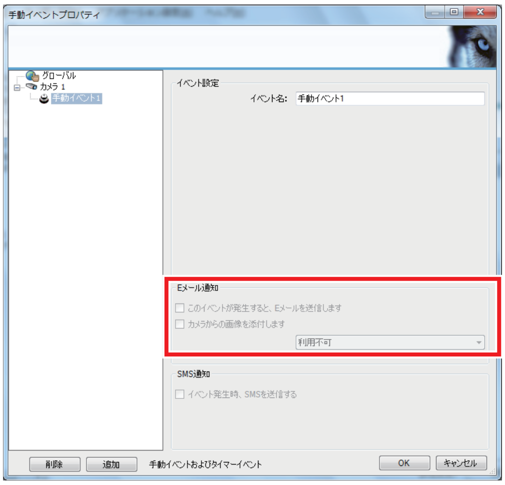
4 設定したいイベント名をダブルクリックする

「ハードウェア入力イベントプロパティ」画面が表示されます。

5「このイベントが発生すると、E メールを送信します」にチェックをする

- 通知メールに画像を添付する場合、「カメラからの画像を添付します」にチェックをして、画像の添付元を選択します。

● 手動イベント発生時



1「拡張設定」の「+」をクリックする

2「イベントおよび出力」の「+」をクリックする

3「手動イベント」の「+」をクリックする

4 設定したいイベント名をダブルクリックする

「手動イベントプロパティ」画面が表示されます。

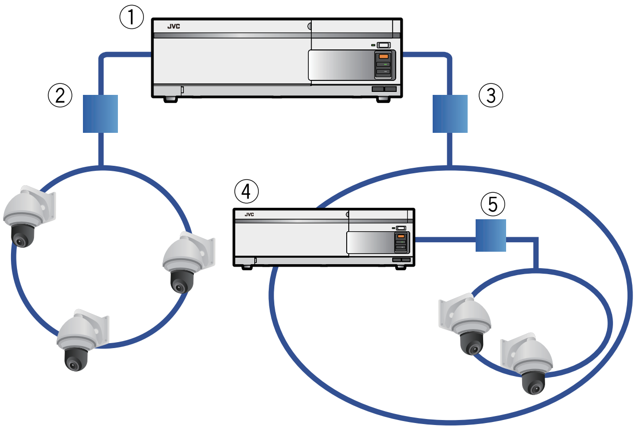
5「このイベントが発生すると、E メールを送信します」にチェックをする

- 通知メールに画像を添付する場合、「カメラからの画像を添付します」にチェックをして、画像の添付元を選択します。

複数の NVR を使う

複数の NVR を使って、多くのカメラを使った大規模システムを構築することができます。この場合、1 台の NVR をマスターとして使い、他の NVR をスレーブとしてマスター NVR に登録します。

- 1 台のマスターNVRに、最大7台までのスレーブNVRを登録できます。
- 1 台のマスター／スレーブシステムで、合計 128 台までのカメラを管理できます。



① マスター NVR

② スイッチングハブ（マスター NVR の LAN1）

③ スイッチングハブ（マスター NVR の LAN2/ スレーブ NVR の LAN2）

④ スレーブ NVR

⑤ スイッチングハブ（スレーブ NVR の LAN1）

ご注意 :

- スレーブに設定した NVR と、マスター NVR との接続は 1 つにしてください。複数のマスター NVR から接続された場合、スレーブ NVR が正常に動作しないことがあります。
- マスター／スレーブシステムの各NVRバージョンはすべて同じにする必要があります。
- マスターとして動作する NVR を別の NVR でスレーブとして使用することはできません。
- マスターとして動作する場合、記録表示性能が下がることがあります。

メモ :

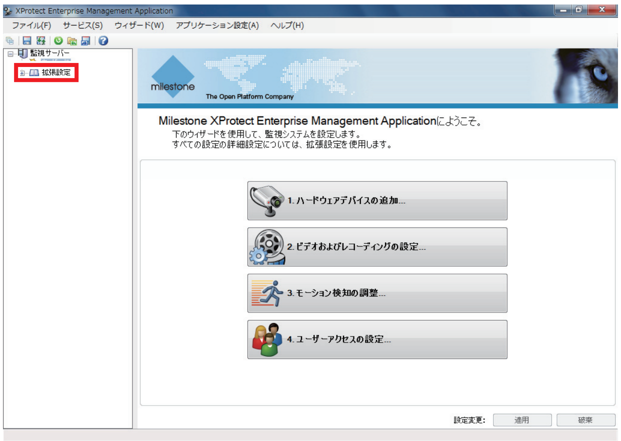
- マスター／スレーブシステムに VR-X3200 と VR-X1600 を混在させることができます。
- NVR をネットワーク内で識別するための名前（サーバー名）を変更すると、各 NVR を識別しやすくなります。サーバー名は、Management Application の「拡張設定」➡「サーバーアクセス」➡「サーバー名」で設定します。(☞ 113 ページ)

複数の NVR を使う（つづき）

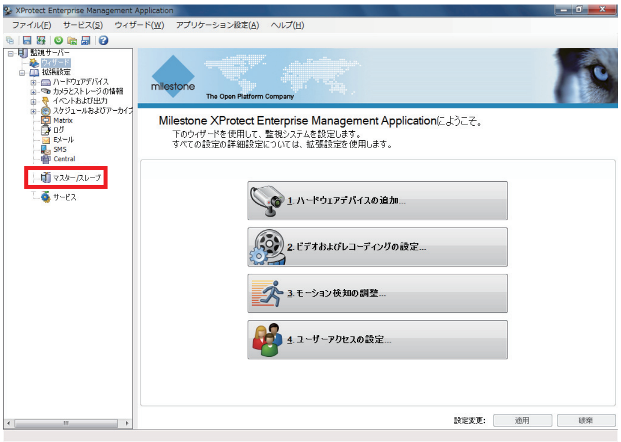
マスター NVR を指定する

設定は、マスターとして使う NVR で行います。

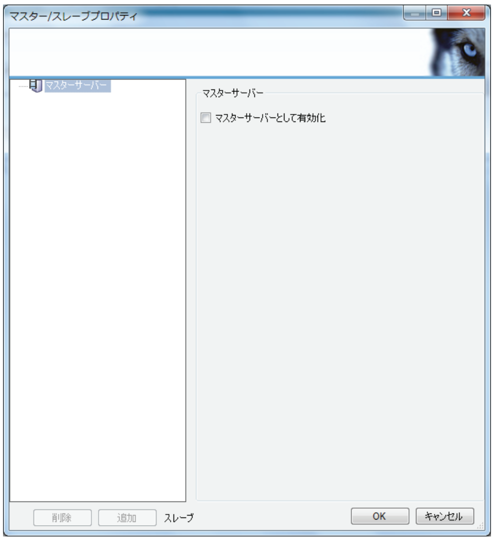
1「拡張設定」の「+」をクリックする



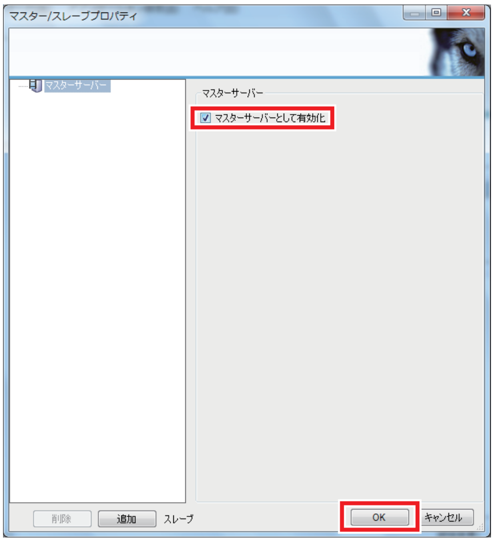
2「マスター / スレーブ」をダブルクリックする



マスター / スレーブ設定画面が表示されます。



3「マスターサーバーとして有効化」にチェックをして、［OK］をクリックする



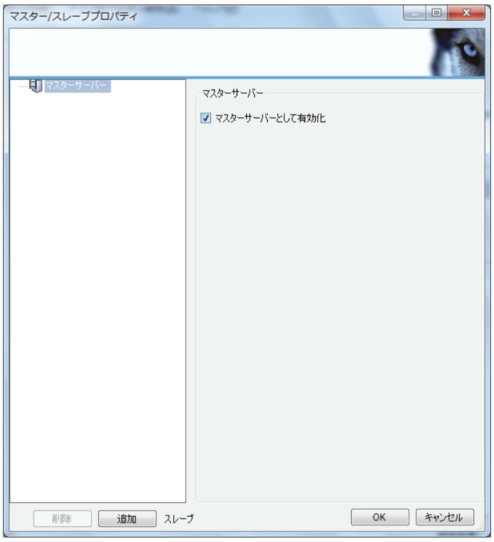
スレーブ NVR を登録する

設定は、マスターとして使う NVR で行います。

1「拡張設定」の「+」をクリックする

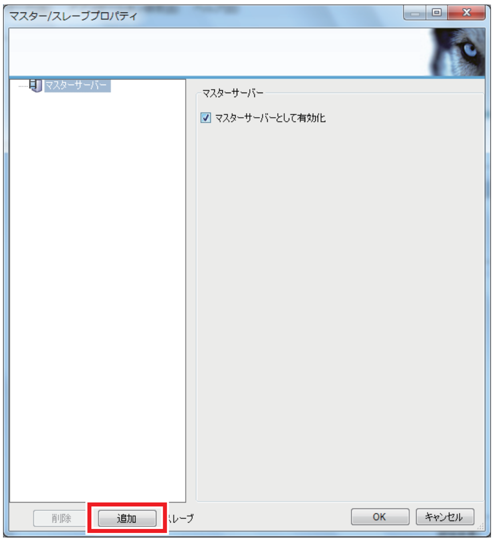
2「マスター / スレーブ」をダブルクリックする

マスター / スレーブ設定画面が表示されます。

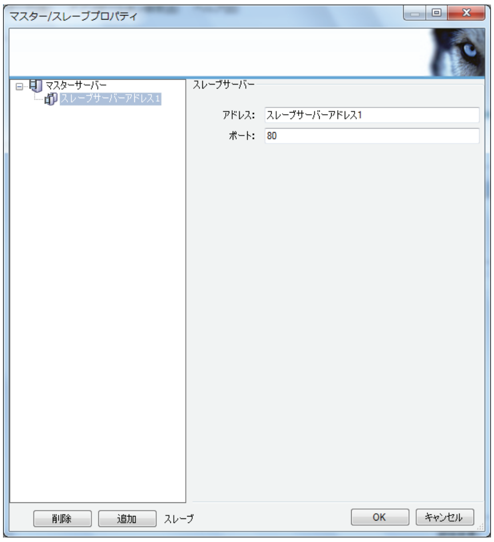


- 「マスターサーバーとして有効化」にチェックされていることを確認してください。

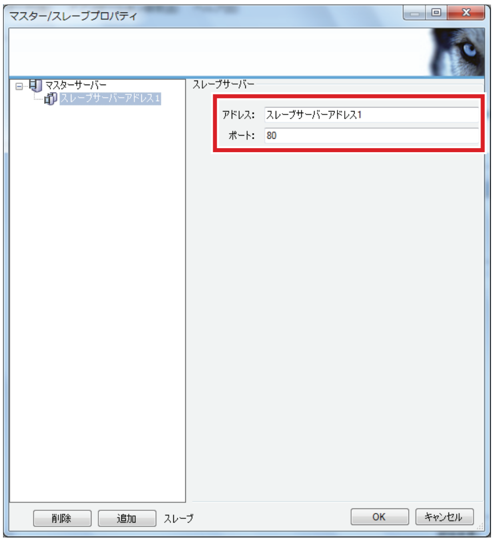
3 [追加] をクリックする



スレーブサーバーの設定画面が表示されます。



4 スレーブサーバーのアドレスとポート番号を入力する



5 [OK] をクリックする

設定した NVR がスレーブとして登録されました。

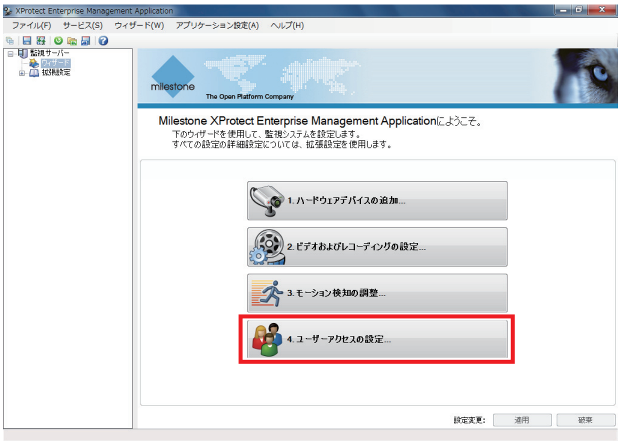
Smart Client のユーザーを設定する

Smart Client を使用するユーザーの登録や、各ユーザーの権限の設定を行います。

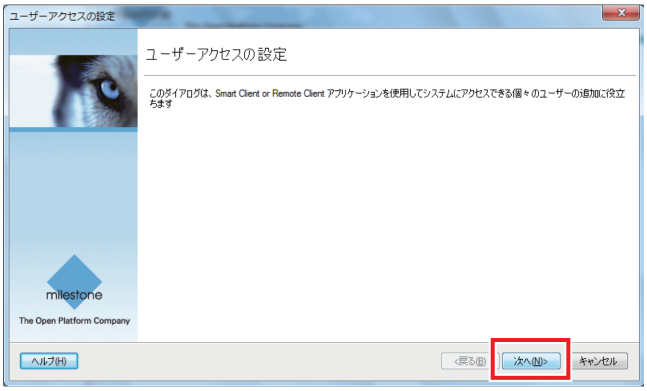
ユーザーを追加する

ここでは、「ユーザーアクセスの設定 ...」ウィザードで設定する方法を説明します。「拡張設定」の「ユーザー」からも設定できます。

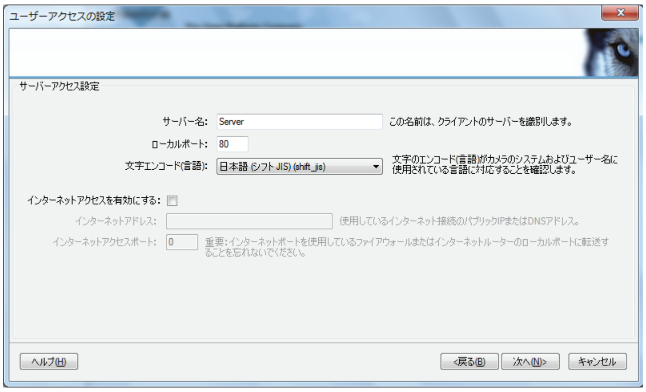
1 「ユーザーアクセスの設定 ...」をクリックする



2 ［次へ］をクリックする



3 サーバーアクセス設定をする

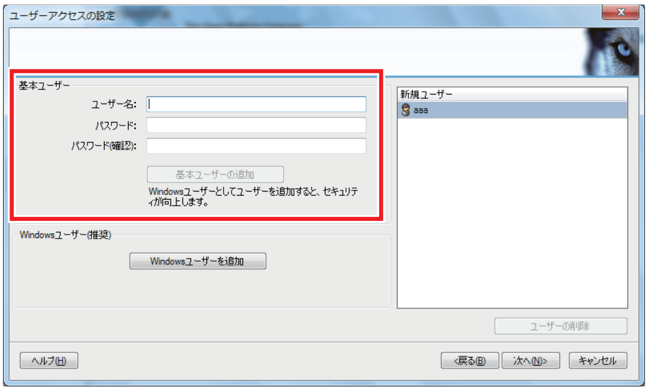


項目	内容
サーバー名	本機をネットワーク内で識別するための名称を入力します。
ローカルポート	サーバー用に使用するポート番号を入力します。
文字エンコード（言語）	「日本語（シフト JIS）（shift_jis)」以外に設定しないでください。
インターネットアクセスを有効にする	監視用パソコンからインターネット経由で本機に接続する場合にチェックをします。 チェックをした場合は、インターネットアドレス欄にルーターまたはファイアーウォールのインターネット側のグローバル IP アドレスを、インターネットポート欄に監視用パソコンがアクセスするためのポート番号を指定してください。

4 ［次へ］をクリックする

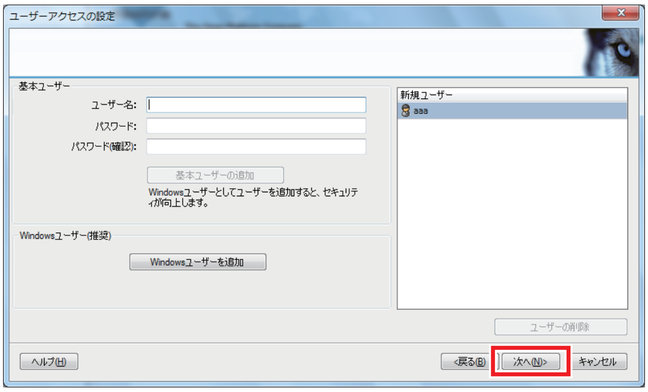
ユーザーの種類（基本ユーザーと Windows ユーザー）の設定画面が表示されます。
ここでは、ビューワー（Smart Client）を使用する基本ユーザーを設定します。

5 ユーザー名、パスワードを入力し、［基本ユーザーの追加］をクリックする

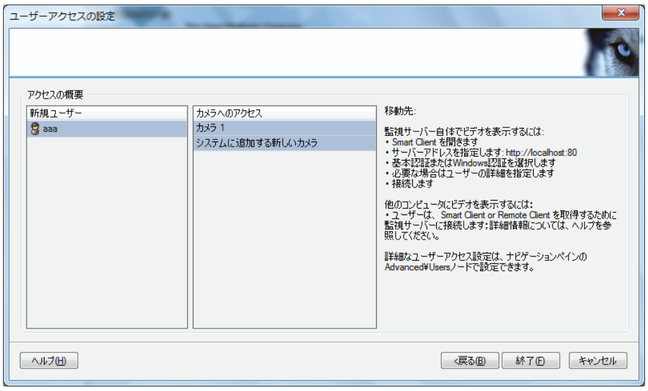


ユーザーが新規ユーザーとして登録されます。

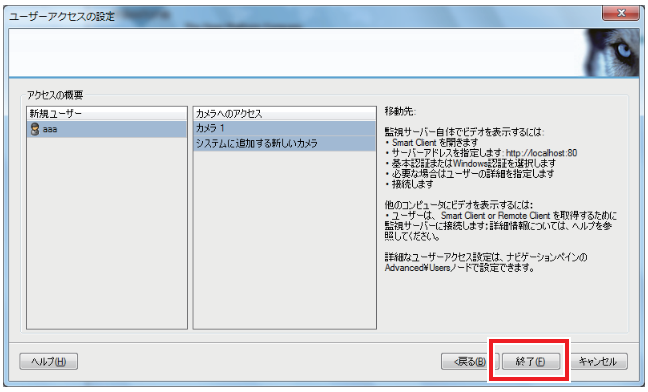
6 ［次へ］をクリックする



アクセスの概要画面が表示されます。追加したユーザーのカメラへのアクセス権を確認してください。



7 ［終了］をクリックする

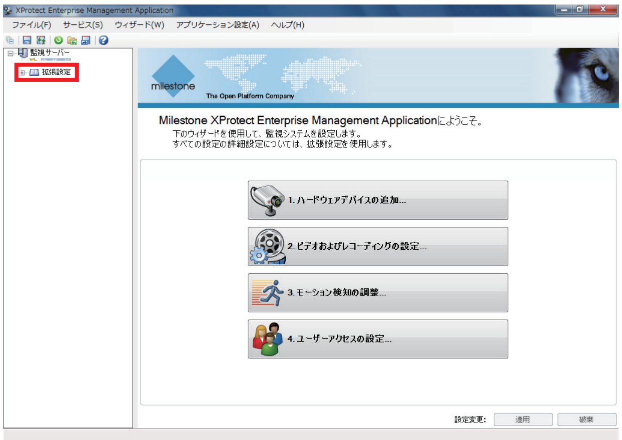


ユーザーが設定されました。

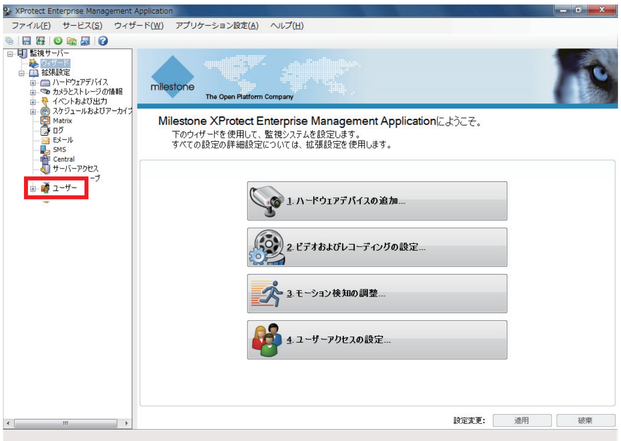
ユーザーごとに権限を制限する

ユーザーごとに、カメラとビューワーの操作を制限することができます。

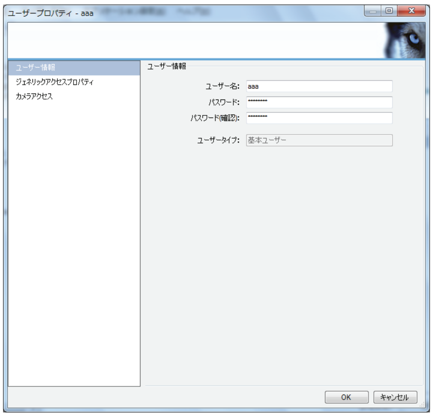
1 「拡張設定」の「+」をクリックする



2 「ユーザー」の「+」をクリックして、設定したいユーザー名をダブルクリックする



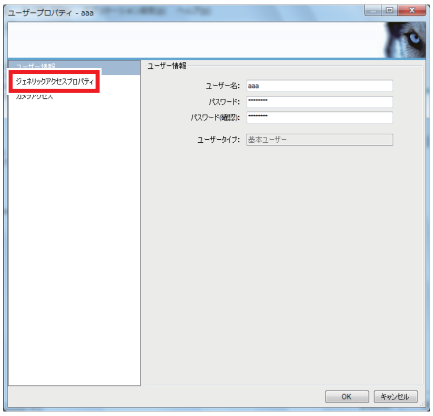
ユーザープロパティ画面が表示されます。



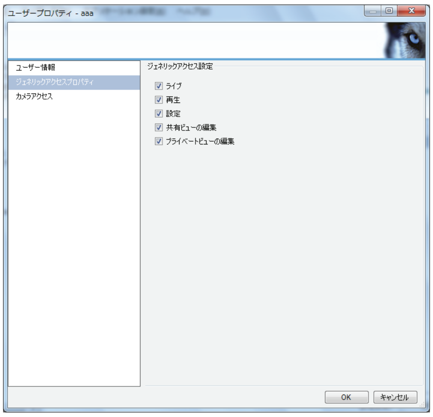
Smart Client のユーザーを設定する（つづき）

ユーザーごとに権限を制限する（つづき）

3「ジェネリックアクセスプロパティ」をクリックする

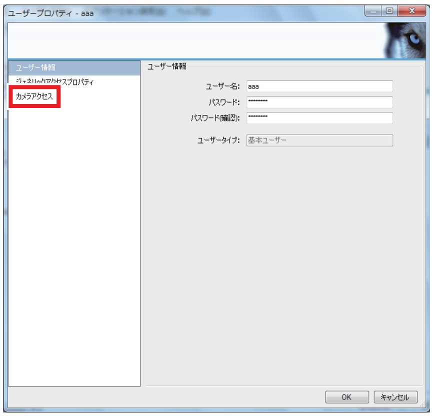


ビューワーのアクセス権限を設定する画面が表示されます。

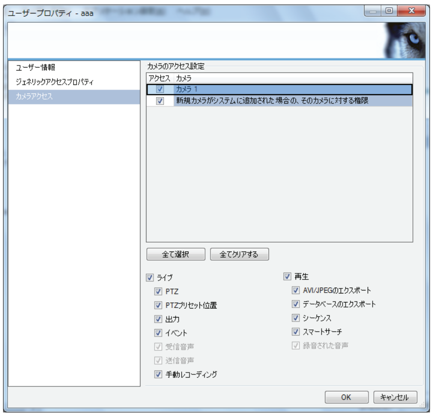


4 使用を制限する（使用させない）機能のチェックをはずす

5「カメラアクセス」をクリックする



カメラのアクセス権限を設定する画面が表示されます。



6 使用を制限する（使用させない）機能のチェックをはずす

- すべての機能を使用させない場合は、カメラ名の左の「アクセス」のチェックをはずします。

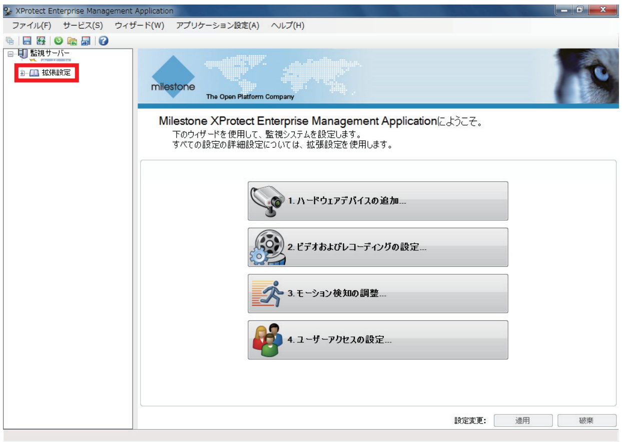
7［OK］をクリックする

権限が設定されました。

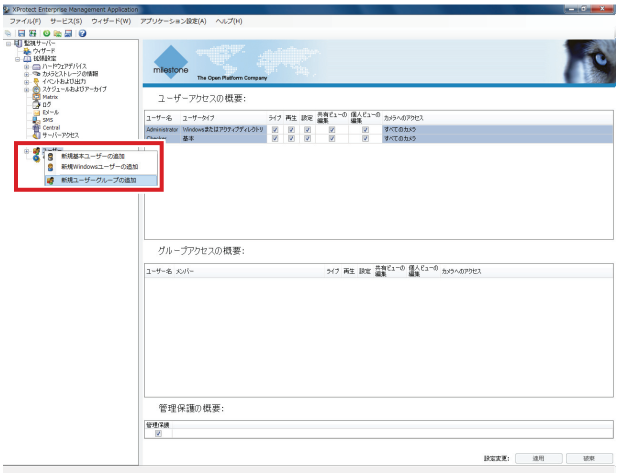
ユーザーグループを追加する

同じ権限のユーザーを複数登録する場合は、ユーザーごとに設定するよりも、グループを作成すると便利です。

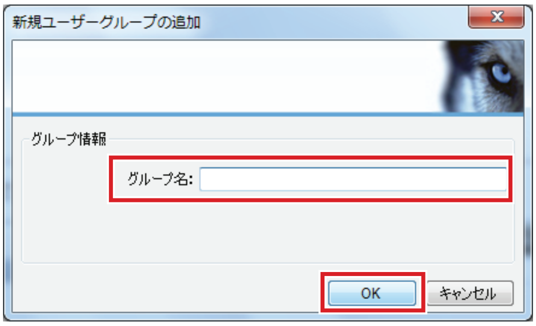
1「拡張設定」の「+」をクリックする



2 「ユーザー」で右クリックして、「新規ユーザーグループの追加」をクリックする



3 グループ名を入力して、[OK] をクリックする



「グループプロパティ」画面が表示されます。

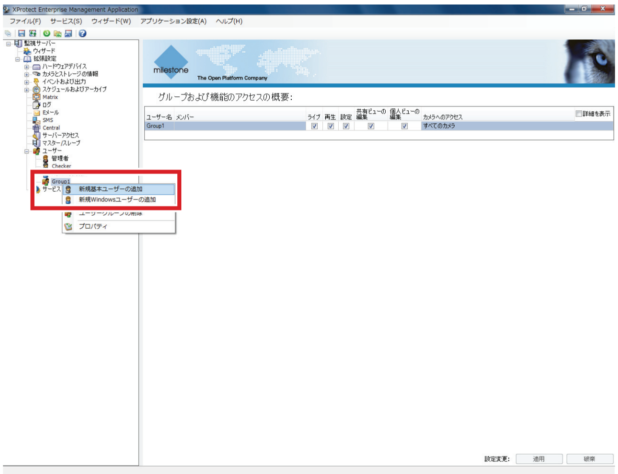
4 グループのアクセス権限を設定して、[OK] をクリックする

新規ユーザーグループが追加されました。

- アクセス権限の設定については、『ユーザーごとに権限を制限する』(☞69 ページ) の手順 3 ～ 6 をご覧ください。

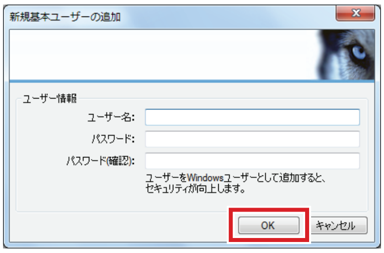
つづけて、作成したユーザーグループにユーザーを追加します。

5 ユーザーグループで右クリックして、「新規基本ユーザーの追加」または「新規 Windows ユーザーの追加」をクリックする

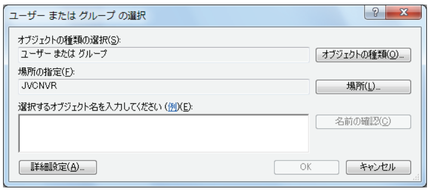


6 ユーザー名とパスワードを設定して、[OK] をクリックする

- 「新規基本ユーザーの追加」を選択した場合



- 「新規 Windows ユーザーの追加」を選択した場合

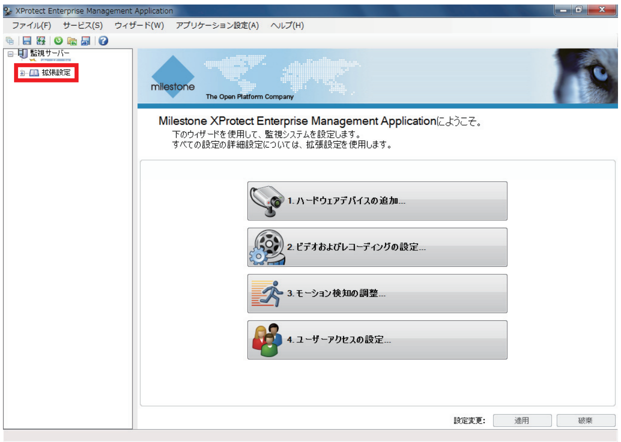


ユーザーがグループに登録されました。

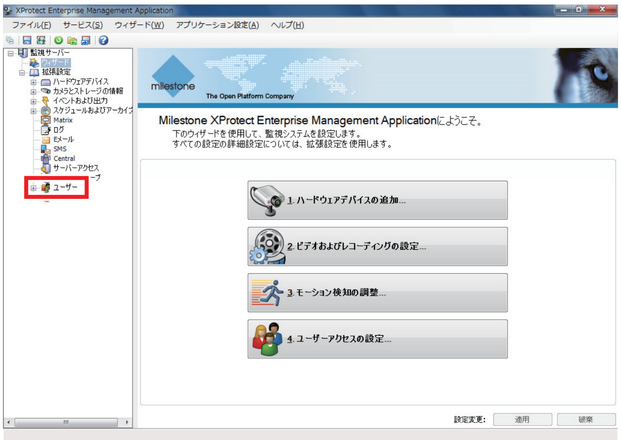
Management Application の起動パスワードを設定する

ログインパスワードを設定して、管理者以外は Management Application を操作できないようにすることができます。

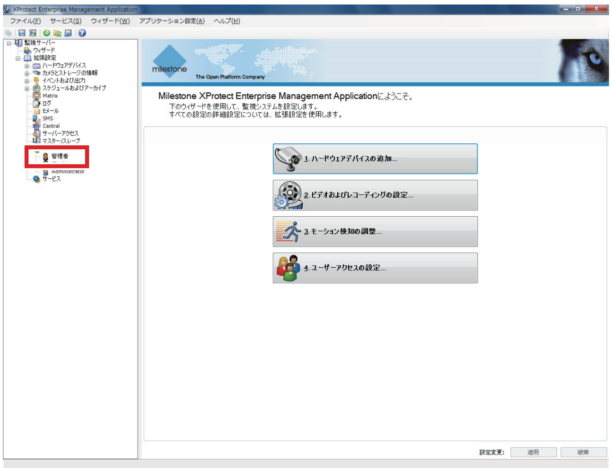
1「拡張設定」の「+」をクリックする



2「ユーザー」の「+」をクリックする

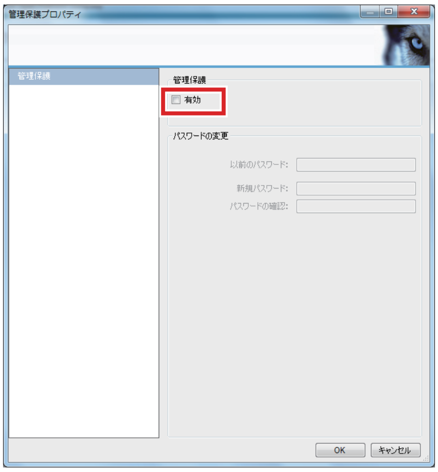


3「管理者」をダブルクリックする

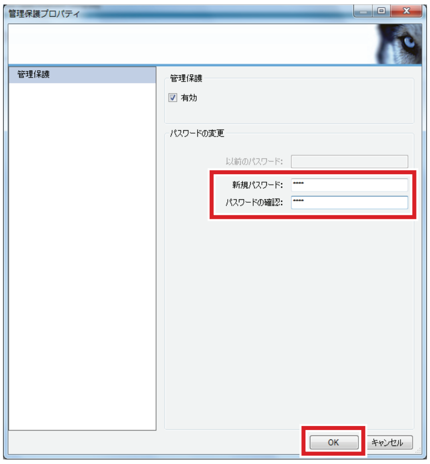


「管理保護プロパティ」画面が表示されます。

4「管理保護」の「有効」にチェックをする



5 パスワードを入力して、[OK] をクリックする



Management Application の起動パスワードが設定され、次回から Management Application 起動時にパスワードの入力が必要になります。

HDD を増設する

本機は、背面の SERIAL 端子と eSATA 端子に増設 HDD を接続することができます。

また、内蔵 HDD は 3 基まで増設でき、容量は最大 4TB まで増やすことができます。

メモ :

- 増設できる HDD の種類については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。
- 内蔵 HDD の増設については、お買い上げの販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

外部 HDD を接続する

本機背面の SERIAL 端子または eSATA 端子に接続します。

1 [オペレート]ボタンを約2秒間長押ししてオペレートオフにする

2 背面の電源スイッチを切る

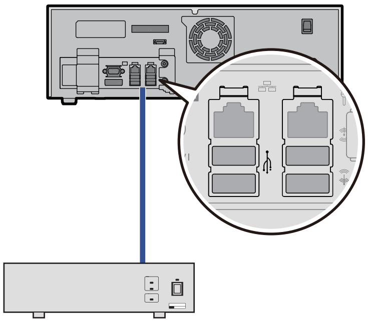
ご注意 :

- 必ず電源スイッチを切ってください。

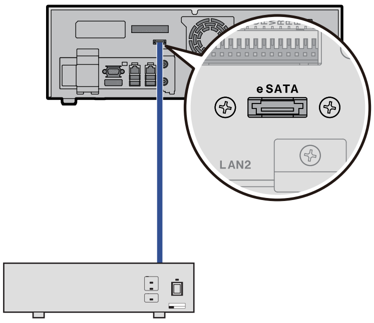
3 背面の SERIAL 端子または eSATA 端子に増設 HDD を接続し、増設 HDD の電源を入れる

- 本機本体の電源を入れる前に必ず増設 HDD の電源を入れます。先に増設 HDD の電源を入れないと、増設 HDD が認識されない場合があります。

● SERIAL 端子



● eSATA 端子



■ 外部 HDD を増設したときは

外部 HDD を増設したときは、次の手順で初期化します。

1 本機の電源を入れる

2 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックする

3「コンピューター」で右クリックして、「管理」をクリックする

「コンピューターの管理」画面が表示されます。

4「ディスク管理」をクリックする

5 増設したディスクの領域を右クリックして、「新しいシンプルボリューム」をクリックする

ウィザードが始まります。

6 ウィザードにしたがって、ドライブのパーティションなどを設定する

ウィザードが完了すると、フォーマットが始まります。フォーマットが完了すると、ドライブ名が表示され、利用することができるようになります。

ご注意 :

- 増設 HDD を接続している場合、アーカイブ機能の動作時に、記録画像が数秒間欠落することがあります。
- 増設HDD内に記録された画像を本機および複数のクライアントで同時に再生した場合、再生画像および音声が遅くなることがありますのでご注意ください。
  なお、このとき記録画像には問題はありません。同時再生が解消または緩和された時点で正常に再生されますので、再度ご確認ください。

メモ :

- システム安定化のため、UPS のご使用をおすすめします。(☞129 ページ『UPS を使う』)
- 増設 HDD をはずして、パソコンに接続し、パソコンで記録画像を見ることはできません。

HDD を増設する（つづき）

RAID を構築する

内蔵 HDD を増設して、RAID を構築することができます。
本機は、RAID1/5/10 に対応しています。

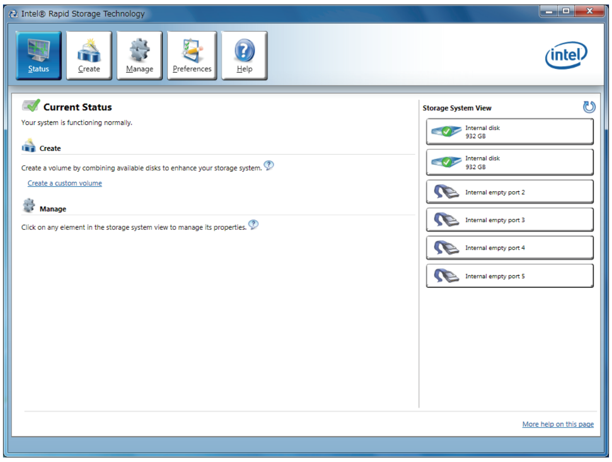
メモ：

● 内蔵 HDD の増設については、お買い上げの販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

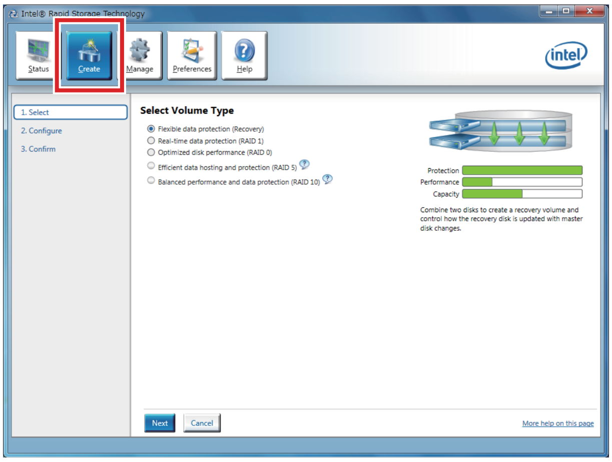
1 本機の電源を入れる

2 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」、「Intel」、「インテル（R）ラピッド・ストレージ・テクノロジー」の順にクリックする

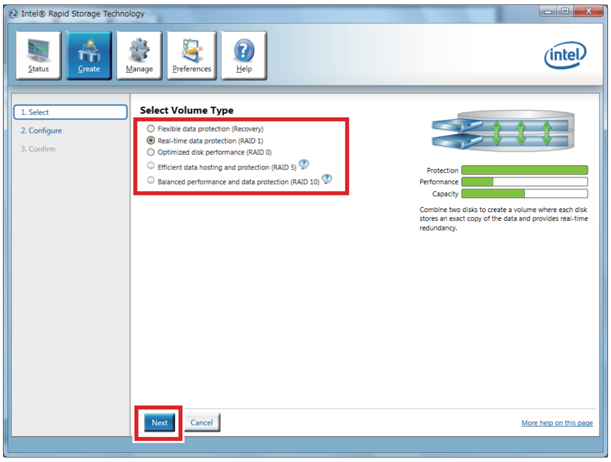
インテル（R）ラピッド・ストレージ・テクノロジーが起動します。



3 [Create] をクリックする



4 ボリュームを選択し、[Next] をクリックする



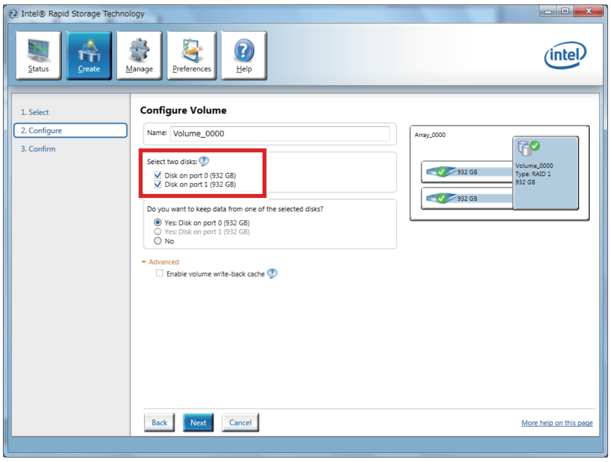
項目	内容
RAID0/RAID1	1 台の HDD を増設して、合計 2 台で構築します。
RAID5	2 台の HDD を増設して、合計 3 台で構築します。
RAID10	3 台の HDD を増設して、合計 4 台で構築します。

メモ：

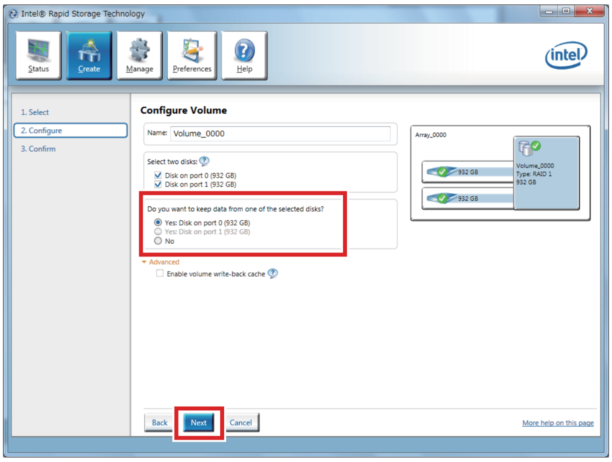
● RAID1、RAID5 または RAID10 をご使用ください。

5 RAID を構成する HDD を選択する

「port 0」と必要な追加 HDD（「port 1」～「port 3」）にチェックをします。



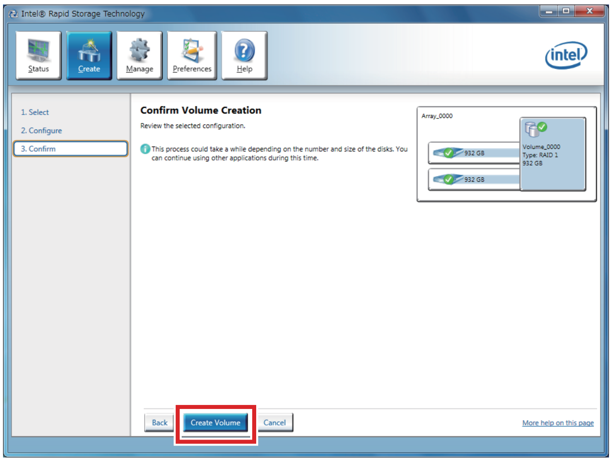
6「Do you want to keep data from one of selected disk?」で「 Yes: Disk on port 0」を選択し、[Next] をクリックする



ご注意：

- Advanced 設定の「Enable volume write-back cache」は無効にしたままお使いください。パフォーマンス低下の原因となることがあります。

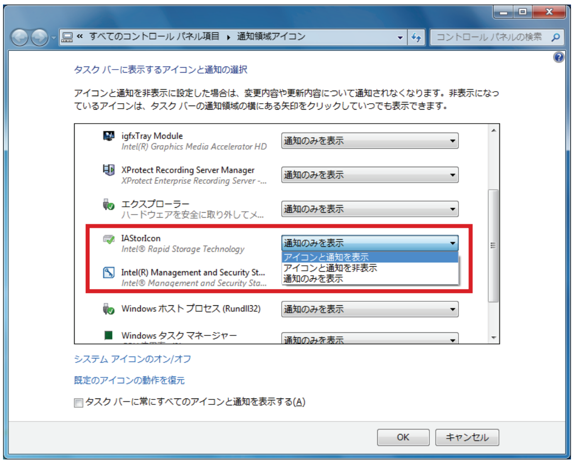
7 [Create Volume] をクリックする



8 画面の右下にあるタスクバーの「▲」をクリックし、「カスタマイズ ...」をクリックする

「タスクバーに表示するアイコンと通知の選択」が起動します。

9 IAStorIcon の設定を「アイコンと通知を表示」に変更する



10 [OK] をクリックする。

■ シンプルボリュームを作成する

RAID5 または RAID10 を構築後、HDD の空き領域を有効に利用するためには、下記手順を行います。

1 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックする

コントロールパネルが開きます。

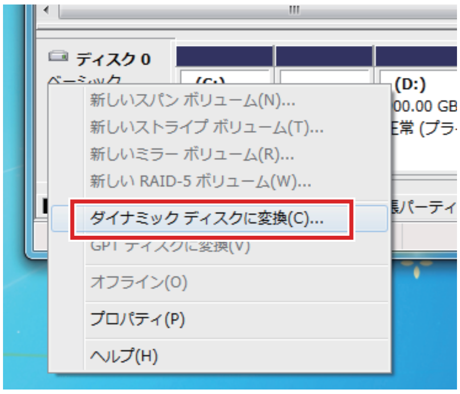
2「システムとセキュリティ」をクリックする

「システムとセキュリティ」画面が表示されます。

3 管理ツールの「ハードディスクパーティションの作成とフォーマット」をクリックする

「ディスクの管理」画面が表示されます。

4 ディスク 0 でマウスを右クリックし、「ダイナミックディスクに変換（C）...」を選択する



「ダイナミックディスクに変換」画面が表示されます。

HDD を増設する（つづき）

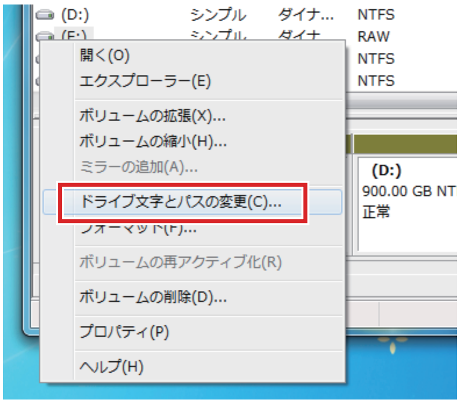
RAID を構築する（つづき）

5「ディスク 0」にチェックが入っていることを確認し、[OK] をクリックする

「変換するディスク」画面が表示されます。

6 [変換] ボタンをクリックし、確認画面で [はい] をクリックする

7「E: ドライブ」でマウスを右クリックし、「ドライブ文字とパスの変更 ...」を選択する



「E: () のドライブ文字とパスの変更」画面が表示されます。

8「E: 」が選択されていることを確認し、[削除] をクリックする

確認画面が表示されます。

9 [はい] をクリックする

「WARNING ：HDD（E）Deleted」が表示され、WARNING ランプが点灯します。

10 [OK] をクリックし、画面を閉じる

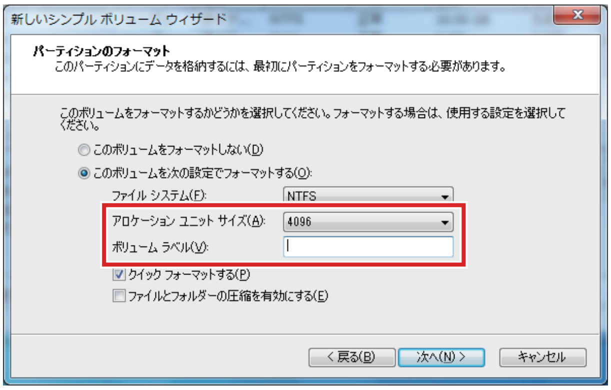
11「未割り当て」でマウスを右クリックし、「新しいシンプルボリューム ...」を選択する

新しいシンプルボリュームウィザードが表示されます。

12 [次へ] をクリックする

「ボリュームサイズの指定」画面は、[次へ] で先に進みます。
「ドライブ文字またはパスの割り当て」画面は、[次へ] で先に進みます。
「パーティションのフォーマット」画面が表示されます。

13「アロケーションユニットサイズ」を「4096」に変更し、「ボリュームラベル」を空白にする



14 [次へ] をクリックする

確認画面が表示されます。

15 [完了] をクリックする

16「スタート メニュー」から「シャットダウン」>「再起動」を選択し、本機を再起動する

NAS を使う

NAS（Network Attached Storage）とは、LAN1 のネットワーク上に接続したファイルサーバー専用機です。

NVR では、カメラネットワーク（LAN1）に接続した NAS をドライブとしてアーカイブ先に設定することができます。

ご注意：

- NAS を使用すると、NAS の性能によっては記録性能（フレームレート）が低下する場合があります。

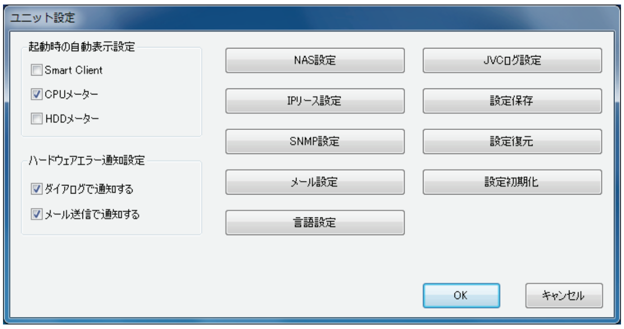
メモ：

- NAS の設定については NAS の取扱説明書にしたがってください。フォーマットや RAID などの設定内容によっては時間がかかる場合があります。詳細は NAS のメーカーにお問い合わせください。
- 接続できる NAS の種類については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。

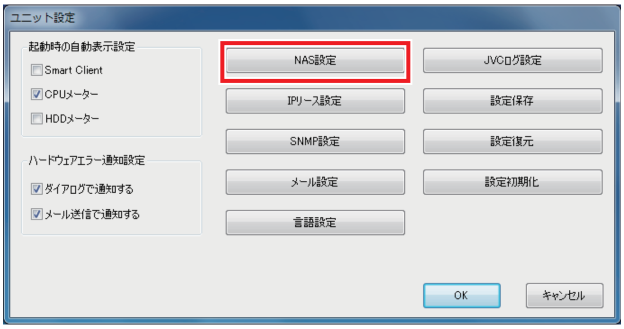
■ NAS に接続する

1 デスクトップの［4. Unit Setup］をダブルクリックする

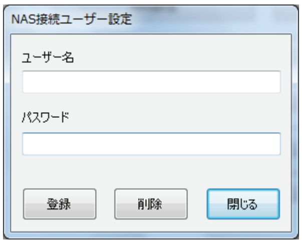
「ユニット設定」画面が表示されます。



2 [NAS 設定] をクリックする



「NAS 接続ユーザー設定」画面が表示されます。



3 NAS 機器で設定した、NAS アクセス用の [ユーザー名] と [パスワード] を [NAS 接続ユーザ設定] に入力し、[登録] をクリックする

入力されたユーザー名とパスワードを元に、本機に Windows ユーザーが作成されます。

ご注意：

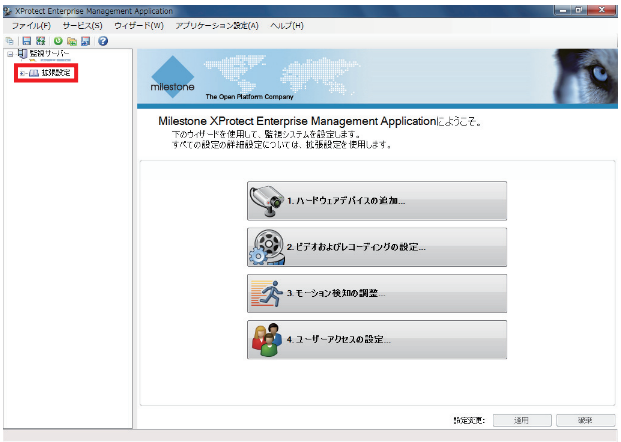
- NAS 接続ユーザー設定のユーザー名には、『 本機をネットワークに接続する 』(☞33 ページ) で設定したホスト名と異なる名前を指定してください。
- 「NAS 接続ユーザー設定」以外でお客様が作成した Windows ユーザーがある場合、その Windows ユーザーは削除されます。（Management Application で作成した基本ユーザーは削除されません。）

HDD を増設する（つづき）

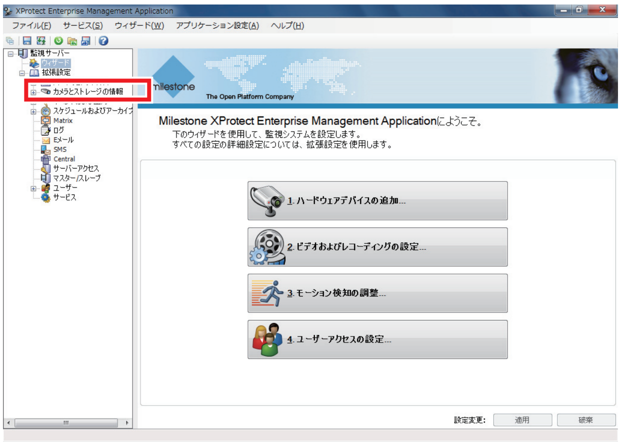
NAS を使う（つづき）

■ アーカイブの保存先を NAS に設定する

1「拡張設定」の「+」をクリックする

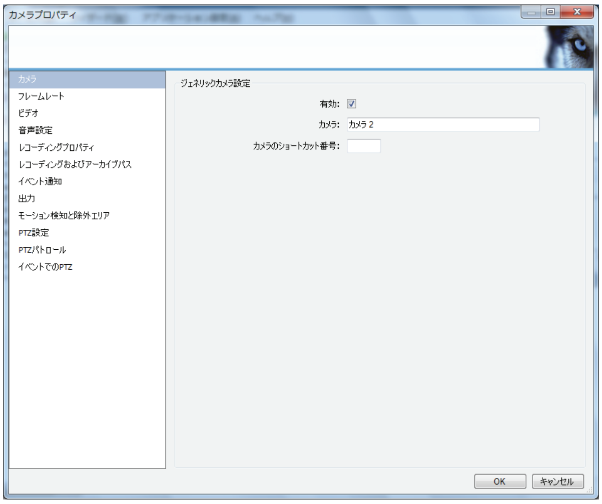


2「カメラとストレージの情報」の「+」をクリックする

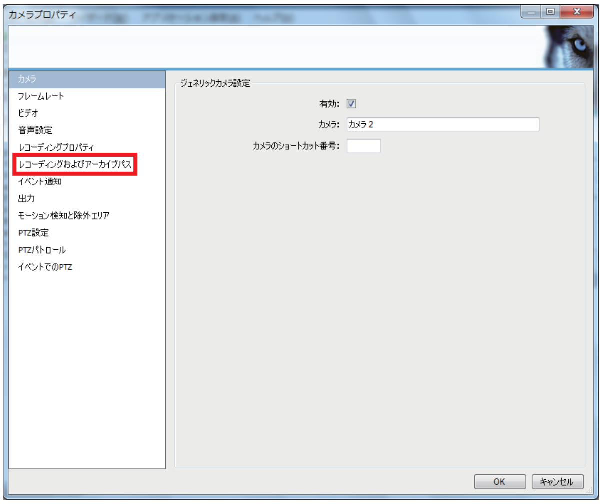


3 設定するカメラ名をダブルクリックする

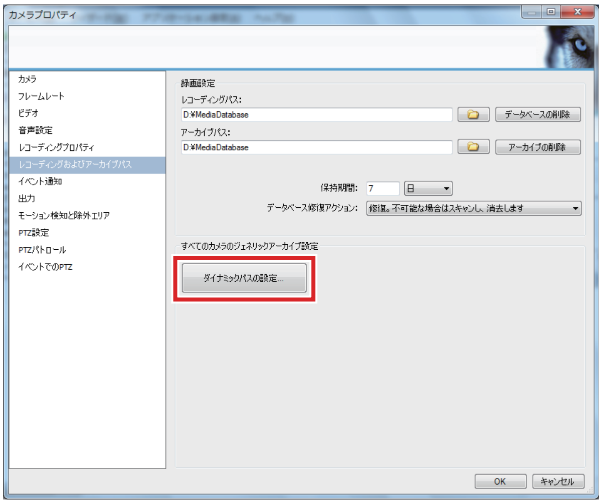
「カメラプロパティ」画面が表示されます。



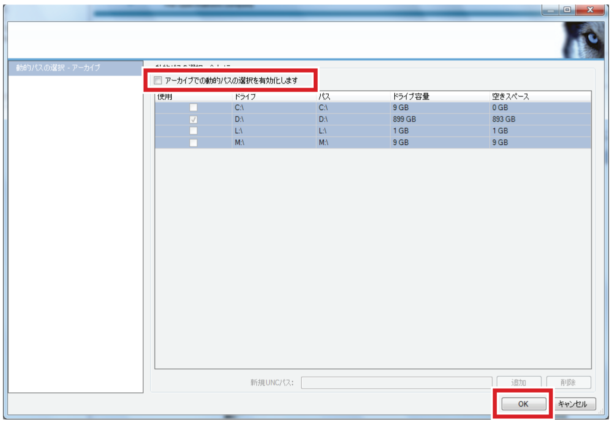
4「レコーディングおよびアーカイブパス」を選択する



5［ダイナミックパスの設定…］をクリックする



6「アーカイブでの動的パスの選択を有効化します」のチェックをはずし、[OK] をクリックする



「カメラプロパティ」画面に戻ります。

7「アーカイブパス」に NAS ドライブへのパスを設定する

- パスの設定は、ネットワークドライブとして指定する方法と、UNC パス（NAS のネットワーク名とフォルダ名）を指定する方法があります。
- 設定時にエラーメッセージが表示されますが、記録動作は問題ありません。

8 [OK] をクリックする

ご注意：

- 運用後、アーカイブ先の変更を行うと、以前のアーカイブデータは再生できなくなります。
- アーカイブ先に NAS を設定すると、パスを確認できない旨のメッセージが表示される場合がありますが、アーカイブ動作は正しく行われます。
- NAS の設定は NAS 機器の設定が完了したあと、NAS 機器をネットワークに接続した状態で行なってください。
- NAS ドライブを設定したあと、数分のあいだ Smart Client 上にエラーメッセージが表示され、ライブ映像が表示できない場合があります。

設定内容を保存 / 復元する

ユニット設定や Management Application の設定内容を USB フラッシュメモリなど保存しておき、保存した設定を読み込んで以前の設定に戻すことができます。

ユニット設定を保存 / 復元する

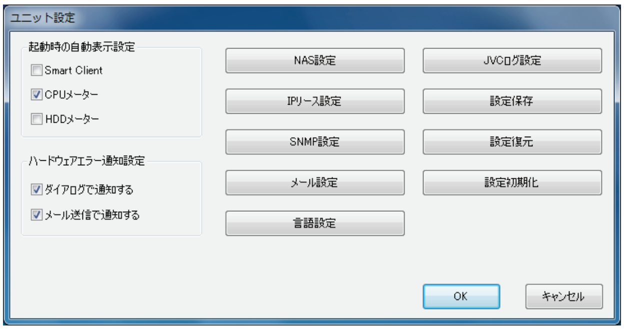
設定は、USB フラッシュメモリに保存されます。

■ 保存する

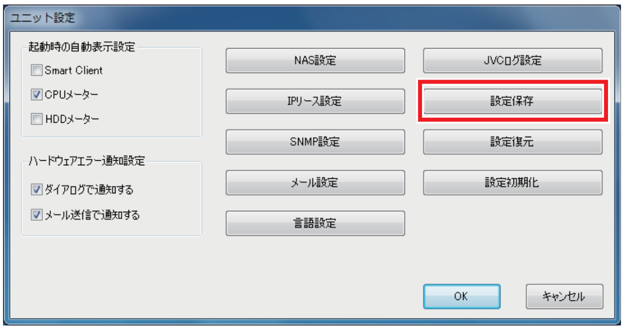
1 USB フラッシュメモリを接続する

2 デスクトップの［4. Unit Setup］をダブルクリックする

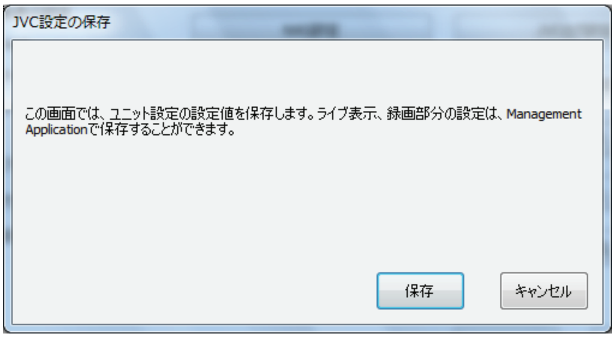
「ユニット設定」画面が表示されます。



3［設定保存］をクリックする



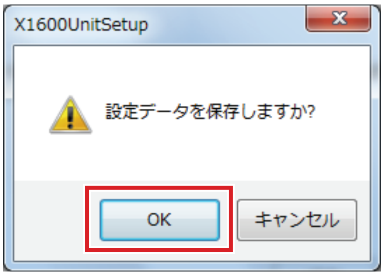
確認画面が表示されます。



4［保存］をクリックする

確認のメッセージが表示されます。

5［OK］をクリックする



設定が保存されます。

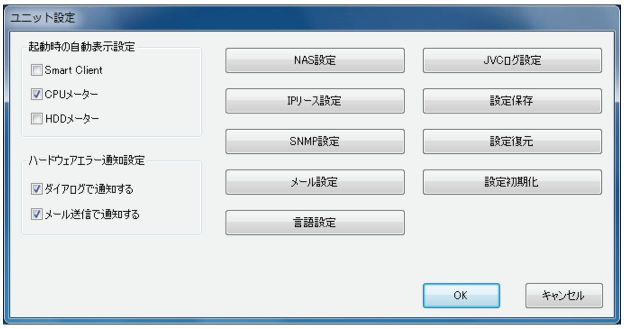
- 保存が終了すると「設定データを保存しました」と表示されます。［OK］をクリックして画面を閉じてください。

■ 復元する

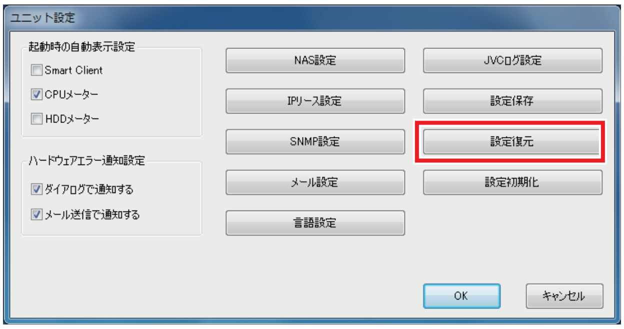
1 USB フラッシュメモリを接続する

2 デスクトップの［4. Unit Setup］をダブルクリックする

「ユニット設定」画面が表示されます。

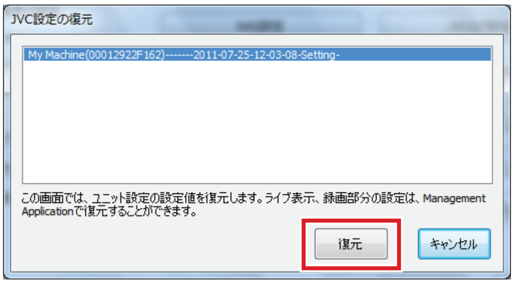


3 ［設定復元］をクリックする



USB フラッシュメモリに保存されている設定が表示されます。

4 読み込むファイルを選択して、［復元］をクリックする



確認のメッセージが表示されます。

5 ［OK］をクリックする

USB フラッシュメモリから設定が読み込まれます。

Management Application の設定を保存する / 読み込む

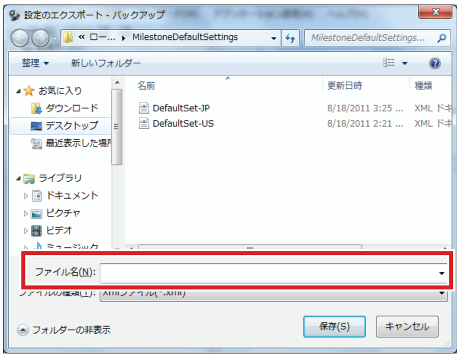
Management Application 設定の保存と読み込みは、Management Application の「ファイル」メニューで行います。設定は、本機の任意の場所に xml 形式で保存することができます。

■ 保存する

1 「ファイル」メニューを開き、「設定のエクスポート - バックアップ」をクリックする

保存画面が表示されます。

2 保存場所を選択して、ファイル名を入力する



3 ［ 保存 ］をクリックする

設定が保存されます。

ご注意：

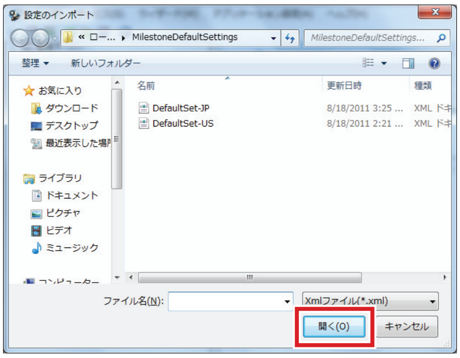
- ビューワーで設定したビュー情報は、保存されません。

■ 設定を読み込む

保存した設定を読み込んで、設定を変更します。

1 「ファイル」メニューを開き、「設定のインポート」をクリックする

2 読み込む設定ファイルを選択して、［ 開く ］をクリックする



設定ファイルが読み込まれます。

3 レコーディングサーバーを再起動する

読み込んだ設定内容が反映されます。

- レコーディングサーバーの再起動のしかたは、『Management Application の設定を変更したときは 』(☞21 ページ) をごらんください。

レコーダー編

リファレンス

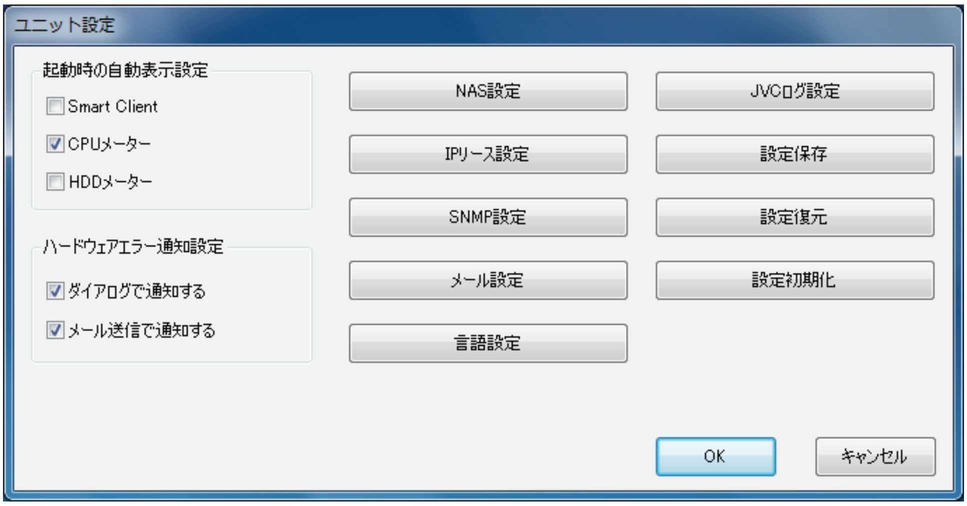
この章では、設定項目を一覧表示しています。また、カメラの増設などシステム構成の変更やメンテナンスが必要なときは、この章をお読みください。

ご注意：

- Management Application の設定変更時は、絶対に電源を切らないでください。
- Management Application の設定を変更したら、サービスを再起動してください。(☞21 ページ『Management Application の設定を変更したときは 』)
  再起動しないと、変更した内容が反映されません。また、Smart Client を起動しているときに Management Application の設定を変更した場合は、Smart Client を一度終了し、再度起動してください。

設定（本機）

Unit Setup（ユニット設定）



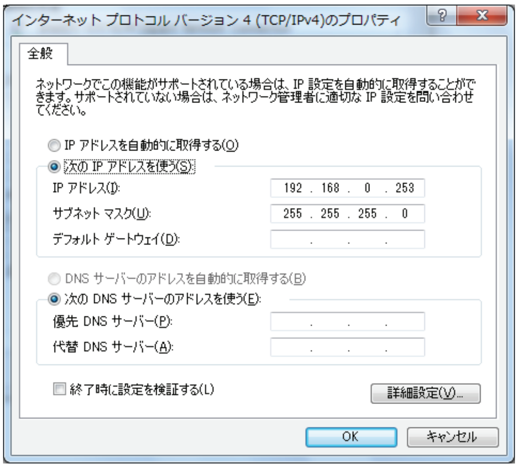
●：初期値

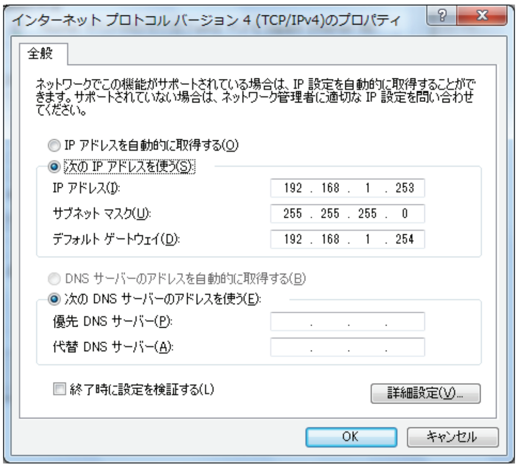
項目	設定値	内容
起動時の自動表示設定		本機を起動したときに自動で表示する項目を選びます。
Smart Client	チェック ● チェックなし	チェックを入れると、システム起動時に Smart Client が起動します。
CPU メーター (☞ 134 ページ)	● チェック チェックなし	チェックを入れると、システム起動時に CPU メーターが起動します。
HDD メーター (☞ 134 ページ)	チェック ● チェックなし	チェックを入れると、システム起動時に HDD メーターが起動します。
ハードウェアエラー通知設定		本機に異常があった場合のエラー通知方法を設定します。
ダイアログで通知する	● チェック チェックなし	チェックを入れると、画面上に警告ダイアログが表示されます。
メール送信で通知する	● チェック チェックなし	チェックを入れると、登録されている送信先にメールで異常をお知らせします。

項目	設定値	内容
NAS 設定 (☞ 77 ページ)		NAS に接続するための設定をします。
ユーザー名	—	NAS に接続するためのユーザー名を指定します。
パスワード	—	NAS に接続するためのパスワードを指定します。
IP リース設定		本機から、各ネットワークカメラに IP アドレスを割り振る場合に設定します。 **メモ：** ● IP リース機能でネットワークカメラの IP アドレスを割り振るためには、ネットワークカメラの DHCP を有効にしておく必要があります。ネットワークカメラの DHCP を有効にするには、ネットワークカメラの取扱説明書をご覧ください。 ● 本機を同時に複数台使用するネットワークの場合、IP リース機能を使用するのは 1 台のみにしてください。また、同一ネットワーク上に DHCP サーバーが稼働している場合は IP リース機能は使用しないでください。同時に 2 台以上で IP リース機能を有効にすると、固定 IP になってしまうなど、カメラが誤作動する場合があります。
IP リース機能		
使用する	チェック **● チェックなし**	本機から、各ネットワークカメラに IP アドレスを割り振るかどうかを設定します。
過去の IP 情報を削除する	チェック **● チェックなし**	各ネットワークカメラの過去の IP 情報を削除して、新しい IP アドレスを割り振る場合にチェックします。
リース期限	**● 無期限** 期限あり（24 時間）	カメラに割り当てる IP アドレスの有効期限を設定します。
設定値		
先頭 IP アドレス	**● 192.168.0.100**	ネットワークカメラに割り振る IP アドレスの先頭アドレスを指定します。
台数	1 台～ 99 台 **● 20 台**	カメラに割り振る IP アドレスの台数を選びます。先頭 IP アドレスから選んだ台数分の IP アドレスが割り振られます。
サブネットマスク	**● 255.255.255.0**	カメラに設定するサブネットマスクを指定します。
ゲートウェイ	**● 192.168.0.254**	カメラに設定するゲートウェイを指定します。
プライマリ DNS	**● 192.168.0.253**	カメラに設定するプライマリ DNS を指定します。
セカンダリ DNS	**● 192.168.0.252**	カメラに設定するセカンダリ DNS を指定します。
ドメイン名	—	カメラに設定するドメイン名を指定します。
SNMP 設定 (☞ 130 ページ)		監視用パソコンの SNMP マネージャから本機の状態を監視することができます。
SNMP 設定		
SNMP を有効にする	チェック **● チェックなし**	チェックをすると SNMP の機能が有効になります。
TRAP を有効にする	チェック **● チェックなし**	チェックをすると TRAP の機能が有効になります。
SNMP マネージャ IP アドレス	—	SNMP マネージャの IP アドレスを指定します。
コミュニティ名	—	SNMP のコミュニティ名を指定します。 （1 ～ 32 文字。英数字のみ）
監視間隔		
CPU 使用率	10 ～ 9999 秒 **● 10 秒**	CPU 使用率を監視する間隔を指定します。
D ドライブ書き込みレート	30 ～ 9999 秒 **● 60 秒**	D ドライブへの書き込みレートを監視する間隔を指定します。
Smart Client	10 ～ 9999 秒 **● 10 秒**	Smart Client の起動状態を監視する間隔を指定します。
カメラ接続状態	60 ～ 9999 秒 **● 60 秒**	カメラの接続状態を監視する間隔を指定します。
拡張 MIB 情報をフラッシュメモリにコピー		拡張 MIB 情報を USB フラッシュメモリにコピーします。 ● SNMP 設定の詳細は『SNMPを設定する』(☞130ページ)をご覧ください。

項目	設定値	内容
メール設定 (☞ 61 ページ)		本機の異常（エラー）通知をメールで行う場合に、メールの設定をします。
メール送信先		エラー通知を受け取るメールアドレスを設定します。
追加		メールアドレスを追加します。
編集		一覧表示で選んでいるメールアドレスを編集します。
削除		一覧表示で選んでいるメールアドレスを削除します。
アカウント設定		
SMTP		メール送信サーバーの設定です。
サーバー名	—	
ポート	● 25	
ユーザー ID	—	
パスワード	—	
POP		メール受信サーバーの設定です。
サーバー名	—	
ポート	● 110	
ユーザー ID	—	
パスワード	—	
メール送信認証方式	● 無し SMTP 認証 POP before SMTP	メールを送信するときにユーザー認証方式を設定します。設定値については、メールシステム管理者にご相談ください。
メール送信元アドレス	—	エラー通知メールの送信元メールアドレスを設定します。
テストメール送信	—	テストメールを送信します。
言語設定		
言語選択	● Japanese English	「ユニット設定」画面の表示言語を選びます。
JVC ログ設定 (☞ 132 ページ)		ログ情報の保存のしかたを設定します。 ● ログ情報は障害発生時の解析に必要となる場合があります。
ログ保存日数	● 10 日	ログを保存する期間を設定します。
ログ書き込みスペースが少ない時、自動的に古いログを削除する	● チェック チェックなし	チェックをすると、保存先 HDD の容量が 50MB 以下になったときに自動で古いログが削除されます。
設定保存 (☞ 80 ページ)		ユニット設定の内容を USB フラッシュメモリに保存します。
設定復元 (☞ 80 ページ)		USB フラッシュメモリに保存された設定を表示します。コピーしたい設定を選んで、［復元］をクリックします。
設定初期化 (☞ 135 ページ)		JVC ソフトウェアの設定を初期化します。Milestone ソフトウェアの設定は初期化されません。

ネットワーク設定





■ IP アドレス設定

設定は、「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット」で行います。『 本機をネットワークに接続する 』(☞33 ページ) をご覧ください。

●：初期値

項目		設定値	内容
ネットワークアダプタ名			設定したいネットワークを選びます。
	LAN1	Intel(R) 82578DM Gigabit Network Connection	カメラとのネットワーク（LAN1）を使用する場合の設定です。
	LAN2	Realtek RTL8168D/8111D Family PCI-E Gigabit Ethernet NIC (NDIS 6.20)	監視用パソコン（LAN2）を使用する場合の設定です。
IP アドレスを自動的に取得する		チェック ● チェックなし	IP アドレスを自動的に取得する場合はチェックをします。
IP アドレス		● 192.168.0.253 ● 192.168.1.253	**メモ：** ● 初期値以外の設定にする場合の IP アドレスなどは、システム管理者にご相談ください。 ● ホスト名は LAN1、LAN2 に共通の設定です。ホスト名を変更した場合には、Windows user を追加する必要があります。(☞ 68 ページ) **ご注意：** ● LAN1 と LAN2 は必ず異なるセグメント * にしてください。 例： LAN1：192.168.0.253 LAN2：192.168.1.253 * セグメント：下線の部分
サブネットマスク		● 255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ			
	LAN1	—	
	LAN2	● 192.168.1.254	
DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する		チェック ● チェックなし	
優先 DNS サーバー		—	
代替 DNS サーバー		—	

■ ホスト名設定

設定は、「コントロールパネル」➡「システムとセキュリティ」➡「システム」➡「システムの詳細設定」の「コンピューター名」タブ➡「ネットワーク ID(N)」で行います。

項目	設定値
ホスト名	JVCNVR
DNS ドメイン名	—

本機の日付・時刻を設定する

本機の日付・時刻を設定します。

ご注意：

- 動作環境によっては、日差 10 数秒程度のずれが発生する場合があります。
- 本機内部のバックアップ用リチウム電池の容量が低下した場合、時刻が大きくずれることがあります。その場合は、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

■ 時刻サーバーを使う

より正確な時刻で記録するために、時刻サーバー（NTP サーバー）のご使用をおすすめします。

ご注意：

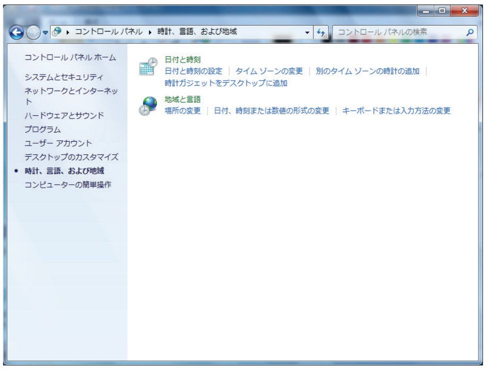
- 時刻サーバーは LAN2 のネットワークに接続してください。

1 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックする

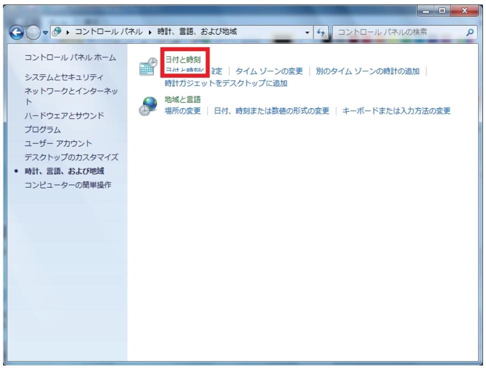
コントロールパネルが開きます。

2「時計、言語、および地域」をクリックする

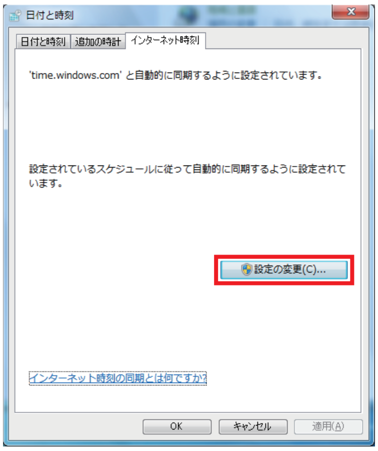
「時計、言語、および地域」画面が表示されます。



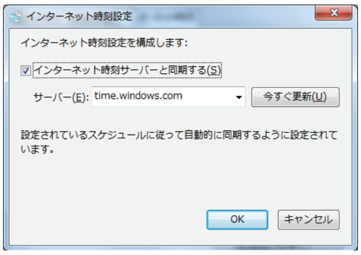
3「日付と時刻」をクリックし、「インターネット時刻」を選択する



4［設定の変更（C）…］を選択する



「インターネット時刻設定」画面が開きます。



5「インターネット時刻サーバーと同期する (S)」にチェックを入れて、サーバーを選択する

6［OK］をクリックする

■ 手動で時刻を合わせる

時刻サーバー（NTP サーバー）を使わない場合は、「時刻サーバーを使う」の手順 3「日付と時刻」画面で［日付と時刻の変更］をクリックして設定します。

音量を設定する

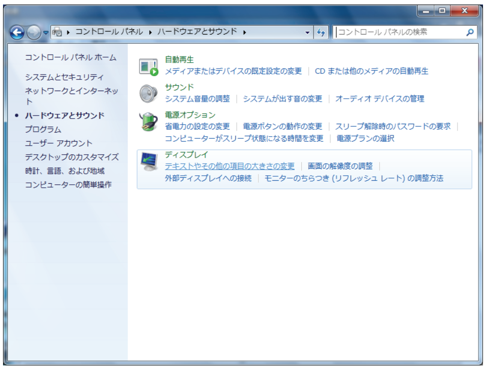
本機にスピーカーを接続しているときに設定します。

1 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックする

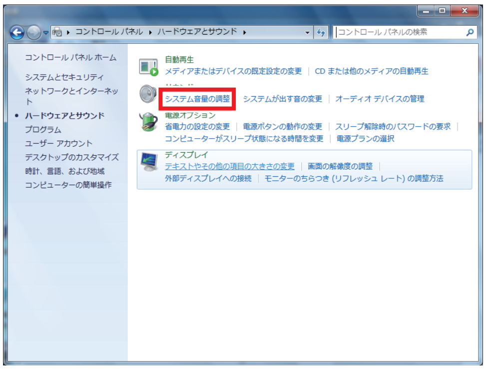
コントロールパネルが開きます。

2「ハードウェアとサウンド」をクリックする

「ハードウェアとサウンド」画面が表示されます。



3「システム音量の調整」をクリックする



「音量ミキサー」画面が表示されます。

4「デバイス（D)」の音量スライダーをドラッグして、音量を調節する

- スピーカーからの音を聞きながら調節します。

5 [✕ (閉じる）] をクリックする

本機のログインパスワードを設定する

本機を起動するときのパスワードを設定します。

パスワードを設定する

本機にログインするためのパスワードを設定します。

ご注意：

- 本機の起動後にログインしないと、ワーニングメッセージ (☞ 199 ページ) が表示されません。この場合、[WARNING] 表示灯は点灯します。

メモ：

- お買い上げ時の設定では、パスワードは設定されていません。ログイン時にパスワードを使用しない場合は、設定する必要はありません。

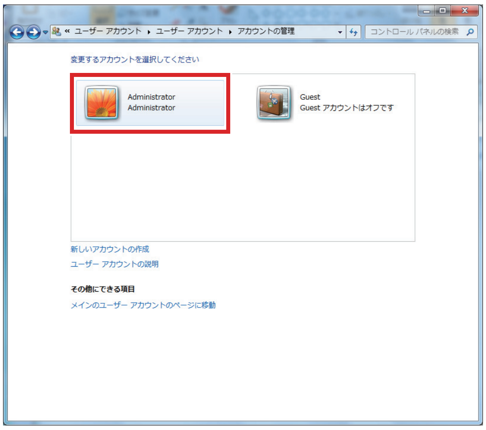
1 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックする

コントロールパネルが開きます。

2「ユーザーアカウントの追加または削除」をクリックする

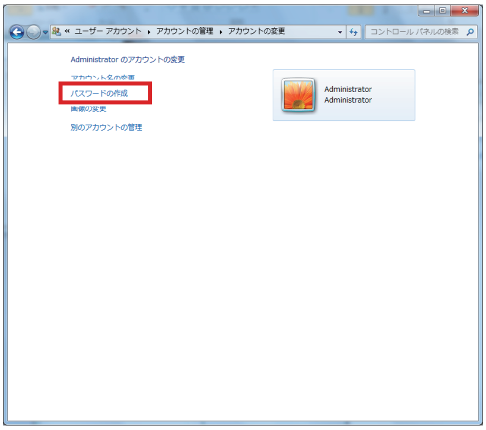
アカウント選択画面が表示されます。

3「Administrator」をクリックする



アカウント変更画面が表示されます。

4「パスワードの作成」をクリックする



本機のログインパスワードを設定する（つづき）

パスワードを設定する（つづき）

5 パスワードを入力する

● 確認のため、2 回入力します。

6 [パスワードの作成] をクリックする

パスワードが作成されました。
作成したパスワードを有効にするには、『 パスワードを有効にする 』(☞90 ページ) をご覧ください。

パスワードを有効にする

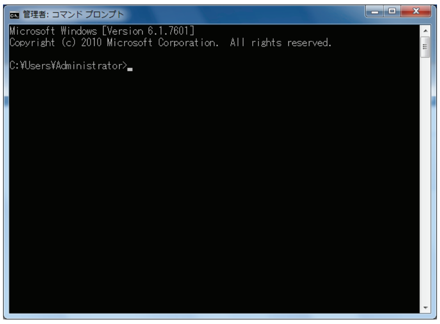
パスワードを設定したら、コマンドプロンプトでパスワードを有効にし、ログイン時にパスワード入力するように設定にします。

メモ :

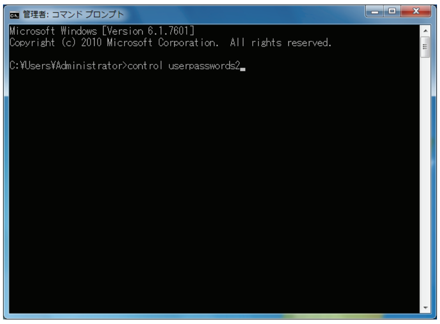
● 有効にしないと、ログイン時にエラーが表示されます。

1 デスクトップの「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」、「アクセサリ」、「コマンドプロンプト」の順にクリックする

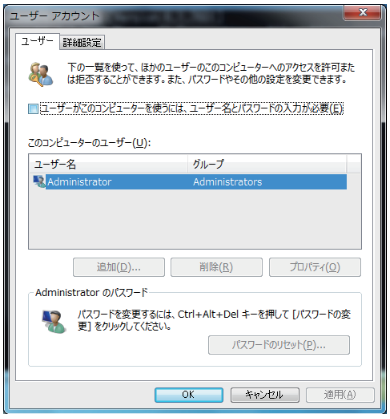
コマンドプロンプトが起動します。



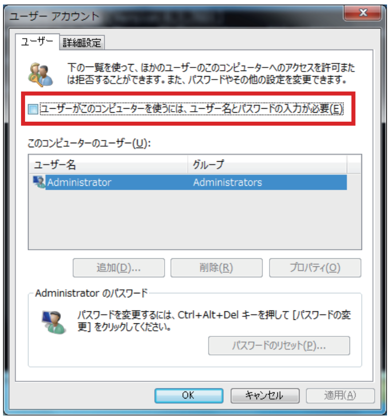
2「control userpasswords2」と入力し、キーボードの Enter キーを押す



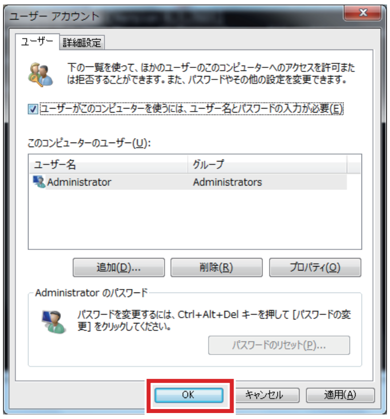
「ユーザーアカウント」画面が表示されます。



3「ユーザーがこのコンピューターを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要」にチェックをする



4 [OK] をクリックする



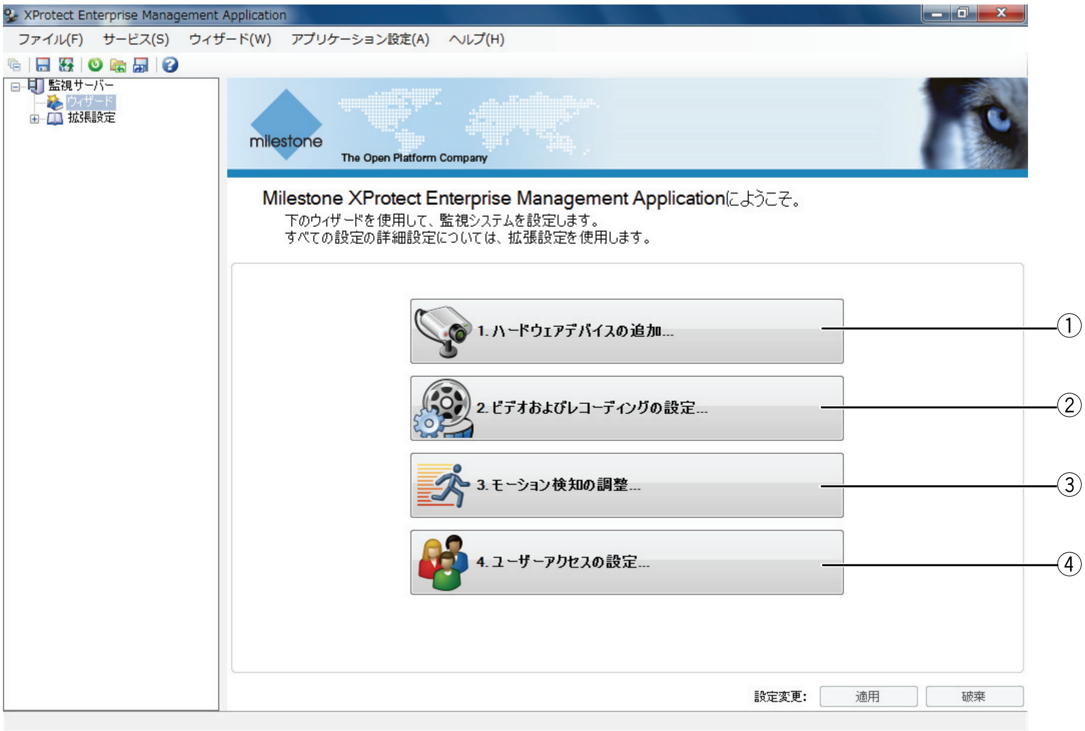
5 [(閉じる)] をクリックして、コマンドプロンプトを終了する

メモ：

- 自動ログインする場合は、手順３で「ユーザーがこのコンピューターを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要」のチェックをはずします。
- パスワード有効後の Windows のログイン画面において、画面左下の [コンピュータの簡単操作] ボタンをクリックし、「キーボードを使用せずに入力する（スクリーンキーボード)」を有効にすると、スクリーンキーボードを表示することができます。

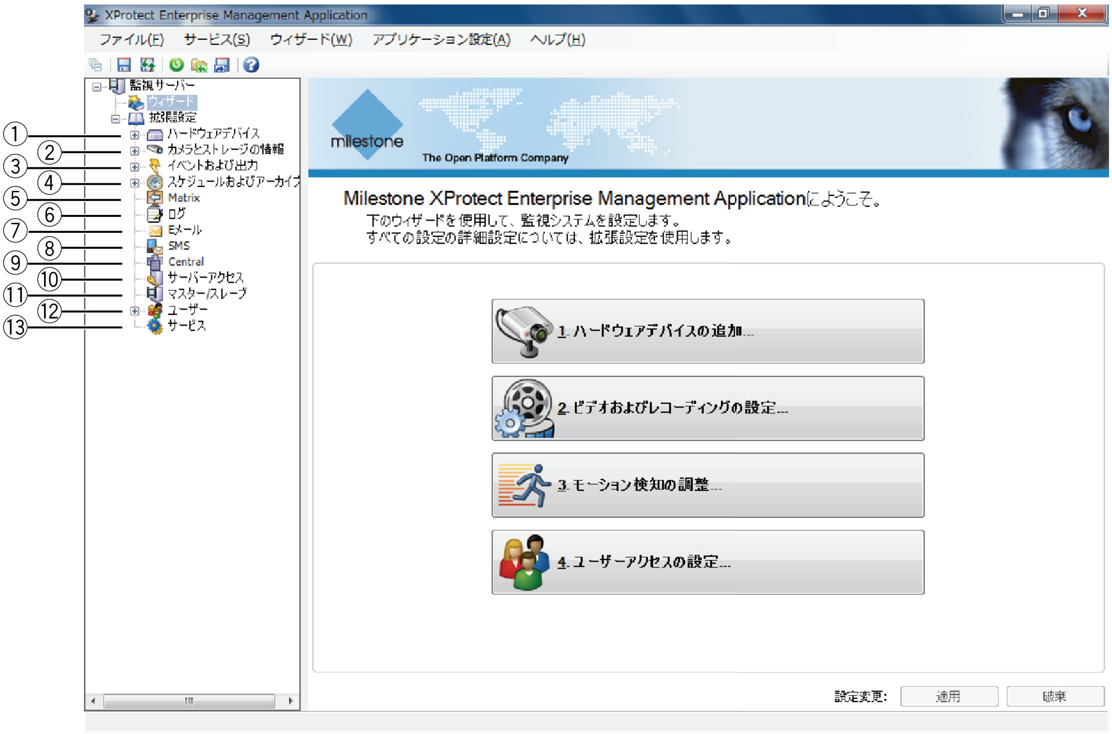
Management Application（ウィザード）

Management Application のウィザード設定では、基本項目を順に設定していくことができます。



項目	内容	参照
① ハードウェアデバイスの追加…	ネットワークカメラを登録します。	☞ 35 ページ
② ビデオおよびレコーディングの設定…	カメラの映像と録画に関する設定を行います。	☞ 36 ページ
③ モーション検知の調整…	モーション（動き）検知に関する設定をします。「ビデオおよびレコーディングの設定…」で録画の条件を「モーション」にしていない場合は、設定は不要です。	☞ 46 ページ
④ ユーザーアクセスの設定…	Smart Client を使用するユーザーの登録や、各ユーザーの権限の設定を行います。	☞ 68 ページ

Management Application（拡張設定）



項目	内容	参照
① ハードウェアデバイス	システムに接続されている機器のプロパティ表示や設定を行います。	☞ 94 ページ
② カメラとストレージの情報	カメラ映像のフレームレートや保存場所の設定を行います。	☞ 102 ページ
③ イベントおよび出力	各種イベントの設定を行います。	☞ 107 ページ
④ スケジュールおよびアーカイブ	記録、アーカイブ、通知、PTZ パトロールなど各種スケジュールの設定を行います。	☞ 109 ページ
⑤ Matrix	イベント発生時に映像を配信する Matrix 機能の設定を行います。	☞ 111 ページ
⑥ ログ	ログの保存についての設定を行います。	☞ 111 ページ
⑦ E メール	E メール通知の設定を行います。	☞ 112 ページ
⑧ SMS	SMS 通知の設定を行います。 **メモ：** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。	—
⑨ Central	Milestone 社の Milestone XProtect Central を使うための設定です。 **メモ：** ● 本機は、Central 機能には対応していません。	—
⑩ サーバーアクセス	サーバーに関する設定を行います。	☞ 113 ページ
⑪ マスター / スレーブ	複数の NVR を使用する場合のマスター / スレーブ設定を行います。	☞ 114 ページ
⑫ ユーザー	ユーザーの追加・変更や権限の変更をします。	☞ 114 ページ
⑬ サービス	Management Application の各サービスの開始や停止を行います。	☞ 115 ページ

メモ：

- 各項目をクリックすると、項目の概要が表示されます。
- 下に項目があるときは、[+] をクリックして表示させます。
- 各項目ダブルクリックすると、プロパティ画面が表示され、詳細な設定ができます。

ハードウェアデバイス

●：初期値

<table>
<tr><th colspan="4">項目</th><th>設定値</th><th>内容</th></tr>
<tr><td colspan="6">ハードウェアデバイス（ハードウェアプロパティ）</td></tr>
<tr><td rowspan="11"></td><td rowspan="2">名前とビデオチャンネル</td><td rowspan="2">ハードウェア名およびビデオチャンネル</td><td>ハードウェア名</td><td>—</td><td>名前はデバイスを他と区別するのに使います。複数のデバイスに同じハードウェアデバイス名をつけることはできません。
● 次の文字は使えません。＜＞＆ ' " ￥ / : * ？ ｜ [ ]</td></tr>
<tr><td>有効</td><td>チェック
チェックなし</td><td>このデバイスを使用するときは、チェックを入れます。
● 初期値は、デバイスによって異なります。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">ネットワーク、デバイスタイプおよびライセンス</td><td rowspan="5">ネットワーク</td><td>アドレス</td><td>—</td><td>デバイスの IP アドレスまたは DNS ホスト名。</td></tr>
<tr><td>HTTP ポート</td><td>● 80</td><td>「デフォルト HTTP ポートの使用」にチェックをすると、デバイスへの HTTP 通信をデフォルトのポート番号 80 を通して行います。他のポート番号を使用したい場合は、チェックをはずし、チェックボックスの左欄でポート番号を設定してください。「デフォルト HTTP ポートの使用」の初期値は、デバイスによって異なります。</td></tr>
<tr><td>FTP ポート</td><td>● 21</td><td>「デフォルト FTP ポートの使用」にチェックをすると、デバイスへの FTP 通信をデフォルトのポート番号 21 を通して行います。他のポート番号を使用したい場合は、チェックをはずし、チェックボックスの左欄でポート番号を設定してください。「デフォルト FTP ポートの使用」の初期値は、デバイスによって異なります。</td></tr>
<tr><td>ユーザー名</td><td>—</td><td rowspan="2">ルートアカウント (Admin アカウント、Administrator アカウント、管理者アカウントと呼ばれることもあります) を使用してデバイスにログインする場合に必要なパスワードを設定してください。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="4">デバイスタイプ</td><td colspan="2">ハードウェアタイプ</td><td>リストからデバイスの種類を選択します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">シリアル番号 (MAC アドレス)</td><td>デバイスのシリアル番号。通常はデバイスがもっている 12 文字の MAC アドレスと同じです。</td></tr>
<tr><td colspan="2">デバイスライセンスキー (DLK)</td><td>使用しません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ハードウェアデバイスの交換</td><td>使用中のデバイスを新しいデバイスに交換します
(☞121 ページ『 ハードウェアデバイスを交換する 』)。</td></tr>
</table>

項目				設定値	内容
ハードウェアデバイス（ハードウェアプロパティ）（つづき）					
	PTZ デバイス (☞ 122 ページ)	PTZ 設定	接続されているカメラには、パン / チルト / ズームの機能があります	チェック ● **チェックなし**	ネットワークエンコーダ（IP ビデオサーバー）に接続されたカメラの中に PTZ カメラがある場合は、チェックを入れます。 チェックボックスが無効の場合は、そのデバイスでは PTZ 機能が利用できません。
			COM1 での PTZ タイプ COM2 での PTZ タイプ	● **無し** JCBP-S Pelco-P Pelco-D	PTZ カメラがネットワークエンコーダ（IP ビデオサーバー）の COM1/COM2 ポートを通して制御される場合は、PTZ カメラに適合した制御方式をリストから選びます。 COM1/COM2 ポートを通して制御される PTZ カメラが 1 つもない場合は、[無し] を選びます。
			カメラ		カメラ名が表示されます
			タイプ	● **固定** 可動	カメラが [固定] か [可動] かを設定します。 固定：固定カメラ 可動：PTZ カメラ
			ポート	COM1 COM2	「タイプ」で「可動」を選択した場合のみ設定できます。 PTZ 機能を制御するのに、ネットワークエンコーダ（IP ビデオサーバー）のどのコントロールポートを使用するか設定します。
			ポートアドレス	● 0	「タイプ」で「可動」を選択した場合のみ設定できます。 カメラのポートアドレスを設定します。通常は「0」または「1」になります。 直列接続した PTZ カメラを使用している場合は、ポートアドレスでそれぞれを識別するので、カメラの [取扱説明書] で推奨されている設定を確認してください。
	魚眼	魚眼	魚眼の有効化	チェック ● **チェックなし**	魚眼機能を使用するときにチェックを入れます。
			魚眼のライセンスキー		魚眼機能を使用するためのライセンスキーを入力します。 ● ライセンスキーの購入については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

項目			設定値	内容
カメラ（カメラプロパティ）				
カメラ	ジェネリックカメラ設定	有効	チェック チェックなし	このカメラを使用するときは、チェックを入れます。 ● 初期値は、カメラによって異なります。
		カメラ	—	名前は、選択したカメラを他と区別するのに使用されます。カメラ名は重ならないようにしてください。 ● カメラ名は、カメラ自体に設定された名前ではなく、本機で識別するために設定する名前です。 ● 次の文字は使えません。＜ ＞ & ' " ￥ / : * ? ｜ [ ]
		カメラのショートカット番号	—	カメラの番号を設定します。 ● カメラ番号は、他と重ならないようにしてください。
フレームレート	フレームレートの選択（MJPEG）	通常のフレームレート： ライブフレームレート	1 ～ 10、15、20、25、30、秒、分、時間 ● 20 秒	ライブ画面のフレームレートを設定します。
		通常のフレームレート： レコーディングフレームレート	● 10.00 秒	記録するフレームレートを設定します。 ●「通常のフレームレート：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ●「通常のフレームレート：ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。
		スピードアップ	チェック ● **チェックなし**	スピードアップ機能を使用するときにチェックを入れます。 ● スピードアップ機能は、「モーション検知」または「イベント」により有効になります。
		スピードアップ設定： ライブフレームレート	● 20 秒	スピードアップ設定が有効なときの、ライブ画面のフレームレートを設定します。 ●「通常のフレームレート：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ●「通常のフレームレート：ライブフレームレート」よりも小さい値は設定できません。
		スピードアップ設定： レコーディングフレームレート	● 10.00 秒	スピードアップ設定が有効なときの、記録するフレームレートを設定します。 ●「スピードアップ設定：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ●「スピードアップ設定：ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。
		モーション検知	チェック ● **チェックなし**	モーションやイベントがあったときに、フレームレートを上げて記録するスピードアップ設定を有効にするかどうかを設定します。有効にするときは、チェックを入れます。 ●「イベント」にチェックを入れたときは、さらに開始イベントと終了イベントを設定します。
		イベント	チェック ● **チェックなし**	
		開始イベント	● －	
		終了イベント		
		イベントの設定	ハードウェア入力イベント、手動イベント、ジェネリックイベント ● －	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。

ご注意 :

● フレームレートの合計が本機の性能を超えないように設定してください。本機の性能については、『 記録 / 表示 / 配信性能 』(☞200 ページ) をご覧ください。

項目				設定値	内容
カメラ（カメラプロパティ）（つづき）					
	ビデオ	ビデオプロパティ			
			ビデオプロパティの設定	—	クリックすると、「ビデオプロパティ」画面を表示します。選択しているカメラの詳細な画像設定をします。 **メモ：** ● カメラによって、表示される項目と初期設定は異なります。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。
			プレビュー	—	プレビューを表示します。
	音声設定	音声の選択	マイク設定	—	マイクおよびスピーカーを使用するときの設定です。選択可能なマイク / スピーカーは、カメラによって異なります。
			スピーカー設定	—	
	レコーディングプロパティ	記録	レコーディング設定	常時 設定しない 条件	常時：常に画像を記録する場合にチェックを入れます。 設定しない：設定による記録を行わずに、手動で映像を記録します。 条件：記録する条件を設定します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。 ●「条件」を選んだときは、以下の設定を行います。
			組み込みモーション検知	チェック ● **チェックなし**	モーションが検知された画像をすべて記録する場合にチェックを入れます。
			イベント	チェック ● **チェックなし**	イベント発生時に記録を開始する場合にチェックを入れます。 ●「イベント」にチェックを入れたときは、さらに開始イベントと終了イベントを設定します。
			開始イベント	—	
			終了イベント		
			イベントの設定	ハードウェア入力イベント、手動イベント、ジェネリックイベント ● —	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
			プリレコーディングの有効化	チェック ● **チェックなし**	モーションまたはイベントの前後を記録することができます。発生の前後何秒間までを記録するか指定します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
			秒	—	
			ポストレコーディングの有効化	チェック ● **チェックなし**	
			秒	—	

項目				設定値	内容
カメラ（カメラプロパティ）(つづき)					
	レコーディングおよびアーカイブパス	録画設定	レコーディングパス	D:¥MediaDatabase	設定は変更しないでください。
			アーカイブパス	● **動的パスの使用**	データベースのアーカイブ先を指定します。 ● 動的パスを使用しているときは指定できません。
			保存期間	日、時間、分 ● **7 日**	一定の記録時間に達するまで、記録をデータベースに保存します。となりの欄で記録時間を指定し、時間の単位 (分、時間、日) をリストから選択します。
			データベース修復アクション	● **修復。不可能な場合はスキャンし、消去します** 修復。不可能な場合は消去します 修復。不可能な場合はアーカイブします 削除 (修復せず) アーカイブ (修復無し)	データベースに問題が発生した場合、どうするか選択します。選択肢の数は、アーカイブが有効かどうかによって変わります。 **ご注意 :** ● 通常は「アーカイブ (修復無し)」を選択してください。他の選択肢を選択した場合は、最悪の場合データベースに問題が発生した場合に消去されてしまうことがあります。 修復。不可能な場合はスキャンし、消去します : 簡易版 (修復) と詳細版 (スキャン) の、2 種類の修復方法が試されます。そのどちらもうまくいかなかった場合は、データベースの内容を削除します。 修復。不可能な場合は消去します : 簡易版の修復が試されます。うまくいかなかった場合は、データベースの内容を削除します。 修復。不可能な場合はアーカイブします : カメラのアーカイブが有効の場合のみ選択できます。簡易版の修復が試されます。うまくいかなかった場合は、データベースの内容をアーカイブします。 削除 (修復せず): 選択しないでください。 アーカイブ (修復無し): カメラのアーカイブが有効の場合のみ選択できます。データベースの内容をアーカイブします。**通常はこれを選択してください。**

項目				設定値	内容
カメラ（カメラプロパティ）(つづき)					
	すべてのカメラのジェネリックアーカイブ設定				すべてのカメラに共通のアーカイブ設定をします。
		動的パスの選択 - 全カメラ	アーカイブでの動的パスの選択を有効化します	● **チェック** チェックなし	アーカイブ先のドライブを登録リストから自動選択するときにチェックを入れます。 登録されたアーカイブ先は、ドライブ、パス、ドライブ容量、空きスペースとともにリストに表示されます。 「使用」のチェックをはずすと、選択されなくなります。
			使用	● **チェック** チェックなし	
			ドライブ	—	
			パス	—	
			ドライブ容量	—	
			空きスペース	—	
			新規 UNC パス	—	動的パスによる自動選択に登録したいドライブパスを入力します。
	イベント通知	イベント通知	使用可能なイベント	ハードウェア 手動 ジェネリック	ある特定のイベントが発生した時にライブ映像表示画面上部のタイトルバーエリアに黄色の表示を行うことができます。 ● 「使用可能なイベント」リスト内のイベントを選び、「選択されたイベント」リスト内に移動させます。
			選択されたイベント	● **なし**	
			イベントの設定	ハードウェア入力イベント、手動イベント、ジェネリックイベント ● —	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
	出力	出力のアクティブ化	使用可能な出力	● **なし**	使用できる出力ポートを表示します。
			手動による	● **なし**	特定のイベントや手動イベントが起こったときに、出力させる出力ポートを設定します。
			検知された動作	● **なし**	モーション検知したときに、出力させる出力ポートを設定します。
			イベントの設定	ハードウェア入力イベント、手動イベント、ジェネリックイベント ● —	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
	モーション検知と除外エリア (☞ 46 ページ)	モーション検知	感度	0 ～ 256 ● **40**	画像ピクセル内の変化のどのレベルをモーションと認識するかを設定します。数値が小さいほど感度が上がり、ピクセルのわずかな変化をモーション変化と認識します。
			モーション	0 ～ 10000 ● **640**	何ピクセルの変化をモーション変化と判断するかを設定します。スライダーを左右に移動させると画面下のラインが移動し、境界線 (しきい値) の調整を行います。検出されるモーション (動き) を表示するバー (緑) がしきい値を超えると赤色に変化し、モーション検知があったことを示します。
			モーション検知間隔	● **240 ミリ秒**	モーション検知の間隔を設定します。
		領域の除外	有効	チェック ● **チェックなし**	モーション検知を働かせない領域を設定するときにチェックをします。
			グリッドを表示	チェック ● **チェックなし**	チェックをすると、プレビュー画像にグリッドが表示されます。

項目			設定値	内容
カメラ（カメラプロパティ）(つづき)				
PTZ 設定 (☞ 41 ページ)	PTZ プレビュー		—	PTZ カメラを希望の位置に向けます。
	音声の選択	マイク設定	—	マイクおよびスピーカーを使用するときの設定です。選択可能なマイク / スピーカーは、カメラによって異なります。
		スピーカー設定	—	
	PTZ プリセット位置	PTZ タイプ	タイプ 1（サーバーに保存） タイプ 2（カメラに保存） タイプ 3（カメラに保存）	タイプ 1（サーバーに保存）：プリセット位置を本機で設定・保存します。 タイプ 2（カメラに保存）：[インポート / 更新] をクリックして、プリセット位置をカメラから読み込みます。プリセット位置は、本機に保存されます。 タイプ 3（カメラに保存）：[インポート / 更新] をクリックして、プリセット位置をカメラから読み込みます。プリセット位置は、カメラに保存されます。 **メモ：** ● JVC のカメラをお使いの場合、プリセット位置精度の高い「タイプ 3」に設定することをおすすめします。（カメラによっては選択できません。）
		新規追加	—	設定中のプリセット位置をリストに追加します。
		新しい位置を設定	—	リストで選んだプリセット位置を修正します。位置の修正は、PTZ プレビュー画面で行います。
		削除	—	リストで選んだプリセット位置を削除します。
		テスト	—	プリセット位置をテストします。
PTZ パトロール (☞ 43 ページ)	パトロールプロファイル		—	設定済みのパトロールの表示と新規パトロールプロファイルの作成をします。
		パトロールプロファイル	—	設定済みのパトロールプロファイルを表示します。
		新規追加	—	新しくパトロールプロファイルを作成します。
		削除	—	リストで選んだパトロールプロファイルを削除します。
	パトロールリスト		—	パトロール内容を編集します。
		プリセットポジションリスト	—	選択したカメラに登録済みのプリセット位置を表示します。パトロールに追加するプリセット位置を選択し、[ ] をクリックすると、パトロールに追加されます。
		パトロールリスト	—	パトロールに登録されたプリセット位置を表示します。パトロールから削除するときは、削除するプリセット位置を選択し、[ ] をクリックします。
		待ち時間（秒）	● 10	各プリセット位置でカメラが停止する時間を設定します。
		移行時間（秒）	● 5	各プリセット位置間をカメラが移動する時間を設定します。この間は、モーション検知は行いません。

項目				設定値	内容
カメラ（カメラプロパティ）(つづき)					
	PTZ パトロール（つづき）	PTZ スキャン		チェック **●チェックなし**	PTZ スキャン機能を持ったカメラの場合に、チェックをしてスキャンの速度を設定します。
			（速度）	高速 **●中速** 低速	
		パトロールの一時停止	モーションが検知された場合のパトロールの一時停止	チェック **●チェックなし**	チェックをすると、モーション検知時にパトロールを一時停止します。
			パトロールの再開	最初のモーション検知後の秒数	モーション検知で一時停止したパトロールを再開するタイミングを設定します。
				最後のモーション検知後の秒数	
			PTZ パトロールの再開前	**● 30 秒**	手動での PTZ 操作またはイベントで中断されたパトロールを再開するタイミングを設定します。
	イベントでの PTZ(☞ 54 ページ)		イベント	**●なし**	イベントで PTZ カメラを移動する場合の、イベントとプリセット位置の組み合わせを設定します。
			PTZ プリセット位置	**●なし**	

カメラとストレージの情報

●：初期値

項目			設定値	内容
レコーディングおよびアーカイブパス				
	テンプレート			テンプレートの設定を表示します。
		レコーディングパス	D:¥MediaDatabase	設定は変更しないでください。
		アーカイブパス	● **動的パスの使用**	データベースのアーカイブ先を指定します。 ● 動的パスを使用しているときは指定できません。
		保持期間	日、時間、分 ● **7日**	一定の記録時間に達するまで、記録をデータベースに保存します。記録時間を入力し、時間の単位 (分、時間、日) をリストから選択します。
	（カメラごと）			カメラごとに設定を行います。
		テンプレートを適用	チェック ● **チェックなし**	テンプレートの設定を適用するときにチェックを入れます。 **メモ：** ● ［全て選択］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスにチェックできます。 ● ［全てクリアする］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずすことができます。
		カメラ名	—	カメラ名を表示します。
		ショートカット	—	カメラの番号を設定します。 ● カメラ番号は、他と重ならないようにしてください。
		レコーディングパス	D:¥MediaDatabase	設定は変更しないでください。
		アーカイブパス	● **動的パスの使用**	データベースのアーカイブ先を指定します。 ● 動的パスを使用しているときは指定できません。
		保持期間	日、時間、分 ● **7日**	一定の記録時間に達するまで、記録をデータベースに保存します。となりの欄で記録時間を指定し、時間の単位 (分、時間、日) をリストから選択します。
		カメラ	開く	「カメラプロパティ」画面を表示します。
動的パスの選択 - アーカイブ				
	動的パスの選択 - 全カメラ	アーカイブでの動的パスの選択を有効化します	チェック チェックなし	アーカイブ先のドライブを登録リストから自動選択するときにチェックを入れます。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
		使用	—	登録されたアーカイブ先は、ドライブ、パス、ドライブ容量、空きスペースとともにリストに表示されます。 「使用」のチェックをはずすと、選択されなくなります。
		ドライブ	—	
		パス	—	
		ドライブ容量	—	
		空きスペース	—	
		新規 UNC パス	—	動的パスによる自動選択に登録したいドライブパスを入力します。

項目			設定値	内容
ビデオレコーディング				
	テンプレート			テンプレートの設定を表示します。
		レコード対象	常時 設定しない ● **モーション検知** イベント イベントおよびモーションの検知	録画の方法を選択します。
		開始イベント	● **選択なし**	録画を開始するイベント、終了するイベントを設定します。
		終了イベント		
		プレレコーディング	チェック ● **チェックなし**	モーションまたはイベントの前後を記録することができます。発生の前後何秒間までを記録するか指定します。
		秒	● **3**	
		ポストレコーディング	● **チェック** チェックなし	
		秒	● **3**	
	（カメラごと）			カメラごとに設定を行います。
		テンプレートを適用	チェック ● **チェックなし**	テンプレートの設定を適用するときにチェックを入れます。 **メモ：** ● ［全て選択］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスにチェックできます。 ● ［全てクリアする］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずすことができます。
		レコード対象	常時 設定しない ● **モーション検知** イベント イベントおよびモーションの検知	録画の方法を選択します。
		開始イベント	● **選択なし**	録画を開始するイベント、終了するイベントを設定します。
		終了イベント		
		プレレコーディング	チェック ● **チェックなし**	モーションまたはイベントの前後を記録することができます。発生の前後何秒間までを記録するか指定します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
		秒	—	
		ポストレコーディング	● **チェック** チェックなし	
		秒	—	
手動レコーディング				
	手動レコーディング	手動レコーディングの有効化	チェック チェックなし	手動録画機能を使うときにチェックを入れます。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
		手動レコーディングのデフォルト継続時間	● **300 秒**	手動録画の録画時間を決めます。決定した時間が過ぎると、自動で録画は終了します。
		手動レコーディングの最長継続時間	● **1800 秒**	手動録画の最長時間を決めます。

項目				設定値	内容
フレームレート - MJPEG					
	フレームレート（MJPEG）				
		通常のフレームレート			
			ライブフレームレート	1 ～ 10、15 ● 20、25、30	通常時のライブ画面のフレームレートを設定します。 メモ： ● 有効な設定値はカメラによって異なります。カメラの取扱説明書をご覧になり、有効な設定値を確認してから設定してください。
			レコーディングのフレームレート	● 10.00	通常時の記録するフレームレートを設定します。 ●「通常のフレームレート：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ●「通常のフレームレート：ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。 メモ： ● 有効な設定値はカメラによって異なります。カメラの取扱説明書をご覧になり、有効な設定値を確認してから設定してください。
			時間単位	● 秒 分、時間	時間単位を設定します。
			テンプレートを適用	チェック ● チェックなし	カメラごとに設定を行う場合、テンプレートを使用するときはチェックを入れます。 メモ： ●［全て選択］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスにチェックできます。 ●［全てクリアする］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずすことができます。
			カメラ	開く	「カメラプロパティ」画面を表示します。
		スピードアップ設定			
			スピードアップの有効化	チェック ● チェックなし	スピードアップを有効にします。
			ライブフレームレート	● 20	スピードアップ設定が有効なときの、ライブ画面のフレームレートを設定します。 ●「通常のフレームレート：ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ●「通常のフレームレート」の「ライブフレームレート」よりも小さい値は設定できません。 ご注意： ● フレームレートの合計が本機の性能を超えないように設定してください。本機の性能については、『 記録 / 表示 / 配信性能 』(☞200 ページ) をご覧ください。
			レコーディングのフレームレート	● 10.00	スピードアップ設定が有効なときの、記録するフレームレートを設定します。 ●「スピードアップ設定」の「ライブフレームレート」の設定によって、設定できる値が変わります。 ●「スピードアップ設定」の「ライブフレームレート」よりも大きい値は設定できません。 ご注意： ● フレームレートの合計が本機の性能を超えないように設定してください。本機の性能については、『 記録 / 表示 / 配信性能 』(☞200 ページ) をご覧ください。
			時間単位	● 秒 分、時間	時間単位を設定します。

項目				設定値	内容
フレームレート - MJPEG（つづき）					
	フレームレート（MJPEG）（つづき）				
		スピードアップ設定（つづき）			
			スピードアップをオン	モーション検知 ●イベント イベントおよびモーションの検知 スケジュールのみ	スピードアップ設定をいつオンにするかを設定します。
			開始イベント 終了イベント	● 選択なし	「スピードアップをオン」を「イベント」または「イベントおよびモーションの検知」に設定したときに、開始 / 終了イベントを選択します。
			テンプレートを適用	チェック ● チェックなし	カメラごとに設定を行う場合、テンプレートを使用するときはチェックを入れます。 **メモ：** ● ［全て選択］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスにチェックできます。 ● ［全てクリアする］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずすことができます。
			カメラ	開く	「カメラプロパティ」画面を表示します。
フレームレート - MPEG					
	フレームレート（MPEG）		ライブ FPS	1 ～ 10、15、20	ライブ画面のときのフレームレートを設定します。 **メモ：** ● 有効な設定値はカメラによって異なります。カメラの取扱説明書をご覧になり、有効な設定値を確認してから設定してください。
			キーフレームのみの録画	チェック ● チェックなし	キーフレーム（I フレーム）のみを録画するときにチェックを入れます。
			すべてのフレームの録画	モーション検知 イベント イベントおよびモーションの検知 ● スケジュールのみ	「キーフレームのみの録画」にチェックをした場合に、すべてのフレームを録画するときの条件を選択します。
			開始イベント 終了イベント	● 選択なし	録画を開始するイベント、終了するイベントを設定します。
			テンプレートを適用	チェック ● チェックなし	カメラごとに設定を行う場合、テンプレートを使用するときはチェックを入れます。 **メモ：** ● ［全て選択］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスにチェックできます。 ● ［全てクリアする］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずすことができます。
			カメラ	開く	「カメラプロパティ」画面を表示します。

項目			設定値	内容
音声の選択				
	音声の選択	デフォルトのマイク	● **なし**	マイクおよびスピーカーを使用するときの設定です。
		デフォルトのスピーカー	● **なし**	
		テンプレートを適用	チェック ● **チェックなし**	カメラごとに設定を行う場合、テンプレートを使用するときはチェックを入れます。 **メモ：** ● ［全て選択］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスにチェックできます。 ● ［全てクリアする］をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスのチェックをはずすことができます。
		カメラ	開く	「カメラプロパティ」画面を表示します。
音声のレコーディング				
	音声のレコーディング	音声の録音－すべてのカメラ	● **常時** 設定しない	映像とともに音声を記録するかどうかを選択します。
ストレージ情報				
	ストレージ情報	ドライブ		現在使用中のストレージの情報が表示されます。ドライブごとに、パス、容量、ビデオデータ量、その他のデータ量、空きスペースが表示されます。
		パス		
		使用		
		ドライブ容量		
		ビデオデータ		
		その他のデータ		
		空きスペース		

イベントおよび出力

●：初期値

項目			設定値	内容
ポートとポーリング				
ポートとポーリング	アラートポートおよびジェネリックイベントポート		1 ～ 65535 ● 1234	ジェネリックイベントなど、イベントによる警告を扱うポート番号を設定します。
	SMTP イベントポート		1 ～ 65535 ● 25	デバイスから監視システムに SMTP を介してイベント情報を送信する際のポート番号を設定します。
	FTP イベントポート		1 ～ 65535 ● 21	デバイスから監視システムに FTP を介してイベント情報を送信する際のポート番号を設定します。
	ポーリング間隔 [1/10] 秒		● 10（1 秒）	いくつかのデバイスにおいては、入力が受信されたかどうか検知するため、監視システムかデバイスの入力ポートの状態をチェックする必要があります。そのような定期的な状態チェックを「ポーリング」と呼びます。 ● 入出力機器についてはポーリング間隔をできるだけ短く設定してください。 ● ポーリングを必要とするデバイスについては入出力機器の取扱説明書をご覧ください。
ハードウェア入力イベント (☞ 50 ページ)				
(ハードウェアデバイス名)	イベント設定	イベントの有効化	● チェック チェックなし	イベント機能を使用するときにチェックを入れます。 **メモ :** ● 以下の設定項目は、選択したイベントによって異なります。
		イベント名	イベント名を設定します。 ● 次の文字は使えません。＜＞＆ ' " ￥ / : * ？ ｜ [ ]	
	プレ / ポストアラーム画像	カメラからの画像	—	画像を取得するカメラを選択します。
		プリアラーム画像の数	● 3	画像の取得枚数を設定します。
		1 秒あたりのフレーム	● 1	画像のフレーム数を設定します。
	E メール通知	このイベントが発生すると、E メールを送信します	チェック ● チェックなし	イベント発生時に E メールを送信するときにチェックを入れます。
		カメラからの画像を添付します	チェック ● チェックなし	E メールに画像を添付するときにチェックをして、プルダウンから画像の添付元を選択します。
	SMS 通知	イベント発生時、SMS を送信する	チェック ● チェックなし	**メモ :** ● 本機は SMS での通知には対応していません。
	システムモーション検知イベント	カメラにシステムモーション検知イベントを作成します	チェック ● チェックなし	モーション検知時のイベントを作成するときチェックを入れます。
ハードウェア出力 (☞ 58 ページ)				
(ハードウェアデバイス名)	出力設定	出力名	出力の名前を設定します。 ● 次の文字は使えません。＜＞＆ ' " ￥ / : * ？ ｜ [ ]	
		出力接続先	出力の接続先を選択します。	
		出力維持時間	出力を保持する時間を、1/10 秒または秒単位で設定します。	
		テスト出力	クリックすると、出力の設定をテストすることができます。	

項目			設定値	内容
手動イベント (☞ 52 ページ)				
グローバル /（手動イベント名）	イベント設定	イベント名		イベント名を設定します。 ● 次の文字は使えません。＜ ＞ ＆ ' " ￥ / : * ? ｜ [ ]
	E メール通知	このイベントが発生すると、E メールを送信します	チェック **● チェックなし**	イベント発生時に E メールを送信するときにチェックを入れます。
		カメラからの画像を添付します	チェック **● チェックなし**	E メールに画像を添付するときにチェックをして、プルダウンから画像の添付元を選択します。
	SMS 通知	イベント発生時、SMS を送信する	チェック **● チェックなし**	**メモ :** ● 本機は SMS での通知には対応していません。
ジェネリックイベント (☞ 48 ページ)				
（ジェネリックイベント名）	イベント設定	イベント名	—	イベントの名前を設定します。 ● 次の文字は使えません。＜ ＞ ＆ ' " ￥ / : * ? ｜ [ ]
		イベントの部分列	—	受信した文字列の解析時にキーワードとなる語句を入力します。入力した語句は、[追加] をクリックすると、「イベントメッセージの表現」に追加されます。 ● 次の文字は使えません。＜ ＞ ＆ ' " ￥ / : * ? ｜ [ ]
		イベントメッセージの表現	—	追加した語句が表示されます。次のボタンを使って条件を編集します。 ● ( ) : 関連する語句をひとまとまりにしてます。( ) でまとめられた語句は、他の語句に優先して処理されます。 ● AND : 両方とも含む必要がある語句のあいだに追加します。 ● OR : いずれかを含む必要がある語句のあいだに追加します。 ● 削除 : カーソルの左側の語句を削除します。
		イベントプロトコル	何れでも **● TCP** UDP	イベントを検知するのに、本機が受信するプロトコルを選択します。
		イベントルール	一致 **●検索**	受信データを解析する際のルール（完全一致したデータを解析するか、部分一致したデータを解析するか）を設定します。
		優先イベント	0 ～ 1000 **● 0**	各イベントに優先順位をつけて、受信データが複数のイベントルールに合致する場合に作動させるイベントを決定します。
	E メール通知	このイベントが発生すると、E メールを送信します	チェック **● チェックなし**	イベント発生時に E メールを送信するときにチェックを入れます。
		カメラからの画像を添付します	チェック **● チェックなし**	E メールに画像を添付するときにチェックをして、プルダウンから画像の添付元を選択します。
	SMS 通知	イベント発生時、SMS を送信する	チェック **● チェックなし**	**メモ :** ● 本機は SMS での通知には対応していません。

項目				設定値	内容
イベントでの出力コントロール					
	イベントの出力	イベントで出力をアクティブ化	イベント	—	設定済のイベントと出力の組合せを設定します。
			出力	—	
		イベントの設定		I/O 入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
		出力の設定		—	出力設定画面 (☞ 107 ページ『 ハードウェア出力 』) を表示します。

スケジュールおよびアーカイブ

●：初期値

項目				設定値	内容
すべてのカメラのスケジュール (☞ 125 ページ)					
	すべてのカメラをスケジュール				カメラごとに、オンライン、スピードアップ、E メール /SMS 送信、PTZ パトロールのスケジュールを選択します。 **メモ :** ● 本機は SMS での通知には対応していません。
		オンライン		● **常にオフ** 常にオン	
		スピードアップ			
		E メール			
		SMS			
		PTZ パトロール		● **なし**	
		（カメラごとに）テンプレートを適用		チェック ● **チェックなし**	カメラごとに設定を行う場合、テンプレートを使用するときはチェックを入れます。
スケジュールオプション					
	スケジュールオプション		クライアント要求時のカメラ起動	チェック ● **チェックなし**	ビューワーからのリクエストに応じてカメラを起動させるときはチェックを入れます。
			新規カメラのスケジュールオプション	常にオフ 常にオン	カメラを新規に追加したときのスケジュールの初期値を設定します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
	ハードウェアデバイスの通信		再接続試行間の最大遅延	● 10	再接続の最大遅延時間を設定します。
			デフォルトの復元	—	再接続の最大遅延時間を初期設定に戻します。
アーカイブ中					
	アーカイブ時刻			● 12:00:00	アーカイブの時刻を設定します。
	障害通知のアーカイブ		アーカイブ障害時に E メールを送信します	● **チェック** チェックなし	アーカイブ作業中に障害が発生した場合に、E メールを送信するときはチェックを入れます。
			アーカイブ障害時に SMS を送信	● **チェック** チェックなし	**メモ :** ● 本機は SMS での通知には対応していません。

項目		設定値	内容
（カメラ名）			
オンライン期間 (☞ 127 ページ)			
オンラインスケジュール	スケジュールプロファイル	**● 常にオン** 常にオフ	スケジュールプロファイルを選択します。
定刻時にカメラを起動 / 停止		**● チェック** チェックなし	規定の時間にカメラを起動 / 停止させます。
イベント時にカメラを起動 / 停止に設定		チェック **● チェックなし**	イベント発生時にカメラを起動 / 停止させます。
開始イベント		—	開始イベント、終了イベントを設定します。
終了イベント		—	
イベントの設定		ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。
開始時間		0:00 〜 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
終了時間			
日		月曜日〜日曜日、平日、毎日	期間を設定します。
スピードアップ (☞ 127 ページ)			
スケジュールをスピードアップ	スケジュールプロファイル	常にオフ 常にオン	スケジュールプロファイルを選択します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
開始時間		0:00 〜 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
終了時間			
日		月曜日〜日曜日、平日、毎日	期間を設定します。
E メール通知 (☞ 127 ページ)			
E メールスケジュール	スケジュールプロファイル	常にオフ 常にオン	スケジュールプロファイルを選択します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
開始時間		0:00 〜 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
終了時間			
日		月曜日〜日曜日、平日、毎日	期間を設定します。
SMS 通知			**メモ：** ● 本機は SMS での通知には対応していません。
SMS スケジュール	スケジュールプロファイル	常にオフ 常にオン	スケジュールプロファイルを選択します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
開始時間		0:00 〜 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
終了時間			
日		月曜日〜日曜日、平日、毎日	期間を設定します。
PTZ パトロール (☞ 128 ページ)			
PTZ パトロールスケジュール	スケジュールプロファイル	**● なし**	スケジュールプロファイルを選択します。 ● 初期設定は、カメラによって異なります。
パトロールプロファイル		—	パトロールプロファイルを選択します。
開始時間		0:00 〜 23:59	開始時間と終了時間を設定します。
終了時間			
日		月曜日〜日曜日、平日、毎日	期間を設定します。

Matrix

●：初期値

項目			設定値	内容
Matrix 受信者 (☞ 55 ページ)				
	Matrix 受信者	Matrix を有効化	チェック ● チェックなし	イベント発生時に映像を配信する Matrix 機能を有効にします。
		名前	—	Matrix 機能で配信される映像の受信者を設定します。
		アドレス	—	
		ポート	—	
		パスワード	—	
		Matrix の受信者は Smart Client です	● チェック チェックなし	
Matrix イベントコントロール (☞ 55 ページ)				
	Matrix イベントコントロール	イベントの設定	ハードウェア入力イベント 手動イベント ジェネリックイベント	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。

ログ

●：初期値

項目			設定値	内容
ログ (☞ 132 ページ)				
	ログ	保存先	● L:¥Log¥MS	システムログの保存先を指定します。
		ログ保存日数	● 10	システムログを保存する日数を指定します。
	イベントログ	保存先	● L:¥Log¥MS	イベントログの保存先を指定します。 **ご注意 :** ● 設定は変更しないでください。
		ログ保存日数	● 10	イベントログを保存する日数を指定します。
	監査ログ	監査ロギングの有効化	チェック ● チェックなし	クライアントパソコンユーザーに関するログファイルの設定を行います。 ログを有効にするときはチェックを入れます。
		保存先	● L:¥Log¥MS¥ISAuditLog	監査ログの保存先を指定します。
		ログ保存日数	● 10	監査ログを保存する日数を指定します。
		最小ロギング間隔	● 60	ログを取得する最小間隔を指定します。
		シーケンスの時間帯で	● 10	同一シーケンスと見なす最大閲覧時間を指定します。

E メール

●：初期値

項目			設定値	内容
E メール (☞ 62 ページ)				
	E メール設定	E メールの有効化（Recording Server）	チェック **● チェックなし**	Management Application から E メールを送信するときにチェックを入れます。
		E メールの有効化（Viewer）	チェック **● チェックなし**	Smart Client から E メールを送信するときにチェックを入れます。
		受信者	—	送信先のメールアドレスを入力します。複数の送信先を指定する場合は、セミコロンを入れてアドレスを続けて入力します。
		件名	—	件名を入力します。
		メッセージ	—	送信内容を入力します。
		画像を含む	チェック **● チェックなし**	送信メッセージに画像を含む場合、チェックを入れます。
		カメラ故障時には E メールを送信しないでください	**● チェック** チェックなし	カメラの故障時に、メール送信を行わないときにチェックを入れます。
		カメラごとのモーションおよびデータベース関連のメール送信間の時間	● 0	メールを送信するインターバルを分単位で設定します。
		テスト	—	E メールをテスト送信します。
	メールサーバー設定	送信者の E メールアドレス	—	送信者のメールアドレス、出力メール (SMTP) サーバー名、メールサーバーへのログイン設定を入力します。
		出力メール（SMTP）サーバー名	—	
		サーバーのログインが必要です	チェック **● チェックなし**	
		ユーザー名	—	
		パスワード	—	

サーバーアクセス

●：初期値

項目			設定値	内容
サーバーアクセス				
	サーバーアクセス	サーバー名	● Server	サーバー名を設定します。
		ローカルポート	● 80	サーバー用に使用するポート番号を設定します。
		インターネットアクセスの有効化	チェック ● チェックなし	インターネットに接続されている監視用パソコンから、ルーターやファイアーウォールを通してインターネット経由で本機に接続できるようにする場合はチェックを入れます。 チェックを入れた場合は、インターネットアドレス欄にルーターまたはファイアーウォールのインターネット側のグローバル IP アドレスを、インターネットポート欄に監視用パソコンがアクセスするためのポート番号を指定してください。インターネットに接続された監視用パソコンからのアクセスを許可する場合は、ルーターやファイアウォールで適切なポートフォワーディングの設定を行なってください。 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
		インターネットアドレス	—	インターネットで本機に接続する際のグローバル IP アドレス、あるいはホスト名を指定します。
		インターネットポート	—	インターネットで本機に接続する際のポート番号を指定します。
		最大クライアント数	● 11	同時接続できる Smart Client の最大ユーザー数を指定します。本機でライブ画面、再生画面で Smart Client を使う場合もユーザー数に含まれます。11 以上を設定しないでください。
ローカル IP 範囲				
	ローカル IP 範囲	開始アドレス 終了アドレス	インターネットから本機へのアクセスが有効で、かつローカルネットワーク内の監視用パソコンから本機に接続する必要がある場合に設定します。 [追加] をクリックして、監視用パソコンの IP アドレスの範囲を指定してください。IP アドレス範囲は、必要なだけ設定することができます。 ● 1 つの IP アドレスを設定することも可能です。(例 :192.168.10.1 ～ 192.168.10.1)	
言語サポートと XML エンコーディング				
	言語サポート	言語	カメラ名、ユーザー名、パスワード用に使用する言語 (ローカル・キャラクターセット) を選択します。 IBM EBCDIC（UK - ヨーロッパ）（IBM01146） IBM EBCDIC（UK）（IBM285） ⋮ 日本語（EUC）（euc-jp） 日本語（JIS 0208-0990 および 0212-1990）（EUC-JP） 日本語（JIS1 バイト カタカナ可 - SO/SI）（iso-2022-jp） 日本語（JIS1 バイト カタカナ可）（csISO2022JP） 日本語（JIS）（iso-2022-jp） 日本語（MAC）（x-mac-japanese） ● 日本語（シフト JIS）（shift_jis） ⋮ 韓国語（MAC）（x-mac-korean） 韓国語 Wansung (x-cp20949) **ご注意 :** ● 必ず「日本語（シフト JIS）（shift_jis)」に設定してご使用ください。「日本語（シフト JIS）(Shift-jis)」以外で使用すると、正しく動作しません。	

マスター / スレーブ

●：初期値

項目			設定値	内容
マスターサーバー (☞ 66 ページ)				
	マスターサーバー	マスターサーバーとして有効化	チェック ● **チェックなし**	本機を複数利用するときのマスター / スレーブ設定です。本機をマスターサーバーとして使用するときにチェックを入れます。
	追加		—	スレーブサーバーを新しく追加します。
（スレーブサーバー）(☞ 67 ページ)				
	（スレーブサーバー 1）	アドレス	—	スレーブサーバーのアドレスとポートを登録します。
		ポート	● 80	

ユーザー

●：初期値

項目				設定値	内容
管理者 (☞ 72 ページ)					
	管理保護				
		管理保護	有効	チェック ● **チェックなし**	Management Application の起動セキュリティを設定する場合にチェックをして、パスワードを設定します。 設定すると、Management Application の起動時にログイン画面が表示され、パスワードの入力が必要になります。
		パスワードの変更	以前のパスワード	—	
			新規パスワード	—	
			パスワードの確認	—	
（ユーザー名）					
	ユーザー情報				
		ユーザーアクセスの概要		—	登録済みユーザーの名前や種類、アクセス権限を一覧表示します。 お買い上げ時は、次のユーザーが設定されています。 ● ユーザー名：Administrator パスワード：なし ユーザータイプ：Windows ユーザー ● ユーザー名：admin パスワード：jvc ユーザータイプ：基本ユーザー
		グループアクセスの概要		—	登録済みグループの名前や登録されているユーザー、アクセス権限を一覧表示します。
		管理保護の概要		—	Management Application の起動セキュリティ設定を表示 / 変更します。
		ユーザー情報	ユーザー名	—	ユーザーアカウントを作成します。
			パスワード	—	
			パスワード（確認）	—	
			ユーザータイプ	—	ユーザーのタイプを表示します。
	ジェネリックアクセスプロパティ (☞ 69 ページ)				
		ジェネリックアクセス設定		ユーザーごとに、Smart Client の機能の使用権限を設定します。 チェックがはずれた機能は使用できません。	
			ライブ	● **チェック** チェックなし	ライブ映像を見ることができます。
			再生		記録画像を再生することができます。
			設定		画面表示設定タブを使うことができます。
			共有ビューの編集		共有グループ内ビューを作成・編集することができます。
			プライベートビューの編集		プライベートビューを作成・編集することができます。

項目				設定値	内容
（ユーザー 1）（つづき）					
カメラアクセス (☞ 69 ページ)					
カメラのアクセス設定	（カメラ名）			● **チェック** チェックなし	全カメラまたはカメラごとに、Smart Client の機能の使用権限を設定します。チェックがはずれた機能は使用できません。 **メモ：** ● 初期設定は、カメラによって異なります。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。
	新規カメラがシステムに追加された場合の、そのカメラに対する権限				
	ライブ				
		PTZ			
		PTZ プリセット位置			
		出力			
		イベント			
		受信音声			
		送信音声			
		手動レコーディング			
	再生				
		AVI/JPEG のエクスポート			
		データベースのエクスポート			
		シーケンス			
		スマートサーチ			
		録音された音声			

サービス

項目		内容
サービス名	Recording Server サービス	Management Application を使用して各サービスの開始 / 停止 / 再起動を行います。また各サービスのステータスを確認します。
	Image Server サービス	
	Image Import サービス	
	Log Check サービス	
ステータス	起動済み （起動中） （停止）	
サービスの起動 / 停止	終了イベント （起動イベント）	
サービスの再起動	再起動	

モニター設定を変更する

モニター解像度を変更する

本機に接続しているディスプレイの解像度を変更します。
推奨のモニター解像度は、次のとおりです。

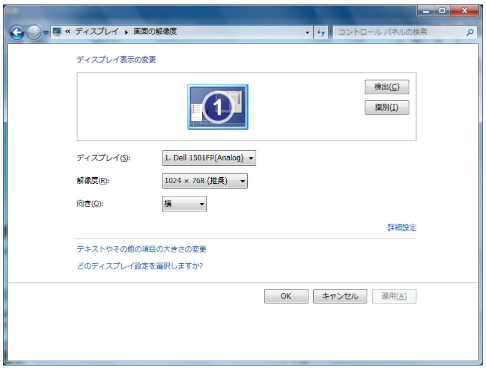
- 1024 × 768
- 1280 × 768
- 1280 × 1024
- 1600 × 1200
- 1920 × 1080

メモ：

- 1280 × 1024 以上の解像度のご使用をおすすめします。
- 接続するモニターによっては、表示されないモニター解像度があります。

1 デスクトップの何もないところで右クリックし、「画面の解像度」を選択する

「ディスプレイ表示の変更」画面が表示されます。



2「解像度」をクリックして表示されるスライダーをドラッグし、解像度を選択する

ご注意：

- モニターが対応していない解像度に設定しようとすると、モニターの同期が乱れる場合があります。

3「OK」をクリックする

プレビューが表示されます。

4「変更を維持する」をクリックする

設定が変更されました。

メモ：

- 15 秒間操作をしないと、設定は変更されずに元に戻ります。

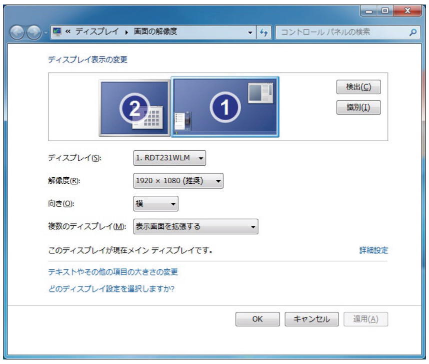
デュアルモニターを構成する

本機に複数のモニターを接続し、1 つのディスプレイとして表示させます。

- ● あらかじめ、本機に複数のモニターを接続しておきます。

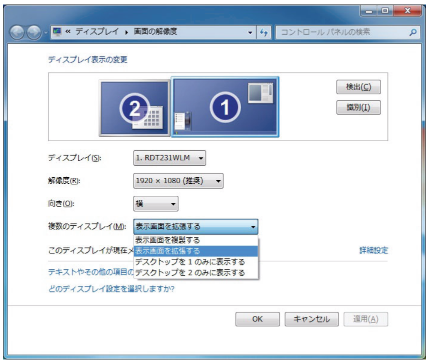
1 デスクトップの何もないところで右クリックし、「画面の解像度」を選択する

「ディスプレイ表示の変更」画面が表示されます。



2「ディスプレイ表示の変更」画面内のモニターをドラッグし、メインディスプレイ（①）とサブディスプレイ（②）の位置を実際のモニターの位置に合わせる

3「複数のディスプレイ」をクリックし、「表示画面を拡張する」を選択する



4「OK」をクリックする

ご注意：

- ● デュアルモニター構成時やモニターへの出力サイズが大きい場合、CPU の負荷が高くなります。CPU メーターに赤色が表示されているときは表示または記録フレームレートを下げるなど、負荷を低くしてください。

操作をロックする

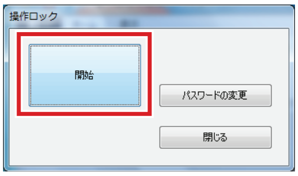
本機には、誤ってオペレートオフしてしまうなどを未然に防止する操作ロック機能があります。

メモ：
- お買い上げ時は、操作ロックの設定 / 解除に使用するパスワードは設定されていません。パスワードを設定していないときは、何も入力しないでください。

1 **デスクトップの［3. Operation Lock］をダブルクリックする**

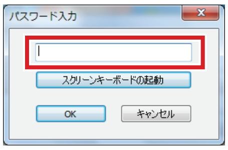
「操作ロック」画面が表示されます。

2 **［開始］をクリックする**



3 **パスワードを入力する**

- 必要に応じて［スクリーンキーボードの起動］をクリックして入力してください。



4 **[OK] をクリックする**

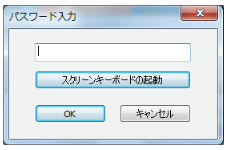
操作がロックされ、デスクトップに［ロック解除］ボタンが表示されます。

メモ：
- 操作ロックをしていると、スクリーンキーボードをを閉じる操作と、操作ロックを解除する以外の操作はできません。

■ 操作ロックを解除するには

1 **デスクトップの［ロック解除］をクリックする**

パスワード入力画面が表示されます。



2 **［スクリーンキーボードの起動］をクリックする**

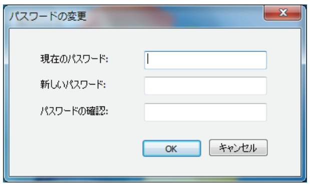
3 **パスワードを入力して、[OK］をクリックする**

操作ロックが解除され、操作できるようになります。

■ パスワードを変更するには

1 **「操作ロック」画面で［パスワード変更］をクリックする**

パスワード変更画面が表示されます。



2 **現在のパスワードを入力する**

3 **新しいパスワードを入力する**

- 確認のため、2 回入力します。

4 **[OK］をクリックする**

システム構成を変更する

システムを構成したあとでも、新しいカメラの追加や、登録済みのカメラの削除や交換ができます。

ご注意：

- Management Application の設定変更時は、絶対に電源を切らないでください。
- 設定を変更したら、Management Application のサービスを再起動してください。再起動しないと、変更した内容が反映されません。

手動でカメラを登録する

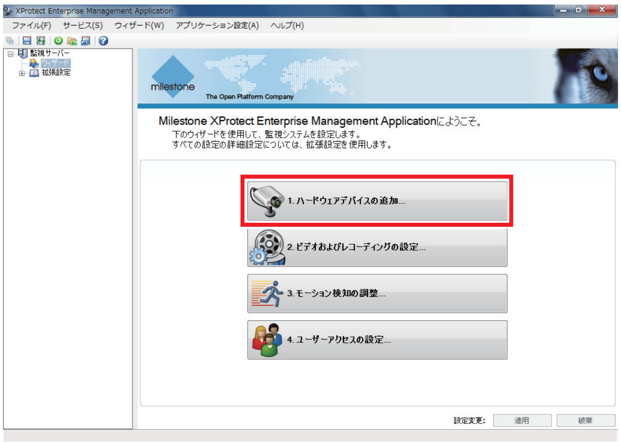
自動検出で検出されなかったカメラや、新しく設置したカメラは、手動でカメラの IP アドレスとポートを入力してシステムに登録することができます。

ご注意：

- カメラの登録には、ユーザー名、パスワードが必要です。あらかじめ確認してください。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。
- ユーザーアクセスが制限されているカメラは追加できません。アクセス制限については、各カメラの取扱説明書をご覧ください。

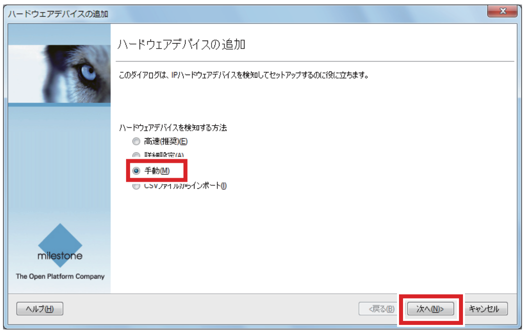
1 デスクトップの[Management Application]をダブルクリックする

2「ハードウェアデバイスの追加…」をクリックする

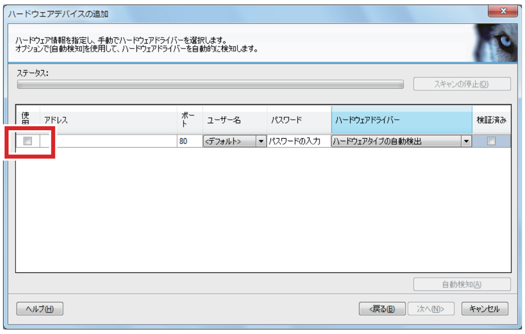


3「手動」を選択して、[次へ] をクリックする

ウィザードが始まります。

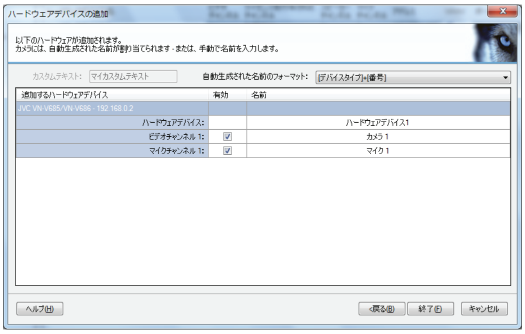


4「使用」にチェックをする



5 追加するカメラのアドレス、ポート番号、ユーザー名、パスワードを入力して、[次へ] をクリックする

カメラの検証が始まります。
検証が終わると、追加カメラ（ハードウェアデバイス）の概要が表示されます。



メモ：

- 登録されるデバイスには、[カメラ 1]、[カメラ 2] など「デバイスの種類（カメラ、マイクなど）と追加した順の番号」で自動で名前がつけられます。名前を変えるにはデバイス名をクリックして編集します。
- カメラの検証ができない場合は、カメラのユーザー名とパスワードを確認してください。カメラのユーザー名が変更されている場合は、ユーザー名を初期設定に戻し、「デフォルト」を選択すると検証できることがあります。それでも登録できない場合は、[戻る] をクリックして、追加するカメラのドライバーが「ハードウェアドライバー」のプルダウンに表示されているか、確認してください。

システム構成を変更する（つづき）

手動でカメラを登録する（つづき）

6 [終了] をクリックする

カメラが追加されました。
追加されたカメラは、「拡張設定」の「ハードウェアデバイス」にリストアップされます。

メモ：

- カメラの追加は、「拡張設定」の「ハードウェアデバイス」を右クリックして、「新規ハードウェアデバイスの追加」を選択してもできます。
- カメラ以外のデバイス（専用入出力デバイスなど）も、同様の手順で追加できます。

カメラライセンスを追加する

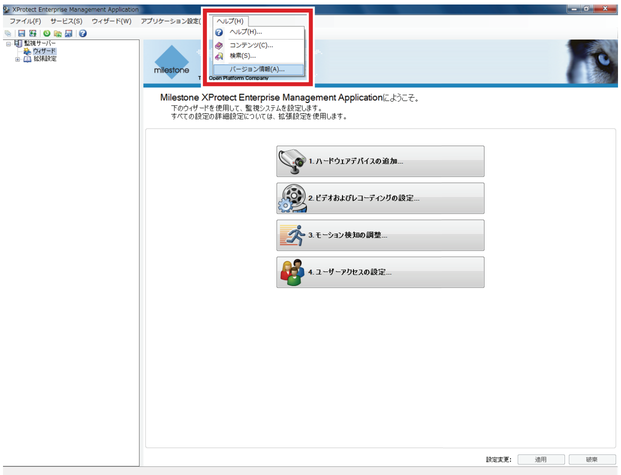
NVR のカメラの最大登録数を増やすには、追加カメラライセンスを購入して本機に追加します。カメラライセンスを追加すると、VR-X3200 は最大 64 台（32 台追加)、VR-X1600 は最大 32 台（16 台追加）のカメラを登録することができます。

メモ：

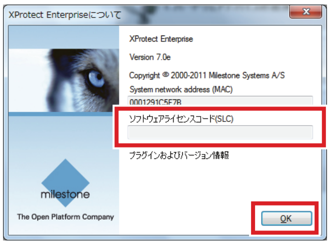
- 追加ライセンスの購入については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

1 デスクトップの [Management Application] をダブルクリックする

2 「ヘルプ (H)」をクリックし、「バージョン情報 (A)」を選択する



3 「ソフトウェアライセンスコード（SLC)」欄に、購入したライセンスコードを入力し、[OK] をクリックする



有効なコードが入力されると、ライセンス数が表示されます。

ハードウェアデバイスを交換する

使用中のカメラなどのハードウェアデバイスを新しいハードウェアデバイスと交換します。

- 新しいハードウェアデバイスを接続後、「ハードウェアの交換」ウィザードを使用して設定します。

1 デスクトップの[Management Application]をダブルクリックする

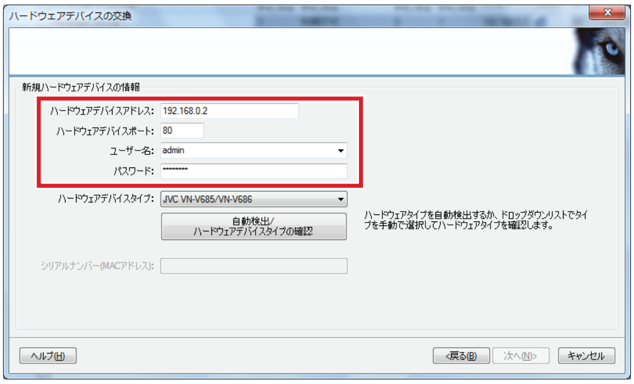
2「拡張設定」の「+」をクリックする

3「ハードウェアデバイス」の「+」をクリックする

4 交換したいハードウェアデバイスで右クリックし、「ハードウェアデバイスの交換」を選択する

ウィザードが起動します。

5 ウィザードにしたがって、新しいハードウェアデバイスの IP アドレス、ポート番号、ユーザー名、パスワードを入力する



6「ハードウェアデバイスタイプ」リストから新しいハードウェアデバイスのドライバーを選び、[自動検出 / ハードウェアデバイスタイプの確認] をクリックする

ドライバーが設定されます。

- ドライバーを選ばずに、[自動検出 / ハードウェアデバイスタイプの確認] をクリックすると、自動で必要なドライバーが検出され設定されます。

7 シリアルナンバー（MAC アドレス）を確認する

8 カメラを交換する場合、これまでのカメラの記録画像を引き継ぐかどうかを決める

次の 3 つの選択肢があります。

- 記録映像を引き継ぐ：新しいカメラは、これまでの映像データを引き継ぎます。
- これまでのカメラの記録映像を破棄する
- 新しく映像データを記録する：これまでの映像データをそのままにし、これとは別にあらたな映像データとして記録します。

9「終了」をクリックする

ハードウェアデバイスを削除する

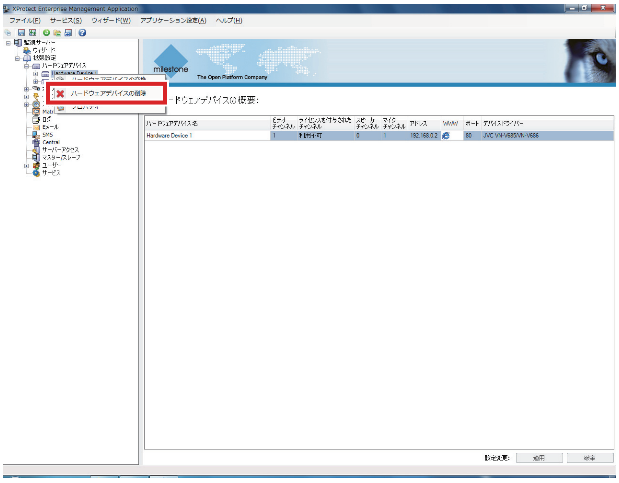
使用しないカメラなどのハードウェアデバイスを監視システムから削除します。

1 デスクトップの[Management Application]をダブルクリックする

2「拡張設定」の「+」をクリックする

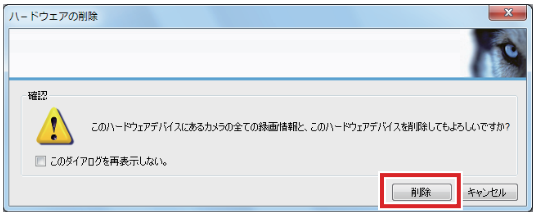
3「ハードウェアデバイス」の「+」をクリックする

4 削除したいハードウェアデバイスで右クリックし、「ハードウェアデバイスの削除」を選択する



確認のメッセージが表示されます。

5「削除」をクリックする



アナログカメラを制御する

ネットワークエンコーダ（VN-E4）の COM 端子に接続した PTZ カメラを、本機のアプリケーション（Analog Camera）で PTZ 制御できます。PTZ 操作の他に、アイリス、フォーカス、カメラメニューの操作などが可能です。

メモ：
- PTZ カメラとはアナログ出力を持つアナログカメラで RS-485 による PTZ 制御が可能なカメラのことです。
- 詳しくは、VN-E4 の取扱説明書をご覧ください。

アナログカメラを制御するための設定をする

あらかじめ、Management Application での設定が必要です。

1 デスクトップの [Management Application] をダブルクリックする

2「拡張設定」の「+」をクリックする

3「ハードウェアデバイス」の「+」をクリックする

4 VN-E4 のハードウェアデバイスをダブルクリックする

「ハードウェアプロパティ」画面が表示されます。

5「PTZ デバイス」を選択して、設定する

項目	初期設定
接続されているカメラには、パン / チルト / ズームの機能があります	チェックをします。
COM1 での PTZ タイプ /COM2 での PTZ タイプ	使用するアナログカメラに適したプロトコルを選択します。
アナログカメラの映像が入力された CH の対応	「可動」を選択します。
ポート / ポートアドレス	使用するアナログカメラのポートとポートアドレスを入力します。

6 [OK] をクリックする

本機のアプリケーションを使って、VN-E4 に接続した PTZ カメラを操作ができるようになりました。

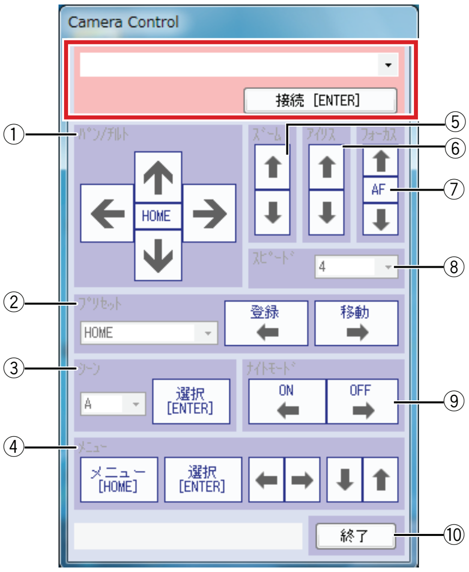
アナログカメラの制御のしかた

1 デスクトップの [6. Analog Camera] をダブルクリックする

カメラ制御画面が表示されます。

2 カメラ選択のリストの中から制御したいカメラを選択し、[接続（ENTER)] をクリックする

カメラ制御が可能になります。



① パン / チルト

：カメラの向きを上に移動します

：カメラの向きを下に移動します

：カメラの向きを右に移動します

：カメラの向きを左に移動します

② プリセット

ポジション選択 ：HOME またはポジションを選択します。

：ポジション選択で選んだ位置に、現在の位置を登録します。

：ポジション選択で選んだ位置に移動します。

③ シーン

シーン選択 ：A ～ H までのシーンを選択します。

：シーン選択で選んだシーンを設定します

④ メニュー

- メニュー [HOME] ：PTZ カメラのメニューを表示します
- 選択 [ENTER] ：PTZ カメラのメニューを選択します
- ↑ ：PTZ カメラのメニュー （上カーソル）
- ↓ ：PTZ カメラのメニュー （下カーソル）
- → ：PTZ カメラのメニュー （右カーソル）
- ← ：PTZ カメラのメニュー （左カーソル）

⑤ ズーム

- ↑ ：ズームインします。
- ↓ ：ズームアウトします。

⑥ アイリス

- ↑ ：アイリスを開放します
- ↓ ：アイリスを絞ります

⑦ フォーカス

- ↑ ：フォーカス位置を遠くにします
- AF ：オートでフォーカスを合わせます
- ↓ ：フォーカス位置を近くにします

⑧ スピード

PTZ 動作の移動速度を８段階で設定します。数値が大きくなる程、移動速度が速くなります。

⑨ ナイトモード

- ON ← ：ナイトモードを ON にします
- OFF → ：ナイトモードを OFF にします

⑩ 終了

PTZ カメラ制御を終了します。

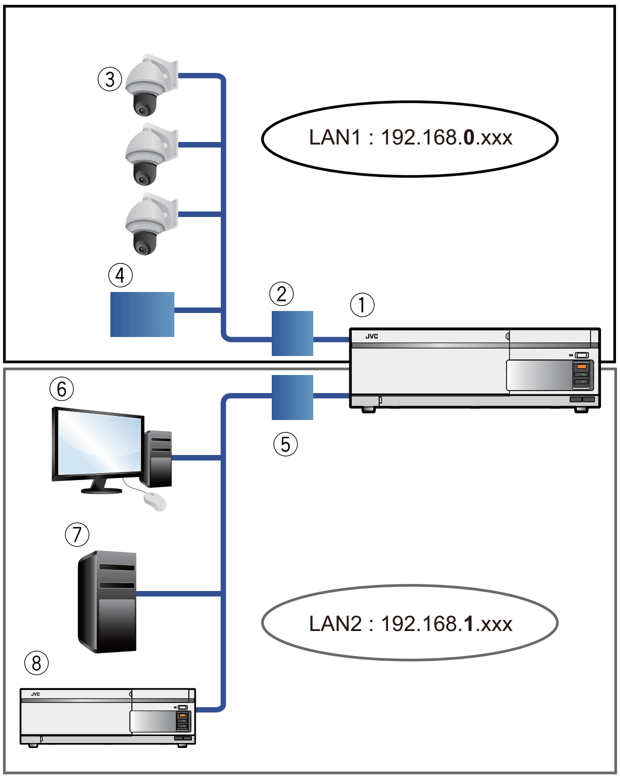
ご注意：

- ［接続（ENTER）］ボタンをクリックしても、カメラに接続できない場合は、レコーディングサーバーを一度停止してから再び起動してください。(☞115 ページ『 サービス 』)

ネットワークの使いかた

LAN1/LAN2 の使い分けについて

本システムでは、LAN1 でネットワークカメラに、LAN2 で監視用パソコンや時刻サーバー（NTP サーバー）に接続します。



① 本機（マスター NVR）
② スイッチングハブ（LAN1）
③ ネットワークカメラ
④ NAS
⑤ スイッチングハブ（LAN2）
⑥ 監視用パソコン
⑦ 時刻サーバー（NTP サーバー）
⑧ スレーブ NVR

ご注意：

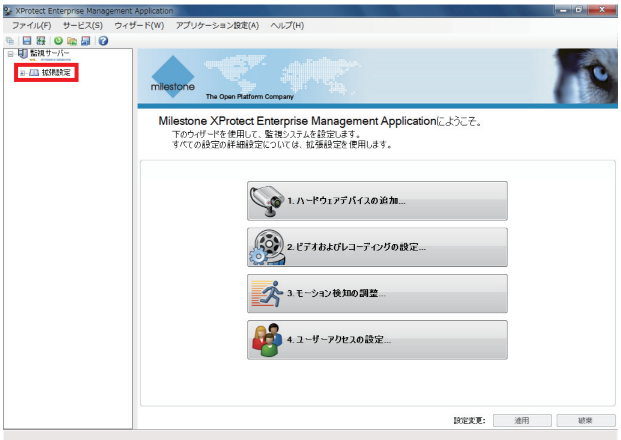
- LAN1、LAN2 間は通信できません。LAN2 に接続された監視用パソコンから LAN1 に接続されたカメラを設定することはできません。LAN1 に接続されたカメラを設定するには、カメラ設定用のパソコンを LAN1 側に接続してください。

ネットワークの使いかた（つづき）

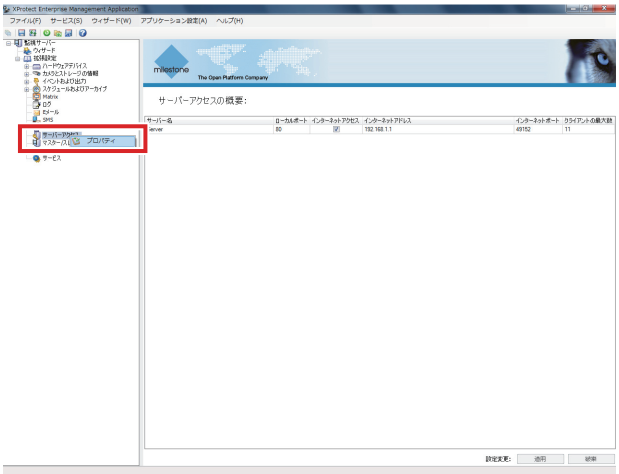
WAN で遠隔監視する

インターネットを経由して本機の監視サービスを利用するための設定です。

1「拡張設定」の「+」をクリックする

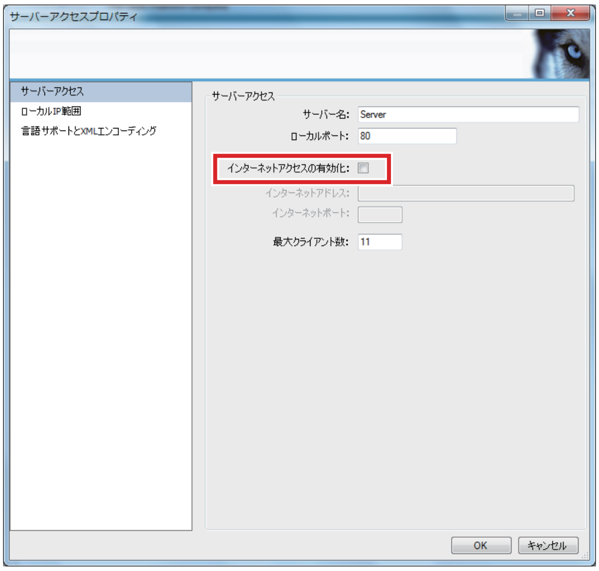


2「サーバーアクセス」を右クリックし、プロパティを選択する

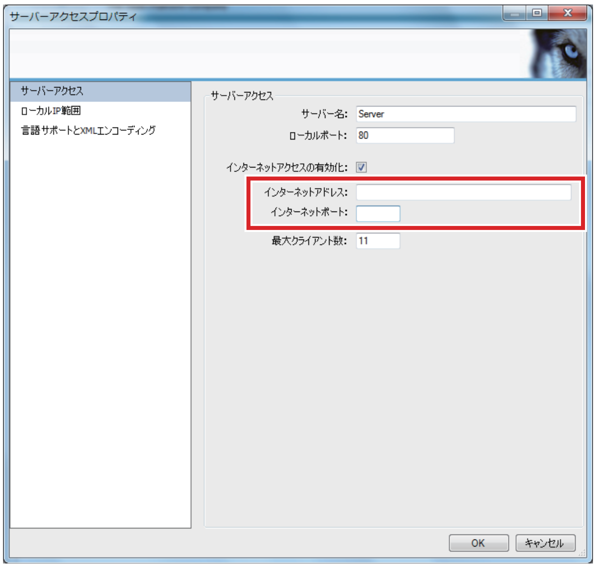


「サーバーアクセスプロパティ」画面が表示されます。

3「インターネットアクセスの有効化」にチェックをする



4 インターネットアドレスとインターネットポートを設定する



項目	内容
インターネットアドレス	インターネットで本機に接続する際のグローバル IP アドレス、あるいはホスト名を指定します。
インターネットポート	インターネットで本機に接続する際のポート番号を指定します。

メモ：

- 詳しくは、ネットワーク管理者にご確認ください。

5［OK］をクリックする

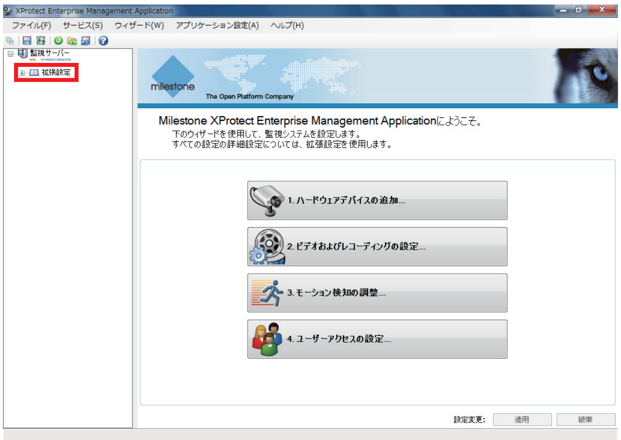
記録設定を変更する

記録スケジュールを設定する

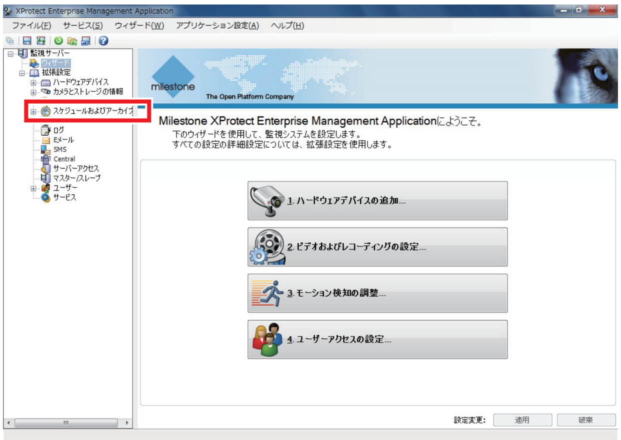
カメラの記録スケジュールを設定するには、スケジュールプロパティを作成して、カメラに適用します。

■ プロファイルを作成する

1「拡張設定」の「+」をクリックする

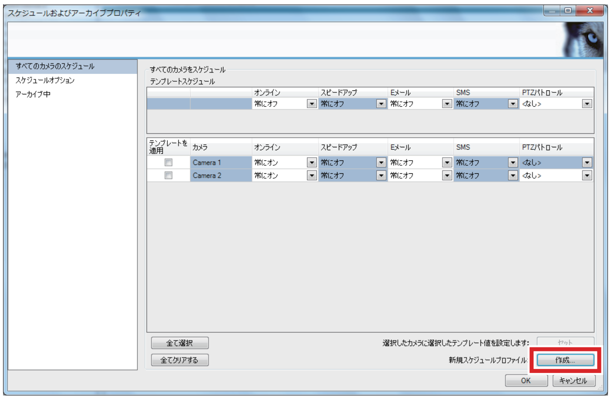


2「スケジュールおよびアーカイブ」をダブルクリックする

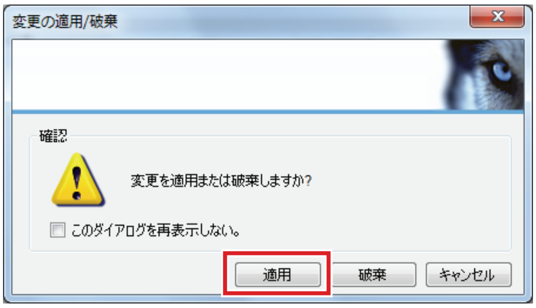


「スケジュールプロパティ」画面が表示されます。

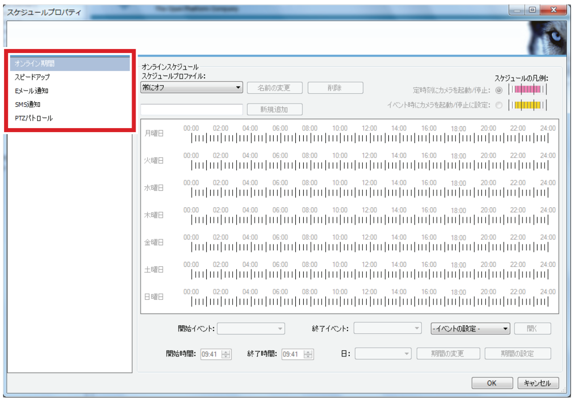
3 [作成] をクリックする



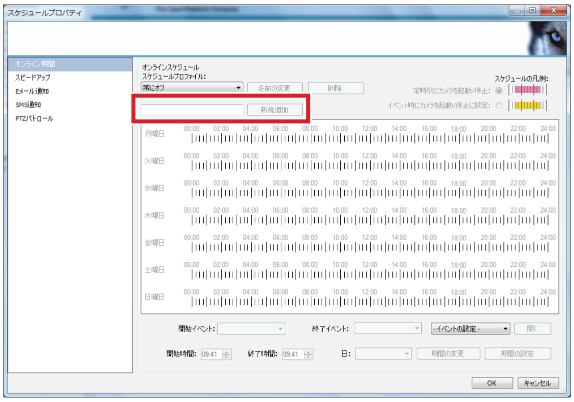
4 [適用] をクリックする



5 項目を選択する



6 プロファイル名を入力し、[新規追加] をクリックする



記録設定を変更する（つづき）

記録スケジュールを設定する（つづき）

7 スケジュールを作成する

- 詳しい設定項目は、『スケジュールプロファイルの設定内容』(☞127 ページ) をご覧ください。

項目	内容
オンライン期間	カメラから映像を受け取る期間
スピードアップ	スピードアップ記録を行う期間
E メール通知	E メール通知を送信する期間
SMS 通知	—
PTZ パトロール	PTZ カメラがパトロール (☞ 43 ページ) する期間

メモ :
- 本機は SMS 通知には対応していません。

8 [OK] をクリックする

スケジュールプロファイルが作成されました。

メモ :
- 登録済のプロファイルの名前を編集するには、名前を変更したいプロファイルを「スケジュールプロファイル：」リストで選択して [名前の変更] をクリックします。
- 登録済のプロファイルを削除するには、削除したいプロファイルを「スケジュールプロファイル：」リストで選択して [削除] をクリックします。

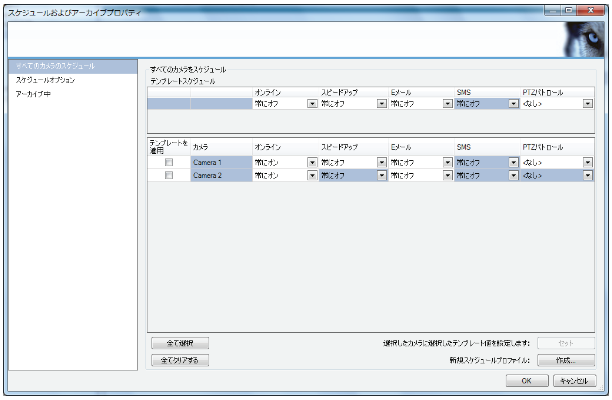
■ カメラにスケジュールプロファイルを適用する

1 「拡張設定」の「+」をクリックする

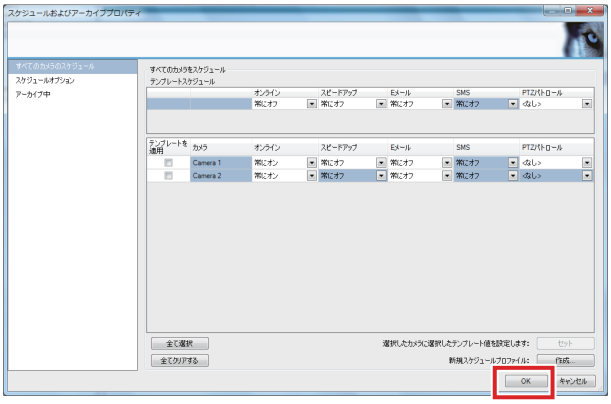
2 「スケジュールおよびアーカイブ」をダブルクリックする

使用中のカメラのスケジュールが表示されます。

3 設定したいカメラの各項目で、適用したいプロファイルを選択する



4 [OK] をクリックする

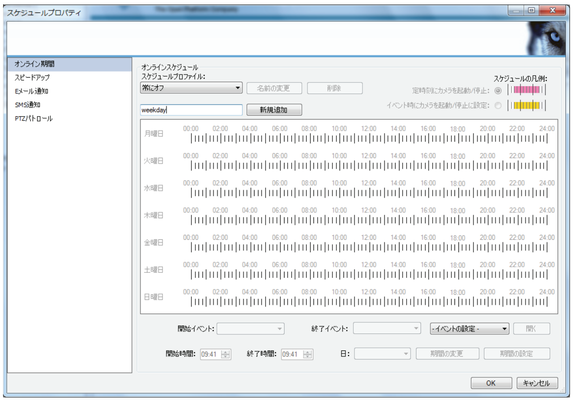


カメラのスケジュールが設定されました。

メモ :
- カメラ名の左の「テンプレートを適用」にチェックをして [セット] をクリックすると、チェックをしたカメラに上段の「テンプレートスケジュール」で選択されているプロファイルを一括で適用することができます。
- 「全て選択」をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスがチェックされます。
- 「全てクリアする」をクリックすると、すべてのカメラのチェックボックスのチェックがはずれます。

■ スケジュールプロファイルの設定内容

● オンライン期間

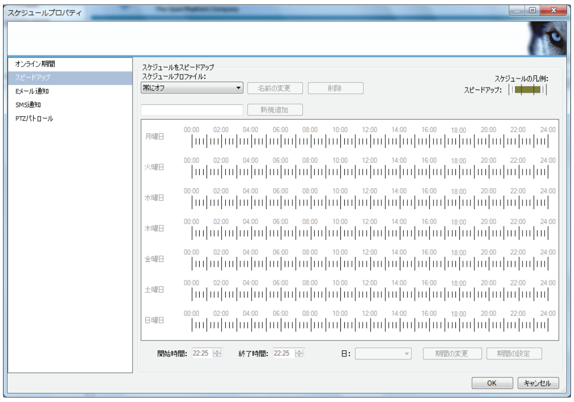


項目	内容
定刻時にカメラを起動 / 停止	カメラの映像を本機が常に表示する期間を設定するときに選択します。スケジュール画面でピンク色のバーで表示されます。
イベント時にカメラを起動 / 停止	指定のイベントと連動してカメラの映像を表示するときに選択します。スケジュール画面で黄色のバーで表示されます。
開始イベント / 終了イベント	「イベント時にカメラを起動 / 停止」を選択しているときに、カメラをオンラインにするイベントと、オフラインにするイベントを選択します。
開始時間 / 終了時間 / 日	カメラの映像を表示する期間（時間と曜日）を設定します。 ● バー表示上でマウスをドラッグしても、期間を設定できます。
期間の設定	「開始時間」と「終了時間」で設定した期間をバー表示に反映します。
期間の変更	バーで表示されている期間を変更します。バー表示を選択した状態で「開始時間」、「終了時間」、「日」を入力して、クリックします。
イベントの設定	イベントを選択して [開く] をクリックすると、選択したイベントの設定画面を表示します。

メモ：

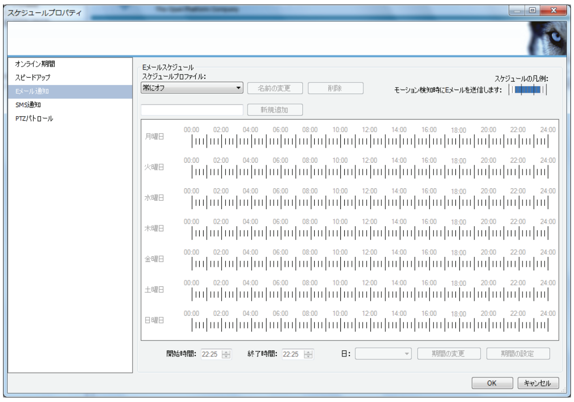
- 「開始イベント」「終了イベント」では、イベント名が長い場合は、名前を表示しきれません。

● スピードアップ



項目	内容
開始時間 / 終了時間 / 日	スピードアップ記録を有効にする期間（時間と曜日）を設定します。 ● バー表示上でマウスをドラッグしても、期間を設定できます。
期間の設定	「開始時間」と「終了時間」で設定した期間をバー表示に反映します。
期間の変更	バーで表示されている期間を変更します。バー表示を選択した状態で「開始時間」、「終了時間」、「日」を入力して、クリックします。

● E メール通知

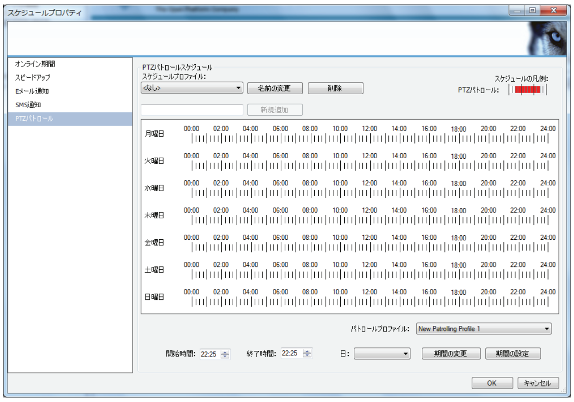


項目	内容
開始時間 / 終了時間 / 日	E メール通知を有効にする期間（時間と曜日）を設定します。 ● バー表示上でマウスをドラッグしても、期間を設定できます。
期間の設定	「開始時間」と「終了時間」で設定した期間をバー表示に反映します。
期間の変更	バーで表示されている期間を変更します。バー表示を選択した状態で「開始時間」、「終了時間」、「日」を入力して、クリックします。

記録設定を変更する（つづき）

記録スケジュールを設定する（つづき）

● PTZ パトロール



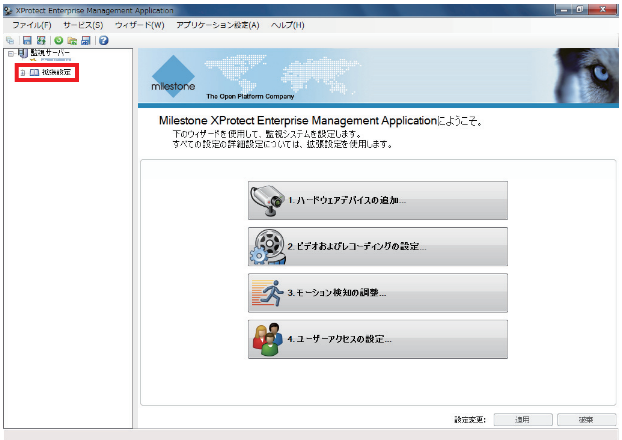
項目	内容
パトロールプロファイル	スケジュールを設定する PTZ パトロールプロファイルを選択します。
開始時間 / 終了時間 / 日	PTZ パトロールプロファイルを有効にする期間（時間と曜日）を設定します。 ● バー表示上でマウスをドラッグしても、期間を設定できます。
期間の設定	「開始時間」と「終了時間」で設定した期間をバー表示に反映します。
期間の変更	バーで表示されている期間を変更します。バー表示を選択した状態で「開始時間」、「終了時間」、「日」を入力して、クリックします。

カメラとの音声通信を設定する

本機とカメラとのあいだで双方向に音声を送るための設定です。

- カメラ側にマイクおよびスピーカーがない場合、音声の送受信はできません。
- カメラによっては、カメラ側の設定にしたがうものもあります。本機からの設定で音声の送受信ができないときは、カメラ側の設定を確認してください。

1「拡張設定」の「+」をクリックする



2「ハードウェアデバイス」の［+］をクリックする

3 設定したいカメラで右クリックし、「カメラプロパティ」を表示させる

4「音声設定」をクリックする

5「マイク設定：」と「スピーカー設定：」で、それぞれデバイスを選択する

6［OK］をクリックする

ドライブの増設について

記録画像やアーカイブ、エクスポートデータの保存先として、次のデバイスを本機に追加することができます。

種類	接続方法
DVD ドライブ	背面の SERIAL 端子のいずれか
外部 HDD	背面の SERIAL 端子のいずれかまたは eSATA 端子 (☞ 73 ページ)
内蔵 HDD	お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。
NAS	ネットワーク (LAN1) 接続 (☞ 77 ページ)

メモ :

- 接続できる機器や増設できる HDD の種類については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。
- 増設した外部 HDD を初期化する方法については、『 外部 HDD を増設したときは 』(☞73 ページ) をご覧ください。
- NAS をアーカイブの保存先に設定する方法については、『 アーカイブの保存先を NAS に設定する 』(☞78 ページ) をご覧ください。
- 内蔵 HDD を使った RAID の構築方法については、『RAID を構築する 』(☞74 ページ) をご覧ください。

UPS を使う

UPS (Uninterruptible Power Supply, 無停電電源装置) を接続することにより、停電発生時は自動的にオペレートオフしてから電源を切るため、HDD の破損を防ぐことができます。

メモ :

- 使用可能な UPS については、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。VR-N1600/VR-N900 シリーズで使用していた UPS は、本機では使用できない場合があります。

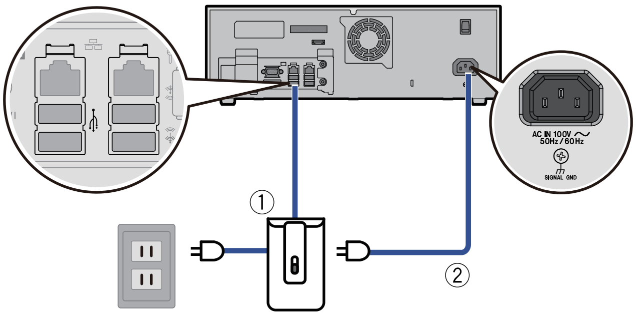
■ 接続と設定

1 UPS の設定をする

- 詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

2 [オペレート] ボタンを約2秒間長押ししてオペレートオフにして、背面の電源スイッチをオフにする

3 背面の SERIAL 端子に UPS の通信ケーブルを接続する



① UPS	背面の SERIAL 端子のいずれかに接続します。
②付属の電源ケーブル	本機の電源ケーブルを UPS の電源出力に接続します。

4 UPS の電源を入れてから、本機の電源を入れる

ご注意 :

- UPS の通信ケーブルは、本機の電源を入れる前に接続しておいてください。
- 運用中に通信ケーブルをはずさないでください。
- アーカイブや HDD のフォーマット中に停電が発生すると、UPS を接続している場合でもその後の運用に支障をきたすことがあります。
- 停電が発生した時刻以前のアーカイブされていない記録画像は、正常に再生されない場合があります。
- 接続する UPS によって、接続ケーブルや設定方法は異なります。

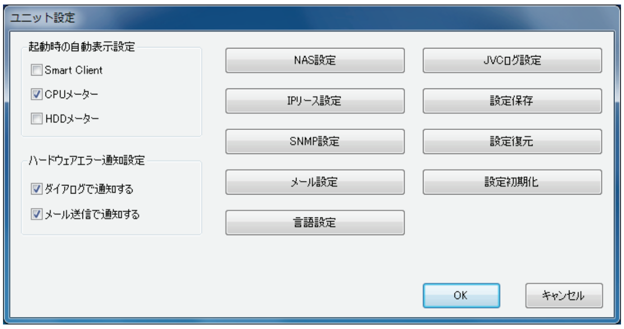
SNMP を設定する

SNMP を有効にすると、監視用パソコンの SNMP マネージャーから本機の状態を監視することができます。監視するには拡張 MIB 情報（JVCNVRMIB.txt）を SNMP マネージャーに登録する必要があります。

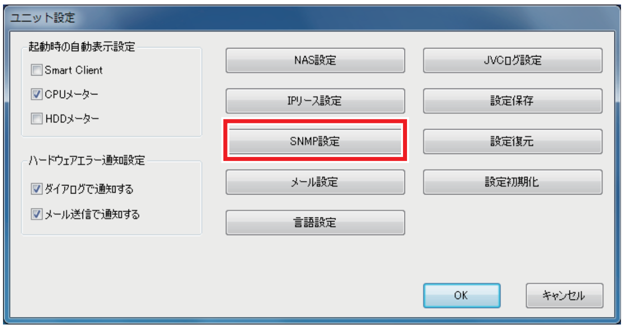
1 SERIAL 端子に USB フラッシュメモリを挿入する

2 デスクトップの [4. Unit Setup] をダブルクリックする

「ユニット設定」画面が表示されます。

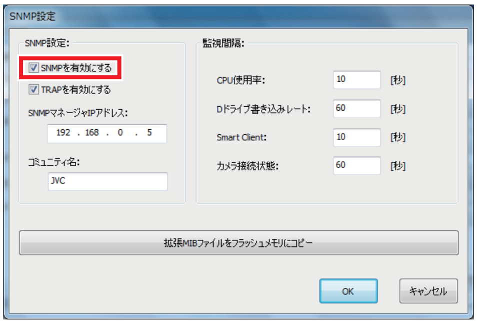


3 [SNMP 設定] をクリックする



「SNMP 設定」画面が表示されます。

4「SNMP 設定」セクションの「SNMP を有効にする」をチェックする



- TRAP を使用する場合は、[SNMP 設定] セクションの [TRAP を有効にする] をチェックする。
- 本機がサポートしている TRAP 通知は『本機がサポートする TRAP 一覧』(☞131 ページ) を参照してください。

5 監視用パソコンの IP アドレスを「SNMP マネージャ IP アドレス」欄に入力する

6 SNMP のコミュニティ名を指定する

例）kanshi1

ご注意：

- コミュニティ名に使用できるのは 32 文字までの英数字です。
- TRAP に関しては、その通信仕様から、受け側で取り損ねる可能性があります。TRAP はあくまでも補助的に使用し、ポーリングによる判断を主として運用してください。

7 [拡張 MIB 情報をフラッシュメモリにコピー] をクリックする

- 拡張 MIB 情報（JVCNVRMIB.txt）が USB フラッシュメモリにコピーされます。

8 監視用パソコンの SNMP マネージャーに拡張 MIB 情報を登録する

- 監視用パソコンに取得した拡張 MIB 情報を登録するには、SNMP マネージャーの取扱説明書などをご覧ください。

9 監視用パソコンの SNMP マネージャーで監視（ポーリング）の設定をおこなう

- 設定方法については、SNMP マネージャーの取扱説明書などをご覧ください。
- 本機がサポートしている取得可能なステータスは『本機から取得可能なステータス一覧』(☞131 ページ) を参照してください。

ご注意：

- USB 機器を本機から取りはずす場合は、エクスプローラーで該当するリムーバルディスクを右クリックして、「取り出し」の操作を確実に行ってください。

■ 本機から取得可能なステータス一覧

OID: iso(1) - org(3) - dod(6) - internet(1) - private(4) - enterprises(1) - jvc(718) - nvr(916) - nvrObjects(1)

グループ		識別子	名前	SYNTAX	MAX-ACCESS	UNITS	説明

現在値	nvrStausGroup (1)	1	nvrRecStatus	INTEGER {
				off(0),
				on(1)
				}
					read-only	-	REC 状態

		4	nvrCpuUsage	INTEGER(0..100)	read-only	%	CPU 使用率
		5	nvrDdriveWrite	INTEGER(0.. 4294967295)	read-only	Byte/ Sec	D ドライブの書き込みレート

		6	nvrRunViewer	INTEGER {
				stop(0),
				run(1)
				}
					read-only	-	Smart Client 実行状態

ワーニングリスト	nvrWarningGroup (2)	1	nvrWarningTable	SEQUENCE OF NvrWarningEntry	not-accessible	-	過去 10 回のワーニングテーブル

		1.1	nvrWarningEntry	NvrWarningEntry
				INDEX {
				nvrWarningIndex
				}
					not-accessible	-	過去 10 回のワーニングエントリー

		1.1.1	nvrWarningIndex	INTEGER(1..10)	read-only	-	ワーニングリストのインデックス
		1.1.2	nvrWarningDate	DateAndTime	read-only	-	ワーニング発生日時
		1.1.3	nvrWarningInfo	DisplayString	read-only	-	ワーニング情報
カメラリスト	nvrCameraGroup (3)	1	nvrRegistCameraTable	SEQUENCE OF NvrRegistCameraEntry	not-accessible	-	32 台の接続カメラテーブル

		1.1	nvrRegistCameraEntry	NvrRegistCameraEntry
				INDEX {
				nvrRegCamIndex
				}
					not-accessible	-	32 台の接続カメラエントリー

		1.1.1	nvrRegCamIndex	INTEGER(1..64)	read-only	-	接続カメラリストのインデックス
		1.1.2	nvrRegCamIpAddress	IpAddress	read-only	-	接続カメラの IP アドレス
		1.1.3	nvrRegCamName	DisplayString	read-only	-	カメラ名

		1.1.4	nvrRegCamConnection	INTEGER {
				disconnect(0),
				connect(1)
				}
					read-only	-	カメラ接続状態

■ 本機がサポートする TRAP 一覧

OID: iso(1) - org(3) - dod(6) - internet(1) - private(4) - enterprises(1) - jvc(718) - nvr(916) - nvrTraps(2)

識別子	名前	OBJECTS	STATUS	説明
1	nvrRecStatusChange	nvrRecStatus	current	REC 状態変更通知
3	nvrNotifyWarning	nvrWarningIndex, nvrWarningDate, nvrWarningInfo	current	ワーニング発生通知
4	nvrNotifyCamConnect	nvrRegCamIndex, nvrRegCamIpAddress, nvrRegCamName, nvrRegCamConnection	current	カメラ接続状態の変更通知

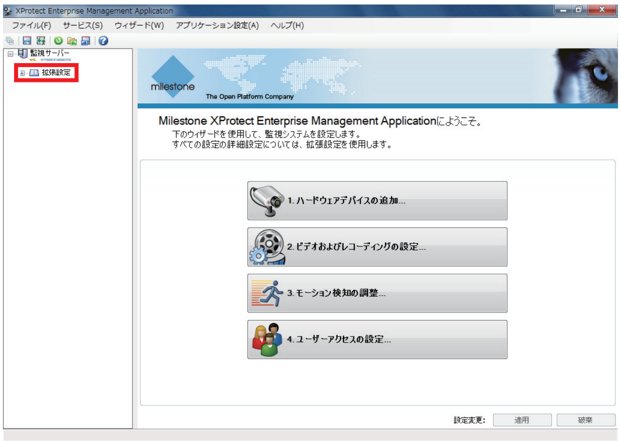
ログの保存日数を変更する

本機のログは、L ドライブに保存されます。
メンテナンスサービスの際に使用します。
ログの設定は 2ヶ所の設定画面で行います。

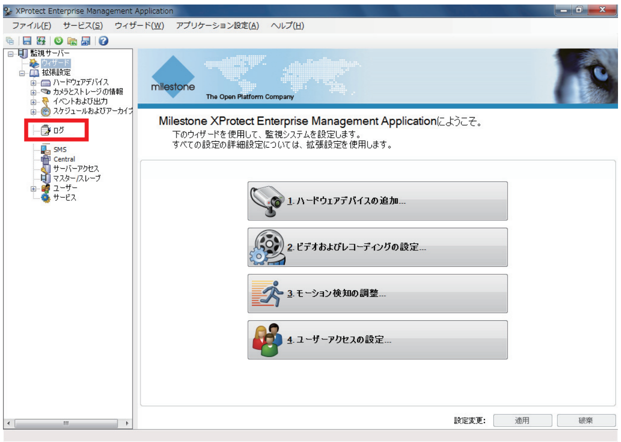
Management Application のログの保存日数を変更する

Management Application では、システムログ、イベントログ、監査ログの 3 種のログを保存することができます。

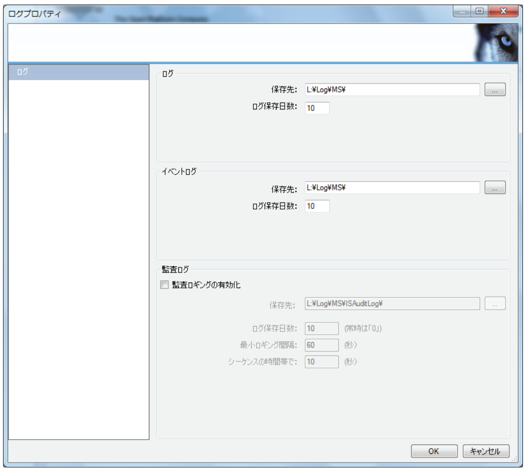
1「拡張設定」の「+」をクリックする



2「ログ」を右クリックし、「プロパティ」を選択する



「ログプロパティ」画面が表示されます。



3 保存日数を変更する

ご注意：

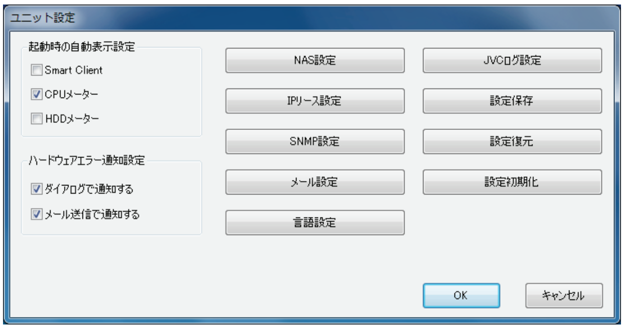
- 保存先の設定は変更しないでください。

4 [OK] をクリックする

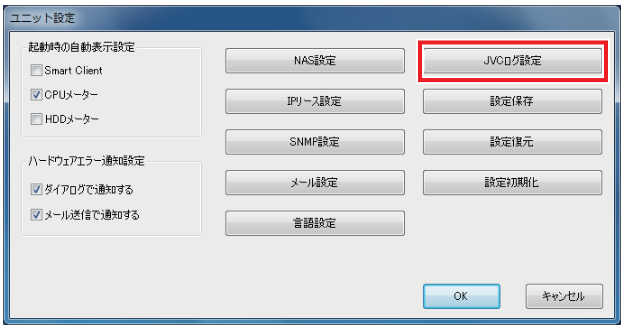
ユニット設定のログの保存日数を変更する

1 デスクトップの [4. Unit Setup] をダブルクリックする

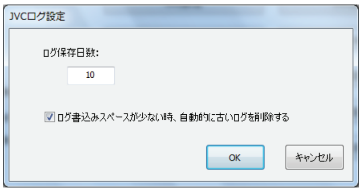
「ユニット設定」画面が表示されます。



2 [JVC ログ設定] をクリックする



JVC ログ設定画面が表示されます。



3 保存日数を指定する

- 不要なログを削除して本機の負荷を軽減するには、チェックボックスにチェックをします。古いログが自動で削除されます。

4 [OK] をクリックする

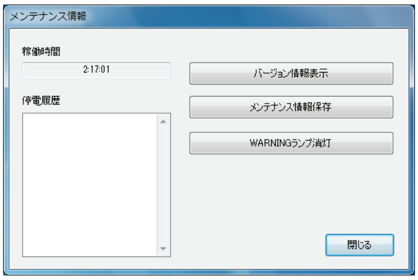
メンテナンス情報を保存する

USB フラッシュメモリにメンテナンス情報を保存することができます。

1 USB フラッシュメモリを前面の SERIAL 端子に接続する

2 デスクトップの [5. Maintenance Info] をダブルクリックする

「メンテナンス情報」画面が表示されます。



項目	内容
稼働時間	本機の稼働時間を表示します。
停電履歴	停電履歴が表示されます。一度も停電がない場合には「停電履歴」には何も表示されません。
バージョン情報	本機のバージョン情報を表示します。
メンテナンス情報保存	メンテナンス情報保存画面を表示します。
WARNING ランプ消灯	前面の WARNING ランプを消灯します。
閉じる	メンテナンス情報画面を閉じます。

3 [メンテナンス情報保存] をクリックする

4 期間を選択して [保存] をクリックする

USB フラッシュメモリに「NVR_Log」という名前のフォルダが作成され、メンテナンス情報とログが保存されます。

ご注意 :

- USB 機器を本機から取りはずす場合は、エクスプローラーで該当するリムーバルディスクを右クリックして、「取り出し」の操作を確実に行ってください。

HDD のメンテナンス

HDD の使用量を見る

■ HDD メーターを表示する

HDD の使用量を、メーターで確認することができます。

1 デスクトップの [2. HDD Meter] をダブルクリックする

HDD メーターが表示されます。

■ HDD メーターの設定を変更する

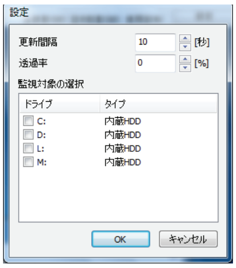
監視する間隔や HDD の指定を設定できます。

- 各ドライブは以下の目的で使用されます。

ドライブ	用途
C	システムディスク
M	エクスポートデータの一時ファイルを保存します。
L	動作ログを保存します。
D および上記以外	記録画像を保存します。

1 HDD メーター画面の [設定] をクリックする

2 設定する



項目	設定値	内容
更新間隔	10 ～ 300 秒	更新間隔を秒単位で設定します。
透過率	0 ～ 90%	HDD メーターの透明度を設定します。
監視対象の選択	—	内蔵 HDD と認識している外部 HDD がリスト表示されます。監視対象とする HDD にチェックを入れてください。

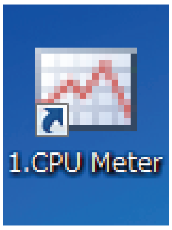
3 [OK] をクリックする

本機の負荷率を見る

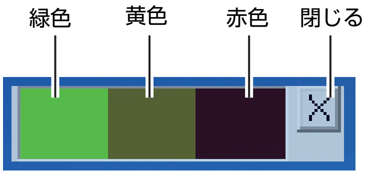
本機には、CPU メーターが搭載されており、本機の負荷率をメーターで確認することができます。

負荷率が高くなると、設定されたフレームレートで記録できなくなるなど、正常に動作できない場合があります。

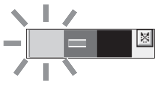
1 デスクトップの [1. CPU Meter] をダブルクリックする

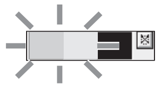


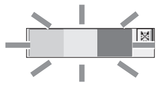
CPU メーターが表示されます。



負荷率　5% 以下　灰色表示

 負荷率　60% 以下　緑色点灯

 負荷率　90% 以下　緑色、黄色点灯

 負荷率　90% 超　緑色、黄色、赤色点灯

ご注意：

- CPU メーターに赤色が表示されているときは、表示または記録フレームレートを下げるなど負荷を低くしてください。

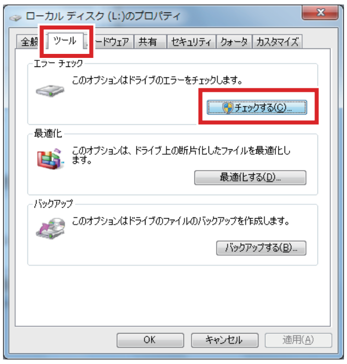
エラーチェックを行う

1 デスクトップの [スタート] ボタンをクリックし、「コンピューター」を選択する

2 エラーチェックを行うドライブを右クリックし、「プロパティ」を選択する

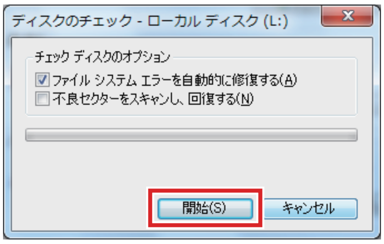
選んだドライブの「プロパティ」画面が表示されます。

3「ツール」タブをクリックし、「チェックする（C）…」をクリックする

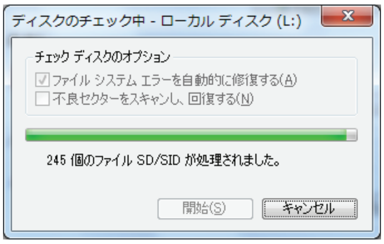


選んだドライブの「ディスクのチェック」画面が表示されます。

4 [開始（S）] をクリックする

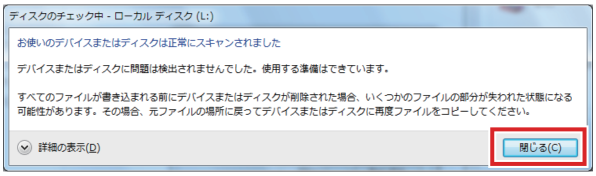


エラーチェックが始まります。



エラーチェックが終了すると、結果が表示されます。

5 結果を確認して、[閉じる（C）] をクリックする



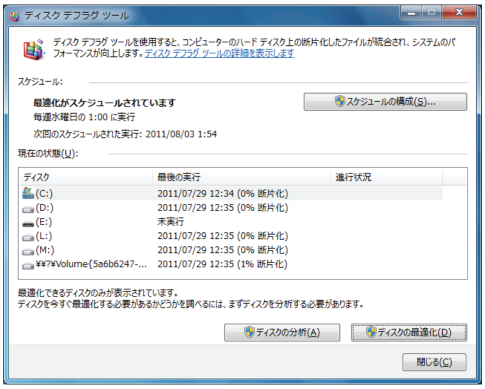
デフラグを行う

- デフラグは、数時間以上かかる場合もあります。

1 デスクトップの [スタート] ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をクリックする

2「アクセサリ」－「System Tools」－「ディスク デフラグ ツール」をクリックする

「ディスク デフラグ ツール」画面が表示されます。



3 デフラグを行うドライブを選択し、「ディスクの最適化（D)」をクリックする

選択したドライブのデフラグが始まります。

- デフラグが終了すると、「最後の実行」欄に今日の日時が表示されます。

4 [閉じる (C)] をクリックする

設定を初期化する

ユニット設定の設定を初期化します。

1 デスクトップの [4. Unit Setup] をダブルクリックする

2 [設定初期化] をクリックする

確認のメッセージが表示されます。

3 [初期化] をクリックする

4 [OK] をクリックする

ご注意：

- 設定を初期化したら、本機を再起動してください。

ビューワー編

基本

ビューワー（Smart Client）を使って、ライブ映像を見たり、記録画像を再生することができます。この章では、ビューワーの基本的な設定と使いかた、監視用パソコンへのインストール方法を説明します。

ご注意：

- Smart Clientを起動しているときにManagement Applicationの設定を変更した場合は、Smart Clientを一度終了し、再度起動してください

Smart Client を起動する

ビューワー（Smart Client）を使って、ライブ映像を見たり、記録画像を再生することができます。

メモ：
- 本機以外のパソコンで Smart Client を使う場合は、あらかじめ Smart Client をインストールしてください。(☞ 140 ページ)

1 デスクトップの Smart Client のショートカットをダブルクリックする

Smart Client のログイン画面が表示されます。

メモ：
- Smart Clientのショートカットがデスクトップにない場合は、[スタート] メニューの「すべてのプログラム」から “Smart Client” を選んでください。

2 以下のログイン情報を設定する

メモ：
- ユーザー名とパスワードの初期値は以下のように設定されています。
  ユーザー名：admin
  パスワード：jvc

項目		内容
① サーバーアドレス		本機の IP アドレスとポート番号を指定します。（例：[http://192.168.1.253:80] の場合、[:80] がポート番号を表しています。） ポート番号は、Management Application の「拡張設定」→「サーバーアクセス」で設定したポート番号になります。(☞ 113 ページ)
② 認証		認証方法を 3 種類から選択します。通常は「基本認証」を選択します。
	Windows 認証 (current user)	現在の Windows ユーザーとしてログインします。
	Windows 認証	Windows ユーザーとしてログインしますが、ユーザー名とパスワード（必須）を入力する必要があります。 **メモ：** ● この設定は、外部の監視用パソコンから本機に Windows ユーザーとしてログインするときに使用します。本機のログインパスワードの設定が必要になります。(☞ 89 ページ)
	基本認証	本機にアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
③ ユーザー名		②の「認証」で「Windows 認証」を選んだ場合、Windows のユーザー名を入力します (☞ 89 ページ)。「基本認証」を選んだ場合は、Management Application のユーザー設定 (☞ 68 ページ) で登録したユーザー名を入力します。
④ パスワード		②の「認証」で「Windows 認証」を選んだ場合、本機のログインパスワードを入力します (☞ 89 ページ)。「基本認証」を選んだ場合は、Management Application のユーザー設定 (☞ 68 ページ) で登録したパスワードを入力します。
⑤ パスワードを保存		②の「認証」で「Windows 認証」または「基本認証」を選んだ場合は、このボックスにチェックを入れると、次回から [接続] をクリックするだけでログインできます。
⑥ 自動ログイン		自動ログインします。チェックを入れると、次回から自動で Smart Client にログインします。

Smart Client を起動する（つづき）

3 **[接続] ボタンをクリックする**

● しばらくすると、Smart Client 画面が表示されます。

ご注意：

● 配信クライアント数の上限まで達している状態でログアウトした場合、次に接続するまで数分間待つ必要があります。

● 複数のパソコンから接続して音声を再生した場合、音声が乱れることがあります。

■ ログアウトするには

1 **[(ログアウト)］をクリックする**

ログアウトされ、再び Smart Client のログイン画面が表示されます。

ご注意：

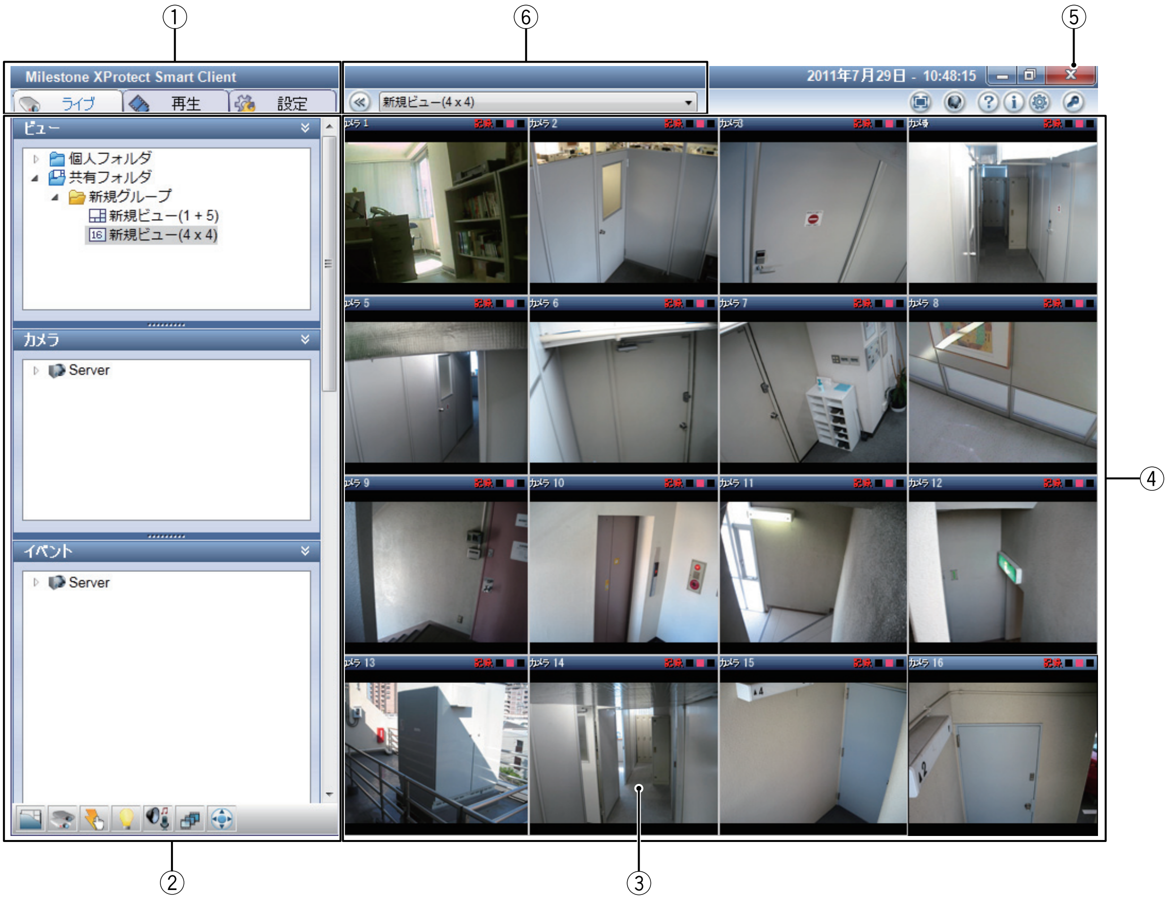
● 本体を再起動したときや、本体の Smart Client を再起動した場合は、監視用パソコンでの Smart Client を一度ログアウトしてから再度ログインしてください。

■ 終了するには

1 **[(閉じる)］をクリックする**

Smart Client が終了します。

ビューワーの見かた



項目	内容
① 画面切替タブ	
「ライブ」	カメラからのライブ映像を表示します。(☞ 146 ページ)
「再生」	記録画像を表示します。(☞ 151 ページ)
「設定」	ビューワーの設定画面を表示します。(☞ 143 ページ、175 ページ)
② 操作セクション	● 表示している画面によって表示されるセクションは異なります。 ● 操作したいセクションが表示されていないときは、セクション下部の対応アイコンをクリックします。
③ カメラ映像	
④ ビュー	複数のカメラからの映像を分割表示します。(☞ 143 ページ)

⑤ ビューワー操作ボタン	
(フル画面)	カメラ映像を拡大表示します。
(通知ダイアログ)	接続しているサーバーの状態を表示します。
(ヘルプ)	ヘルプを表示させます。
(バージョン情報)	Smart Client の情報を見ます。
(オプション)	Smart Client の設定を確認 / 変更します。
(ログアウト)	ログアウトします。
(最小化)	ビューワー画面を最小化します。
(最大化)	ビューワー画面を最大化します。
(閉じる)	Smart Client を終了します。
⑥ ビューリスト	登録されているビューをプルダウンから選択します。

ビューワーの見かた（つづき）

メモ：
- Smart Client は、VR-X3200/VR-X1600 内部の配信サーバーへログインして動作しています。
- 内蔵の Smart Client では、本機自身の配信サーバー（http://localhost または http://127.0.0.1）へログインしています。初期状態では本機自身への自動ログインが設定されています。ログインの方法につきましては『Smart Client を起動する 』(☞137 ページ) をご覧ください。
- 監視用パソコンが最大クライアント数接続されている場合は、内蔵の Smart Client はログインできません。

ご注意：
- Management Application で記録の設定を変更した場合は、Smart Client をログアウトしてから、再度ログインし直してください。(☞ 137 ページ)
- 初期状態では「サーバーに接続」画面で [接続] をクリックすると、ログインできます。
  設定を変更している場合は、『Smart Client を起動する 』手順 2 以降の説明 (☞ 137 ページ) をご覧ください。
- 下記のような状態となった場合でも、Smart Client を再起動することで復帰可能な場合があります。
  - ライブ映像や再生画像が真っ黒になっている。
  - Smart Client の動作が遅い。
  - Smart Client が応答しない。
- Smart Client では、映像と音声がずれて再生される場合があります。
- E メールを設定した場合にはテストを行い、E メールが送信されることを確認してください。(☞ 112 ページ)
- 増設 HDD を接続している場合、起動に数分かかる場合があります。
- Smart Client を使用する場合、本機の性能を超えないように設定してください。記録のフレームレートが下がる場合があります。本機の性能ついては、『 記録 / 表示 / 配信性能 』(☞200 ページ) をご覧ください。
- 記録画像の連続再生（1 時間以上）は、記録抜けなどの原因となるため、避けてください。

パソコンにビューワーをインストールする

NVR とネットワークで接続したパソコンにビューワー（Smart Client）をインストールすると、以下のことができます。

- パソコンでライブ映像を見る
- パソコンでネットワークカメラの制御をする
- パソコンで記録画像を見る

ご注意：
- パソコンは LAN2 のネットワークに接続してください。
- LAN2 のネットワークに接続したパソコンから、LAN1 のネットワークに接続したカメラの設定はできません。

パソコンの必要条件

項目	内容
OS	Microsoft Windows Server 2008 R1/R2（32 ビットまたは 64 ビット *） Windows Server 2003 (32 ビットおよび 64* ビット) Windows Vista Business (32 ビットまたは 64* ビット) Windows Vista Enterprise (32 ビットまたは 64* ビット) Windows Vista Ultimate (32 ビットまたは 64* ビット) Windows XP Professional (32 ビットまたは 64 ビット *) Windows 7 Professional (32 ビットまたは 64 ビット *) Windows 7 Enterprise (32 ビットまたは 64 ビット *) Windows 7 Ultimate (32 ビットまたは 64 ビット *)
CPU	Intel Core2 Duo以上（大画面の場合はXeon推奨)、2.4GHz 必須
RAM	1GB 必須（大画面の場合は 1GB 以上推奨）
ネットワーク	Ethernet、100Mbps 以上推奨
グラフィックカード	AGP または PCI-Express、1280 × 1024 必須、16 ビットカラー以上
ハードディスク	100 MB 以上の空き容量
ソフトウェア	Microsoft .NET 4.0 Framework および DirectX 9.0 以降 Microsoft Internet Explorer 6.0

パソコンのネットワーク設定をする

本機の工場出荷時の設定でお使いの場合は、次のようにパソコンのネットワークを設定してください。

- 詳しくは、ネットワーク管理者にご確認ください。また、本機の工場出荷時の設定を変更してお使いの場合は、ネットワーク管理者に設定を確認してください。

■ 本機の LAN2 の初期設定

外部アドレス	192.168.1.253
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.254

■ パソコンの設定（例）

外部アドレス	192.168.1.11
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.254

ご注意：

- ネットワーク環境内で同じ IP アドレスを使わないように設定してください。
- パソコンのネットワーク設定では、1 つの NIC に対して、複数の IP アドレスを登録しないでください。

パソコンにビューワーをインストールする（つづき）

Smart Client をインストールする

ご注意：

- インストールを始める前に、Microsoft .NET Framework 4.0、DirectX9.0 以降、Microsoft Internet Explore6.0 以降がパソコンにインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、Smart Client のインストールに失敗する場合があります。

1 Internet Explorer ブラウザ（バージョン 6.0 以降）を開き、NVR の IP アドレス “http://192.168.1.253” を入力する

ウェルカム・ページが表示されます。

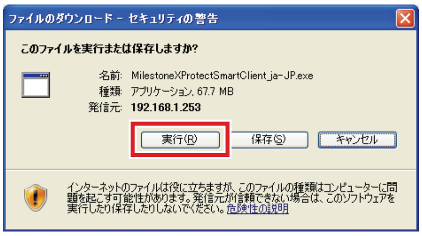
ご注意：

- [Remote Client] は選択しないでください。

2 [(Smart Client インストーラ 5.5C) 日本語] をクリックする

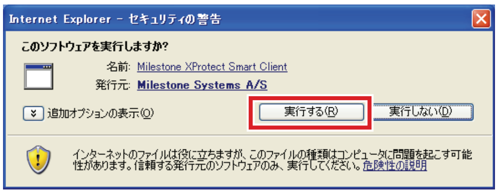
[このファイルを実行または保存しますか？] と確認のメッセージが表示されます。

3 [実行] ボタンをクリックする

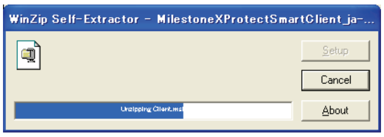


[このソフトウェアを実行しますか？] と確認のメッセージが表示されます。

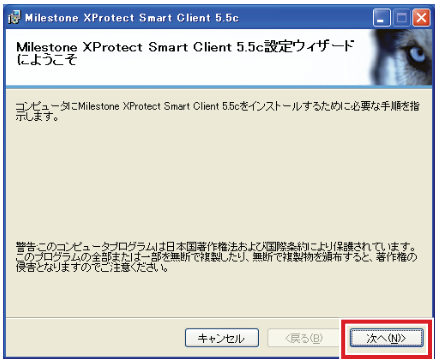
4 [実行する] ボタンをクリックする

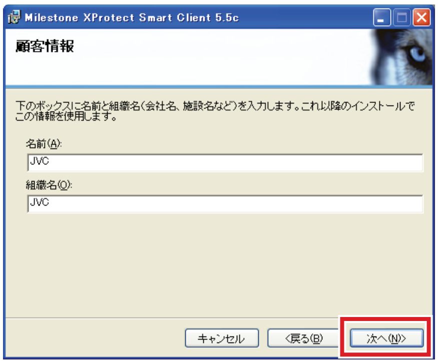


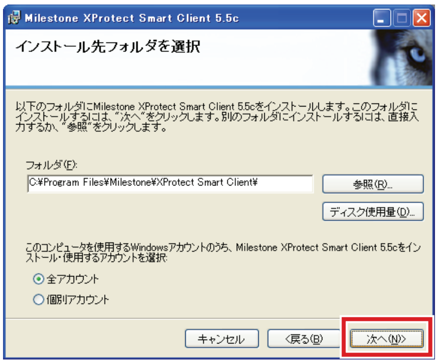
Smart Client セットアップ・ウィザードが開始します。

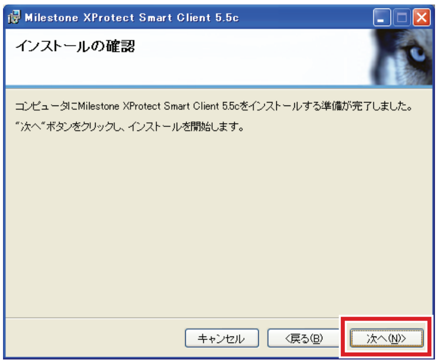


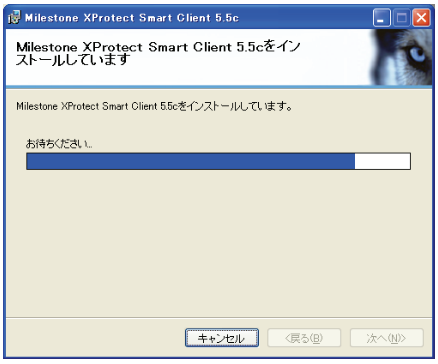
5 [次へ] をクリックし、インストール指示にしたがって操作する

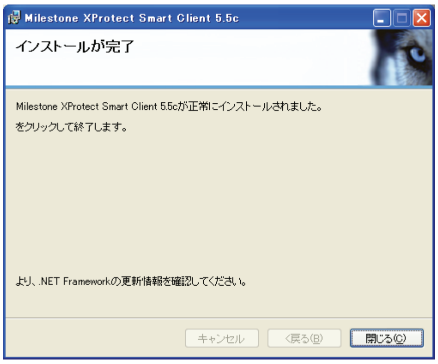












6 [閉じる] をクリックする

インストールが終了し、デスクトップに "Smart Client" のショートカットが作成されます。

ご注意 :

- インストールの途中で、.Net Framework 4.0 のインストール画面が表示された場合、パソコンがインターネットに接続されていないと、インストールを続行できないことがあります。

ビューを作る

グループとビュー

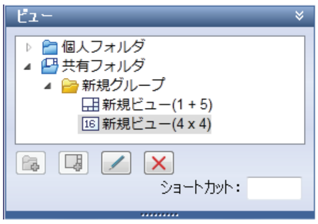
Smart Client で表示する複数のカメラ映像の分割表示を「ビュー」と呼びます。ビューは、カメラの設置場所や台数に合わせて無制限に作成することができ、グループ（フォルダ）に分けて管理します。

■ グループとビューの構造

作成するグループのルートになるグループとして、あらかじめ次の 2 つが用意されています。

個人フォルダ	このフォルダ内のビューは、作成したユーザーしかアクセスできません。
共有フォルダ	このフォルダ内のビューは、システムにアクセスできるすべてのパソコンユーザーからアクセス可能です。

- グループとビューの構造は、「ビュー」セクションで確認できます。



ご注意 :

- 認証方式は「基本認証」を選択してください。ユーザー名とパスワードには、基本ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。初期状態で登録済みの基本ユーザーについては、『 ユーザー 』(☞114 ページ) をご覧ください。
- 共有フォルダのビューを変更する際に、「ビューグループ保存エラー」画面が表示されることがあります。この場合は [OK] をクリックしてエラー画面を閉じてから、Smart Client をログアウト (☞ 138 ページ) してください。その後、再度ログインして、ビューの変更をやりなおしてください。

ビューを作る（つづき）

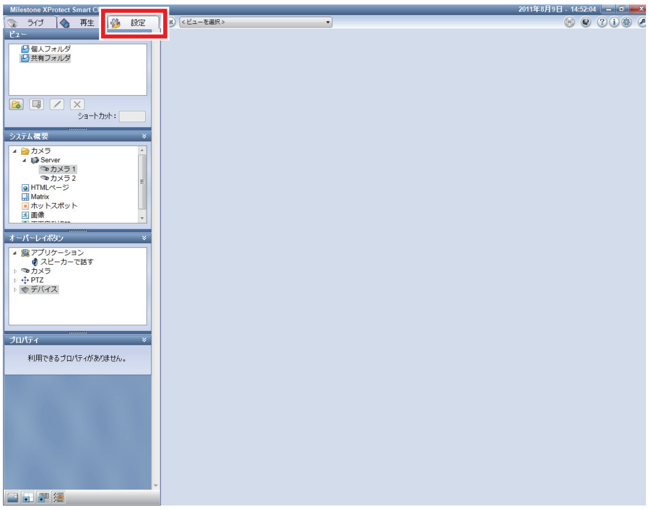
ビューを作成する

ビューを作るには、グループ、ビューの順に作り、ビューに表示するカメラを登録します。

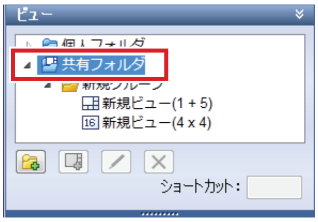
メモ：

- 「ビュー」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

1 「設定」タブをクリックする

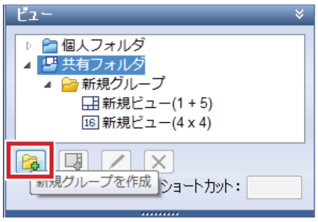


2 「ビュー」セクションで、新しくグループを作成したいルートフォルダ（個人または共有）を選択する

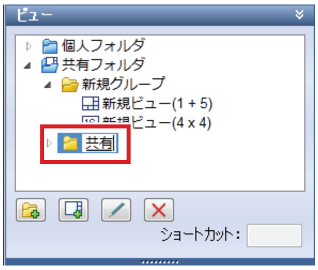


3 [（新規グループを作成）] をクリックする

新しいグループが作成されます。

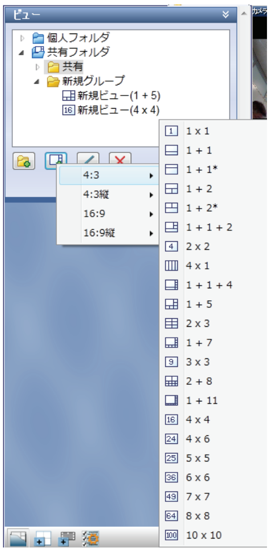


4 新しく作成するグループ名を入力する

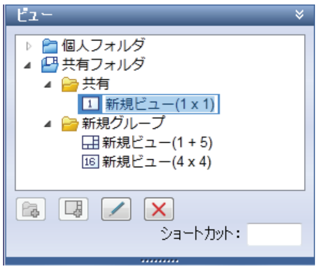


続けて、作成したグループに新しいビューを作成します。

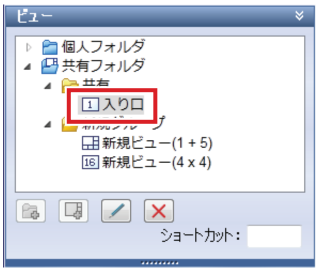
5 [（新規ビューを作成）] をクリックし、新しいビュー用レイアウトを選択する



新しいビューがグループ内に作られます。



6 ビュー名を入力する



続けて、作成したビューに表示するカメラを登録します。

7「システム概要」セクションで [Server] の左側の [▶] をクリックする

利用できるカメラのリストが表示されます。

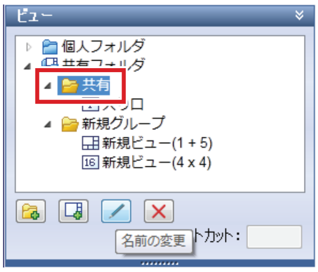
8 リストから表示したいカメラを選択し、右側画像表示画面の画面上にドラッグする

- 選択カメラからの画像がカメラ名とともに表示されます。
- 各カメラについて同様の操作をくり返します。

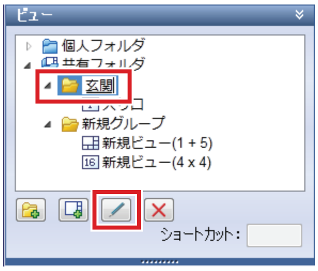
ビューを編集する

■ グループ／ビュー名を変更する

1「ビュー」セクションで名前を変更したいグループ／ビューを選択する



2 [✎ (名前の変更)] ボタンをクリックして、グループ／ビュー名を入力する



■ グループ／ビューを削除する

1「ビュー」セクションで削除したいグループ／ビューを選択する

2 [✕ (削除)] ボタンをクリックする

選択したグループとグループ内のすべてのビュー、あるいは選択したビューを削除してよいか、確認メッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックする

■ ビューからカメラを削除する

1 削除したいカメラウィンドウの右上の［×］をクリックする

ビューから、カメラが削除されます。

ライブ映像を見る

ライブ画面を表示する

1 「ライブ」タブをクリックする

ライブ画面が表示されます。

項目	内容
①「ライブ」タブ	ライブ画面を表示します。
② 操作セクション	(☞ 147 ページ)
③ カメラ映像	カメラのライブ映像
④ ビュー	複数のカメラからの映像の分割表示
⑤ 閉じるボタン	Smart Client を終了します。
⑥ ビューリスト	ビューを切り換えます。

- ライブ画面を終了せずにカメラ記録設定をした場合、カメラ記録設定終了後すぐにライブ映像が表示されない場合があります。
その場合ライブ画面には、「サーバーへ接続できません！再試行します」または、「[デバイス名]（カメラ名）上127.0.0.1:80 へ接続できません」と表示されています。（127.0.0.1:80 は操作中の本機の内部的な IP アドレスです。）

メモ：
- ネットワークの回線状況によっては、カメラからの映像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- 増設 HDD の接続によって、ライブ映像表示画面の表示に数分程度の時間がかかることがあります。

■ カメラの状態を確認するには

各カメラのウィンドウ上部青色のバーに表示される３色の四角形のインジケーターと、カメラの動作状態を示す文字で確認します。

項目		内容
① カメラの動作状態表示		
	ライブ（緑色）	記録していない状態でライブ映像を表示しているとき
	記録（赤色）	記録しているとき
	停止（黄色）	カメラからの映像が取得できないとき、またはカメラがオフラインのとき
② イベントインジケーター（左：黄色）		イベントが発生した場合に点灯します。イベントが指定されていない場合、または何もイベントが発生していない場合、インジケータは黒色のままです。
③ モーションインジケーター（中央：赤色）		モーションが検知された場合に点灯します。
④ ライブインジケーター（右のインジケータ：緑色）		カメラからの映像を受け取るたびに点滅します。

メモ：
- カメラのウィンドウを拡大するには、上部青色のバーをダブルクリックします。元の大きさに戻すには、もう一度上部青色のバーをダブルクリックします。
- 点灯しているイベントまたはモーションインジケーターをクリックすると、インジケーターを消灯することができます。ライブインジケーターは、『 表示設定 』(☞176 ページ) で非表示にすることもできます。

■ ライブ画面の操作セクションについて

ライブ映像画面では、各セクションで次の操作ができます。
- セクションの表示 / 非表示は、アイコンをクリックして切り換えられます。

セクション名	アイコン	操作
ビュー		登録されているビューから、表示するビューを選択します。
カメラ		カメラのリストを表示します。ビューにないカメラをリストから選んでビューにドラッグすると、一時的にそのカメラの映像を見ることができます。
イベント		あらかじめ設定されているイベントを手動で発生させます。
出力		あらかじめ設定されている出力を行います。
音声		カメラにつけられたマイクまたはスピーカーを使います。
シーケンスエクスプローラ		記録画像を一覧表示します。
PTZ 管理		カメラの操作（パン・チルト・ズーム）を行います。

ビューを切り換える

ビューを切り換えて、別のカメラの映像を表示させせます。

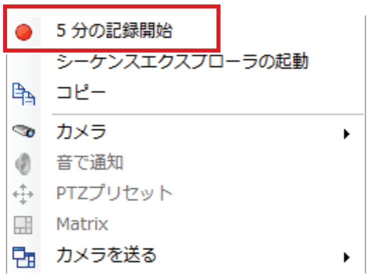
1 「ビュー」セクションでビューを選択、またはウィンドウ上部のビューリストからビューを選択する

ご注意 :
- 短時間にビューを頻繁に切り換えないようにしてください。
- VN-C625/VN-C655 でライブ映像が表示されない場合は、カメラ本体と本機に設定されている VN-C625/VN-C655 接続用のパスワードを再設定してください。設定方法は、使用カメラの取扱説明書および本書の「拡張設定」の「ハードウェアデバイス」の「パスワード」の設定方法 (☞ 94 ページ) をご覧ください。

特定のカメラの映像を手動で録画する

ライブ映像を見ているときに、特定のカメラの映像を録画することができます。
- この機能には、アクセス制限があります。詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。
- あらかじめ、Management Application で録画時間の上限を設定しておく必要があります。設定のしかたは、『 手動レコーディング 』(☞103 ページ) をご覧ください。

1 録画したいカメラ映像内で右クリックし、ショートカットメニューから「…の記録開始」を選択する



録画が始まり、指定した時間が過ぎると自動で終了します。

メモ :
- 途中で録画を止めることはできません。
- Smart Client からは、録画時間を変更することはできません。詳しくは監視システム管理者にお問い合わせください。

ライブ映像画面でカメラを操作する

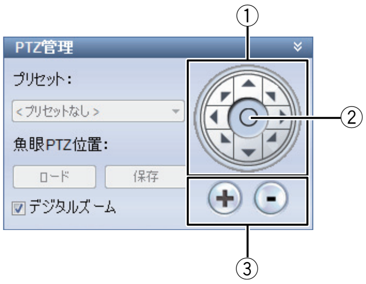
PTZ 機能を使い画像を見る

カメラが PTZ 機能をサポートしている場合に、PTZ（パン・チルト・ズーム）操作ができます。
- カメラが PTZ 機能をサポートしていない場合は、ボタンを押しても無視されます。

メモ：
- 「PTZ 管理」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

1 選択するカメラのライブ画面上部のバーをクリックして、カメラを選択する
- カメラを選択すると上部青色のバーが明るい青色に変わります。

2 「PTZ 管理」セクションの PTZ ナビゲーションボタンをクリックする



項目	内容
① PTZ ナビゲーションボタン	矢印の方向にカメラが移動します。
② ホームボタン	ホームポジションへ戻ります。
③ [+]/[−]	ズームイン / ズームアウトします。

メモ：
- PTZ カメラからの映像画面上でマウスポインタが十字ポインタに変われば、映像画面内をポイント＆クリックすることでカメラの向きを変えることができます。マウスポインタが十字ポインタに変わらない場合は、映像画面でカメラの操作を行うことはできません。PTZ カメラによっては、マウスポインタが十字ポインタに変わらない場合があります。また、PTZ カメラの種類によっては、マウスポインタが十字ポインタに変わっても、操作できない場合があります。その場合は、[PTZ 管理] セクションの PTZ ナビゲーションボタンを使って操作してください。
- ネットワークエンコーダー（IP ビデオサーバー：VN-E4 など）に接続されているアナログカメラは、十字ポインタに変わりません。
- スクロールホイール付きのマウスであれば、スクロールホイールを使って PTZ カメラのズームイン／ズームアウトができます。
- VN-V686/VN-V686WP で電子ズーム機能を使用している場合、光学ズームと電子ズームの境界でズーム動作が一度停止します。引き続きズームするには、再度ズーム操作を行なってください。

■ デジタルズーム

「PTZ 管理」セクションの「デジタルズーム」にチェックを入れると、カメラからの画像を拡大して表示することができます。デジタルズームを行うと、右下に小さく全体画像が表示されます。

メモ：
- デジタルズームを使用しても、記録される画像はズームされません。
- デジタルズームを使用すると、本機の負荷率が高くなるため、記録フレームレートが低下する場合があります。
- デジタルズームを終了するには「デジタルズーム」のチェックをはずしてください。

ご注意：
- 「デジタルズーム」にチェックがされている場合、実際の PTZ 動作は行われません。

プリセット機能を使う

あらかじめ設定されたプリセット位置へカメラの向きを移動させることができます。

メモ：
- 「PTZ 管理」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。
- この操作は、カメラが PTZ 機能をサポートしている場合のみ有効です。
- プリセットリストは、Management Application の「拡張設定」➡「ハードウェアデバイス」➡（PTZ カメラの）「カメラプロパティ」➡「PTZ 設定」から設定することが可能です。(☞ 41 ページ)

1 「PTZ 管理」セクションのプリセットリストからプリセット位置を選択する
- カメラがプリセット位置へ移動します。

特定のカメラだけ記録画像を再生する（独立再生）

ライブタブでは、すべてのカメラでライブ映像を見ることができます。

独立再生機能では、特定のカメラについて過去の記録画像に変更して見ることができます。

- 独立再生は、複数のカメラについて行うことができます。
- 独立再生は、「再生」タブのビューでも行うことができます。

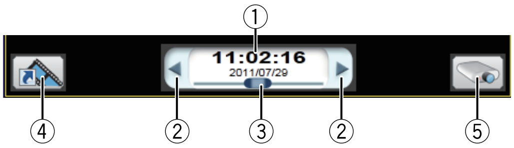
1 ビュー内のカメラの映像にカーソルをあてる

カメラ映像の上に独立再生開始ボタンが表示されます。

2 独立再生開始ボタンをクリックする

カメラのタイトルバーが黄色にかわり、一時停止状態になります。再生を開始するには、日時表示右側の [ ] をクリックしてください。

3 見たい映像をさがす



項目	内容
① 時刻と年月日	映像が記録された日時が表示されます。
②	逆再生 / 通常再生します。 ● 一度クリックすると一時停止ボタンになります。
③ スライダー	再生しながら、再生のスピードを変えます。 ● 音声は再生されません。
④	現在見ている記録画像の時刻で、再生ビューに切り替わります。
⑤	独立再生を終了します。

- カーソルがカメラ映像の外に出ると、コントローラーは消えます。

4 [ ] をクリックして、独立再生を終了する

タイトルバーの色が通常に戻ります。

メモ：

- カメラのウィンドウの表示サイズが小さいと、スライダーが表示されません。その場合は、ビューワーを最大表示するか、カメラのウィンドウ上部のバーをダブルクリックして拡大表示して、スライダーを表示させてください。

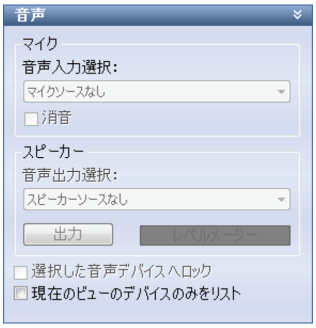
その他便利な機能

■ 音声通信をする

カメラにマイクまたはスピーカーがついている場合に、「音声」セクションを使って音声通信をすることができます。

メモ：

- 「音声」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。



カメラに取り付けたマイクからの音声を聞くには、「音声入力選択」リストからマイクを選択します。

- 「消音」にチェックをすると、マイクからの音声を一時的に消音します。

カメラに取り付けたスピーカーを通して対象者に話しかけるには、「音声出力選択」リストからスピーカーを選択します。「すべてのスピーカー」を選択すると、すべてのスピーカーに同時に話しかけることができます。

- 話しているあいだは、[出力] をクリックしたままにしてください。
- 送話者の音量レベルは、レベルメーターで確認できます。

ご注意：

- 複数の監視用パソコンで音声を開くと、音声が乱れる場合があります。
- 設定画面からライブ映像表示画面に戻ったときは、マイク / スピーカーは選択されていない状態に戻ります。再度選択し直してください。
- ネットワークが混雑している場合は、音声通信ができないことがあります。

メモ：

- 「ハードウェアデバイス」の「カメラ」の「音声設定」で音声ソースが設定されているカメラを選択したときは、設定されている音声が出力されます。(☞ 97 ページ)
- 「選択した音声デバイスにロック」にチェックをすると、他のカメラを選択しても、マイクとスピーカーの選択が切り換わらなくなります。
- 「現在のビューのデバイスのみをリスト」にチェックをすると、ビュー内の音声デバイスのみがリストに表示されます。
- 音声ソースが設定されていないカメラを選択したときは、最後に出力されている音声が継続出力されます。
- 記録と同時にライブ映像を表示した場合には、表示される映像と音声がずれることがあります。（本機または増設 HDD への記録には影響ありません）

ライブ映像画面でカメラを操作する（つづき）

その他便利な機能（つづき）

■ 手動イベント

手動でイベントを発生させることができます。「イベント」セクションでイベントを選択し、[起動] をクリックしてください。

メモ：
- 「イベント」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

メモ：
- イベントについては『イベントとアクション』(☞48ページ) をご覧ください。
- あらかじめイベントを設定しておく必要があります。(☞52 ページ『 イベント設定～手動イベント 』)

■ 出力制御

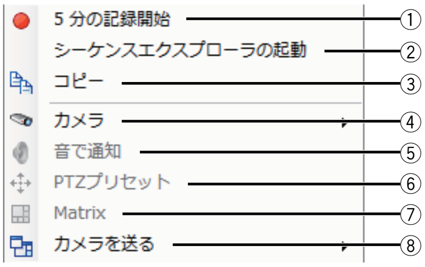
照明の点灯やサイレンなど、あらかじめ設定した出力を行います。「出力」セクションで出力を選択し、[起動] をクリックしてください。

メモ：
- 「出力」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

メモ：
- あらかじめ出力を設定しておく必要があります。(☞58 ページ『 アクション設定～出力 』)

■ カメラショートカットメニュー

カメラ映像の画面上で右クリックすると、ショートカットメニューを開くことができます。
- カメラの設定によっては、メニュー項目が異なる場合があります。



項目	内容
① …の記録開始	選択したカメラの録画を開始します (手動録画)。
② シーケンスエクスプローラの起動	選択したカメラのシーケンスエクスプローラーを起動します。
③ コピー	選択しているカメラの画像を静止画像としてコピーします。コピーした静止画像をビットマップファイルとして、他のアプリケーション（ワープロソフトなど）に貼り付けることができます。
④ カメラ	選択した位置に別のカメラの映像を表示します。
⑤ 音で通知	警告音などを一時的に消音します。
⑥ PTZ プリセット	プリセット位置を選択して、カメラを移動します。
⑦ Matrix	手動で Matrix による映像配信を行います。
⑧ カメラを送る	指定のウィンドウに、選択したカメラ映像を表示します。

記録画像を見る

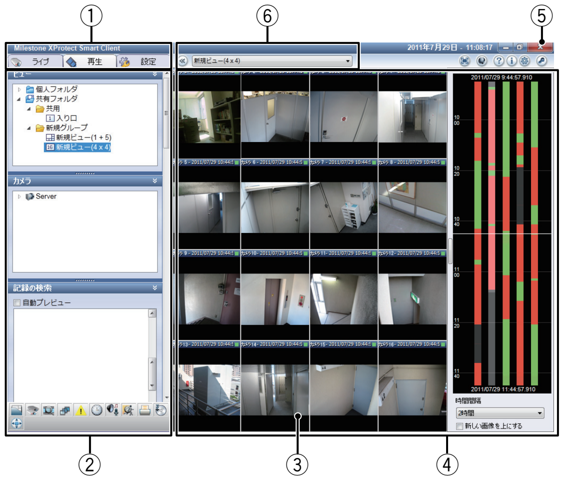
メモ：

- 再生画面での操作中は、記録フレームレートが低下することがあります。
- 記録と同時に記録画像を再生した場合などHDDへのアクセスが頻繁に発生する場合には、再生される画像が一時停止したり、音声が途切れることがあります。（本機または増設 HDD への記録には影響ありません）
- 設定画面から再生画面に戻ったときに、「音声」セクションのマイク選択が「なし」になることがあります。再度選択し直してください。
- パソコンのタイムゾーンは、本機と同じ設定にしてください。タイムゾーンの違うパソコンで記録画像を再生した場合、本機の記録画像の時刻はパソコンのタイムゾーンの時刻に変換されて表示されます。
- 日時・時刻の設定でタイムゾーンを変更したときは、[×] ボタンを押して Smart Client を終了し、もう一度起動してください。

再生画面を表示する

1 「再生」タブをクリックする

再生画面が表示されます（数分かかる場合があります）。



項目	内容
①「再生」タブ	再生画面を表示します。
② 操作セクション	(☞ 152 ページ)
③ カメラ映像	カメラの記録画像
④ ビュー	複数のカメラの記録画像の分割表示 ● ビュー内のすべてのカメラで同じ日時（「時間ナビ」セクションで表示されている日時）の記録画像が表示されます。
⑤ 閉じるボタン	Smart Client を終了します。
⑥ ビューリスト	ビューを切り換えます。

- 再生画面を表示中にカメラ記録設定をした場合、カメラ記録設定終了後すぐに再生画像が表示されない場合があります。
  その場合再生画面には、“ サーバーへ接続できません！再試行します ” または、“ [デバイス名]（カメラ名）上 127.0.0.1:80 へ接続できません ” と表示されています。（127.0.0.1:80 は操作中の本機の IP アドレスです。）
- 全く記録されていない状態で再生すると、再生画面には “ 接続：[NVR]Camera1 on 127.0.0.1:80” を表示し続けます。

メモ：

- 再生画面上部のバーにライブインジケーターが表示されます。新しい画像が表示されるたびに緑色に点灯します。
- 記録画像はデータベースとして保存されています。本機では記録データをデータベースと呼んでいます。
- 再生画面に、“ データベース開始前 ” 等のメッセージが表示されている場合は、現在の位置より前にはデータベース（記録画像）が存在しないことを表します。
- 再生画面に、“ データがありません ” 等のメッセージが表示されている場合は、現在の位置より後ろにはデータベース（記録画像）が存在しないことを表します。
- タイムラインが欠けるなど正常に表示されない場合は、「ライブ」タブや「設定」タブをクリックして一度表示画面を切り換えてから、「再生」タブをクリックして再生画面を表示してください。

ご注意：

- 短時間にライブ画面と再生画面を頻繁に切り換えないようにしてください。

記録画像を見る（つづき）

再生画面を表示する（つづき）

■ 再生画面の操作セクションについて

再生画面では、各セクションで次の操作ができます。
- セクションの表示 / 非表示は、アイコンをクリックして切り換えられます。

セクション	アイコン	内容
ビュー		登録されているビューから、表示するビューを選択します。
カメラ		カメラのリストを表示します。ビューにないカメラをリストから選んでビューにドラッグすると、一時的にそのカメラの映像を見ることができます。
記録の検索		シーケンスで記録画像を検索します。
シーケンスエクスプローラ		ビュー内の全カメラのシーケンス画像を一覧表示します。
アラート		アラートで記録画像を検索します。
時間ナビ		日時を指定して記録画像を検索します。また、記録画像の再生操作をします。
音声		カメラと音声通信をします。
スマート検索		動きのあった映像を検索します。
印刷		記録画像を印刷します。
エクスポート		記録画像をデスクトップなどに保存します。
PTZ 管理		PTZ カメラの操作をします。

ビューを切り換える

ビューを切り換えて別のカメラの記録を見ます。

1「ビュー」セクションでビューを選択、またはウィンドウ上部のビューリストからビューを選択する

ご注意 :
- 短時間にビューを頻繁に切り換えないようにしてください。
- VN-C625/VN-C655 でライブ映像が表示されない場合は、カメラ本体と本機に設定されている VN-C625/VN-C655 接続用のパスワードを再設定してください。設定方法は、使用カメラの取扱説明書および本書の「拡張設定」の「ハードウェアデバイス」の「パスワード」の設定方法 (☞ 94 ページ) をご覧ください。

記録画像をさがす

本機で記録した映像は、次の方法でさがすことができます。

さがしかた	参照
記録日時でさがす	(☞ 153 ページ)
記録画像のまとまり (シーケンス) を一覧表示してさがす	(☞ 153 ページ)
記録の有無でさがす	(☞ 154 ページ)
記録画像のまとまり (シーケンス) を記録日時でさがす	(☞ 155 ページ)
アラートリストからさがす	(☞ 155 ページ)
特定のエリアの映像の変化でさがす (スマート検索)	(☞ 156 ページ)

記録画像を日時からさがす

再生画面の「時間ナビ」セクションを使い記録画像を検索します。

メモ :

- 「時間ナビ」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

1 「時間ナビ」セクションで検索日時を選択する

- 左側のボックスに日付、右側のボックスに時間を指定します。

2 [移行] をクリックする

指定した日時の映像がビューに表示されます。

- マスタータイム表示部に、表示している映像の日時が表示されます。

メモ :

- モーション検知による記録や、ビュー内複数のカメラに指定日時に記録がない場合があります。この場合、カメラのデータベースから指定日時前の最後の画像が表示されます。(記録画像はデータベースに保存されています。)
- 現在選択されている再生スピードを表示します。

ご注意 :

- マスタータイム表示部は最新の記録画像の記録日時を越えて表示されることがあります。この場合、ブラウズボタンの をクリックして最新の記録画像へ移動したあとに再生ボタン をクリックしてください。

- 「時間ナビ」セクションで、「再生中は間をスキップ」がチェックされている場合、記録同時再生時に記録部分の終端を越えると再生が停止する場合があります。このような場合には「再生中は間をスキップ」のチェックをはずしてください。再生が停止した場合は、再度再生ボタンを押してください。

画像の一覧表示でさがす

シーケンスエクスプローラを使って、シーケンス（イベントまたはモーションで記録される記録画像のまとまり）または指定した時間間隔の最初の画像の一覧表示で検索できます。

メモ :

- 「シーケンスエクスプローラ」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

1 「シーケンスエクスプローラ」セクションで一覧表示する対象を選んで、起動する

項目	内容
ビューを起動	現在のビュー内のすべてのカメラの記録画像を一覧表示します。
カメラを起動	選んでいるカメラの記録画像を一覧表示します。

2 一覧の種類（シーケンスまたは時間間隔）を選択する

3 一覧表示から見たい画像をクリックする

画面の左側に選んだ映像が表示されます。

メモ :

- 一覧画像の大きさを変更するには、［サイズ変更］スライダーを左右にドラッグします。
- カメラのリストでチェックをはずすと、そのカメラを検索対象からはずすことができます。
- シーケンスエクスプローラ画面で画像が表示されない場合は、シーケンスエクスプローラ画面右上の [ ] アイコンをクリックして表示形式を変更すると、正しく表示されることがあります。

ご注意 :

- 大量のシーケンスが存在する場合、表示に時間がかかることがあります。また、そのあいだは記録フレームレートが低下することがあります。
- シーケンスの表示が完了する前にシーケンスエクスプローラを終了した場合、しばらくの間記録フレームレートが低下したり、ライブ表示が正常に行われないことがあります。
- 不要なシーケンスの生成を避けるには、カメラプロパティで「モーション検知と除外エリア」を適切に設定してください。モーション検知が不要な場合は、設定画面で「領域の除外」を「有効」にして、「全て選択」を設定してください。(☞ 99 ページ)

記録画像をさがす（つづき）

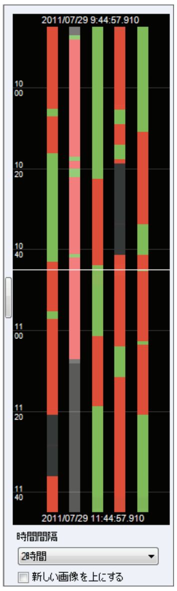
記録の有無で画像を検索する

再生画面右側のタイムライン・ブラウザでは、記録の有無や種類から画像の検索ができます。

ご注意：

- タイムラインは目安です。実際の時間とずれて表示されることがあります。

■ タイムラインの見かた



タイムライン		記録状況を示し、Smart Client で表示できるカメラの数だけ表示します。選択されているカメラのタイムラインはハイライト表示されます。
	赤	モーション（動き）検知またはイベントで記録されたことを示します。（ハイライト時はピンクです。）
	緑	モーション検知前後の記録を示します。（ハイライト時は薄緑色です。）
	黒	記録されていない期間を示します。（ハイライト時は灰色です。）
	中央の白線（時間表示ポインタ）	表示画像の時刻を示します。
	（タイムライン・ブラウザの左縁中央辺り）	タイムライン・ブラウザの表示 / 非表示を切り換えます。

■ タイムラインでさがす

1 タイムラインの表示を選択する

項目	内容
時間間隔	表示する時間間隔を選びます。
新しい画像を上にする	チェックすると、タイムライン上の時間の流れが下から上にかわります。

2 タイムラインを上下にドラッグして検索する

- 時間表示ポインタを確認しながらドラッグしてください。

メモ：

- タイムライン・ブラウザの表示設定は保存されません。Smart Client を再起動すると設定していた内容は失われます。
- スクロールホイール付きのマウスを使うと、スクロールホイールを使ってタイムラインを検索できます。
- タイムラインの任意の箇所をダブルクリックすると、その時間の画像を表示することができます。

ご注意：

- マウスでタイムラインを上下にドラッグした場合、タイムラインの一部が更新されない場合があります。このような場合は、Smart Client を一度終了し (☞ 138 ページ)、再度起動 (☞ 137 ページ) してください。

記録画像を検索する

イベント、モーションで記録された画像のまとまり (シーケンス) ごとに、記録画像をリストアップします。

メモ :

- 「記録の検索」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

1 検索対象を選択する

- カメラを検索するとき : ビューで検索したいカメラを選択し、「記録の検索」セクションで「選択したカメラ」を選択する
- ビューを検索するとき : 検索したいビューを表示させ、「記録の検索」セクションで「ビューにあるすべてのカメラ」を選択する

2 [検索] をクリックする

表示時刻前後のそれぞれ 20 画像がリストアップされます。

- 「自動プレビュー」にチェックをすると、リスト内のシーケンスをマウスでポイントしたときにプレビュー画像を見ることができます。

3 リスト内のシーケンスをクリックする

ビュー内のすべての画像が、選択したシーケンス日時に合わせて表示されます。

メモ :

- 「自動プレビュー」にチェックをすると、リストのシーケンス名にマウスを置くだけで、そのシーケンスのプレビューが表示されます。
- 「記録の検索」セクションの印刷アイコンをクリックすると、選択したシーケンスの最初の画像を印刷することができます (☞160 ページ『 記録画像を印刷する （監視用パソコンからの操作）』)。
- エクスポートアイコンをクリックすると、エクスポートすることができます (☞168 ページ『 画像や音声を USB フラッシュメモリなどに保存する（エクスポート）』)。
- 「詳細を表示」にチェックをすると、記録開始のきっかけとなったモーション検知やイベントなどの正確な日時と、シーケンスの最初と最後の正確な日時を表示します。

ご注意 :

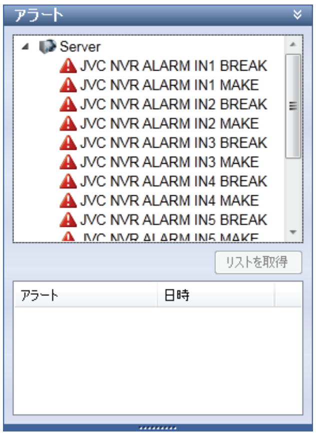
- モーション / イベント前後の記録設定によっては (☞ 60 ページ)、連続した複数のシーケンスが 1 つのシーケンスにまとめられる場合があります。

アラートリストから記録画像を検索する

記録開始のきっかけ（イベント）の種類ごとに記録画像をリストアップします。

メモ :

- 「アラート」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。



1 「アラート」セクションのアラートリストからイベントを選択する

- 所定のイベント、カメラまたは [Server]（サーバー）を選択することができます。

2 [リストを取得] をクリックする

検知されたイベントのリストが表示されます。

- イベントリストをクリックして、選択したイベントの記録画像を見ることができます。

メモ :

- アラートリストは「時間ナビ」で指定された時刻前後約 1 日のイベントが取得されます。

記録画像をさがす（つづき）

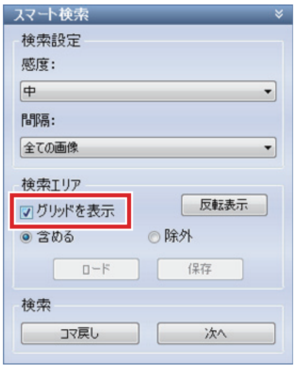
スマート検索

選択カメラの記録画像から検索エリアを指定して、動きのあった部分を検索することができます。

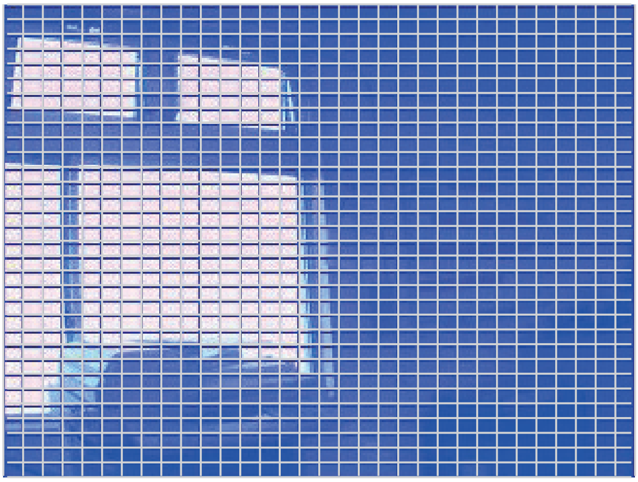
メモ：
- 「スマート検索」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

1 カメラ画像クリックで検索するカメラを選択する

2 「スマート検索」セクションで「検索エリア」の「グリッドを表示」にチェックをする



- 青色のグリッドが表示されます。



3 画面内をクリック・ドラッグし、検索するエリアを指定する

指定されたエリアは透明になります。
- 「含める」にチェックを入れると、ドラッグした部分が検索エリアに追加されます。「除外」にチェックを入れると、ドラッグした部分が検索エリアから削除されます。
- ［反転表示］をクリックすると、選択したエリアを含めるか除外するかを反転します。

4 「検索設定」で、「感度」リストから感度を選択する

以下の設定値から選びます
- [非常に高い]
- [高]
- [中]
- [低]
- [非常に低い]

5 「間隔」リストで時間間隔を設定する

6 [コマ戻し]または[次へ]をくり返しクリックしながら検索する

エリア内モーション（動き）が検出されたデータの検索が開始されます。エリア内で動きが検知された画像が表示され、モーションはハイライト表示されます。

ご注意：
- スマート検索は、表示されている画像の時間から [前方へ] または [後方に] 検索します。
- 記録中にスマート検索を使うと、記録フレームレートが下がることがあります。CPU メーターを見ながら赤色表示にならない範囲でご利用ください。

メモ：
- [保存]をクリックして、手順**3**で指定したエリアを一時的に保存することができます。
別のエリアを指定したあと、[ロード] をクリックすると、保存したエリア設定に戻すことができます。
- エリアの選択を解除するには、「除外」にチェックを入れてすべてのエリアをドラッグしてください。

記録画像を再生する

Smart Client の「時間ナビ」セクションで、再生、停止、スキップ操作を行います。

メモ：

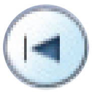
- 「時間ナビ」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

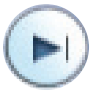
ボタンとスライダーのはたらきは以下のとおりです。

● ブラウズボタン

：選択されているカメラのひとつ前の画像に移動します。（コマ戻し）

：選択されているカメラの次の画像に移動します。（コマ送り）

：選択されているカメラのひとつ前のシーケンス先頭の画像に移動します。（シーケンスが無い場合や、シーケンスの長さによっては、正しく動作しないことがあります）

：選択されているカメラの次のシーケンス先頭の画像に移動します。（シーケンスが無い場合や、シーケンスの長さによっては、正しく動作しないことがあります）

：選択カメラの最古の記録画像に移動します。（10 倍以上で再生している場合は、正しく動作しないことがあります）

：選択カメラの最新の記録画像に移動します。（10 倍以上で再生している場合は、正しく動作しないことがあります）

ご注意：

- ブラウズボタンは、カメラを選択していないと動作しません。
- ブラウズボタン をクリックしてから、移動が完了するまで、時間がかかる場合があります。移動が完了する前に連続してボタンを押すと、まとめてシーケンスの移動が行われますのでご注意ください。

● [時間] スライダー

左方向にドラッグすると記録日時を遡り、右方向にドラッグすると新しくなります。上段のスライダーは限られた期間の細やかな再生（0.4 ～ 240 倍）、下段のスライダーは長期間の大まかな再生（20 ～ 36,000 倍）に使います。

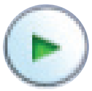
● [再生] スライダー

中央位置が 1 倍速、左方向へドラッグすると再生スピードが遅く、右方向へドラッグすると早くなります。左端へドラッグすると一時停止となります。

再生中のスピードは、マスタータイム表示部の右上に表示されます。

● [再生] ボタン

：逆再生します。

：通常再生します。

：再生を一時停止します。

メモ：

- 再生スライダーが左端にある場合（一時停止）、再生ボタンは動作しません。再生スライダーをご希望の速度に設定してください。

■ 記録のない部分をスキップするには

「時間ナビ」セクションの「再生中は間をスキップ」にチェックを入れると、選択されているカメラの記録画像がない部分をスキップして再生できます。

- 分割画面表示のときは、選択されているカメラの記録がなくても、他のカメラの記録があればスキップされません。その場合、記録がないカメラでは、最後に表示された画像が表示されています。

記録画像をさがす（つづき）

特定のカメラだけ記録時間を変更して再生する（独立再生）

再生タブでは通常、同時刻の記録画像がすべてのカメラで一斉に再生されます。

独立再生機能では、特定のカメラについて映像の記録時間を変更して見ることができます。

- 独立再生は、複数のカメラについて行うことができます。
- 独立再生は、ライブタブのビューでも行うことができます。

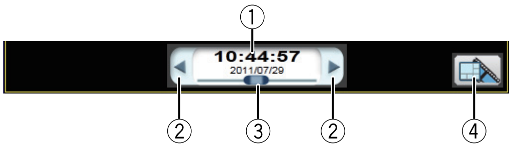
1 ビュー内のカメラの映像にカーソルをあてる

カメラ映像の上に独立再生開始ボタンが表示されます。

2 独立再生開始ボタンをクリックする

カメラのタイトルバーが黄色にかわり、一時停止状態になります。再生を開始するには、日時表示右側の [▶] をクリックしてください。

3 見たい映像をさがす



項目	内容
① 時刻と年月日	映像が記録された日時が表示されます。
② ◀ ▶	逆再生 / 通常再生します。 ● 一度クリックすると一時停止ボタンになります。
③ スライダー	再生しながら、再生のスピードを変えます。 ● 音声は再生されません。
④ [独立再生終了ボタン]	独立再生を終了します。

- カーソルがカメラ映像の外に出ると、コントローラーは消えます。

4 [ ] をクリックして、独立再生を終了する

タイトルバーの色が通常に戻ります。

メモ：

- カメラのウィンドウの表示サイズが小さいと、スライダーが表示されません。その場合は、ビューワーを最大表示するか、カメラのウィンドウ上部のバーをダブルクリックして拡大表示して、スライダーを表示させてください。

記録した音声を聞く

マイクがついたカメラの音声を記録している場合、再生画面で記録音声を聞くことができます。

メモ：

- 「音声」セクションが表示されていないときは、[ ] をクリックして表示させます。

1「マイク」の「音声入力選択」リストから音声を選択する。

- 一時的に消音するには、「消音」にチェックを入れてください。

ご注意：

- 複数の監視用パソコンで音声を再生すると、音声が乱れる場合があります。
- 設定画面から再生画面に戻ったときに、「音声」セクションのマイク選択が「なし」になることがあります。再度選択し直してください。
- 静止画再生時や正方向 × 1 以外のサーチ・コマ送り再生のときは、音声は出力されません。
- 記録動作中に記録画像の再生操作を行なった場合、再生される音声が途切れる場合があります。

メモ：

- 音声を設定しているカメラを選択したときは、設定されている音声が出力されます。
- 音声を設定していないカメラを選択したときは、最後に出力されている音声が継続出力されます。
- 再生画面では、「スピーカー」は使用できません。

ビューワー編

応用

この章では、使い方に合わせたビューのカスタマイズのしかたについて説明します。

ご注意：

- Smart Clientを起動しているときにManagement Applicationの設定を変更した場合は、Smart Clientを一度終了し、再度起動してください

記録画像を印刷する（監視用パソコンからの操作）

画面に表示している再生画像を印刷することができます。

ご注意：

- VR-X3200/VR-X1600 本体からは印刷できません。本機能は監視用パソコンにダウンロードした、[Smart Client] で使用する機能です。

1「再生」タブをクリックする

2「印刷」セクションの [印刷 ...] をクリックする

- 「XProtect Smart Client 監視レポート」画面が表示されます。
- 「ユーザーのメモ」にコメントを入力すると、プリント時に印刷されます。

3 [ページの設定] をクリックしてプリンタの設定をする

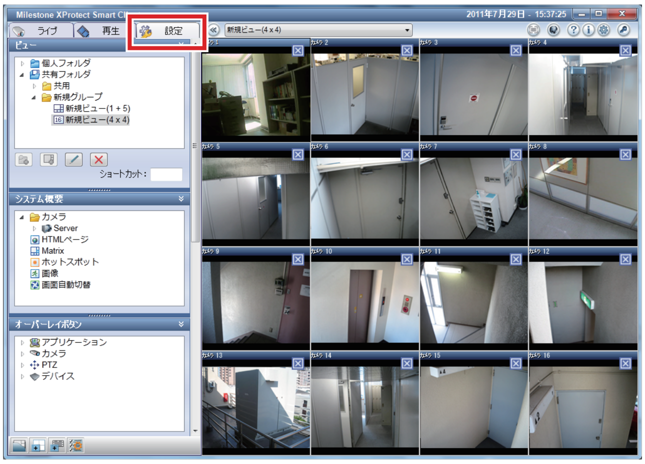
4 [印刷] をクリックして印刷を開始する

- 印刷が終了したら、[閉じる] をクリックして、印刷画面を終了します。

複数のカメラの映像を自動で切り換えながら見る

画面自動切替機能を使うと、1 つの表示位置に複数のカメラからの映像を順番に表示させることができます。また、表示するカメラ切替間隔を設定することができます。

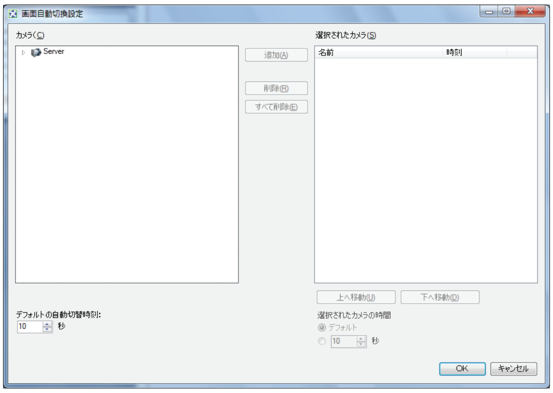
1「設定」タブをクリックする



2「システム概要」セクションで「画面自動切替」をクリックし、ビュー内の設定したい位置にドラッグする

3 設定したい位置でマウスボタンを離す

設定画面が表示されます。



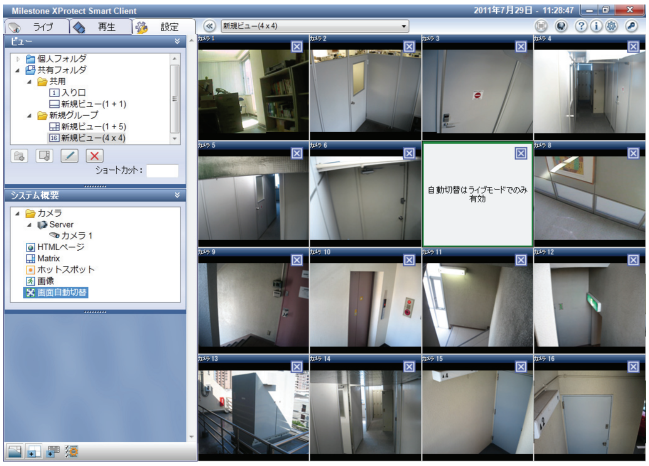
4「カメラ」リストでカメラを選択して [追加] をクリックする

「選択されたカメラ」リストに追加されます。

5 表示秒数を指定する

項目	内容
① デフォルトの自動切替時刻	複数のカメラで共通の秒数を指定するときに入力します。
② 選択されたカメラの時間	リストで選択されているカメラの表示秒数を指定します。「デフォルト」にチェックを入れると「デフォルトの自動切替時刻」で設定した秒数が設定されます。
③ 上へ移動／下へ移動	選択されたカメラの順序を変更します。

6 [OK] をクリックする



メモ：
- 緑色の枠は、その位置が画面自動切替に設定されていることを示します。

■ 自動切替表示中にカメラを切り換える

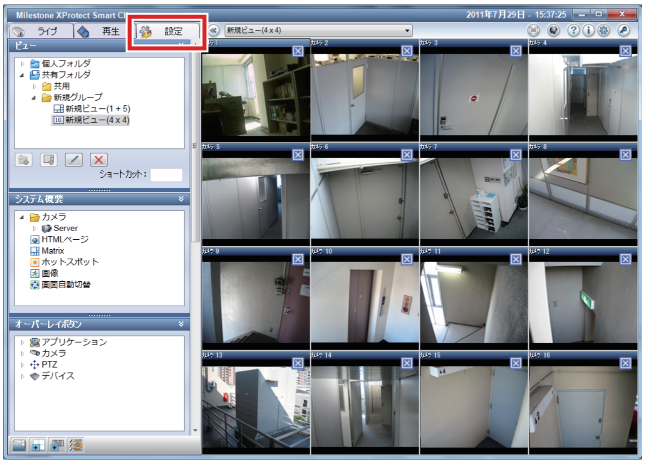
ライブ映像画面では、画面自動切替機能を設定しているカメラウィンドウのバーにカーソルを置くと、次の操作アイコンが表示されます。

項目	内容
	自動切替で設定した順に、カメラを切り換えます。
	一時停止します。

選んだカメラの映像を拡大表示する（ホットスポット）

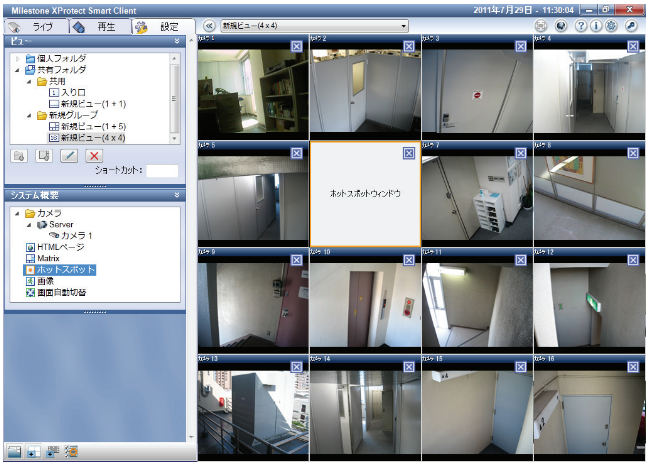
ホットスポット指示位置には、ビュー内で選択したカメラを表示します。通常は他より大きい表示位置、例えば [1 + 7] のレイアウトの [1] の部分などにホットスポットを設定すると、選択した時に拡大した画像で見ることができます。

1「設定」タブをクリックする



2「システム概要」セクションで「ホットスポット」をクリックし、ビュー内の設定したい位置にドラッグする

3 設定したい位置でマウスボタンを離す



選んだカメラの映像を拡大表示する（ホットスポット）（つづき）

4「ホットスポット」に設定した位置を選択し、「プロパティ」セクションでプロパティを設定する

項目	内容
画質	表示されたときの画像の解像度、画質を調節します。常に「フル」を選択してください。
フレームレート	表示のフレームレートです。 「カメラプロパティ」画面で設定したライブフレームレートに対して、「無制限」（デフォルトの設定、ライブの設定と同じ）、「中」（25% のフレームレート）または「低い」（5% のフレームレート）から選択します。
最大画面で画質を保持	カメラウィンドウをダブルクリックして拡大表示したときに、画質設定で設定した画質を維持する場合にチェックをします。チェックをはずすと、拡大表示したときに常にフル品質で表示します。
縦横比を維持	チェックを入れると、表示位置のサイズに合わせて画像を伸縮しません。記録されたときのままのアスペクト比（画面の縦横比）で表示されます。
表示	タイトルバーとライブインジケーターの表示 / 非表示を設定します。

ご注意：

- 画質を変更すると、記録フレームレートが低下することがあります。「画質」の設定は記録性能に影響を与えますので「フル」のままでお使いください。

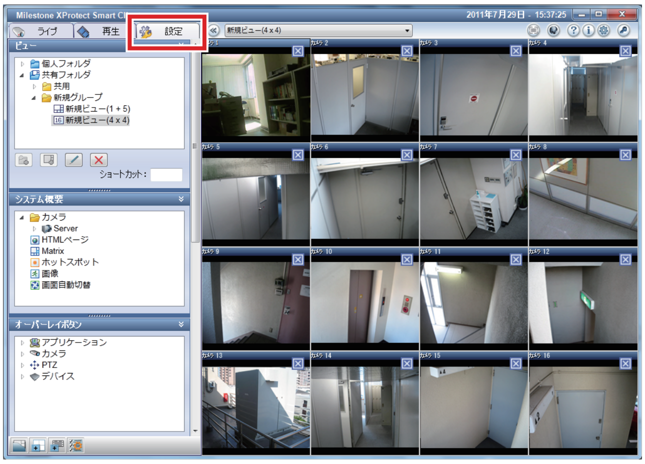
メモ：

- ホットスポット機能を使うと、他の画像には低いフレームレートを使用し、ホットスポットには高いフレームレートを使用するといった、便利な使い方ができます。
- オレンジ色の枠は、その位置がホットスポットに設定されていることを示します。
- 複数のビューでホットスポットを設定しビューを切り換えた場合、切り換え後のビューに設定したホットスポットウィンドウには、切り換え前のビューで表示していたカメラ映像が引き続き表示されます。

ホームページ（HTML ページ）をビューに表示する

カメラ映像の代わりに、HTML ページをビューに表示することができます。

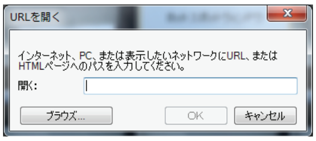
1「設定」タブをクリックする



2「システム概要」セクションで「HTML ページ」をクリックし、ビュー内の設定したい位置にドラッグする

3 設定したい位置でマウスボタンを離す

「URL を開く」画面が表示されます。



4 URL を入力し、[OK] をクリックする

5 ビュー内の HTML ページを選択し、「プロパティ」セクションでプロパティを設定する

項目	内容
URL	新しい URL を入力する場合は、[新規 ...] ボタンをクリックします。
スケーリング	HTML ページの表示サイズを選びます。
HTML スクリプトは有効	ナビゲーション機能やトリガー機能を含む HTML ファイルを指定する場合にチェックします。
ツールバーを隠す	HTML ページのツールバーを表示しない場合にチェックします。

ご注意：

- ActiveX、Flash などを含むページには対応していません。
- ActiveX のインストールは行わないでください。
- リンク先によってはセキュリティ上問題になることがありますのでご注意ください。

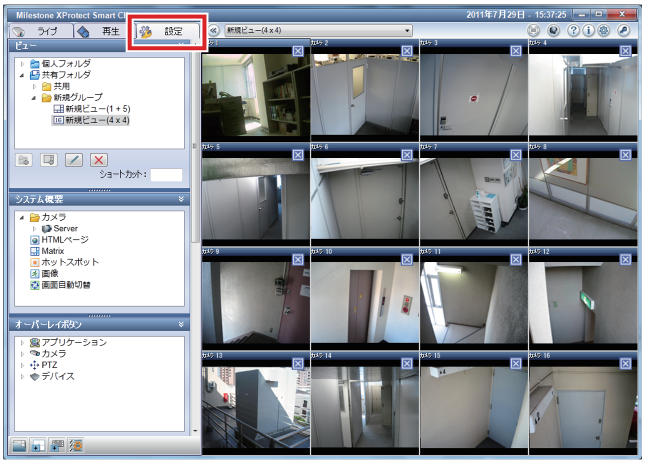
カメラ映像の代わりに静止画を表示する

使用していないカメラがあるときに、映像の代わりに静止画をビューに表示することができます。

ご注意：

- この設定は、監視用パソコンごとに行います。本機では設定しないでください。
- 設定した静止画は、別の監視用パソコンで表示することはできません。

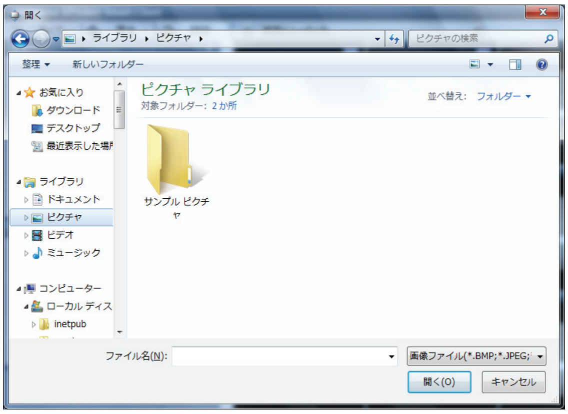
1「設定」タブをクリックする



2「システム概要」セクションで「画像」をクリックし、ビュー内の設定したい位置にドラッグする

3 設定したい位置でマウスボタンを離す

「開く」画面が表示されます。



4 画像ファイルを選択し、[開く] をクリックする

よく使う機能の操作ボタンを作る

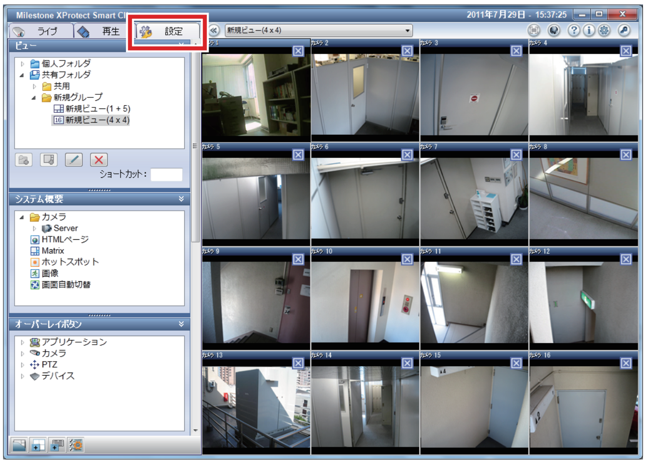
よく使う機能などをあらかじめオーバーレイボタンとして登録することができます。

- オーバーレイボタンは、カメラ映像内にカーソルを当てると表示され、クリックして機能を実行します。
- カメラ映像ごとに作成することができます。
- 各機能のアクセス制限によって、ユーザーによっては使用できない機能があります。

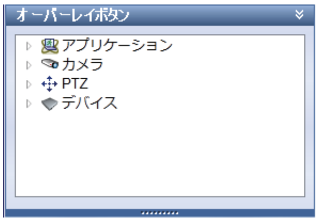
ご注意：

- 使用できる機能はカメラによって異なります。

1 「設定」タブをクリックする



2 「オーバーレイボタン」セクションで必要な機能を選び、オーバーレイボタンを作成したいカメラ映像内にドラッグする



3 マウスボタンを離す

オーバーレイボタンとして表示されます。

4 サイズや名前を変更する

- ボタンのハンドルをドラッグして、サイズを変更します。
- ボタンのテキストをダブルクリックして、ボタン名の編集をします。編集後は、キーボードの「ENTER」ボタンを押します。

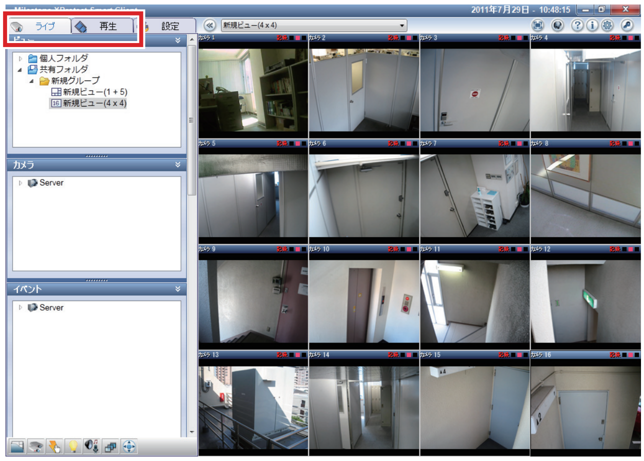
メモ：

- 名前を変更したいオーバーレイボタンで右クリックして、「編集」を選択しても、名前を変更できます。
- オーバーレイボタンを削除するには、削除したいオーバーレイボタンで右クリックして、「削除」を選択します。

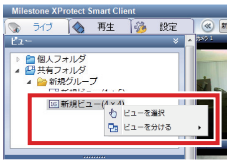
フローティングウィンドウを表示する

複数のモニターを使っているときなどに、ビューをフローティングウィンドウとして表示することができます。

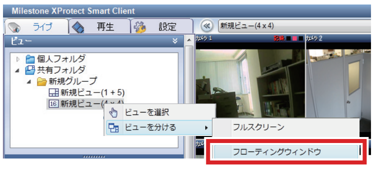
1 「ライブ」または「再生」タブをクリックする



2 「ビュー」セクションでフローティング表示したいビューを右クリックする



3 ポップアップメニューの「ビューを分ける」から「フローティングウィンドウ」を選択する



メモ：

- 「再生」タブで表示した場合も、フローティングウィンドウでは、ライブ映像を表示します。

ご注意：

- 同時に多くのフローティングウィンドウを使用すると、CPU の負荷が高くなります。CPU メーターに赤色が表示されているときは、表示または記録フレームレートを下げるなど負荷を低くしてください。
- フローティングウィンドウを閉じた後、Smart Clinet が移動できなくなることがあります。その場合は、一旦 Smart Clinet を最大化し、その後元に戻すことで移動できるようになります。

ジョイスティックの設定を変更する

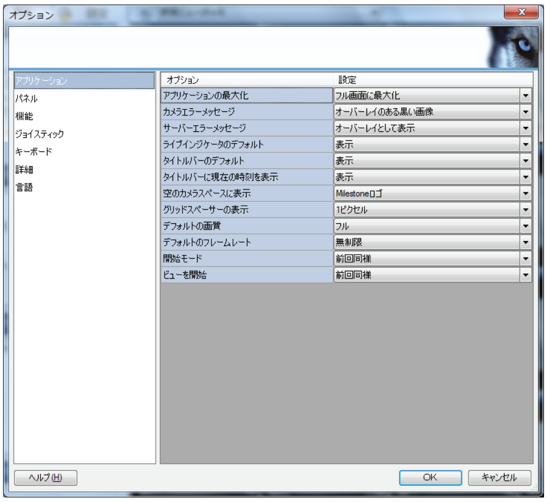
ジョイスティック（別売）を使って、PTZ カメラの操作ができます。

メモ：

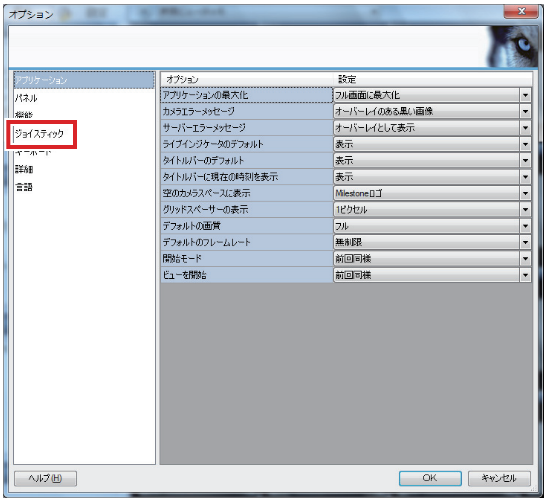
- 使用できるジョイスティックについては、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。弊社ホームページでもご確認いただけます。

1 画面右上の [⚙（オプション）] をクリックする

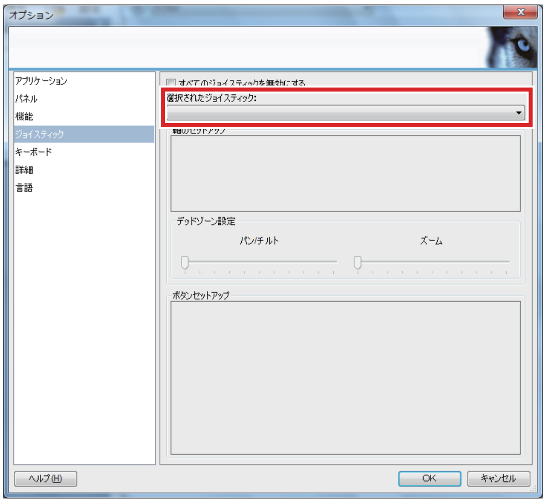
「オプション」画面が表示されます。



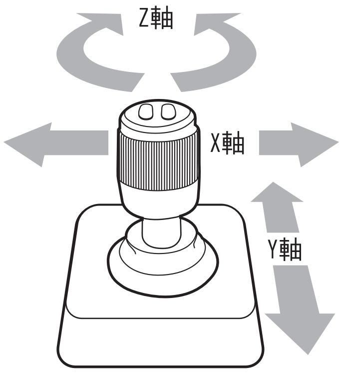
2「ジョイスティック」を選択する



3「選択されたジョイスティック」リストでジョイスティックを選択する



4「軸のセットアップ」セクションで軸ごとに設定を行う



ジョイスティック

項目		内容
反転表示		デフォルトでは、例えばジョイスティックを X 軸に沿って右に倒すと PTZ カメラは右を、Y 軸に沿って手前に倒すと上を向きます。[反転] を選択するとその反対になります。
絶対値		ジョイスティックの角度とカメラの向きが対応するようになります。
アクション		ジョイスティックを動かしたときの動作を指定します。
	PTZ パン	カメラを水平方向に振る
	PTZ チルト	カメラを垂直方向に振る
	PTZ ズーム	カメラをズームイン、ズームアウトする
	アクションなし	何もしない
プレビュー		ジョイスティックのどの軸がどう動くのかを、確かめることができます。

ジョイスティックの設定を変更する（つづき）

5 パン・チルト、ズームのハンドルの「遊び」（デッドゾーン）を設定する

- スライダーを右に動かすほど、デッドゾーンが拡大し、カメラの操作に必要なハンドルの動きが大きくなります。

6「ボタンセットアップ」でジョイスティックの各ボタンに動作を割り当てる

- 「アクション」欄で割り当てる動作を選びます。

■ ジョイスティック操作を無効にする

ジョイスティック操作を無効にするには、「すべてのジョイスティックを無効にする」にチェックをします。

ビューワー編

リファレンス

この章では、ビューワーをさらに使いこなすための操作を説明します。また、各画面のセクションでできることと、設定内容を一覧でまとめています。

ご注意：

- Smart Clientを起動しているときにManagement Applicationの設定を変更した場合は、Smart Clientを一度終了し、再度起動してください

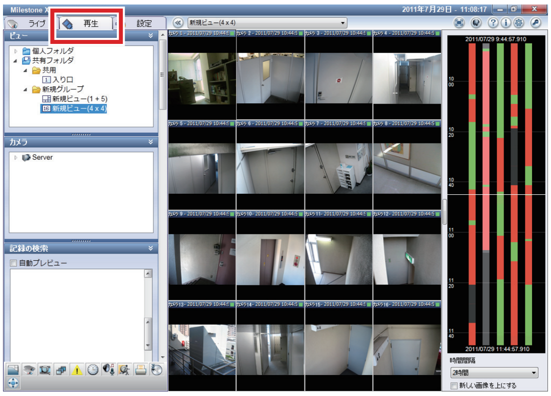
画像や音声を USB フラッシュメモリなどに保存する（エクスポート）

本機は、記録した画像や音声を、動画・静止画またはデータベース形式で保存（エクスポート）して、監視システム外のパソコンで見ることができます。

- 監視用パソコンでも、記録画像や音声を USB フラッシュメモリやデスクトップに保存することができます。
- USB フラッシュメモリを使うときは、あらかじめ本機の前面に USB フラッシュメモリを接続してください。

動画または静止画で保存する

1 「再生」タブをクリックする



2 「エクスポート」セクションで開始日・時刻と終了日・時刻を入力する

- 「開始時間」で [設定] をクリックすると、「時間ナビ」のマスタータイム表示部の日時が入力されます。
- 「終了時間」で [設定] をクリックすると、「時間ナビ」のマスタータイム表示部に表示された日時に 1 秒プラスした時刻が入力されます。

ご注意：

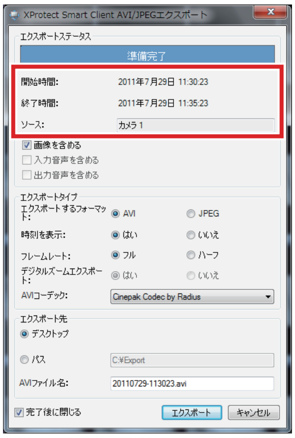
- 時計の変更により時刻が大きくずれた画像を含むエクスポートは、失敗する場合があります。この場合、時刻がずれる以前と以降を分けてエクスポートしてください。(例：サマータイム等)

3 「ソース：」リストからカメラを選択する

4 [AVI/JPEG のエクスポート ...] をクリックする

エクスポート・ダイアログが表示されます。

- 入力した開始日時と終了日時、カメラ名が表示されていることを確認してください。



メモ：

- 増設 HDD の接続状況によっては、エクスポートの準備に時間がかかることがあります。

5 エクスポート・フォーマットを選択する

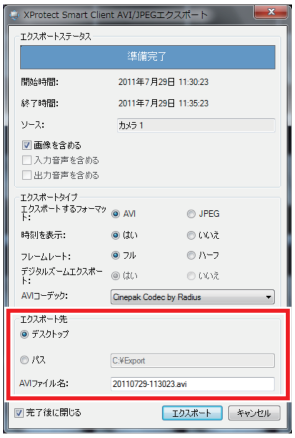
- 「AVI」（ムービークリップ）か「JPEG」（静止画像）を選択します。
- エクスポートする画像に時刻を表示するか、表示しないかを選択します。

6 AVI フォーマットを選択した場合、フレームレートを選択する

- すべての画像を AVI ファイルに送る「フル」か、毎秒毎の画像を送ることで AVI ファイルサイズを減らす「ハーフ」（画像はリアルタイムで再生されます）を選びます。

7 AVI フォーマットを選択した場合、「AVI コーデック」リストからコーデックの種類を選択する

8 エクスポート先を指定する



項目	内容
デスクトップ	デスクトップにエクスポートする場合に選択します。
パス	エクスポートするフォルダを指定する場合に選択して、パスを入力します。 ● 他のパソコンで見る場合は、「パス」を選択して、USB フラッシュメモリへのパスを指定してください。

9 ファイル名を入力する（AVI 選択時）

- 入力しないと、ファイル名はエクスポートの開始日時（“yyyymmdd-hhmmss.avi”）になります。

ご注意：

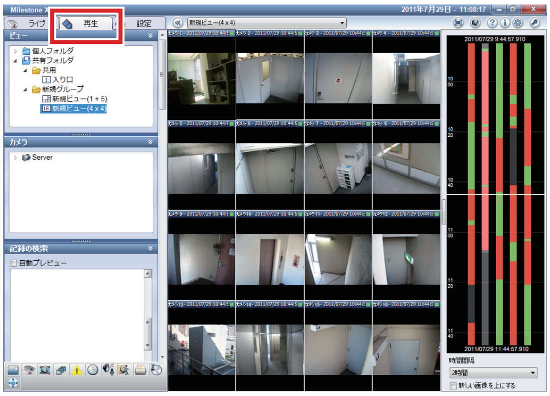
- 以前エクスポートしたデータと開始日時が同じ場合、AVI ファイルが上書きされます。以前のデータを残す場合は、パスまたは AVI ファイル名を変更してエクスポートしてください。

10 [エクスポート] をクリックする

指定した場所に「エクスポートされた画像」フォルダが自動で作成され、エクスポートが開始されます。

データベース形式で保存する

1「再生」タブをクリックする



2「エクスポート」セクションで開始日・時刻と終了日・時刻を入力する

- 「開始時間」で [設定] をクリックすると、「時間ナビ」のマスタータイム表示部の日時が入力されます。
- 「終了時間」で [設定] をクリックすると、「時間ナビ」のマスタータイム表示部に表示された日時に 1 秒プラスした時刻が入力されます。

ご注意：

- 時計の変更により時刻が大きくずれた画像を含むエクスポートは、失敗する場合があります。この場合、時刻がずれる以前と以降を分けてエクスポートしてください。(例：サマータイム等)

3「ソース：」リストからカメラを選択する

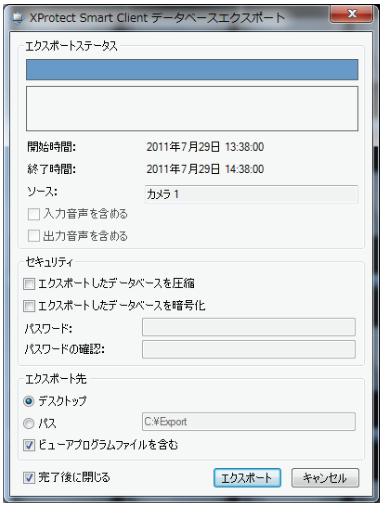
- [- 現在のビューソース -] を選択すると、ビュー内のすべてのカメラからの画像がエクスポートされます。

4 [DB のエクスポート ...] をクリックする

画像や音声を USB フラッシュメモリなどに保存する（エクスポート）（つづき）

データベース形式で保存する（つづき）

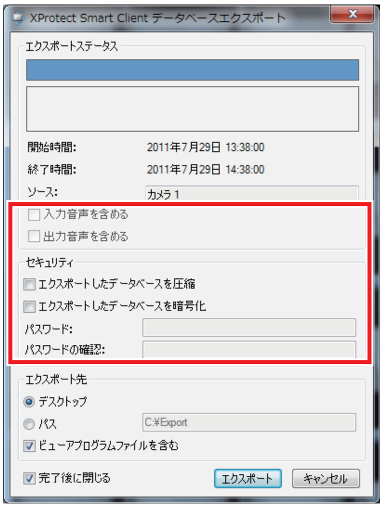
エクスポート・ダイアログが表示されます。



メモ：

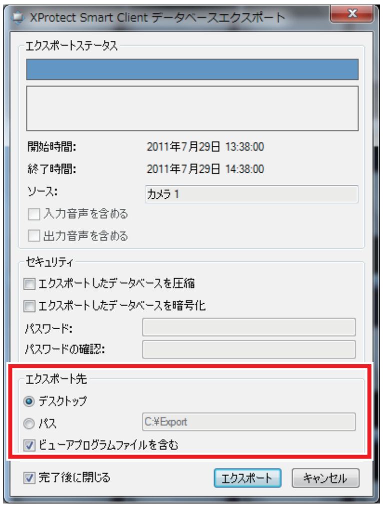
- 増設 HDD の接続状況によっては、エクスポートの準備に時間がかかることがあります。

5 保存の内容を設定する



項目	内容
入力音声を含める／出力音声を含める	エクスポートする画像に入出力音声を含める場合にチェックを入れます。（音声ソースが何もない場合はチェックできません。）
エクスポートしたデータベースを圧縮	エクスポートするデータを圧縮する場合に、チェックを入れます。
エクスポートしたデータベースを暗号化	エクスポートするデータを暗号化する場合にチェックを入れます。暗号解読用のパスワードを設定してください。

6 エクスポート先を指定する



項目	内容
デスクトップ	デスクトップにエクスポートする場合に選択します。
パス	エクスポートするフォルダを指定する場合に選択して、パスを入力します。 ● 他のパソコンで見る場合は、「パス」を選択して、USB フラッシュメモリへのパスを指定してください。

- 「ビューアプログラムファイルを含む」にチェックをすると、記録画像を再生するための専用アプリケーションをエクスポートするデータに付与することができます。ビューワーについては、『 エクスポートしたデータをパソコンで見る 』(☞171 ページ) をご覧ください。

ご注意：

- 以前エクスポートしたデータベースと同じ場所にエクスポートすると、データベースが上書きされます。以前のデータベースを残す場合は、パスを変更してエクスポートしてください。

7 [エクスポート] をクリックする

指定した場所に「エクスポートされた画像」フォルダが自動で作成され、エクスポートが開始されます。

ご注意：

- エクスポート中は、記録フレームレートが低下することがあります。

エクスポートしたデータをパソコンで見る

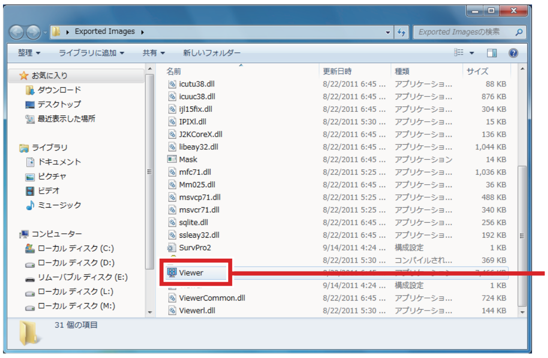
データベース形式でエクスポートしたデータをパソコンで見る場合は、専用のビューワー（エクスポートビューワー）を使用します。専用ビューワーのインストーラーは、エクスポートで作成された「エクスポートされた画像」フォルダ内にあります。

エクスポートビューワーを起動する

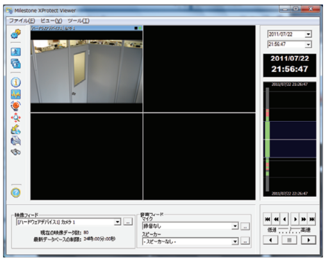
1 エクスポートしたデータ（「エクスポートされた画像」フォルダ）をパソコンのデスクトップにコピーする

2 「エクスポートされた画像」フォルダを開く

3 データフォルダの中の [Viewer.exe] をダブルクリックする



ビューワーが起動します。

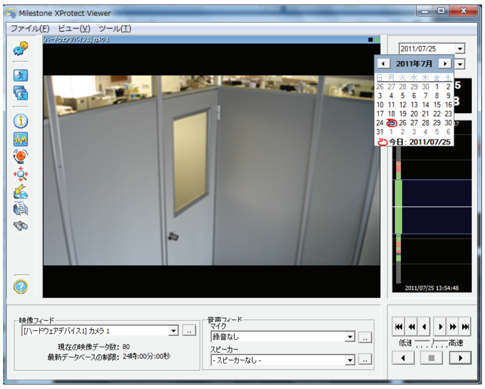


エクスポートされたデータを見る

■ 日付 / 時刻選択を使って指定の日時のデータを見る

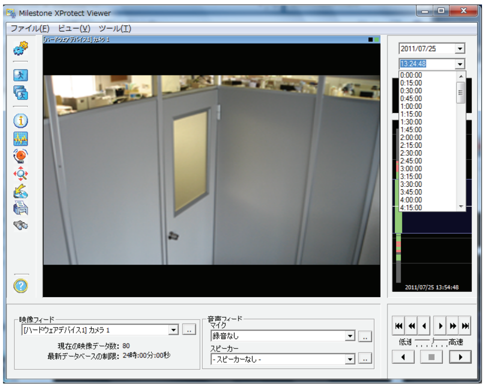
1 日付選択の [▼] ボタンをクリックして、カレンダーから指定の日付を選択する

選択した日付の画像が表示されます



2 時刻選択の [▼] ボタンをクリックして、指定の時刻を選択する

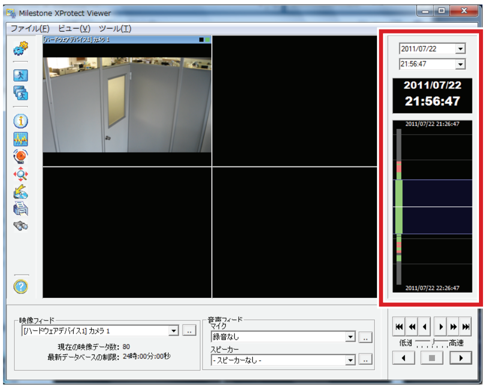
選択した時刻の画像が表示されます。



エクスポートしたデータをパソコンで見る（つづき）

■ タイムラインを使って指定の日時のデータを見る

上下に伸びたタイムラインは記録の状況を示しています。



1 タイムラインを上下にマウスをドラッグする

- 画像を確認しながら、指定の日時のデータを見ることができます。

メモ：

- スマートサーチ機能を使うこともできます。スマートサーチ機能使用時に、開始日 / 終了日が設定できない場合は、 ➡「映像フィード」の [..] の順にクリックして、再生するファイル（拡張子「.pqz」）を選択しなおしてください。

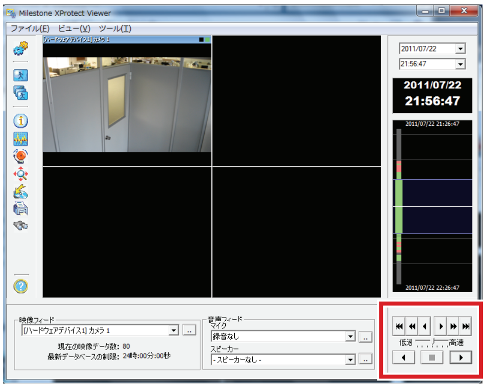
データの再生・停止

■ 再生

1 スピードコントロールで再生速度を設定する

2 再生ボタンをクリックする

- 設定された速度でデータベースが再生されます。



■ 再生を停止する

1 停止ボタンをクリックする

- データの再生が停止されます。

エクスポートビューワーを終了する

1 メニューの [ファイル] ー [閉じる] を選択する

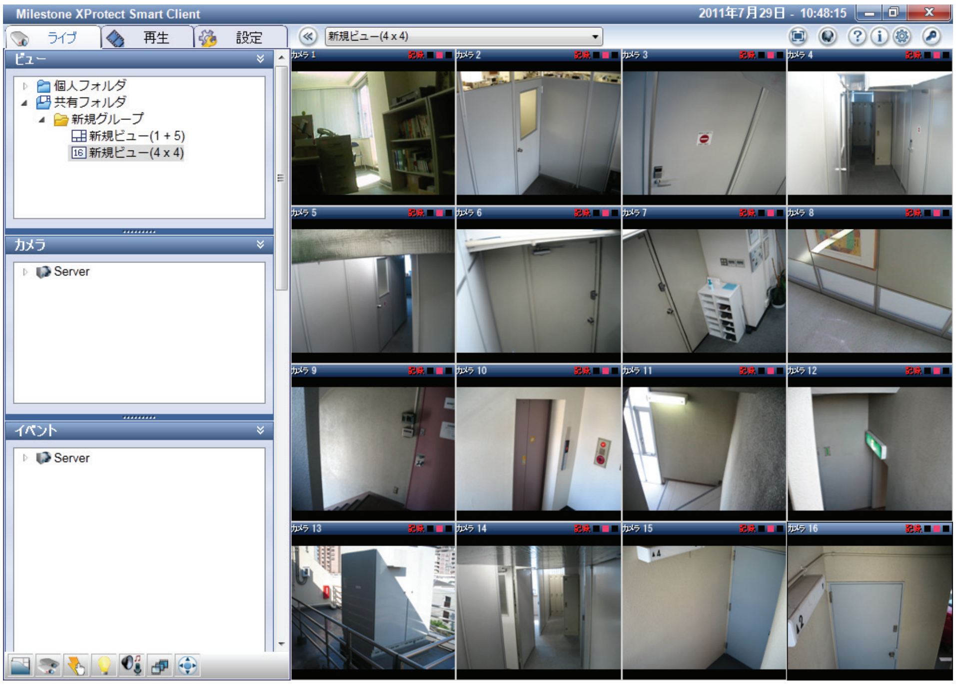
- エクスポートビューワーが終了します。

メモ：

- 画面右上の [×] をクリックしてもビューワーは終了します。
- ビューワーの詳細につきましては、 をクリックしてヘルプをご覧になるか、または Milestone Systems 社のホームページ (http://www.milestonesys.com) をご覧ください。
- URL は変更される場合があります。

各画面でできる操作・設定

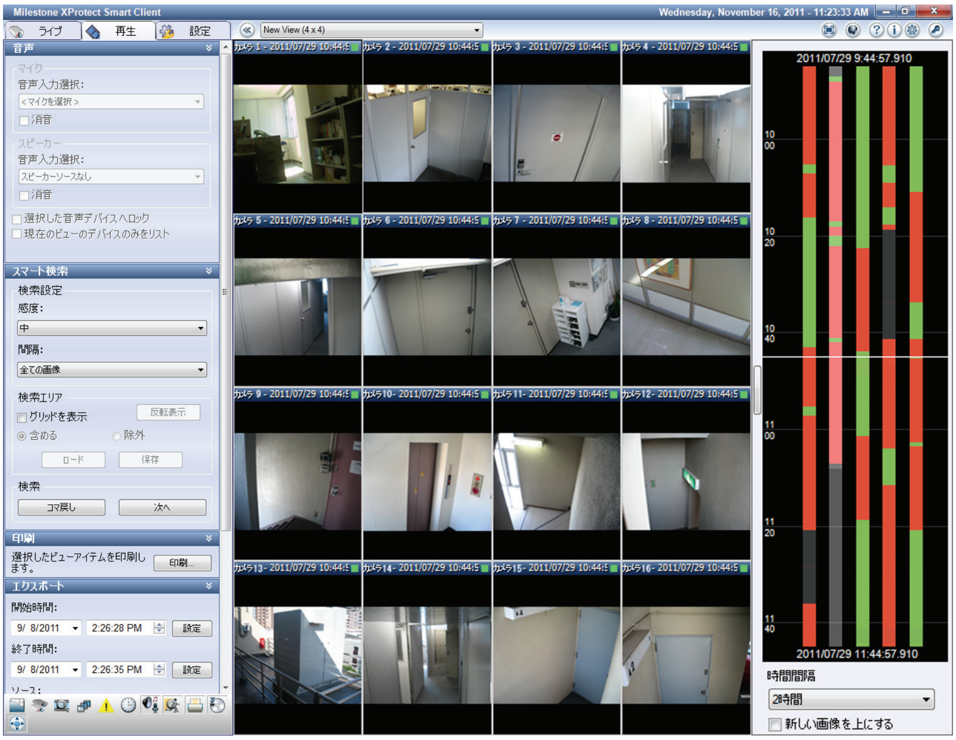
ライブ画面



セクション	項目		内容
ビュー	—		登録されているビューを階層表示します。
カメラ	—		カメラのリストを表示します。ビューにないカメラをリストから選んでビューにドラッグすると、一時的にそのカメラの映像を見ることができます。
イベント	—		手動イベントを起動します。リストから起動するイベントを選んで、［起動］をクリックします。
出力	—		出力を起動します。リストから起動する出力を選択して [起動] をクリックします。
音声	マイク		音声を聞きたいソース（カメラ）を選択します。 ●「消音」にチェックをすると消音します。
	スピーカー		使用するスピーカーを選択します。 ● 話すときは、［出力］ボタンをクリックしたままにしてください。
	選択した音声デバイスへロック		チェックをすると、他のカメラを選択しても、マイクとスピーカーの選択が切り換わらなくなります。
	現在のビューのデバイスのみをリスト		チェックをすると、ビュー内の音声デバイスのみがリストに表示されます。
シーケンスエクスプローラ	ビューの起動		ビュー内のすべてのカメラのシーケンス画像を一覧表示します。
	カメラの起動		選んだカメラのシーケンス画像を一覧表示します。
PTZ 管理	プリセット		プリセット位置を選択します。
	魚眼 PTZ 位置	ロード	魚眼カメラを保存した位置に移動します。
		保存	魚眼カメラの特定の位置を保存します。
	ナビゲーションボタン	矢印	PTZ カメラを矢印の方向に向けます。
		+/ −	ズームイン / ズームアウトします。
		デジタルズーム	デジタルズームを使用するときにチェックします。

各画面でできる操作・設定（つづき）

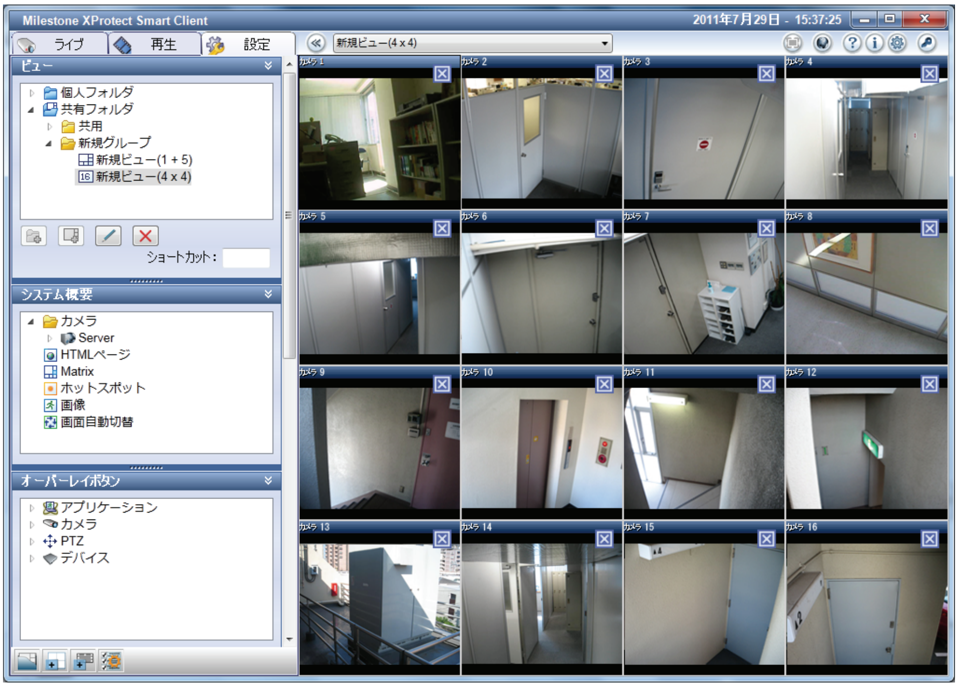
再生画面



セクション	項目	内容
ビュー	—	登録されているビューを階層表示します。
カメラ	—	カメラのリストを表示します。ビューにないカメラをリストから選んでビューにドラッグすると、一時的にそのカメラの映像を見ることができます。
記録の検索	—	記録画像のまとまり (シーケンス) を記録日時でさがします。
シーケンスエクスプローラ	ビューの起動	ビュー内のすべてのカメラのシーケンス画像を一覧表示します。
	カメラの起動	選んだカメラのシーケンス画像を一覧表示します。
アラート	—	アラートによる記録を一覧表示します。
時間ナビ		日時検索と、記録画像の再生操作をします。
	(日時)	ビューに表示している記録画像の日時です（マスタータイム)。
	再生ナビボタン	再生やコマ送りなどを行います。
	再生中は間をスキップ	チェックをすると、指定した期間の再生を飛ばします。
	(日付)(時刻)［移行］	検索日時を指定して、［移行］で表示させます。
音声	マイク	音声を聞きたいソース（カメラ）を選択します。 ●「消音」にチェックをすると消音します。
	スピーカー	● 再生画面では操作できません。
	選択した音声デバイスへロック	チェックをすると、他のカメラを選択しても、マイクの選択が切り換わらなくなります。
	現在のビューのデバイスのみをリスト	チェックをすると、ビュー内の音声デバイスのみがリストに表示されます。
スマート検索	—	スマート検索を行います。
印刷	—	記録画像を印刷します。
エクスポート	—	記録画像をデスクトップなどに保存します。

セクション	項目		内容
PTZ 管理	プリセット		● 再生画面では操作できません。
	魚眼 PTZ 位置	ロード	● 再生画面では操作できません。
		保存	
	ナビゲーションボタン	矢印	デジタルズーム使用中にズーム箇所を移動します。
		+/ −	ズームイン / ズームアウトします。(「デジタルズーム」にチェックを入れないと操作できません。)
		デジタルズーム	デジタルズームを使用するときにチェックします。

設定画面



●：初期値

セクション	項目	設定値	内容
ビュー		ビューの作成や編集を行います。	
システム概要		カメラや HTML ページ、ホットスポットなどの機能をビューに設定します。	
オーバーレイボタン	アプリケーション カメラ PTZ デバイス	オーバーレイボタンを作成します。	

セクション	項目	設定値	内容
プロパティ			
カメラウィンドウ選択時			
	カメラ名	—	選択しているカメラ名を表示します。
	画質	**● フル** 高精細（メガピクセル用） 高い 中 低	表示画質を設定します。
	最大画面で画質を保持	チェック **● チェックなし**	カメラウィンドウをダブルクリックして拡大表示したときに、画質設定で設定した画質を維持する場合にチェックをします。チェックをはずすと、拡大表示したときに常にフル品質で表示します。
	フレームレート	**● 無制限** 中 低	表示のフレームレートを設定します。
	魚眼スプリットモード	**● 分割なし** 2 つずつ	選択したカメラが魚眼カメラの場合に、スプリットモードを使用するかを選択します。
	縦横比を維持	**● チェック** チェックなし	カメラ画像の縦横比を維持する場合にチェックをします。
	モーションで更新	チェック **● チェックなし**	チェックをすると、モーションが検知されたときのみライブ映像画面の画像を更新します。
	モーション検知で音を鳴らす	**● 常にオフ** 常にオン	ライブ映像画面でモーションを検知した場合に、音で通知をするかを設定します。
	イベントで音を鳴らす	**● 常にオフ** 常にオン	ライブ映像画面でイベントが発生した場合に、音で通知をするかを設定します。 この機能を利用するには、イベント通知が設定されている必要があります。
	表示設定		
	デフォルトの表示設定を使用する	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーとライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定に合わせます。
	タイトルバーの表示	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
	ライブインジケータの表示	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、ライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
	すべてに適用	—	すべてのカメラに一括して上記の設定を適用します。
HTML ページウィンドウ選択時			
	URL	—	URL を表示します。新しい URL を入力する場合は、[新規 ...] をクリックします。
	スケーリング	**● スケーリングなし** 1280 x 1024 1024 x 768 800 x 600 640 x 480 320 x 200	HTML ページの表示サイズを選びます。
	HTML スクリプトを有効化	**● チェック** チェックなし	ナビゲーション機能やトリガー機能を含む HTML ファイルを指定する場合にチェックします。
	ツールバーを隠す	**● チェック** チェックなし	HTML ページのツールバーを表示しない場合にチェックします。

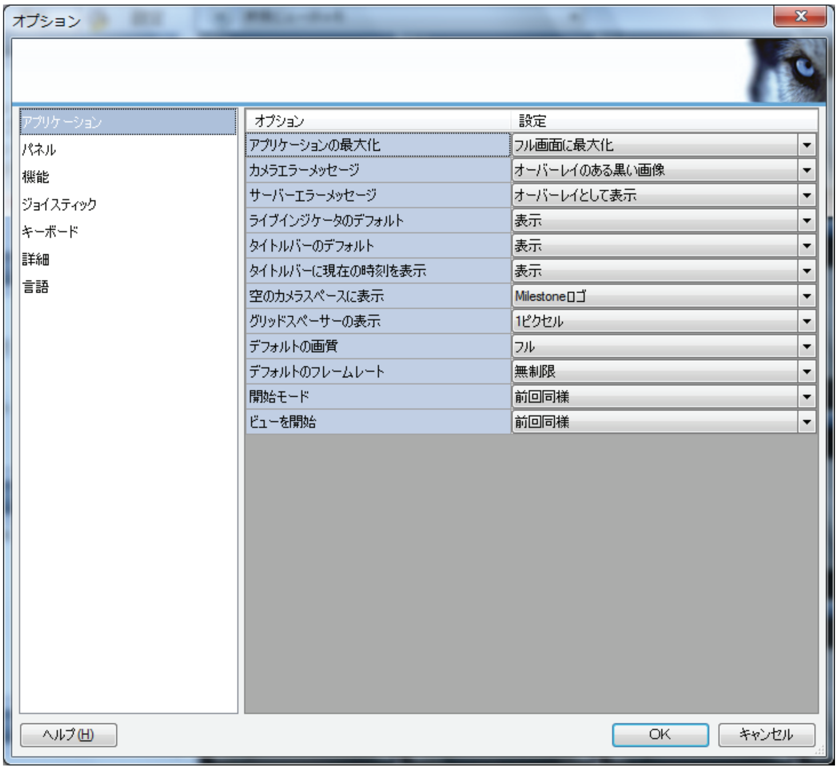
セクション			項目	設定値	内容
プロパティ（つづき）					
	Matrix ウィンドウ選択時				
		画質		**● フル** 高精細（メガピクセル用） 高 中 低	配信映像の表示画質を設定します。
		最大画面で画質を保持		チェック **● チェックなし**	カメラウィンドウをダブルクリックして拡大表示したときに、画質設定で設定した画質を維持する場合にチェックをします。チェックをはずすと、拡大表示したときに常にフル品質で表示します。
		フレームレート		**● 無制限** 中 低	配信映像のフレームレートを設定します。
		縦横比を維持		**● チェック** チェックなし	カメラ画像の縦横比を維持する場合にチェックをします。
		Window インデックス		1 ～ 30	ビュー内に複数の Matrix ウィンドウが設定されているときに、ウィンドウの序列を設定します。「1」から順に、新しく配信されたカメラのライブ映像が表示されます。
		表示			
			デフォルトの表示設定を使用する	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーとライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定に合わせます。
			タイトルバー	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
			ライブインジケータ	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、ライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
		接続設定		—	配信映像受信のための TCP ポートとパスワードを設定します。

セクション	項目	設定値	内容
プロパティ（つづき）			
ホットスポット選択時			
	画質	**● フル** 高精細（メガピクセル用） 高い 中 低	表示画質を設定します。
	最大画面で画質を保持	チェック **● チェックなし**	カメラウィンドウをダブルクリックして拡大表示したときに、画質設定で設定した画質を維持する場合にチェックをします。チェックをはずすと、拡大表示したときに常にフル品質で表示します。
	フレームレート	**● 無制限** 中 低	表示のフレームレートを設定します。
	縦横比を維持	**● チェック** チェックなし	カメラ画像の縦横比を維持する場合にチェックをします。
	表示		
	デフォルトの表示設定を使用する	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーとライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定に合わせます。
	タイトルバー	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
	ライブインジケータ	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、ライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
画像選択時			
	画像の場所	—	画像ファイルが保存されている場所を表示します。新しい画像を選択する場合は、[...] をクリックします。

セクション	項目	設定値	内容
プロパティ（つづき）			
画面自動切替選択時			
	画質	**● フル** 高精細（メガピクセル用） 高い 中 低	表示画質を設定します。
	最大画面で画質を保持	チェック **● チェックなし**	カメラウィンドウをダブルクリックして拡大表示したときに、画質設定で設定した画質を維持する場合にチェックをします。チェックをはずすと、拡大表示したときに常にフル品質で表示します。
	フレームレート	**● 無制限** 中 低	表示のフレームレートを設定します。
	縦横比を維持	**● チェック** チェックなし	カメラ画像の縦横比を維持する場合にチェックをします。
	表示		
	デフォルトの表示設定を使用する	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーとライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定に合わせます。
	タイトルバー	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、タイトルバーの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
	ライブインジケータ	**● チェック** チェックなし	チェックをすると、ライブインジケーターの表示 / 非表示を「オプション」設定の「アプリケーション」(☞ 180 ページ) の設定とは別に設定します。
	画面自動切換設定	—	表示させるカメラとその順番を設定します。

オプション設定

オプション設定画面では、ビューワーの詳細な設定ができます。
オプション設定画面を表示させるには、画面右上の をクリックします。



●：初期設定

項目	設定値	内容
アプリケーション		
アプリケーションの最大化	**● フル画面に最大化** 通常ウィンドウとして最大化	Smart Client 画面を最大化したときの表示方法を選択します。
カメラエラーメッセージ	オーバーレイとして表示 **● オーバーレイのある黒い画像** 非表示	カメラのエラーメッセージの表示方法を選択します。
サーバーエラーメッセージ	オーバーレイとして表示 **● 非表示**	サーバーからのメッセージの表示するかを設定します。
ライブインジケータのデフォルト	表示 **● 非表示**	ライブインジケーターを表示するかを設定します。
タイトルバーのデフォルト	**● 表示** 非表示	タイトルバーを表示するかを設定します。
タイトルバーに現在の時刻を表示	**● 表示** 非表示	タイトルバーに時刻を表示するかを設定します。
空のカメラスペースに表示	**● Milestone ロゴ** なし、黒い画像	ビューでカメラを割り当てられていないスペースに表示するものを選択します。
グリッドスペーサーの表示	非表示 **● 1 ピクセル** 2ピクセル 3ピクセル 4ピクセル	グリッドの間隔を設定します。

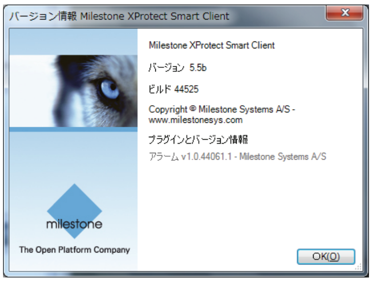
項目	設定値	内容
アプリケーション（つづき）		
デフォルトの画質	**● フル** 高詳細 高い 中 低	Smart Client 起動時の画質を設定します。
デフォルトのフレームレート	**● 無制限** 中 低	Smart Client 起動時のフレームレートを設定します。
開始モード	フル画面 最大化 ウィンドウ **● 前回同様**	Smart Client 起動時の画面のサイズを設定します。
ビューを開始	**● 前回同様** 無し 確認	Smart Client 起動時にビューを開始するか設定します。
パネル		
モード 機能 設定	**● 使用可能** 使用不可	ライブ・再生・設定の各画面で使用するセクションを選択します。
機能		
ライブ / カメラ再生	**● 使用可能** 使用不可	ライブ・再生・設定の各画面（モード）の機能を使用可能にするかを選択します。
ライブ / オーバーレイボタン	**● 使用可能** 使用不可	
再生 / 独立再生	**● 使用可能** 使用不可	
設定 / オーバーレイボタンの編集	**● 使用可能** 使用不可	
設定 / ライブビデオバッファの編集	使用可能 **● 使用不可**	
ジョイスティック	—	ジョイスティックに PTZ 機能の割当を設定をします。
すべてのジョイスティックを無効にする	チェック **● チェックなし**	チェックすると ジョイスティックが使えなくなります。
選択されたジョイスティック	—	設定するジョイスティックを選択します。
軸のセットアップ	使用可能な軸を設定します。	
	反転表示	デフォルトでは、例えばジョイスティックを X 軸に沿って右に倒すと PTZ カメラは右を、Y 軸に沿って手前に倒すと上を向きます。[反転] を選択するとその反対になります。
	絶対値	ジョイスティックの角度とカメラの向きが対応するようになります。
	アクション	ジョイスティックを動かしたときの動作を指定します。
	プレビュー	プレビュー表示で設定を確認します。
	デッドゾーン設定：パン / チルト ズーム	ジョイスティックのデッドゾーンを設定します。「パン / チルト」/「ズーム」スライダーを右に動かすとデッドゾーンが拡大し、カメラを操作するためのジョイスティックの動きが大きくなります。
ボタンセットアップ	—	「アクション」欄で割り当てる動作を選び、ジョイスティックの各ボタンに動作を割り当てます。

項目		設定値	内容
キーボード		特定の操作に、Ctrl または Alt キー等と他のキーを組み合わせたショートカットキーを割り当てます。	
	ショートカットキーを押す	—	登録したいショートカットキーの組み合わせを押します。
	新しいショートカットを使用	● **グローバル** ライブモード 再生モード セットアップモード	登録するショートカットキーを Smart Client のどの画面で使用するか設定します。
	カテゴリ／コマンド	PTZ アプリケーション イベント - すべて カメラ キーボード サブウィンドウ ビュー ビュー - すべて 時間ナビ	割り当てるコマンドのカテゴリを選択し、カテゴリに応じたコマンドリストから、割り当てるコマンドを選択します。
	割り当てられたキー	—	割り当てられたショートカットキーの組み合わせがリスト表示されます。
	削除	—	「割り当てられたキー」で選択したショートカットを削除します。
詳細	最大デコードスレッド	自動 ● **標準** １～８	ビデオストリームをデコードするのに使用するスレッドの数を設定します。 マルチコアのパソコンで、ライブ / 再生画面でのパフォーマンスを向上させます。お使いのパソコン、カメラの数やフレームレートの設定に合わせて、最適な設定をしてください。 **ご注意：** ● この設定は、画面ごとやカメラごとに設定することはできません。
	インターレースの解除	● **フィルターなし** トップフィールドの垂直伸張 ボトムフィールドの垂直伸張 コンテンツ適応型	カメラ画像がインターレースの場合に、インターレースを解除する方法を設定します。カメラ画像がインターレース画像でない場合は、この設定は画質やパフォーマンスに影響しません。 **ご注意：** ● カメラ画像がインターレースの場合は、記録フレームレートが低下する場合があります。
言語		English (United States) ● **Japanese (Japan)**	Smart Client で使用する言語を選択します。 設定を反映させるには、Smart Client を再起動してください。

バージョン情報を見る

1 [(バージョン情報)] をクリックする

バージョン情報が表示されます。



2 [OK] をクリックして画面を閉じる

Matrix の表示位置を設定する

Matrix 機能を使って配信されたライブ映像の表示位置と画質などを設定します。

メモ：

- Matrix は、レコーダーからネットワーク上の任意のパソコンのビューワー（Smart Client）にビデオを配信・表示する機能で、主にレコーダー側で設定します。イベント発生またはモーション検知時や、他のユーザーと共有したい重要なライブ画像がある場合などに、指定されたパソコンにライブ画像が自動で表示されます。

1「設定」タブをクリックする

2「システム概要」セクションの「Matrix」をビュー内にドラッグする

3 設定したい位置でマウスボタンを離す

青色の細い枠線がつきます。

4「プロパティ」セクションで映像の設定をする

- 画質

項目	内容
フル	元の画像と同じ画質（初期設定）
高精細（メガピクセル用）	640 ピクセル（VGA）
高	320 ピクセル（QVGA）
中	200 ピクセル
低	160 ピクセル

- フレームレート

項目	形式ごとのフレームレート		
	JPEG	MPEG (I フレーム)	MPEG (P フレーム)
無制限（初期設定）	すべてのフレームを送信します。		
中	4 フレームおきに送信します。	すべてのフレームを送信します。	
低	20 フレームおきに送信します。	すべてのフレームを送信します。	送信しません。

- 縦横比を維持：チェックすると、カメラ画像の縦横比を維持します。チェックをはずすと、Matrix 位置に合わせて画像を縮小表示します。

5 [接続設定] をクリックして、TCP ポートとパスワードを設定する

- Management ApplicationのMatrix設定で設定したTCP ポートとパスワードを入力します。(☞55 ページ『アクション設定～カメラ映像を配信する（Matrix）』)

メモ：

- ビューに複数の Matrix 位置を設定することもできます。その場合、「プロパティ」セクションの「Window インデックス」でウィンドウの序列を設定します。「1」の位置に常に最も新しく配信されたカメラの映像が表示されます。

その他

この章では、記録性能や初期値一覧、本機の仕様などの参考情報を記載しています。また、操作に困ったときはこの章をお読みください。

対応ネットワークカメラ

● 使用するネットワークカメラの取扱説明書をご覧ください。

●：対応
—：非対応

ネットワークカメラ ＼ 機能		JPEG	MPEG4	H.264	Mega Pixel	PTZ	マイク	スピーカー
JVC	VN-V25	●	●	—	—	—	—	—
	VN-V26	●	●	—	—	—	●	●
	VN-V685	●	●	—	—	●	—	—
	VN-V686	●	●	—	—	●	—	—
	VN-V686B	●	●	—	—	●	—	—
	VN-V686WPC	●	●	—	—	●	●	●
	VN-V225/VP	●	●	—	—	—	●	●
	VN-X235/VP	●	●	—	●	●	●	●
	VN-C20	●	—	—	—	—	—	—
	VN-C655	●	—	—	—	●	—	—
	VN-C625	●	—	—	—	●	—	—
	VN-E4	●	—	—	—	●	●	●
	VN-C215	●	—	—	—	—	—	—
	VN-X35	●	●	—	●	●	●	●
AXIS	M1054	●	—	●	●	●	●	●
	M1114	●	—	●	●	●	●	●
	M 3014	●	—	●	●	●	—	—
	P 1346	●	—	●	●	●	●	●

メモ：

- VN-V685,VN-V686B を NVR に登録した場合、オーディオデバイスが表示されますが、有効にしないでください。有効にした場合はカメラ映像を正常に表示できないことがあります。
- VN-V686WPC は VN-V686B として NVR に認識されますが、これは正常な動作です。WPC ではオーディオデバイスを有効にしても正常に動作します。
- VN-X35 をお使いの場合は、VN-X35 のファームウェアが V2.00 以降のものであることをご確認下さい。
- VN-V26 に対して音声送信を行う場合、VN-V26 のファームウェアのバージョンが 1.01 以降である必要があります。

記録時間表

実際の記録時間は、カメラの設定内容、入力映像の内容や、HDD の条件により異なります。
下表は記録時間を知るための対応表で、目安としてご利用ください。

● JPEG VGA 32KB 記録の場合（単位：時間）

1ch、1秒あたり フレームレート [ips]		30	15	10	5	3	1	0.5	0.2
記録ch	映像16ch	—	（※）31	47	93	156	467	933	2333
	映像16ch+ 音声2ch	—	（※）31	47	93	154	452	878	2018
	映像32ch	—	—	—	47	78	233	467	1166
	映像32ch+ 音声2ch	—	—	—	47	77	230	452	1082

● H.264 記録の場合（単位：時間）

1ch、1秒あたり ビットレート [bps]		3.6M	2M	1.8M	1M	660K	330K	128K	64K
上記ビットレートの代表例		FullHD 30ips	720P 30ips	FullHD 15ips	720P 15ips	VGA 30ips	VGA 15ips	VGA 1ips	VGA （低画質） 1ips
記録ch	映像16ch	（※）32	58	65	117	181	362	933	1866
	映像16ch+ 音声2ch	（※）32	58	65	116	179	353	878	1659
	映像32ch	—	—	（※）32	58	90	181	467	933
	映像32ch+ 音声2ch	—	—	（※）32	58	90	179	452	878

（※）RAID10構築時のみ記録可能な設定。

24－168	169－720	721－
1日〜1週間	1週間〜1ヶ月	1ヶ月以上

ご注意：

- HDD の状態および映像により、記録時間が 10% 程度短くなる場合があります。
- HDD の経年変化により、記録時間が短くなることがあります。

初期値一覧

ユニット設定

■ 起動時の自動表示設定

Smart Client	[チェックなし]
CPU メーター	[チェック]
HDD メーター	[チェックなし]

ハードウェアエラー通知

ダイアログで通知する	[チェック]
メール送信で通知する	[チェック]

■ NAS 設定

ユーザー名	[なし]
パスワード	[なし]

■ IP リース設定

IP リース機能	[使用しない]
リース期限	[無期限]

設定値

先頭 IP アドレス	[192.168.0.100]
台数	[20 台]
サブネットマスク	[255.255.255.0]
ゲートウェイ	[192.168.0.254]
プライマリ DNS	[192.168.0.253]
セカンダリ DNS	[192.168.0.252]
ドメイン名	[なし]

■ SNMP 設定

SNMP を有効にする		[チェックなし]
TRAP を有効にする		[チェックなし]
SNMP マネージャ IP アドレス		ー（IP アドレス）
コミュニティ名		ー（1 ～ 32 文字。英数字のみ）
監視間隔	CPU 使用率	[10 秒]
	D ドライブ書き込みレート	[60 秒]
	Smart Client	[10 秒]
	カメラ接続状態	[60 秒]

■ メール設定

メール送信先	[なし]
サーバー名	[なし]
SMTP ポート	[25]
POP ポート	[110]
ユーザー ID	[なし]
パスワード	[なし]
メール送信認証方式	[なし]
メール送信元アドレス	[なし]

■ 言語設定

言語選択	[Japanese]

■ JVC ログ設定

ログ保存日数	[10]
ログ書き込みスペースが少ない時、自動的に古いログを削除する	[チェック]

■ HDD メーター 設定

更新間隔	[10 Sec.]
透過率	[0%]
監視対象の選択	[チェックなし]

本機の設定（ネットワーク設定）

■ LAN1

ネットワークアダプター名	Intel(R) 82578DM Gigabit Network Connection
IP アドレスを自動的に取得する	[チェックなし]
外部アドレス	[192.168.0.253]
サブネットマスク	[255.255.255.0]
デフォルトゲートウェイ	[なし]
優先 DNS サーバー	[なし]
代替 DNS サーバー	[なし]
ホスト名	[JVCNVR]
DNS ドメイン名	[なし]

■ LAN2

ネットワークアダプター名	Realtek RTL8168D/8111D Family PCI-E Gigabit Ethernet NIC (NDIS 6.20)
IP アドレスを自動的に取得する	[チェックなし]
外部アドレス	[192.168.1.253]
サブネットマスク	[255.255.255.0]
デフォルトゲートウェイ	[192.168.1.254]
優先 DNS サーバー	[なし]
代替 DNS サーバー	[なし]
ホスト名	[JVCNVR]
DNS ドメイン名	[なし]

Management Application（拡張設定）

■ ハードウェアデバイス

項目			初期値
ハードウェアデバイス（ハードウェアデバイスプロパティ）			
名前とビデオチャンネル	ハードウェア名およびビデオチャンネル	ハードウェア名	
		有効	（カメラによる）
ネットワーク、デバイスタイプおよびライセンス	ネットワーク	アドレス	[なし]
		HTTP ポート	[80]
		デフォルト HTTP ポートの使用	[チェック]
		FTP ポート	[21]
		デフォルト FTP ポートの使用	[チェック]
		ユーザー名	[なし]
		パスワード	[なし]
デバイスタイプ		ハードウェアタイプ	[なし]
		シリアル番号 (MAC アドレス)	[なし]
		デバイスライセンスキー (DLK)	[なし]
PTZ デバイス	接続されているカメラには、パン / チルト / ズームの機能があります		[チェックなし]
	COM1 での PTZ タイプ /COM2 での PTZ タイプ		[無し]
	タイプ		[固定]
	ポート		[なし]
	ポートアドレス		[0]
魚眼	魚眼	魚眼の有効化	[チェックなし]
		魚眼のライセンスキー	[なし]
カメラ（カメラプロパティ）			
カメラ	ジェネリックカメラ設定	有効	（カメラによる）
		カメラ	[なし]
		カメラのショートカット番号	[なし]
フレームレート	フレームレートの選択（MJPEG）	通常のフレームレート：ライブフレームレート	[20 秒]
		通常のフレームレート：レコーディングフレームレート	[10.00 秒]
		スピードアップ	[チェックなし]
		スピードアップ設定：ライブフレームレート	[20 秒]
		スピードアップ設定：レコーディングフレームレート	[10.00 秒]
		モーション検知	[チェックなし]
		イベント	[チェックなし]
		開始イベント	[なし]
		終了イベント	

項目				初期値
カメラ（カメラプロパティ）(つづき)				
	ビデオ	ビデオプロパティ		メモ： ● カメラによって、表示される項目と初期設定は異なります。詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください。
	音声設定	音声の選択	マイク設定	[なし]
			スピーカー設定	[なし]
	レコーディングプロパティ	記録	レコーディング設定	(カメラによる)
			組み込みモーション検知	[チェックなし]
			イベント	[チェックなし]
			開始イベント	[なし]
			終了イベント	
			プリレコーディングの有効化	[チェックなし]
			秒	[なし]
			ポストレコーディングの有効化	[チェックなし]
			秒	[なし]
	レコーディングおよびアーカイブパス	録画設定	レコーディングパス：	D:￥MediaDatabase
			アーカイブパス	[動的パスの使用]
			保存期間	[7 日]
			データベース修復アクション	[修復。不可能な場合はスキャンし、消去します]
	すべてのカメラのジェネリックアーカイブ設定			
		動的パスの選択 - 全カメラ	アーカイブでの動的パスの選択を有効化します	[チェック]
			使用	[チェック]
			ドライブ	[なし]
			パス	[なし]
			ドライブ容量	[なし]
			空きスペース	[なし]
			新規 UNC パス	[なし]

項目			初期値
カメラ（カメラプロパティ）（つづき）			
イベント通知	イベント通知	使用可能なイベント	[なし]
		選択されたイベント	[なし]
		イベントの設定	[なし]
出力	出力のアクティブ化	使用可能な出力	[なし]
		手動による	[なし]
		検知された動作	[なし]
モーション検知と除外エリア	モーション検知	感度	[40]
		モーション	[640]
		モーション検知間隔	[240 ミリ秒]
	領域の除外	有効	[チェックなし]
		グリッドを表示	[チェックなし]
PTZ 設定	PTZ プリセット位置	PTZ タイプ	[なし]
PTZ パトロール	パトロールリスト	待ち時間（秒）	[10 秒]
		移行時間（秒）	[5 秒]
	PTZ スキャン		[チェックなし]
		（速度）	[中速]
	パトロールの一時停止	モーションが検知された場合のパトロールの一時停止	[チェックなし]
		PTZ パトロールの再開前	[30 秒]
イベントでの PTZ	イベント		[なし]
	PTZ プリセット位置		[なし]

■ カメラとストレージの情報

項目		初期値
レコーディングおよびアーカイブパス		
レコーディング	レコーディングパス	[D:¥MediaDatabase]
	アーカイブパス	[動的パスの使用]
	保持期間	[7 日]
	テンプレートを適用	[チェックなし]
	ショートカット	[なし]
動的パスの選択 - アーカイブ		
動的パスの選択 - 全カメラ	アーカイブでの動的パスの選択を有効化します	[チェックなし]
	使用	[なし]
	ドライブ	[なし]
	パス	[なし]
	ドライブ容量	[なし]
	空きスペース	[なし]
	新規 UNC パス	[なし]

項目				初期値
ビデオレコーディング				
	ビデオレコーディング		レコード対象	[モーション検知]
			開始イベント	[選択なし]
			終了イベント	
			プレレコーディング	[チェックなし]
			秒	(カメラによる)
			ポストレコーディング	[チェック]
			秒	(カメラによる)
			テンプレートを適用	[チェックなし]
手動レコーディング				
	手動レコーディング		手動レコーディングの有効化	(カメラによる)
			手動レコーディングのデフォルト継続時間	[300 秒]
			手動レコーディングの最長継続時間	[1800 秒]
フレームレート - MJPEG				
	フレームレート(MJPEG)			
		通常のフレームレート	ライブフレームレート	[20]
			レコーディングのフレームレート	[10.00]
			時間単位	[秒]
		スピードアップ設定	スピードアップの有効化	[チェック]
			ライブフレームレート	[20]
			レコーディングのフレームレート	[10.00]
			時間単位	[秒]
			スピードアップをオン	[イベント]
			開始イベント	[選択なし]
			終了イベント	
			テンプレートを適用	[チェックなし]
フレームレート - MPEG				
	フレームレート(MPEG)		ライブ FPS	(カメラによる)
			キーフレームのみの録画	[チェックなし]
			すべてのフレームの録画	[スケジュールのみ]
			開始イベント	[選択なし]
			終了イベント	
			テンプレートを適用	[チェックなし]
音声の選択				
	音声の選択		デフォルトのマイク	[なし]
			デフォルトのスピーカー	[なし]
			テンプレートを適用	[チェックなし]
音声のレコーディング				
	音声のレコーディング			[常時]
ストレージ情報				
	ストレージ情報		ドライブ	[なし]
			パス	
			使用	
			ドライブ容量	
			ビデオデータ	
			その他のデータ	
			空きスペース	

■ イベントおよび出力

項目				初期値
ポートとポーリング				
	ポートとポーリング	アラートポートおよびジェネリックイベントポート		[1234]
		SMTP イベントポート		[25]
		FTP イベントポート		[21]
		ポーリング間隔 [1/10] 秒		[10]
ハードウェア入力イベント				
	（ハードウェアデバイスごと）	イベント設定	イベントの有効化	（カメラによる）
			イベント名	[なし]
		プレ / ポストアラーム画像	カメラからの画像	[なし]
			プリアラーム画像の数	[3]
			1 秒あたりのフレーム	[1]
		E メール通知	このイベントが発生すると、E メールを送信します	[チェックなし]
			カメラからの画像を添付します	[チェックなし]
		SMS 通知	イベント発生時、SMS を送信する	[チェックなし] **メモ：** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。
		システムモーション検知イベント	カメラにシステムモーション検知イベントを作成します	[チェックなし]
ハードウェア出力				
	（ハードウェアデバイスごと）	出力名		[なし]
		出力接続先		[なし]
		出力維持時間		10（1/10 秒）
手動イベント				
	グローバル	イベント設定	イベント名	[なし]
		E メール通知	このイベントが発生すると、E メールを送信します	[チェックなし]
			カメラからの画像を添付します	[チェックなし]
		SMS 通知	イベント発生時、SMS を送信する	[チェックなし] **メモ：** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。
	（手動イベントごと）	イベント設定	イベント名	[なし]
		E メール通知	このイベントが発生すると、E メールを送信します	[チェックなし]
			カメラからの画像を添付します	[チェックなし]
		SMS 通知	イベント発生時、SMS を送信する	[チェックなし] **メモ：** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。

項目				初期値
ジェネリックイベント				
	ジェネリックイベント **メモ：** ● お買い上げ時には、次のジェネリックイベントが設定されています。 JVC NVR ALARM IN1 ～ 8 BREAK JVC NVR ALARM IN1 ～ 8 MAKE			
		イベント名		[なし]
		イベントの部分列		[なし]
		イベントメッセージの表現		[なし]
		イベントプロトコル		[TCP]
		イベントルール		[検索]
		優先イベント		[0]
		イベント設定	イベント名	[なし]
		E メール通知	このイベントが発生すると、E メールを送信します	[チェックなし]
			カメラからの画像を添付します	[チェックなし]
		SMS 通知	イベント発生時、SMS を送信する	[チェックなし] **メモ：** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。
イベントでの出力コントロール				
	イベントの出力	イベントで出力をアクティブ化	イベント	[なし]
			出力	[なし]
		イベントの設定		[なし]

■ スケジュールおよびアーカイブ

項目				初期値
すべてのカメラのスケジュール				
	すべてのカメラをスケジュール			
		オンライン		[常にオフ]
		スピードアップ		[常にオフ]
		E メール		[常にオフ]
		SMS		[常にオフ] **メモ：** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。
		PTZ パトロール		[なし]
		（カメラごとに）テンプレートを適用		[チェックなし]
スケジュールオプション				
	スケジュールオプション		クライアント要求時のカメラ起動	[チェックなし]
	新規カメラのスケジュールオプション			（カメラによる）
	ハードウェアデバイス通信		再接続試行間の最大遅延	[10]
アーカイブ中				
	アーカイブ時刻			[12：00：00]
		障害通知のアーカイブ	アーカイブ障害時に E メールを送信します	[チェック]
			アーカイブ障害時に SMS を送信	[チェック] **メモ：** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。
（カメラ名）				
	オンライン期間			
		オンラインスケジュール	スケジュールプロファイル	[常にオン]
		定刻時にカメラを起動 / 停止		[チェック]
		イベント時にカメラを起動 / 停止に設定		[チェックなし]
		開始イベント		[なし]
		終了イベント		[なし]
		イベントの設定		[なし]
		開始時間		[なし]
		終了時間		[なし]
		日		[なし]
	スピードアップ			
		スケジュールをスピードアップ	スケジュールプロファイル	（カメラによる）
		開始時間		
		終了時間		
		日		

項目			初期値
(カメラ名)(つづき)			
E メール通知			
	E メールスケジュール	スケジュールプロファイル	(カメラによる)
	開始時間		
	終了時間		
	日		
SMS 通知			
	SMS スケジュール	スケジュールプロファイル	(カメラによる) **メモ:** ● 本機は、SMS での通知には対応していません。
	開始時間		
	終了時間		
	日		
PTZ パトロール			
	PTZ パトロールスケジュール	スケジュールプロファイル	(カメラによる)
	パトロールプロファイル		
	開始時間		
	終了時間		
	日		

■ Matrix

項目			初期値
Matrix 受信者			
	Matrix 受信者	Matrix を有効化	[チェックなし]
		名前	[なし]
		アドレス	[なし]
		ポート	[なし]
		パスワード	[なし]
		Matrix の受信者は Smart Client です	[チェック]
Matrix イベントコントロール			
	Matrix イベントコントロール	イベントの設定	[なし]

■ ログ

項目		初期値
ログ	保存先	[L:¥Log¥MS]
	ログ保存日数	[10]
イベントログ	保存先	[L:¥Log¥MS]
	ログ保存日数	[10]
監査ログ	監査ロギングの有効化	[チェックなし]
	保存先	[L:¥Log¥MS¥ISAuditLog]
	ログ保存日数	[10]
	最小ロギング間隔	[60]
	シーケンスの時間帯で	[10]

■ E メール

項目		初期値
E メール設定	E メールの有効化（Recording Server）	[チェックなし]
	E メールの有効化（Viewer）	[チェックなし]
	受信者：	[なし]
	件名	[なし]
	メッセージ	[なし]
	画像を含む	[チェックなし]
	カメラ故障時には E メールを送信しないでください	[チェック]
	カメラごとのモーションおよびデータベース関連のメール送信間の時間	[0]
メールサーバー設定	送信者の E メールアドレス	[なし]
	出力メール（SMTP）サーバー名	[なし]
	サーバーのログインが必要です	[チェックなし]
	ユーザー名	[なし]
	パスワード	[なし]

■ SMS

メモ :

- 本機は SMS での通知には対応していません。

■ Central

メモ :

- 本機は Central 機能には対応していません。

■ サーバーアクセス

項目			初期値
サーバーアクセス			
	サーバーアクセス	サーバー名	[Server]
		ローカルポート	[80]
		インターネットアクセスの有効化	[チェックなし]
		インターネットアドレス	[なし]
		インターネットポート	[なし]
		最大クライアント数	[11]
ローカル IP 範囲			
	ローカル IP 範囲	開始アドレス	[なし]
		終了アドレス	
言語サポートと XML エンコーディング			
	言語サポート	言語	日本語（シフト JIS）（Shift-jis）

その他

■ マスター / スレーブ

項目			初期値
マスターサーバー			
	マスターサーバー	マスターサーバーとして有効化	[チェックなし]
（スレーブサーバー）			
	（スレーブサーバー 1）	アドレス	[なし]
		ポート	[80]

■ ユーザー

項目					初期値
管理者					
	管理保護				
		管理保護	有効		[チェックなし]
		パスワードの変更	以前のパスワード		[なし]
			新規パスワード		[なし]
			パスワードの確認		[なし]
（ユーザー名）					
	ユーザー情報				
		ユーザー情報	ユーザー名		[なし]
			パスワード		[なし]
			パスワード（確認）		[なし]
			ユーザータイプ		[なし]
	ジェネリックアクセスプロパティ				
		ジェネリックアクセス設定			
			ライブ		[チェック]
			再生		[チェック]
			設定		[チェック]
			共有ビューの編集		[チェック]
			プライベートビューの編集		[チェック]
	カメラアクセス				
		カメラアクセスの設定	（カメラ名）		[チェック]
			新規カメラがシステムに追加された場合の、そのカメラに対する権限		[チェック]
			ライブ		[チェック]
				PTZ	[チェック]
				PTZ プリセット位置	[チェック]
				出力	[チェック]
				イベント	[チェック]
				受信音声	[チェック]
				送信音声	[チェック]
				手動レコーディング	[チェック]
			再生		[チェック]
				AVI/JPEG のエクスポート	[チェック]
				データベースのエクスポート	[チェック]
				シーケンス	[チェック]
				スマートサーチ	[チェック]
				録音された音声	[チェック]

こんなときは

症状	処置
電源が入らない。	電源ケーブルが正しく差し込まれているか確認してください。 背面の電源スイッチがONになっているか確認してください。
カメラが自動認識されない。	各カメラの[取扱説明書]にしたがい、IP設定を確認してください。 IPリース機能を使用している場合は、本機が起動している状態でカメラ電源をOFF/ONしてください。 カメラのユーザー名とパスワードが初期設定から変更されている場合、自動で検出できないことがあります。
操作できない。	操作がロックされていないか確認してください。(☞ 118ページ)
記録されない。	カメラ記録設定を確認してください。 スケジュール設定がオンラインになっているか確認してください。
音声が再生できない。	「拡張設定」の「ハードウェアデバイス」から、カメラのプロパティで音声設定を確認してください。 「音声」セクションで「音声入力選択」が正しく選択されているか確認してください。 ネットワーク帯域の混雑状況により、カメラ音声が再生できない場合があります。
ビューワーで、操作できないセクションがある。	オプション設定の「パネル」で、操作したいセクションが「使用可」になっているか、確認してください。(☞ 180ページ)
電源を入れると以下のメッセージが表示される。 “CMOS Settings Wrong CMOS Date/ Time Not Press F1 to Run SETUP Press F2 to load default values and continue”	内蔵のバックアップ電池が消耗しています。 最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。

■ **ワーニング表示灯点灯時の対応**

メッセージ内容	対応
WARNING:HDD（Disk）	HDDの信頼性が低下しています。 最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。
WARNING:HDD（ドライブ名:）Deleted	増設HDDの電源が入っているか確認してください。 接続ケーブルが正しく差し込まれているか確認してください。 上記が異常ない場合、最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。
WARNING:HDD（Raid）	HDD（RAID設定時）の警告です。 最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。
FAN STOP	ファンの異常です。ファンが回転しているかどうか確認してください。 ファンが回転していない場合は、運用を中止してください。故障の原因となります。 最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。

記録 / 表示 / 配信性能

■ VR-X1600

● 本体ライブ表示ありの場合

画像フォーマット ※ 1	記録 [ips] ※ 2	本体ライブ表示 [ips] ※ 3	ライブ配信 [ips]
JPEG VGA	192	192	192
H.264 VGA	300	300	300
H.264 720P	100	100	100
H.264 Full HD	44	44	44

● 本体ライブ表示なしの場合

画像フォーマット ※ 1	記録 [ips] ※ 2	本体ライブ表示 [ips]	ライブ配信 [ips]
JPEG VGA	270	0	192
H.264 VGA	960	0	300
H.264 720P	900	0	100
H.264 Full HD	480	0	44

■ VR-X3200

● 本体ライブ表示ありの場合

画像フォーマット ※ 1	記録 [ips] ※ 2	本体ライブ表示 [ips] ※ 3	ライブ配信 [ips]
JPEG VGA	192	192	192
H.264 VGA	450	450	450
H.264 720P	150	150	150
H.264 Full HD	66	66	66

● 本体ライブ表示なしの場合

画像フォーマット ※ 1	記録 [ips] ※ 2	本体ライブ表示 [ips]	ライブ配信 [ips]
JPEG VGA	270	0	192
H.264 VGA	1920	0	450
H.264 720P	900	0	150
H.264 Full HD	480	0	66

※ 1　各フォーマットの標準画質

JPEG VGA	1 枚あたり 32KB
H.264 VGA	30ips 660Kbps
H.264 720P	30ips 2Mbps
H.264 Full HD	30ips 3.6Mbps

※ 2　RAID10 構成時の性能。RAID なしの場合は 65 %、RAID5 構成時は 28%の性能となります。

※ 3　XGA モニターへの出力時の性能。Full HD モニターへの出力時は 80%の性能となります。

ご注意 :

- 上記は、HDD の性能を最大限に引き出した場合の性能です。詳細については、『 記録性能を十分に活用する 』(☞39 ページ) をご覧になり、お買い上げ販売店またはご相談窓口にお問い合わせください。

仕様

■ 一般

許容動作温度範囲 : 5 ℃～ 40 ℃
許容保存温度範囲 : － 20 ℃～ 60 ℃
許容動作湿度範囲 : 30 %～ 80 %
電源 : AC 100 V 50 Hz ／ 60 Hz
消費電力 : VR-X1600 : 85 W
VR-X3200 : 95 W
質量 : 約 9.1 kg

■ インターフェース

ネットワーク : RJ-45 × 2
LAN1　1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
LAN2　1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
シリアル : USB2.0 ATYPE 相当　× 6
eSATA : × 1
映像出力 : D-sub15pin × 1（最大 1920 x 1080）
DVI × 1（最大 1920 x 1080）
音声入力 : アナログオーディオミニジャック
モノラル× 1
音声出力 : アナログオーディオミニジャック
ステレオ× 1
入出力端子 : プッシュターミナル
入力× 10
出力× 2

■ 対応圧縮形式

ビデオ : JPEG/MPEG-4/H.264
オーディオ : μ-law

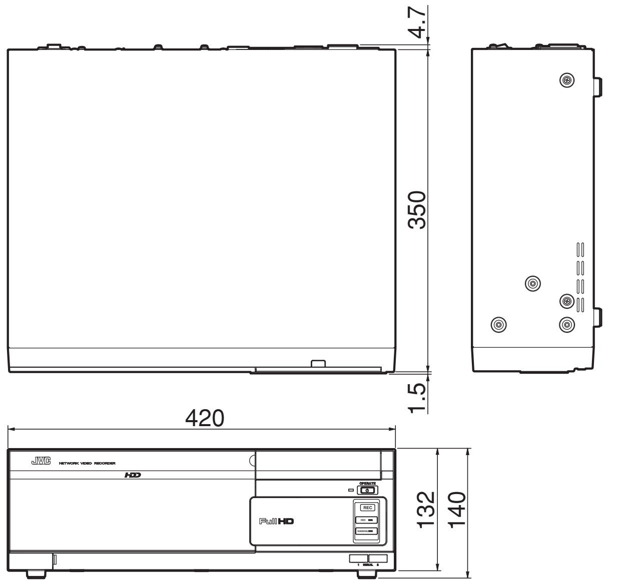
■ 記録

HDD 容量 : 1 TB × 1

■ 添付物・付属品

簡単ガイド.. 1
取扱説明書 [設置・設定編].. 1
保証書.. 1
安全上のご注意 1
ご相談窓口案内 1
電源ケーブル（2m）... 1
ラックマウント金具 2
スクリュー（M4 × 11 mm)...................................... 6
スクリュー（M5 × 10 mm)...................................... 4

■ 外形寸法図（単位：mm)



※ 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービス

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。
保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。
故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙ご相談窓口案内をご覧のうえ、最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。

消耗部品について

下表は消耗部品の一覧です。これらの部品交換にともなう部品代、および技術料、出張料を含む修理費用は、保証期間内でも有償となります。

部品名	備考
ハードディスクドライブ	18,000 時間（約 2 年）のご使用を目安にメンテナンスしてください。
CPU ファン / リアファンユニット	30,000 時間（約 3 年）のご使用を目安にメンテナンスしてください。
バックアップ電池 (CR2032)	長期間電源供給がなされない場合は交換する必要があります。

- メンテナンス時間は、25℃環境で使用した時の目安であり、使用環境により異なります。

メンテナンスの計画、費用などのご相談は、ご購入先の販売店、または別紙のご相談窓口案内をご覧のうえ、最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはご相談窓口に次のことをお知らせください。

品名	：ネットワークビデオレコーダー
型名	：VR-X3200/VR-X1600
お買い上げ日	：
故障の状況	：故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	：
お名前	：
電話番号	：

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

索引

C
CPU メーター 134

E
eSATA 端子 23, 28, 73
E メール
　スケジュール 127
　設定（Management Application/Smart Client） 61, 62
　メール通知設定（ユニット設定） 61

H
HDD メーター 134
HTML ページ 162

M
Management Application
　ウィザード 35, 36, 46, 68, 92
　拡張設定 93
　起動 34
　設定の保存 21, 81
Matrix 55, 111, 177, 183

N
NAS 77

P
PTZ カメラ
　ジョイスティック 165
　操作 122, 148
　パトロール 43, 100, 128
　パトロールスケジュール 128
　プリセット 41, 54, 100, 148

S
SERIAL 端子 22, 23, 28, 73, 129, 133
Smart Client
　インストール 140
　オプション設定 180
　起動 137
　再生画面 151, 174
　設定画面 175
　見かた 139
　ユーザー設定 68, 114
　ライブ画面 146, 173
SNMP 設定 130

U
UPS 129

あ
アーカイブ
　設定 109
　保存先（アーカイブパス） 38, 78, 98, 102
アクション 48

い
イベント
　ジェネリックイベント 48
　手動イベント 52
　タイマーイベント 53
　入力イベント 50
インジケーター
　イベント 146
　モーション 146
　ライブ 146

え
エクスポート
　AVI/JPEG 168
　データベース 169
　ビューワー 171

お
オーバーレイボタン 164
音声
　記録音声 158
　ライブ音声 149

か
画質 162, 176, 177, 178, 179, 181
カメラ
　音声設定 97, 128
　ショートカット番号 96, 102
　ショートカットメニュー 150
　対応カメラ 185
　登録（自動） 35
　登録（手動） 119
　プロパティ（カメラプロパティ） 96
カメラライセンス 120
画面自動切替 160
監視用パソコン
　インストール 140
　ネットワーク設定 141
　必要条件 141

き
キーボード
　スクリーンキーボード 32
　接続 28
記録
　REC 表示灯 22
　記録条件 37
　記録性能 39, 186
　手動記録 147
　スケジュール 125
　フレームレート 37, 96, 104
　保存場所（レコーディングパス） 38, 102, 98

記録画像
印刷 ... 160
エクスポート ... 168
検索 ... 153
再生 ... 157
独立再生 ... 158

け
言語設定
Management Application ... 113
Smart Client ... 182
ユニット設定 ... 85

す
スピーカー
接続 ... 28
設定 ... 97, 106, 128

せ
静止画表示 ... 163
接続
ネットワーク接続 ... 30
本機への接続 ... 28
設定
Management Application ... 92, 93
Smart Client ... 175, 180
ネットワーク ... 33, 86, 141
ユニット設定 ... 83

そ
操作ロック ... 118
増設 HDD
RAID ... 74
接続 ... 28, 73

ね
ネットワーク
LAN1 ... 30, 33, 86, 123
LAN2 ... 30, 33, 86, 123, 141
ネットワーク設定
監視用パソコン ... 141
本機 ... 33, 86

は
ハードウェアデバイス
交換 ... 121
削除 ... 121
ハードウェアプロパティ ... 94
パスワード
Management Application の起動パスワード ... 72
Smart Client のログインパスワード ... 68, 137
操作ロック ... 118
本機のログインパスワード ... 89

ひ
ビュー
作成 ... 143
編集 ... 145
表示灯（ランプ）
HDD ... 22
OPERATE ... 22
REC ... 22
WARNING ... 22, 133

ふ
フレームレート
スピードアップ ... 96, 104
表示フレームレート ... 162, 176, 177, 178, 179, 181
ライブフレームレート ... 37, 96, 104
レコーディングフレームレート ... 37, 96, 104
フローティングウィンドウ ... 164

ほ
ホットスポット ... 161

ま
マイク
接続 ... 28
設定 ... 97, 106, 128
マスター / スレーブ ... 65

め
メンテナンス情報 ... 133

も
モーション検知
インジケーター ... 146
記録 ... 37, 57
設定 ... 46
モニター
解像度 ... 28, 116
接続 ... 28
設定 ... 116, 117

ら
ライブ映像
カメラ操作 ... 148
独立再生 ... 149

ろ
ログ
Management Application のログ ... 111, 132
ユニット設定のログ ... 85, 132

ネットワークビデオレコーダー
VR-X3200/VR-X1600

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

0120−2727−87

携帯電話・PHS・一部のIP電話・FAXなどからのご利用は
電話 (045)450-8950［代表］
FAX (045)450-2308
〒221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ　http://www3.jvckenwood.com/

株式会社JVCケンウッド

〒221-0022　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

LST1259-001B

© 2012 JVC KENWOOD Corporation